

令和2年度

区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査

(18歳以上の区民の方が対象)

(小学生以下のお子様の保護者の方が対象)

報告書

令和3年2月

大田区

目次

I	調査概要	1
1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
3	調査設計	4
4	報告書の見方について	4
5	標本誤差について	5
II	18歳以上の区民の方が対象 ①地域力・まちづくり・環境分野などの調査結果	7
1	回答者の属性	9
2	地域活動について	15
(1)	参加してみたい地域活動	15
(2)	情報の有無と地域活動への興味・関心、参加へのつながり	18
(3)	必要な地域活動に関する情報	20
(4)	地域活動の情報の収集方法	23
3	協働について	26
(1)	連携・協働をするために重要なこと	26
4	生涯学習について	29
(1)	最近1年間の生涯学習の活動と新たに始めたいもの	29
(2)	生涯学習を行った場所と行いたい場所	33
(3)	生涯学習で身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいか	37
(4)	生涯学習での情報端末のサービスの利用と新たに利用したいもの	40
5	商店街について	44
(1)	普段の買い物で利用するお店	44
(2)	買い物をする時間帯について	46
(3)	商店街への印象	49
(4)	商店街に必要なだと思うサービス・施設等	52
6	蒲田駅周辺地区ランドデザインについて	55
(1)	蒲田のまちづくりのために整備が必要なもの	55
7	蒲蒲線について	58
(1)	蒲蒲線について	58
8	公共交通機関について	61
(1)	公共交通機関の環境	61
(2)	大田区の公共交通網の満足度	63
9	耐震改修について	65
(1)	住まいや所有建築物の耐震改修状況	65
(2)	耐震改修を行わない理由	67

10	空港臨海部について	70
	(1) 空港臨海部へのアクセスについて	70
	(2) 空港臨海部の魅力度	72
11	グリーンプラン関連について	74
	(1) 生活環境の満足度	74
	(2) 身近な場所の水や緑の有無	80
12	羽田空港跡地について	82
	(1) 「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」を知った方法	82
	(2) 「羽田イノベーションシティ」の認知度	84
	(3) 「羽田イノベーションシティ」において興味があるもの	86
	(4) 羽田空港跡地第1ゾーンの公園整備の認知度	88
	(5) 公園が完成した時にしたいこと	90
	(6) 「ソラムナード羽田緑地」に行ったことがあるかについて	92
	(7) 「ソラムナード羽田緑地」でしたいこと	94
13	自転車の利用について	96
	(1) 大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度	96
	(2) 自転車の利用について	98
	(3) 自転車を盗まれた経験	100
	(4) 自転車の鍵をかけるかについて	102
	(5) 自転車の鍵をかけないのは、どのような場所か	104
	(6) 自転車事故に係る損害賠償保険への加入の有無	105
	(7) 自転車事故に係る損害賠償保険に加入していない理由	107
	(8) 自転車を使う頻度について	108
	(9) 自転車を使う機会が増えた主な理由	110
14	食品ロス・フードドライブについて	111
	(1) 「食品ロス」の認知度	111
	(2) 「食品ロス」を減らすための取り組み	113
	(3) 食べ残しをしないためにお店にして欲しいこと	116
	(4) 「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望	119
	(5) 「フードドライブ」への提供について	121
15	プラスチック容器の回収について	123
	(1) 資源化のために適当な品目数について	123
	(2) 資源化のために、どこまで手間をかけられるか	126
Ⅲ	18歳以上の区民の方が対象 ②スポーツ・福祉・保健分野などの調査結果	129
	1 回答者の属性	131
	2 各種認知度について	137
	(1) 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度	137
	(2) 「エセナおおた」の認知度	139

(3)	「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度	141
(4)	「大田区DV相談ダイヤル」の認知度	143
(5)	災害時の避難先を決めているか	145
(6)	災害時の避難場所	147
(7)	「マイ・タイムライン講習会」の認知度	149
(8)	「マイ・タイムライン講習会」への参加の有無と参加した理由	151
(9)	「マイ・タイムライン講習会」へ参加したことがない理由	152
(10)	自然災害で不安だと思うもの	153
(11)	災害から自身を守るための取り組み	155
(12)	防災に関する情報の収集方法	157
(13)	災害時の情報の収集方法	160
3	観光について	163
(1)	「大田区観光情報センター」の利用の有無	163
(2)	「大田区観光情報センター」の利用目的	165
(3)	「大田区観光情報センター」へ期待すること	166
4	運動・スポーツについて	169
(1)	最近1年で行った運動・スポーツ	169
(2)	最近1年間の運動・スポーツの活動頻度	172
(3)	東京2020大会について	174
5	文化活動について	176
(1)	大田区の文化・芸術について	176
6	バリアフリーについて	179
(1)	「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度	179
7	施策等の認知度について	183
(1)	近所への手助けについて	183
(2)	大田区の制度、計画の認知度について	186
8	通院、在宅医療について	191
(1)	かかりつけの医療機関について	191
(2)	「在宅医療」の認知度	193
9	災害時の医療について	195
(1)	災害時の医療制限の認知度	195
(2)	災害時の緊急医療開設場所の認知度	197
10	喫煙について	199
(1)	喫煙について	199
(2)	新型たばこのイメージ	201
(3)	条例施行後の受動喫煙の頻度の変化について	203
(4)	受動喫煙を経験した場所	206
(5)	受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて	208

11	AEDについて	211
	（1）AEDの使い方の認知度	211
	（2）AEDの設置場所の認知度	213
12	はねびよん健康ポイントについて	215
	（1）「はねびよん健康ポイント」の認知度	215
13	図書館について	217
	（1）図書館等の利用頻度	217
	（2）図書館で主に利用する機能・サービス	219
	（3）図書館を利用しない理由	221
	（4）図書館に期待する機能・サービス	224
IV	小学生以下のお子様の保護者の方が対象の調査	227
1	回答者の属性	229
2	子育ての相談相手などについて	232
	（1）子育てにおける孤立感について	232
	（2）子育ての相談ができる相手・場所の有無	234
	（3）子育ての相談ができる相手・場所について	236
3	子育ての環境や支援などについて	238
	（1）区の子育て環境や支援の満足度	238
	（2）大田区の子育て環境・支援で満足している点について	240
V	資料編	243

I 調査概要

I 調査概要

1 : 調査の目的

各種計画に掲げる施策の検証や、より効果的な政策立案に資することを目的とし、区内在住の区民を対象とした意識調査を実施する。

2 : 調査の内容

[18歳以上の区民の方が対象]

①地域力・まちづくり・環境分野などの調査

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| (1) 回答者の属性 | (11) グリーンプラン関連について |
| (2) 地域活動について | (12) 羽田空港跡地について |
| (3) 協働について | (13) 自転車の利用について |
| (4) 生涯学習について | (14) 食品ロス・フードドライブについて |
| (5) 商店街について | (15) プラスチック容器の回収について |
| (6) 蒲田駅周辺地区グランドデザインについて | |
| (7) 蒲蒲線について | |
| (8) 公共交通機関について | |
| (9) 耐震改修について | |
| (10) 空港臨海部について | |

②スポーツ・福祉・保健分野などの調査

- | | |
|-----------------|----------------------|
| (1) 回答者の属性 | (11) AEDについて |
| (2) 各種認知度について | (12) はねびよん健康ポイントについて |
| (3) 観光について | (13) 図書館について |
| (4) 運動・スポーツについて | |
| (5) 文化活動について | |
| (6) バリアフリーについて | |
| (7) 施策等の認知度について | |
| (8) 通院、在宅医療について | |
| (9) 災害時の医療について | |
| (10) 喫煙について | |

[小学生以下のお子様の保護者の方が対象]

- (1) 回答者の属性
- (2) 子育ての相談相手などについて
- (3) 子育ての環境や支援などについて

3：調査設計

- (1) 調査地域 大田区全域
- (2) 調査対象 [18歳以上の区民の方が対象]
大田区内に居住する満18歳以上の男女個人（外国人を含む）
[小学生以下のお子様の保護者の方が対象]
大田区内に居住する12歳以下の子どもがいる世帯の保護者の方（外国人を含む）
- (3) 標本数 [18歳以上の区民の方が対象]
前頁「2：調査の内容」の①～②の各調査：2,000人
[小学生以下のお子様の保護者の方が対象]：2,000人
- (4) 抽出方法 層化無作為抽出法
- (5) 調査方法 配付は郵送方式、回答収集は郵送又は電子申請方式
- (6) 有効回収数
[18歳以上の区民の方が対象]
①地域力・まちづくり・環境分野などの調査：885件（郵送611件＋電子申請274件）
②スポーツ・福祉・保健分野などの調査：913件（郵送653件＋電子申請260件）
[小学生以下のお子様の保護者の方が対象]：1,352件（郵送924件＋電子申請428件）
- (7) 有効回収率
[18歳以上の区民の方が対象]
①地域力・まちづくり・環境分野などの調査：44.3%
②スポーツ・福祉・保健分野などの調査：45.7%
[小学生以下のお子様の保護者の方が対象]：67.6%

4：報告書の見方について

- (1) 結果の数値は原則として回答率（%）で表記している。回答率（%）は、その質問項目に該当する回答者の数を出しており、『n=』と表記している。また、複数回答についても回答者の数としているため、合計しても100.0%とならない場合がある。
- (2) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記してある。このため、各回答率（%）を合計しても100.0%とならない場合がある。
- (3) 分析の軸（＝縦軸）としたプロフィールや設問は、無回答を除いているため、各プロフィールの回答者の合計が全体と一致しない場合がある。
- (4) 回答者数が30人未満と少ないものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (5) 年代別において、男女ともに「18～19歳」は回答者が少ないため、「10・20代」とまとめて掲載している。
- (6) グラフや表のタイトルなどは、なるべく調査票そのままの表現を用いているが、スペースなどの関係から一部省略した表現としている箇所がある。

5：標本誤差について

今回のような調査対象（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全数調査（全ての人を調査）と比べ、調査結果に差が生じることがある。その誤差を標本誤差という。

標本誤差は、95%の信頼度で以下の式から得られる数値であり、真の値（全数調査をした場合に得られる数値）は標本調査で得られた結果に、この標本誤差を引いた値と加えた値の範囲内にあることとなる。

$$\text{標準偏差} = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N：母集団の大きさ
n：回答者数
p：回答の比率（%）

各調査回答率における標本誤差早見表（信頼度 95%で算出している）

回答の比率 (P) 回答者数 (n)	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,352	±1.6	±2.2	±2.5	±2.7	±2.7
1,000	±1.9	±2.5	±2.9	±3.1	±3.2
913	±2.0	±2.7	±3.0	±3.2	±3.3
885	±2.0	±2.7	±3.1	±3.3	±3.4
500	±2.7	±3.6	±4.1	±4.4	±4.5

早見表の見方

たとえば、今回の「18歳以上の区民の方が対象①地域力・まちづくり・環境分野などの調査」の回答者数（885人）を100%とする比率で、ある質問の回答が50%であった場合、大田区民（区内在住の18歳以上の方）のこの質問に対する回答は、46.6%～53.4%の間にあると考えられる。

Ⅱ 18歳以上の区民の方が対象

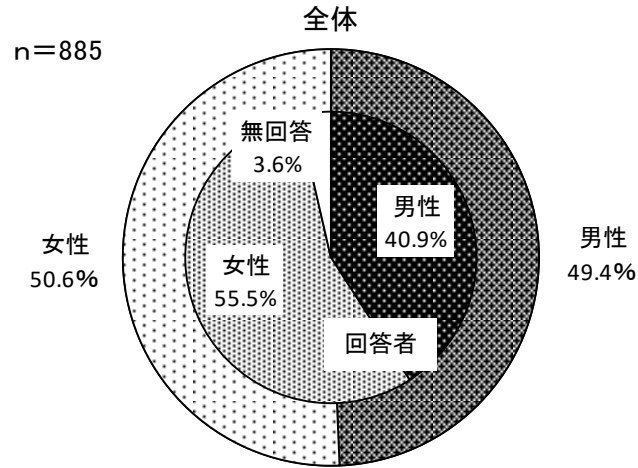
①地域力・まちづくり・環境分野などの調査結果

1 回答者の属性

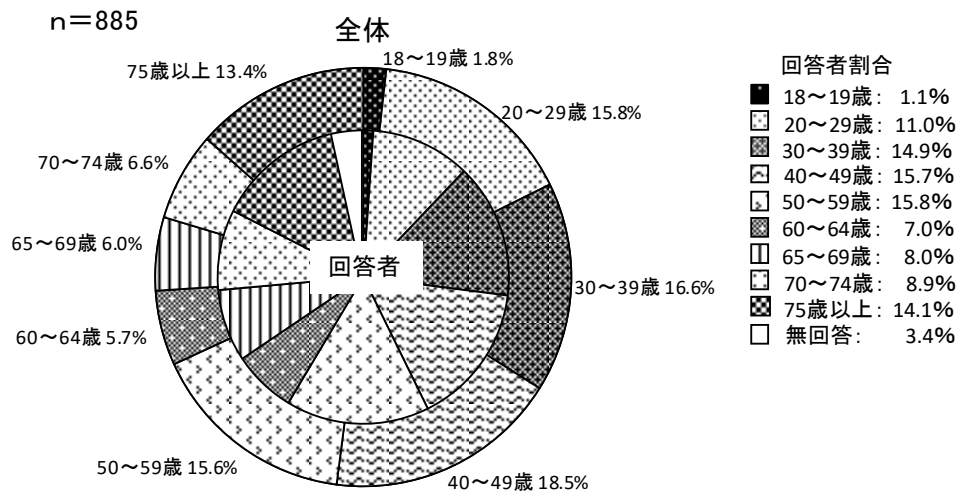
【性別】

全体：大田区の18歳以上の人口（n=638,565）※令和3年1月1日

回答者：有効回収数（n=885）

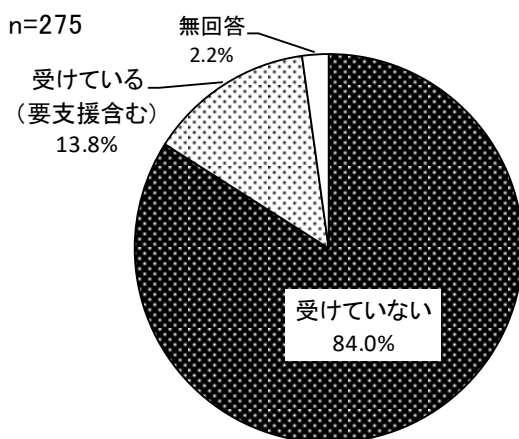


【年齢】

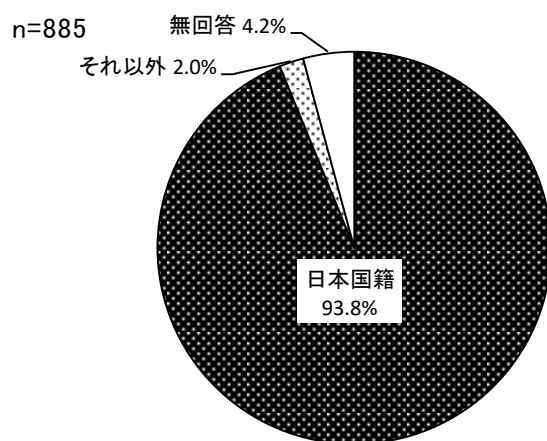


【出典】大田区：年齢別人口報告表資料（日本人+外国人）令和3年1月1日現在版

【介護保険制度の要介護認定を受けているか（65歳以上の方）】



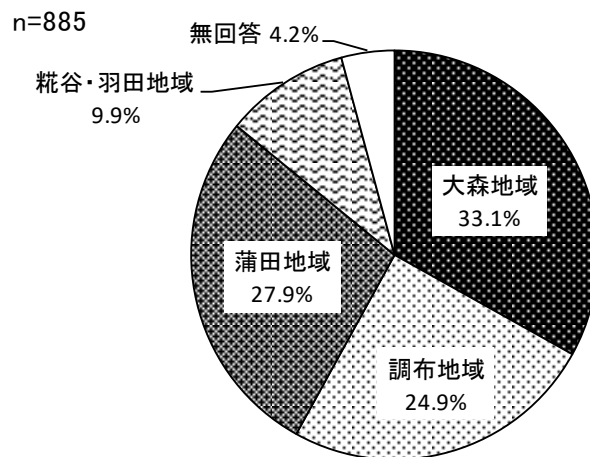
【国籍】



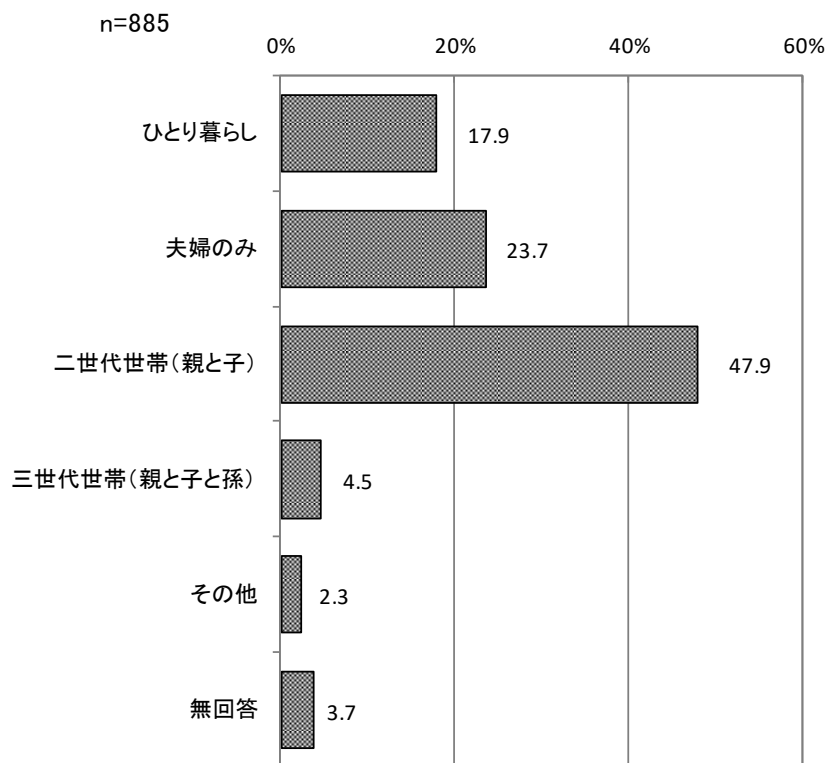
(日本国籍以外)

	中国	韓国	台湾	ネパール	ガーナ	フィリピン	ベトナム	無回答
人数	8	4	1	1	1	1	1	1

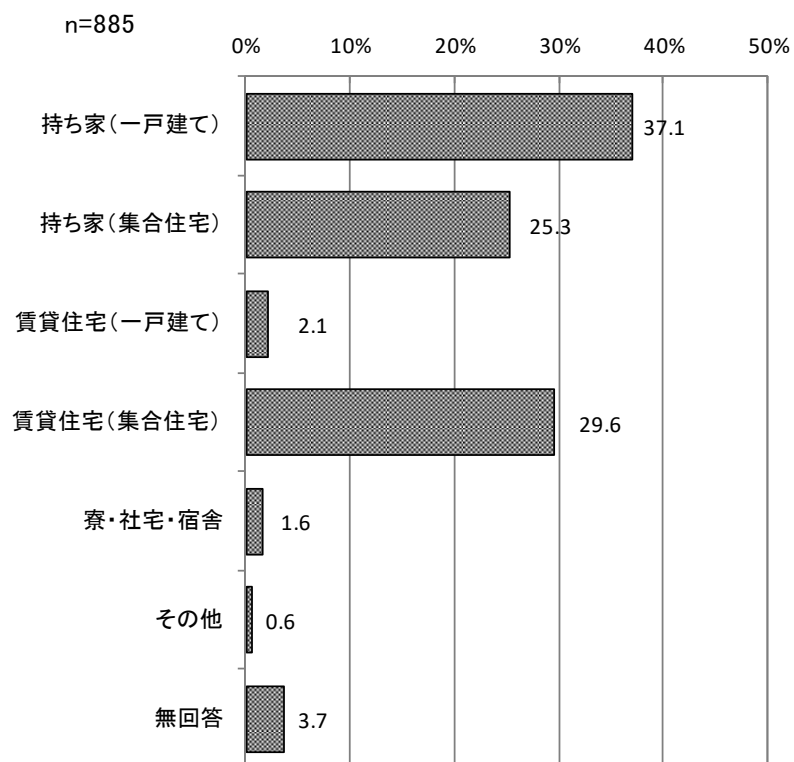
【住まいの地域】



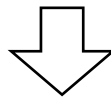
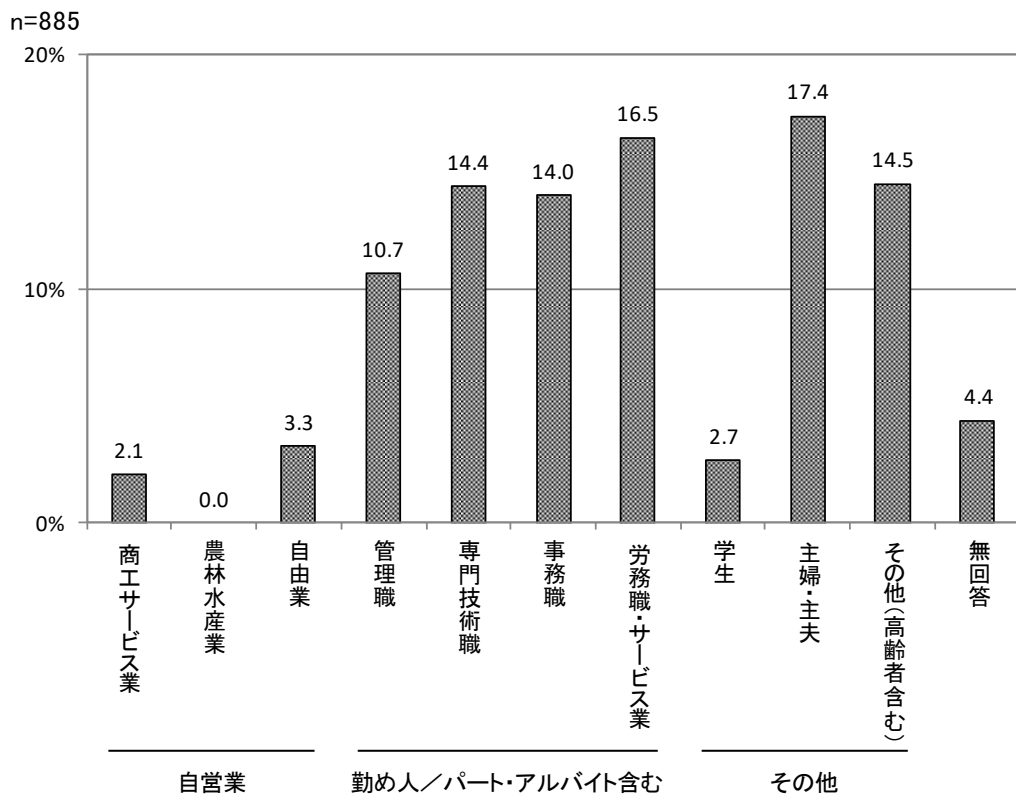
【家族構成】



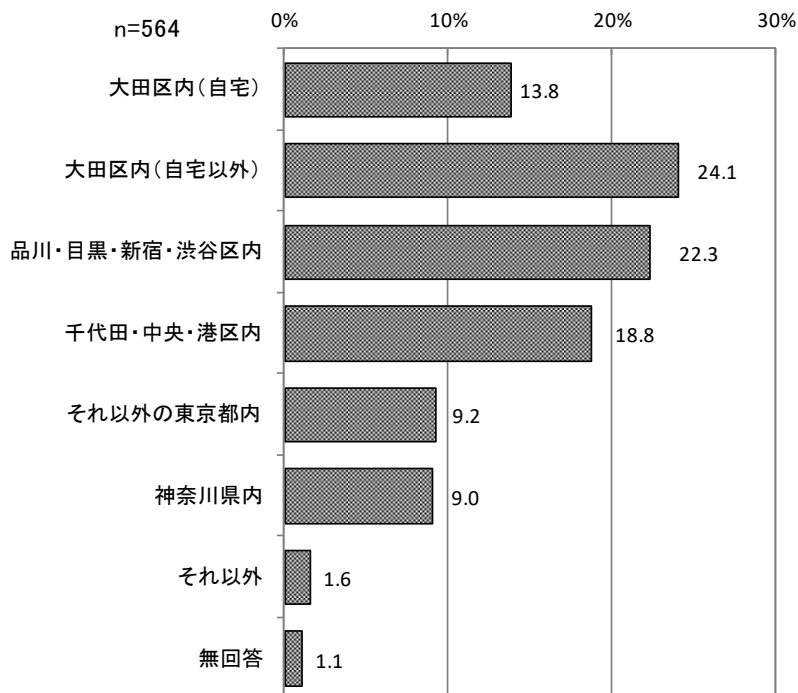
【住まいの種類】



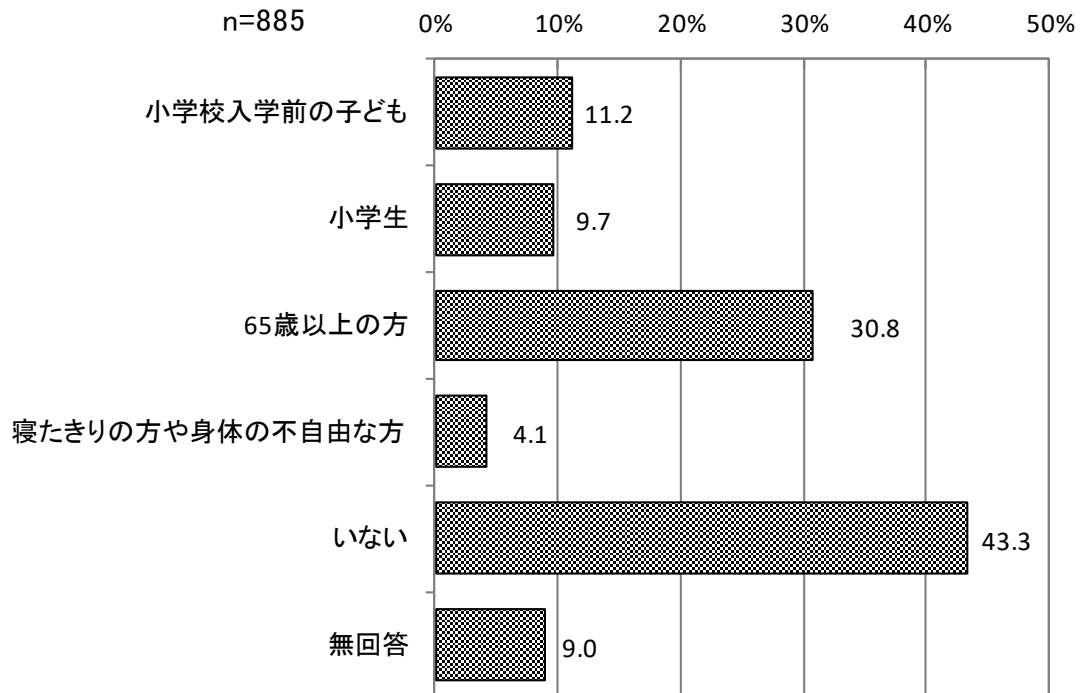
【職業】



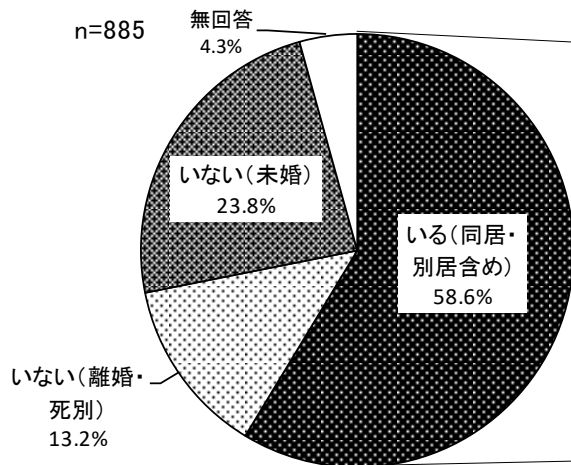
【主な通勤・通学先】



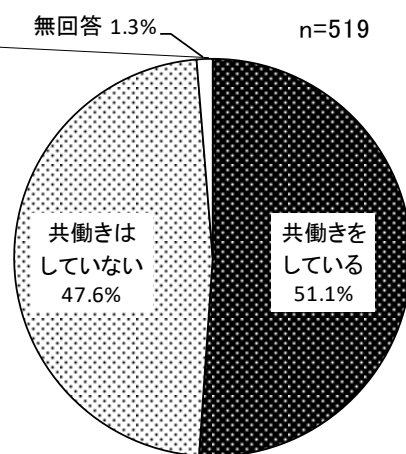
【同居家族】



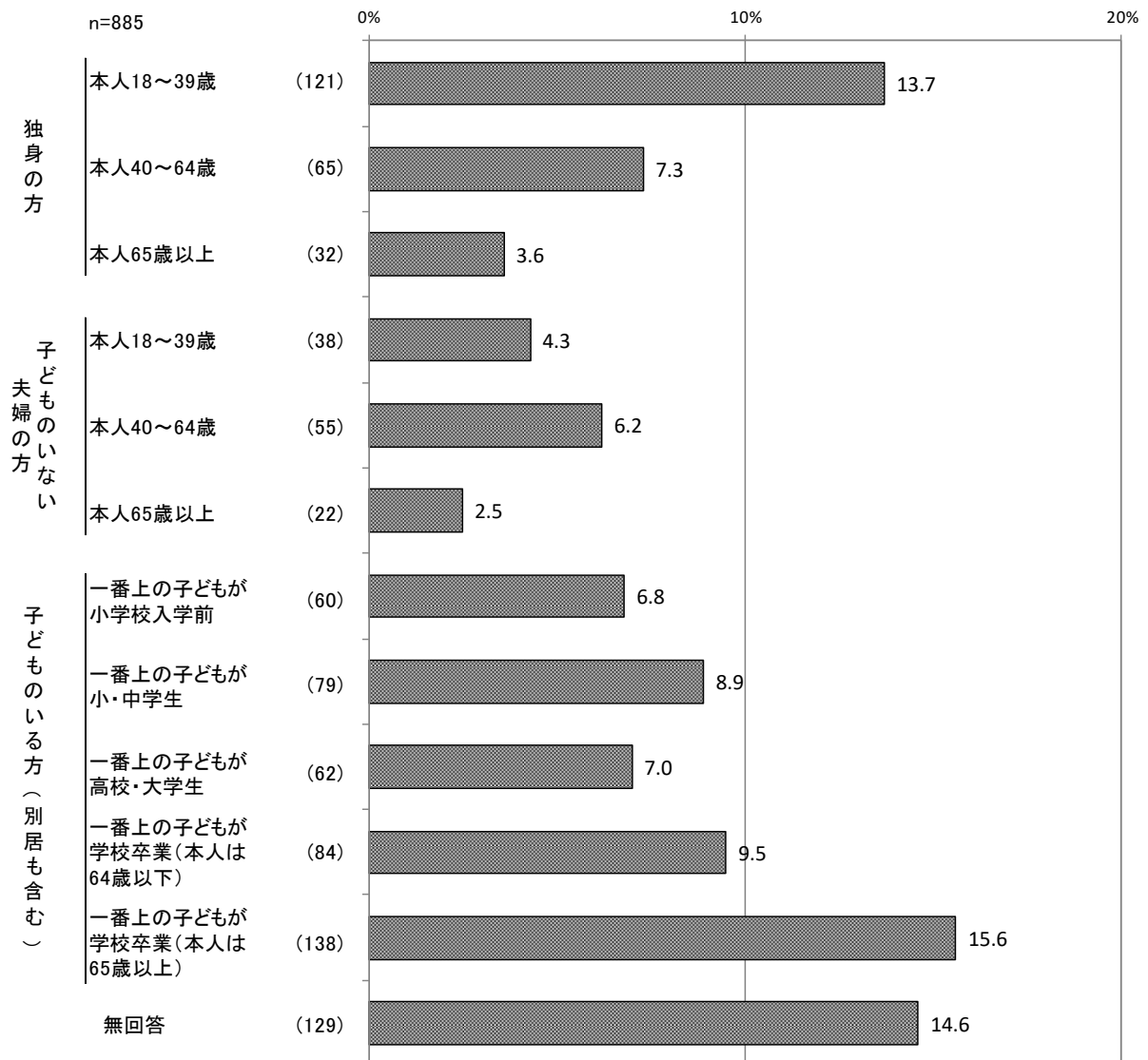
【配偶者の有無】



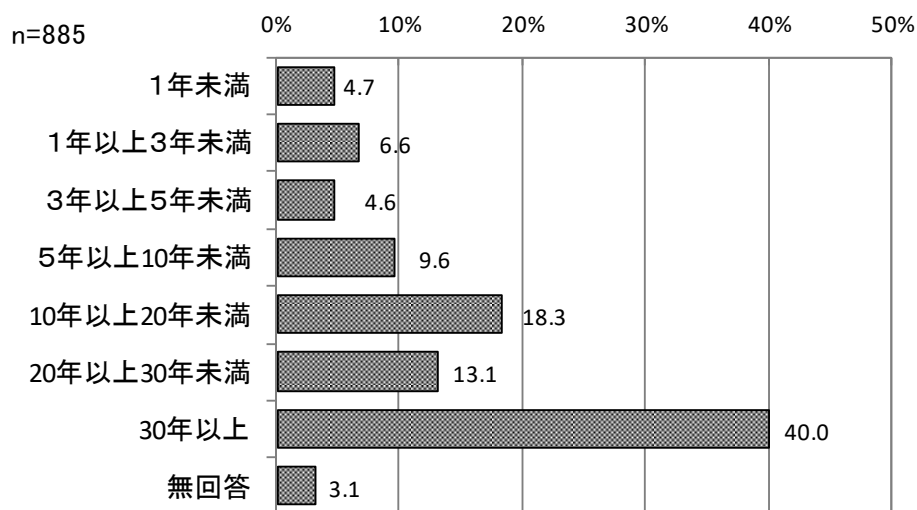
【(配偶者のいる方) 共働きについて】



【ご自身のステージ】



【大田区にお住まいの期間】



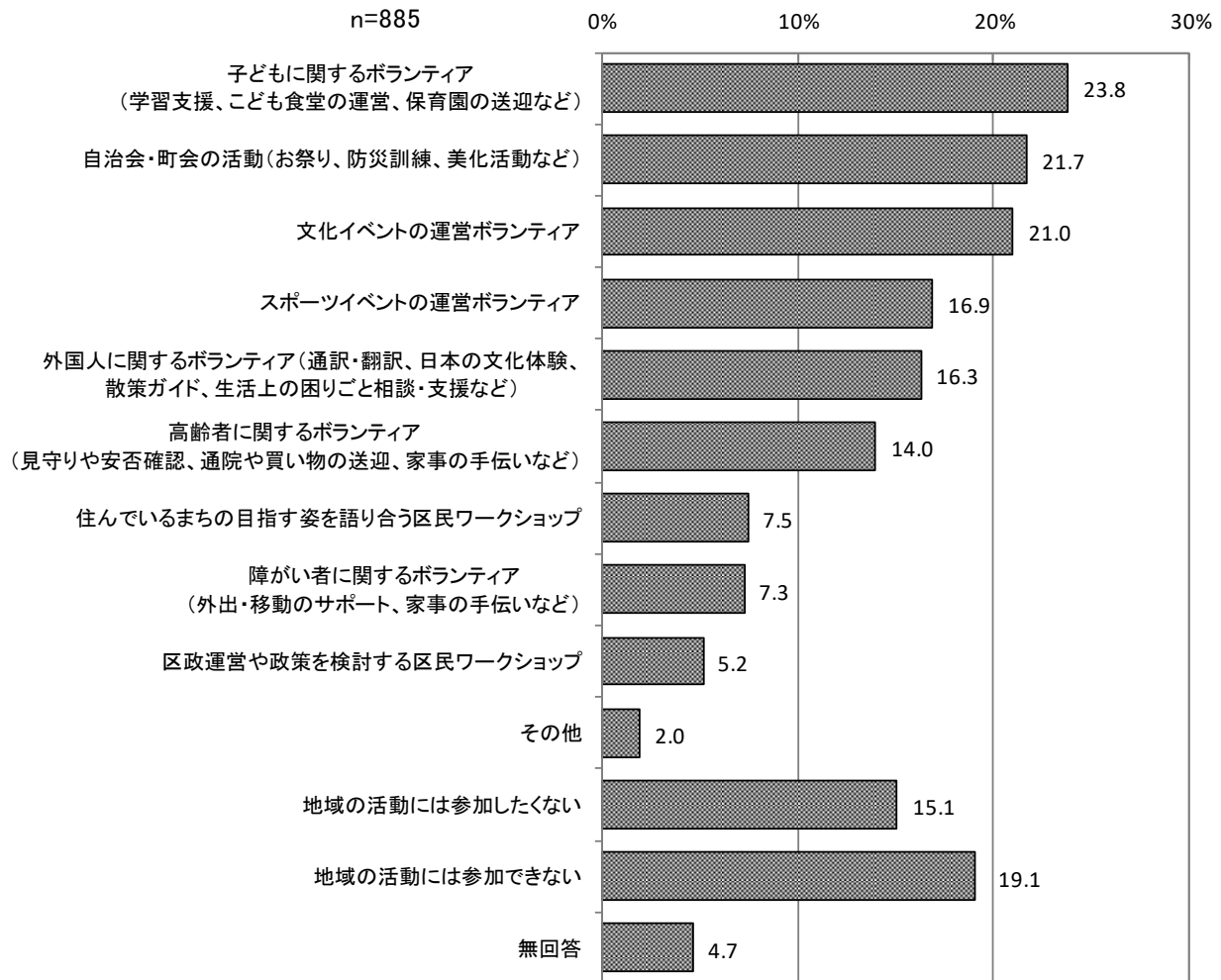
2 地域活動について

(1) 参加してみたい地域活動

◎「子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）」が最も高い

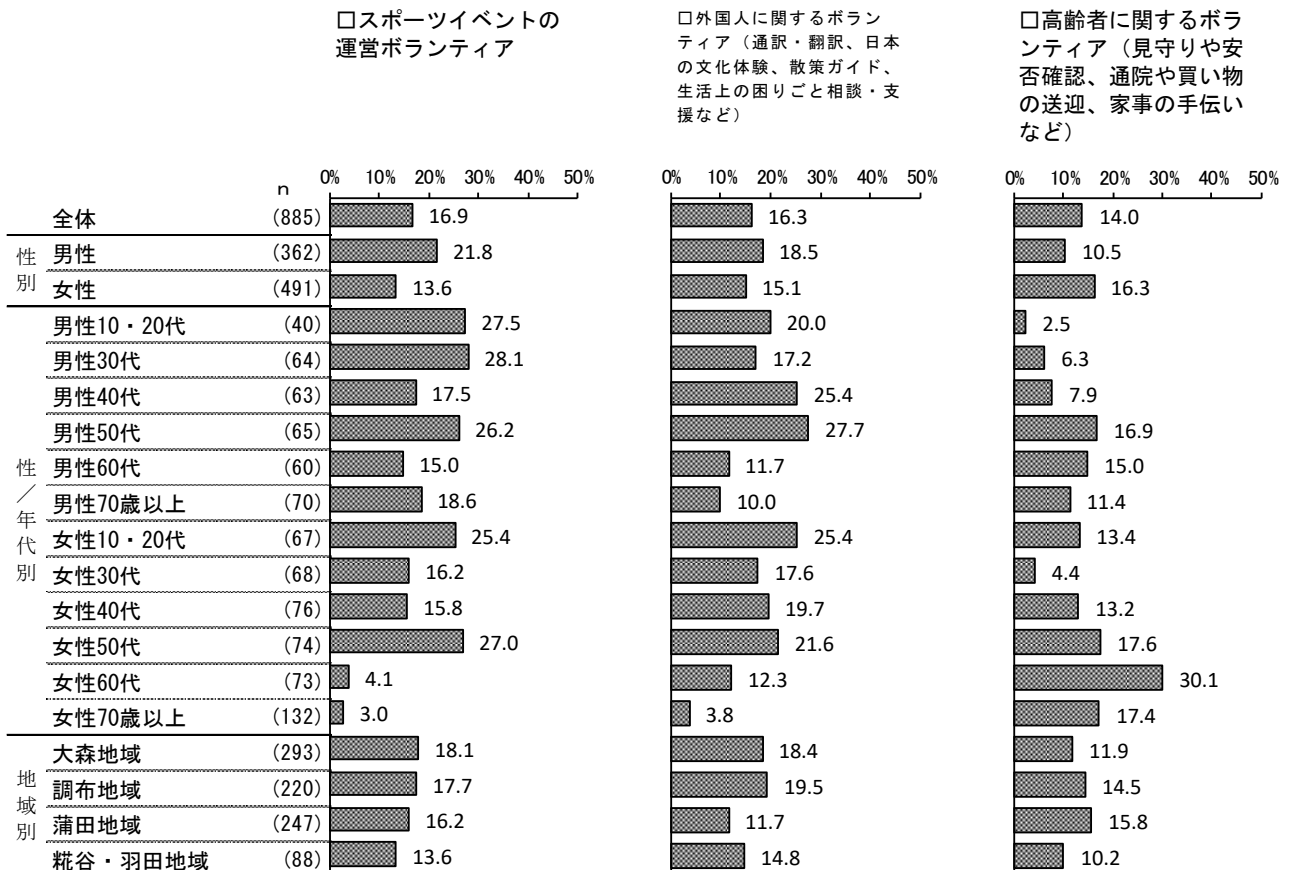
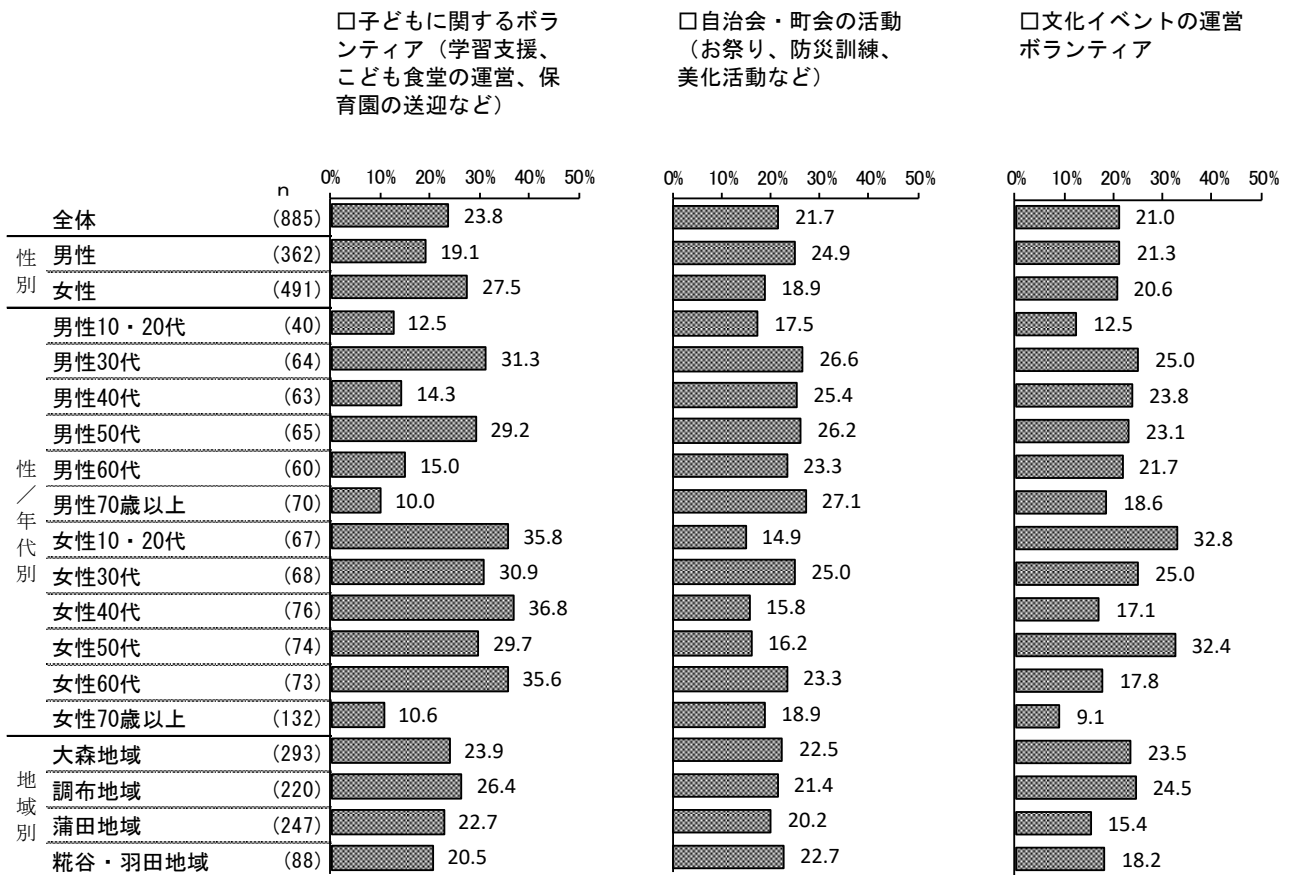
問1 あなたが参加してみたい地域活動を全て選択してください。(〇はいくつでも)

図表2-1 参加してみたい地域活動



参加してみたい地域活動を聞いたところ、「子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）」が23.8%で最も高く、次いで、「自治会・町会の活動（お祭り、防災訓練、美化活動など）」(21.7%)、「文化イベントの運営ボランティア」(21.0%)となっている。(図表2-1)

図表 2-2 参加してみたい地域活動（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



参加してみたい地域活動について、上位6項目を性別で見ると、女性では「子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）」（27.5%）が、男性では「自治会・町会の活動（お祭り、防災訓練、美化活動など）」（24.9%）が最も高くなっている。「子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）」では女性（27.5%）が男性（19.1%）を8.4ポイント、「スポーツイベントの運営ボランティア」では男性（21.8%）が女性（13.6%）を8.2ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、男性では「子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）」が30代、50代で約3割と、その他の年代より高くなっている。女性では「高齢者に関するボランティア（見守りや安否確認、通院や買い物の送迎、家事の手伝いなど）」が60代で約3割と、その他の性／年代より高くなっている。

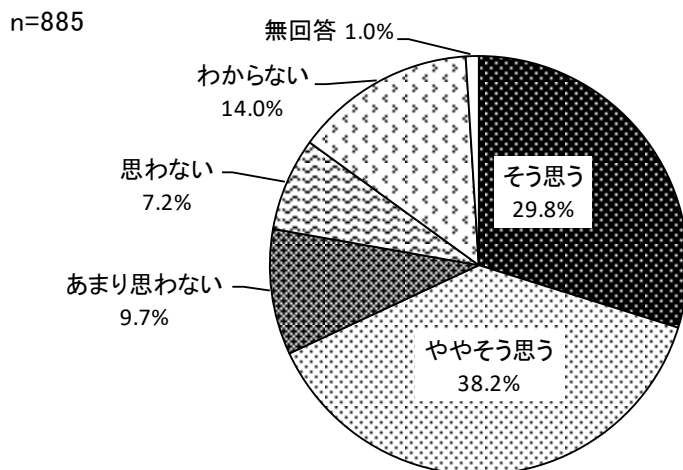
地域別で見ると、大森地域、調布地域、蒲田地域では「子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）」が、糀谷・羽田地域では「自治会・町会の活動（お祭り、防災訓練、美化活動など）」が最も高くなっている。（図表2-2）

(2) 情報の有無と地域活動への興味・関心、参加へのつながり

◎ 《そう思う (合計)》が6割後半

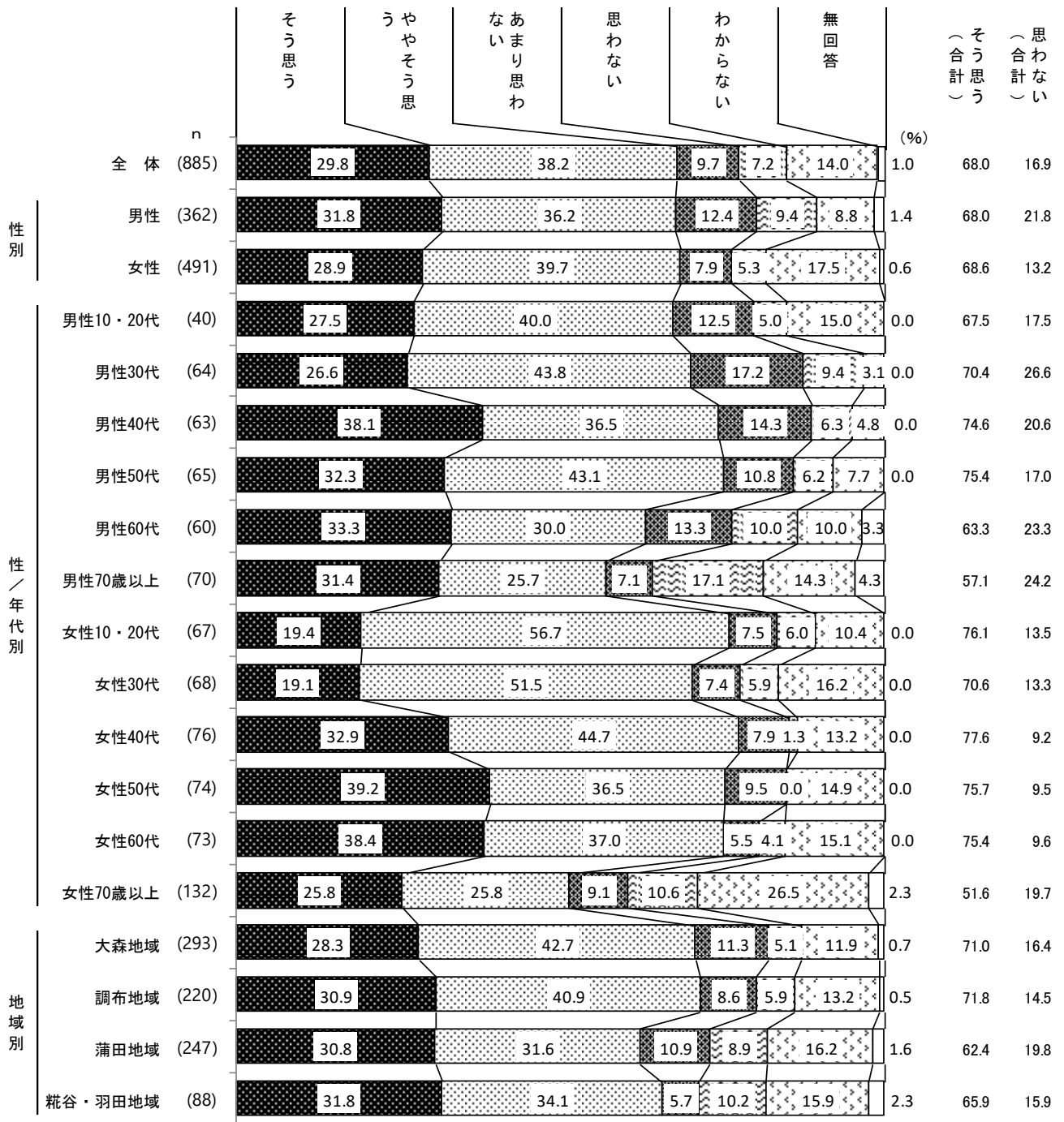
問2 あなたは、情報があれば地域活動への興味・関心や、参加につながるといいますか。
(○は1つ)

図表2-3 情報の有無と地域活動への興味・関心、参加へのつながり



情報があれば地域活動への興味・関心や、参加につながるといえるか聞いたところ、「ややそう思う」が38.2%で最も高く、「そう思う」(29.8%)と合わせた《そう思う (合計)》は68.0%となっている。「あまり思わない」(9.7%)と「思わない」(7.2%)を合わせた《思わない (合計)》が16.9%、「わからない」が14.0%となっている。(図表2-3)

図表2-4 情報の有無と地域活動への興味・関心、参加へのつながり（性別・性／年代別・地域別）



情報があれば地域活動への興味・関心や、参加につながると思うかを性別で見ると、「《そう思う（合計）》」は男性（68.0%）、女性（68.6%）ともに6割後半となっている。

性／年代別にみると、「《そう思う（合計）》」は70歳以上が男性（57.1%）、女性（51.6%）ともに5割台とその他の年代より低くなっている。

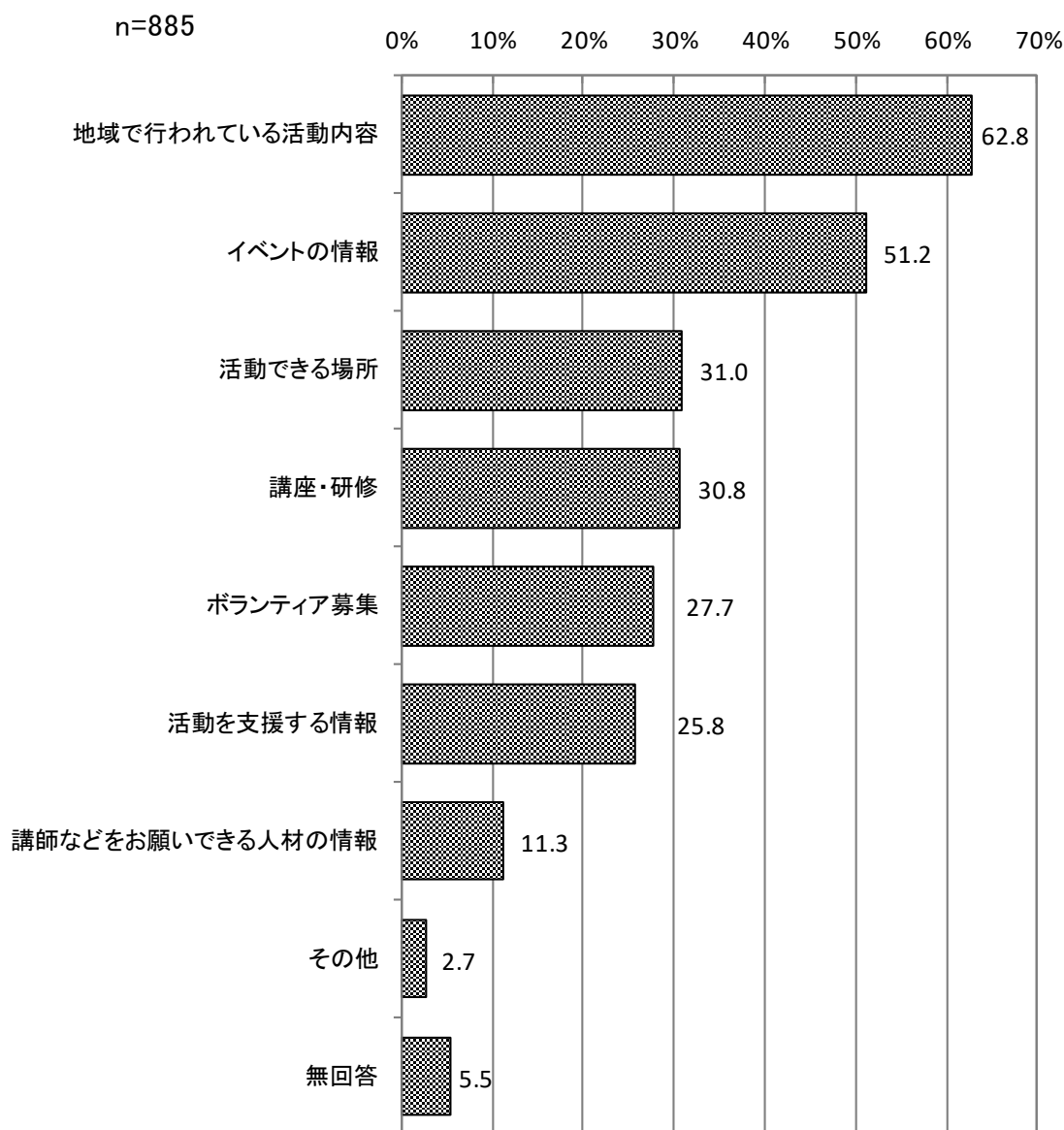
地域別にみると、「《そう思う（合計）》」は大森地域（71.0%）、調布地域（71.8%）で約7割、蒲田地域（62.4%）、糀谷・羽田地域（65.9%）で6割台となっている。（図表2-4）

(3) 必要な地域活動に関する情報

◎「地域で行われている活動内容」が6割前半で最も高い

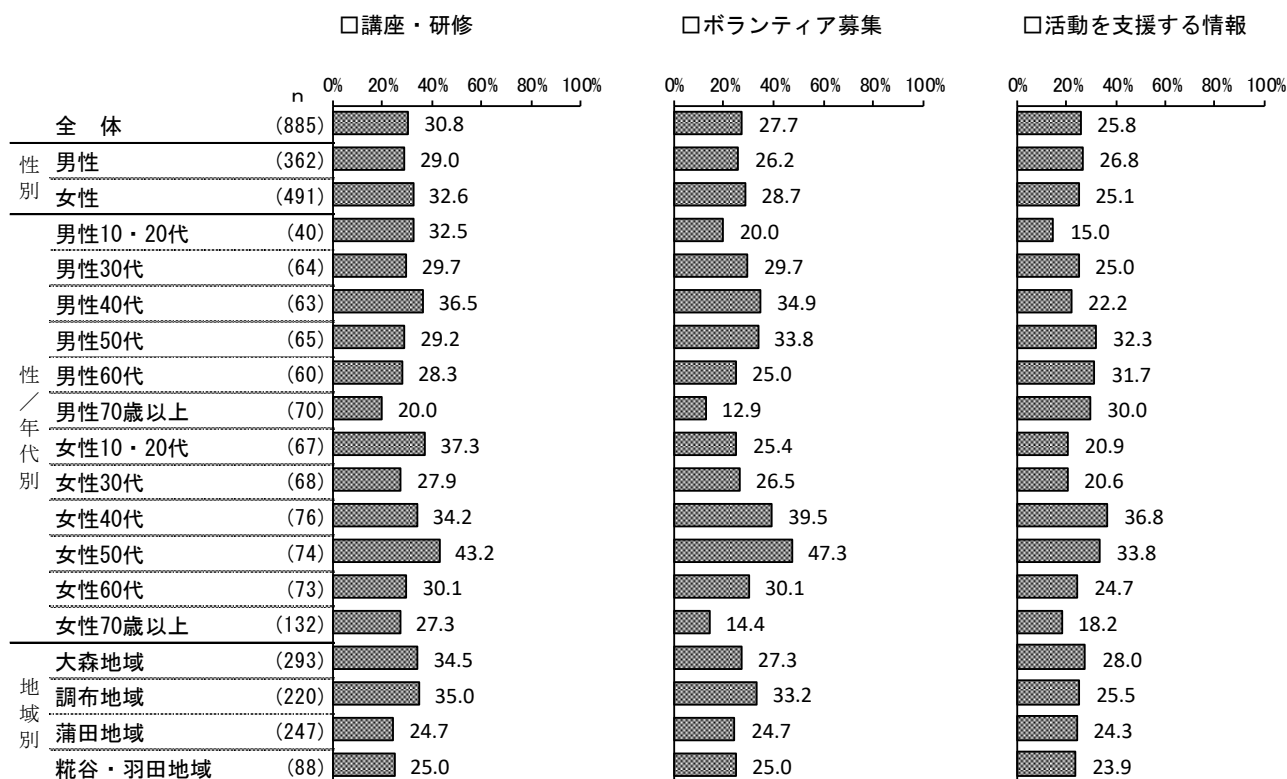
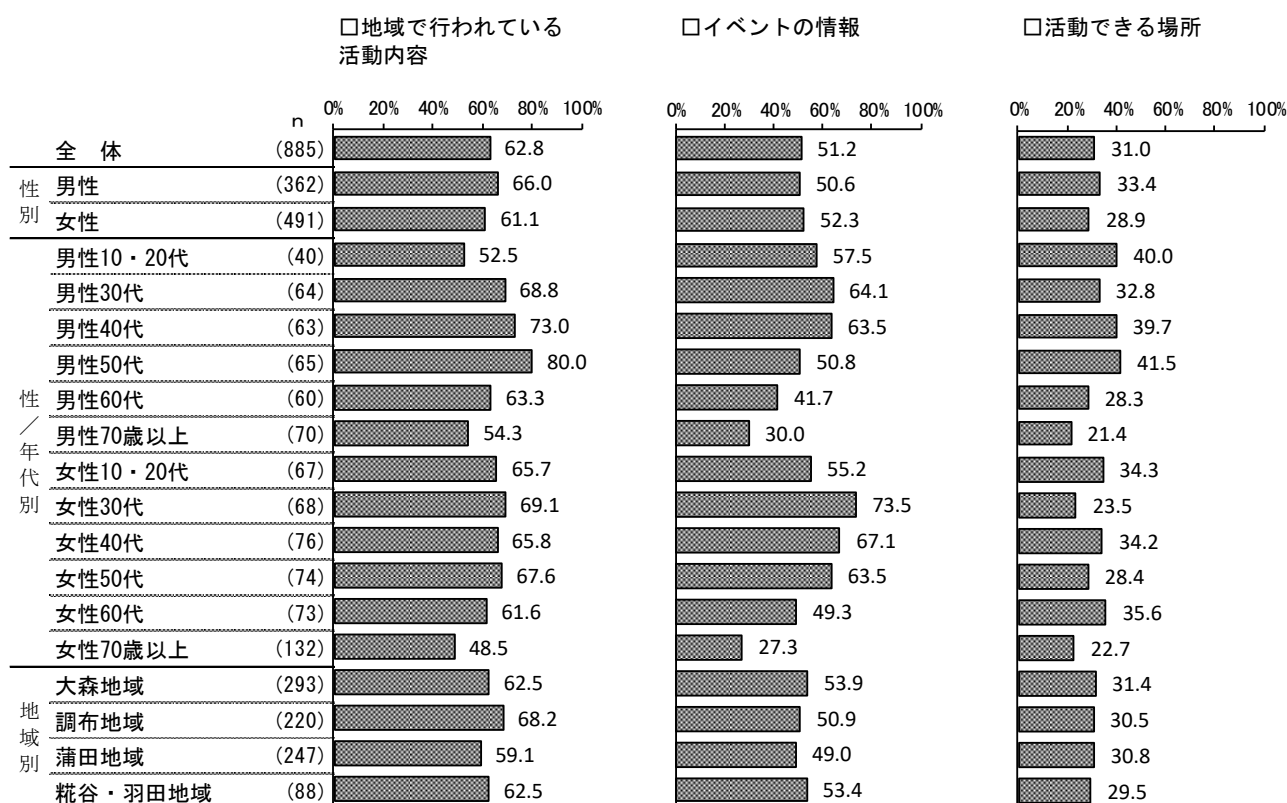
問3 あなたは、どのような地域活動に関する情報が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

図表2-5 必要な地域活動に関する情報



どのような地域活動に関する情報が必要だと思うか聞いたところ、「地域で行われている活動内容」が62.8%で最も高く、次いで、「イベントの情報」(51.2%)、「活動できる場所」(31.0%)となっている。(図表2-5)

図表2-6 必要な地域活動に関する情報（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



どのような地域活動に関する情報が必要だと思うか、上位6項目を性別で見ると、「地域で行われている活動内容」が男女ともに最も高くなっている。

性／年代別で見ると、男性10・20代、女性30代、40代で「イベントの情報」が、その他の年代では「地域で行われている活動内容」が最も高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「地域で行われている活動内容」が最も高くなっている。

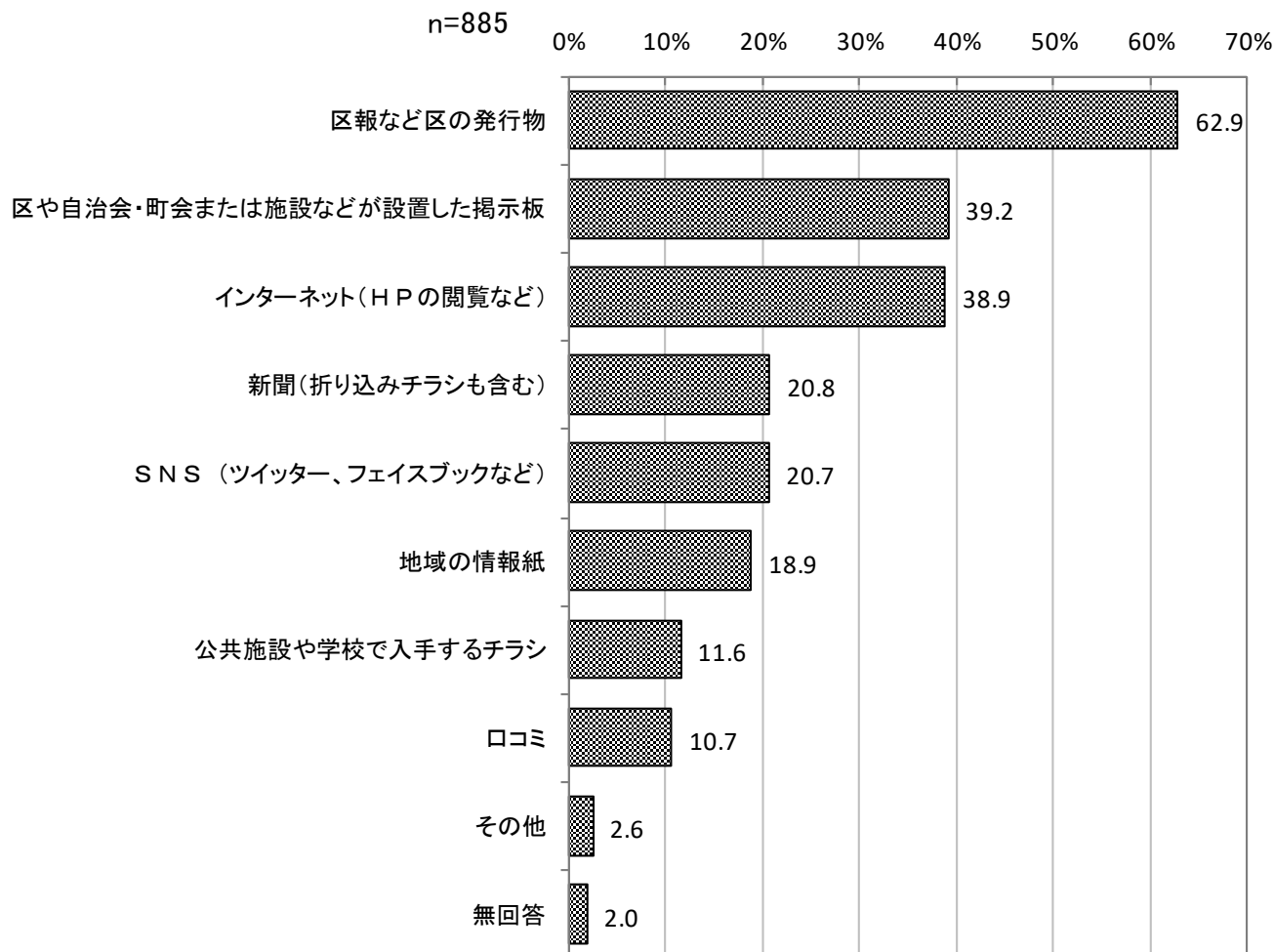
(図表2-6)

(4) 地域活動の情報の収集方法

◎「区報など区の発行物」が6割前半で最も高い

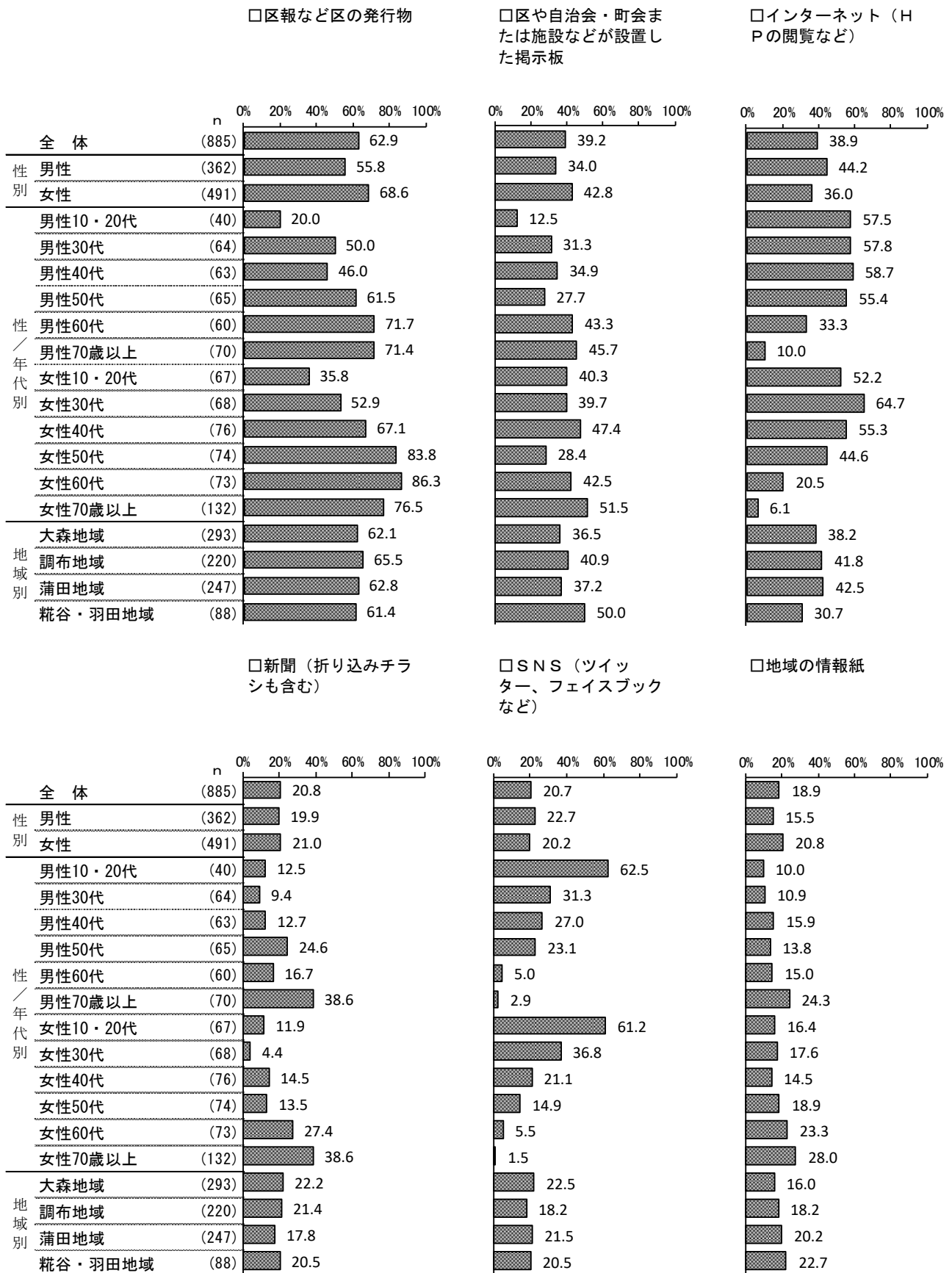
問4 あなたが普段、地域活動に関する情報を収集する方法はなんですか。(〇はいくつでも)

図表2-7 地域活動の情報の収集方法



地域活動の情報の収集方法について聞いたところ、「区報など区の発行物」が62.9%で最も高く、次いで、「区や自治会・町会または施設などが設置した掲示板」(39.2%)、「インターネット(HPの閲覧など)」(38.9%)となっている。(図表2-7)

図表 2-8 地域活動の情報の収集方法（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



地域活動の情報の収集方法について、上位6項目を性別で見ると、男女ともに「区報など区の発行物」が最も高く、次いで、女性は「区や自治会・町会または施設などが設置した掲示板」、男性は「インターネット（HPの閲覧など）」となっている。「区報など区の発行物」では女性（68.6%）が男性（55.8%）を12.8ポイント、「区や自治会・町会または施設などが設置した掲示板」では女性（42.8%）が男性（34.0%）を8.8ポイント、「インターネット（HPの閲覧など）」では男性（44.2%）が女性（36.0%）を8.2ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、男女ともに10・20代で「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）」が、男性30代、40代、女性30代で「インターネット（HPの閲覧など）」が、その他の性／年代で「区報など区の発行物」が最も高くなっている。「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）」は男女ともに年代が若いほど高くなっている。「新聞（折り込みチラシも含む）」は男女ともに70歳以上で3割後半と、その他の性／年代より高くなっている。

地域別で見ると、「区報など区の発行物」がすべての地域で最も高くなっている。（図表2-8）

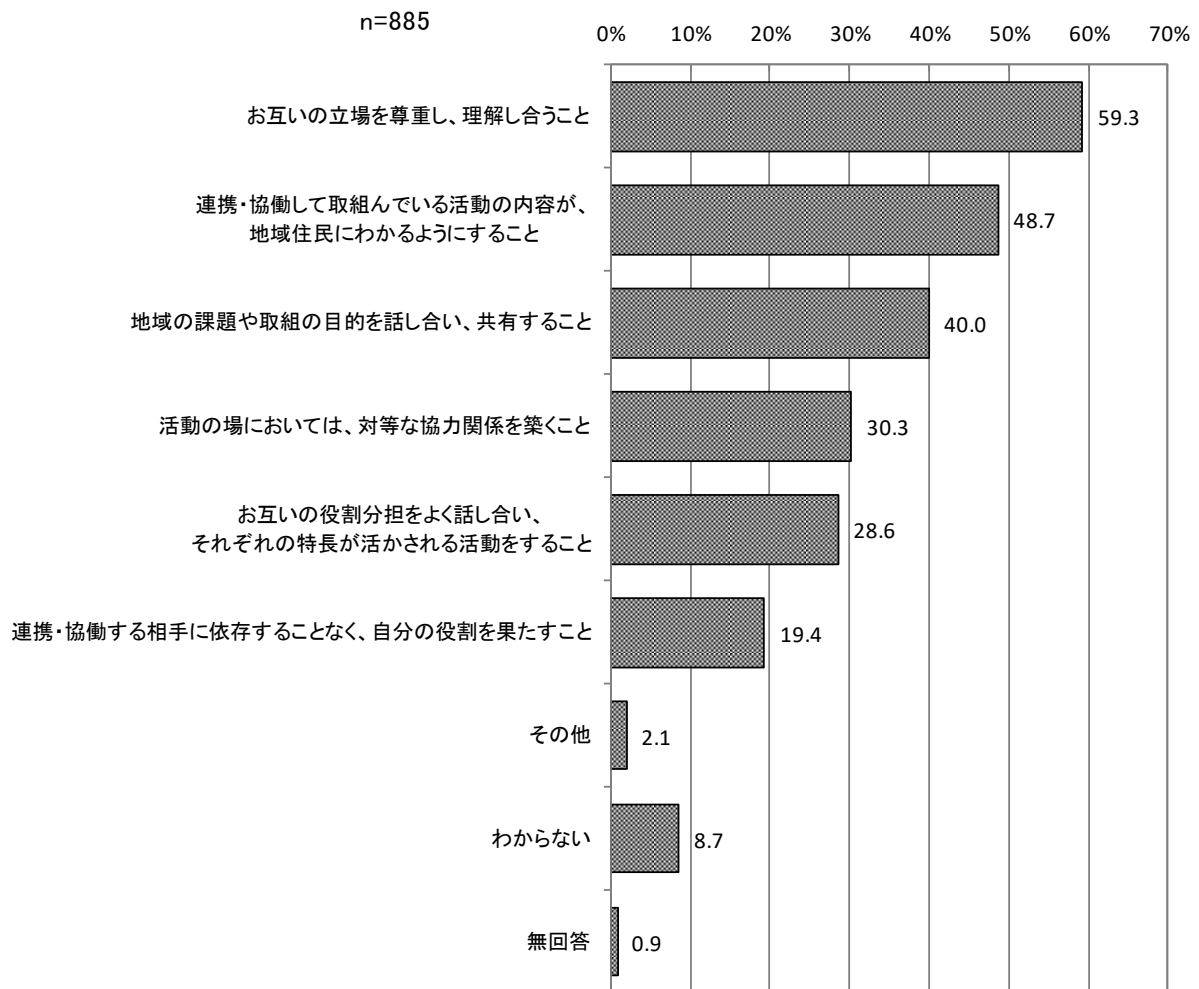
3 協働について

(1) 連携・協働をするために重要なこと

◎「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」が約6割で最も高くなっている

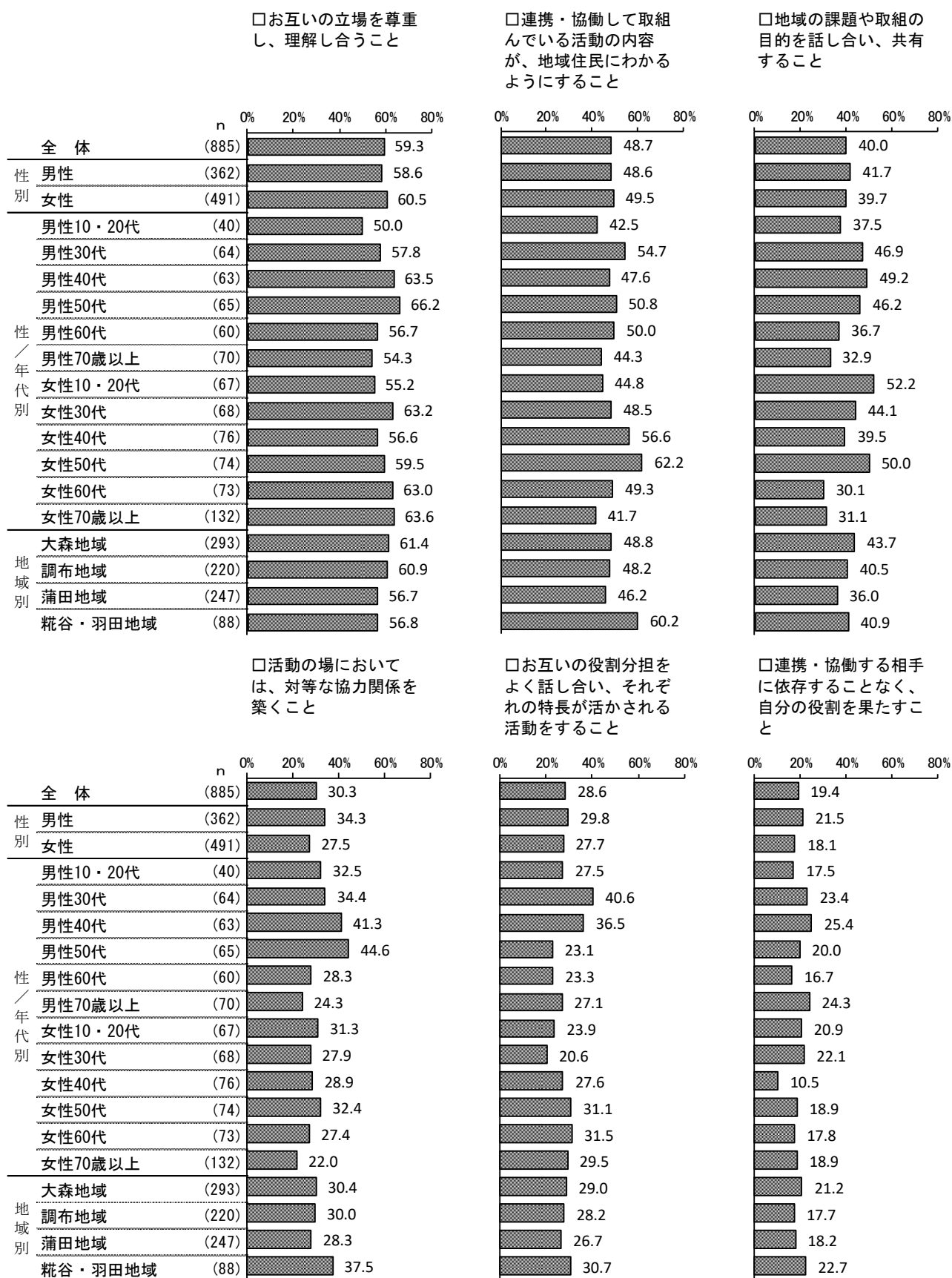
問5 豊かで魅力に満ちたまちづくりを進めるための連携や協働をするにあたり、どのようなことが重要だとお考えですか。(〇はいくつでも)

図表3-1 連携・協働をするために重要なこと



連携・協働をするために重要なことについて聞いたところ、「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」が59.3%で最も高く、次いで、「連携・協働して取組んでいる活動の内容が、地域住民にわかるようにすること」(48.7%)、「地域の課題や取組の目的を話し合い、共有すること」(40.0%)となっている。(図表3-1)

図表3-2 連携・協働をするために重要なこと（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



連携・協働をするために重要なことについて、上位6項目を性別で見ると、男女ともに「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」が最も高くなっている。「活動の場においては、対等な協力関係を築くこと」では男性（34.3%）が女性（27.5%）を6.8ポイント上回っている。

性／年代別にみると、女性50代では「連携・協働して取組んでいる活動の内容が、地域住民にわかるようにすること」が最も高く、女性40代では「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」「連携・協働して取組んでいる活動の内容が、地域住民にわかるようにすること」が同率で最も高くなっている。その他の性／年代では「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」が最も高くなっている。

地域別で見ると、大森地域、調布地域、蒲田地域では「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」が、糀谷・羽田地域では「連携・協働して取組んでいる活動の内容が、地域住民にわかるようにすること」が最も高くなっている。（図表3-2）

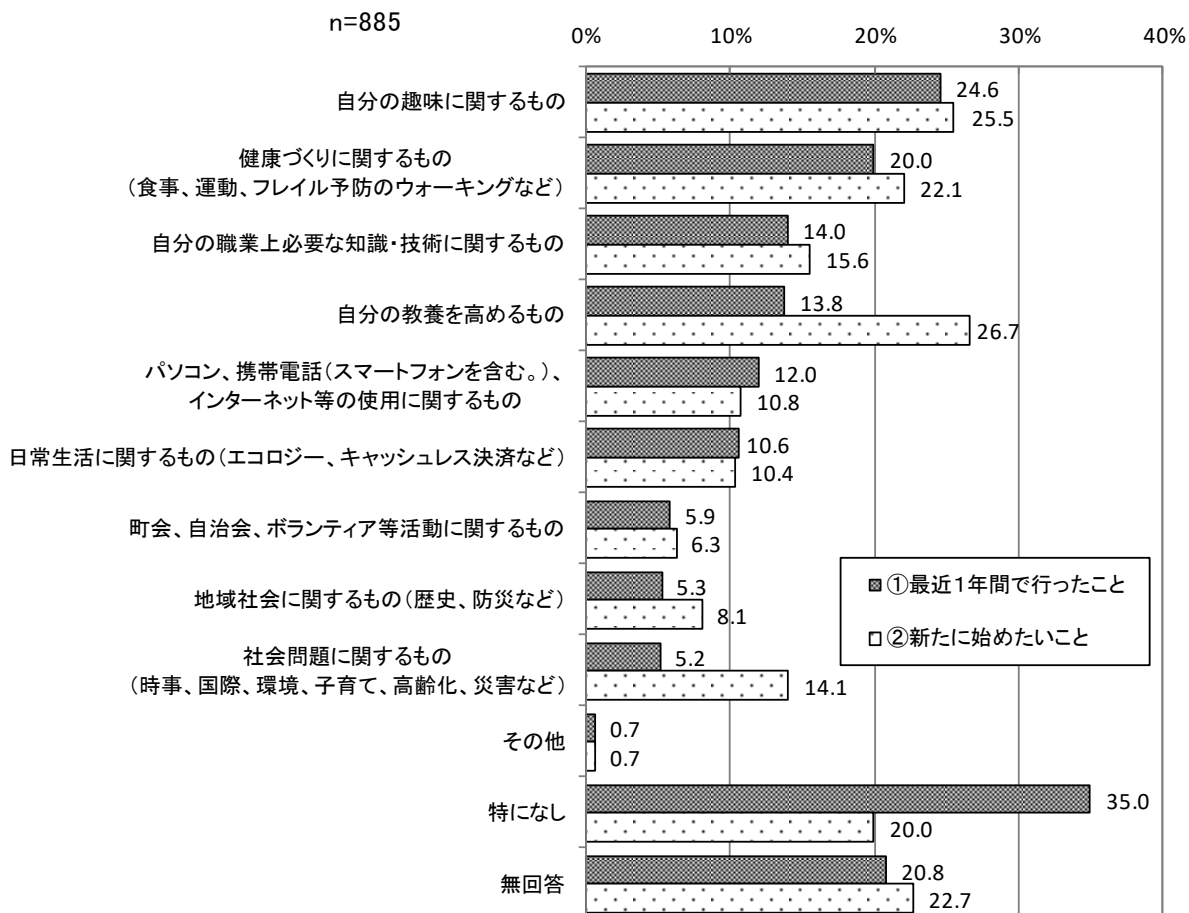
4 生涯学習について

(1) 最近1年間の生涯学習の活動と新たに始めたいもの

◎行った活動は「自分の趣味に関するもの」が、新たに始めたい活動は「自分の教養を高めるもの」がそれぞれ2割半ばで最も高くなっている

問6 あなたはこの1年間に、学校、区が行う講座や文化、スポーツ、趣味等のサークル活動、地域活動、仕事・就職活動や日常生活でどのような調べ事や学び（生涯学習）を行いましたか。また、新たに始めてみたいことはありますか。
 （「①最近1年間でやったこと」「②新たに始めたいこと」、それぞれ〇はいくつでも）

図表4-1 最近1年間の生涯学習の活動と新たに始めたいもの



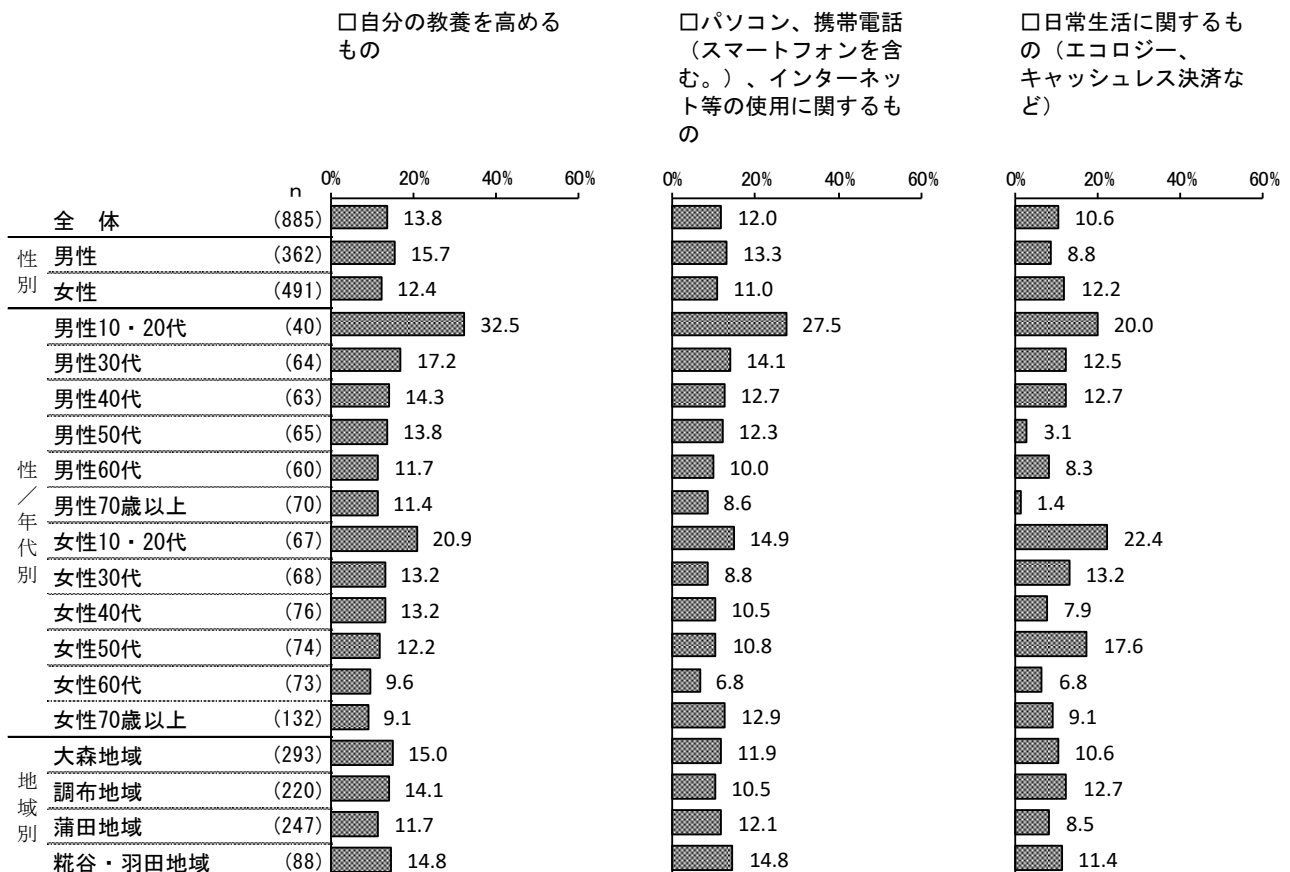
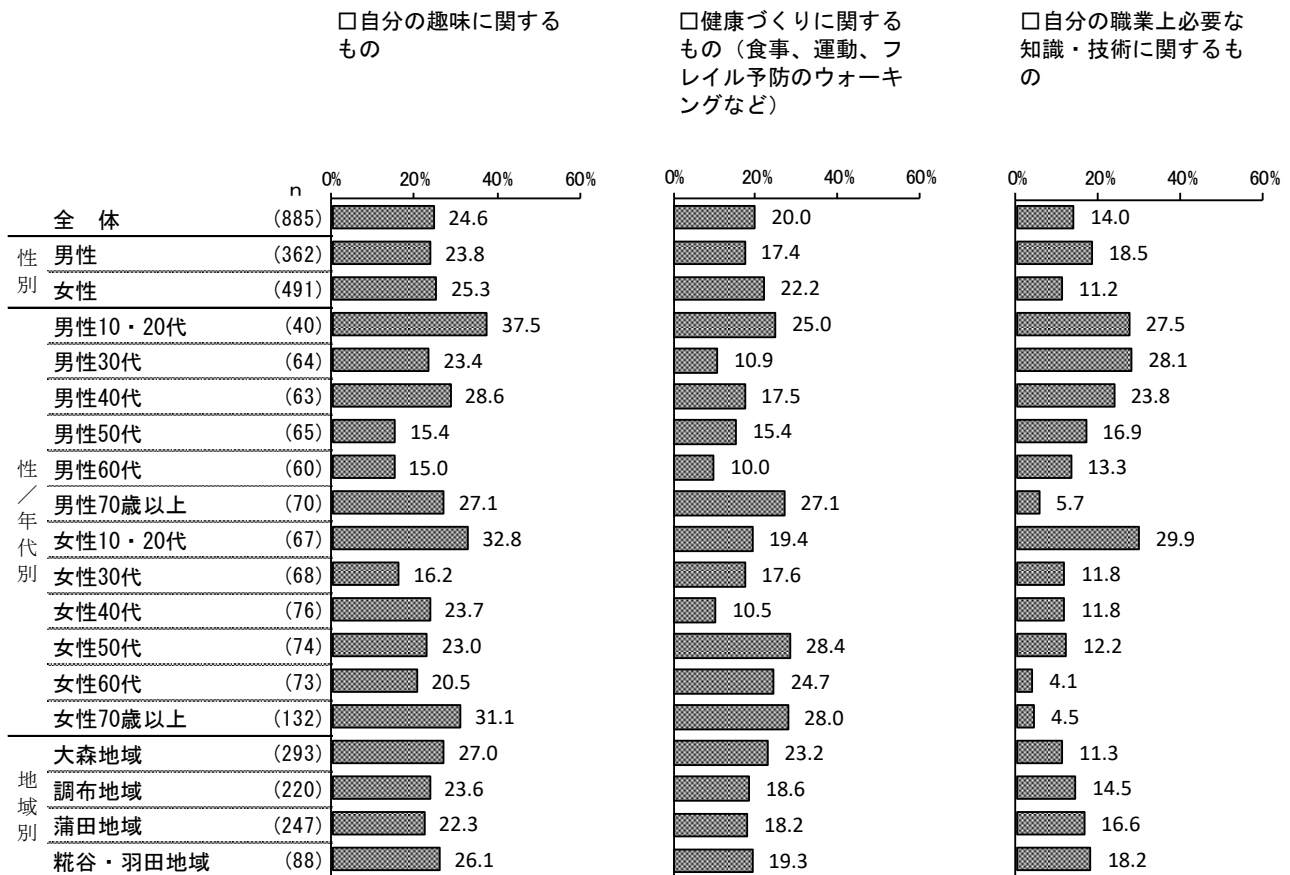
【最近1年間でやった】生涯学習について聞いたところ、「自分の趣味に関するもの」が24.6%で最も高く、次いで、「健康づくりに関するもの(食事、運動、フレイル予防のウォーキングなど)」(20.0%)、「自分の職業上必要な知識・技術に関するもの」(14.0%)となっている。

一方、「特になし」は35.0%となっている。

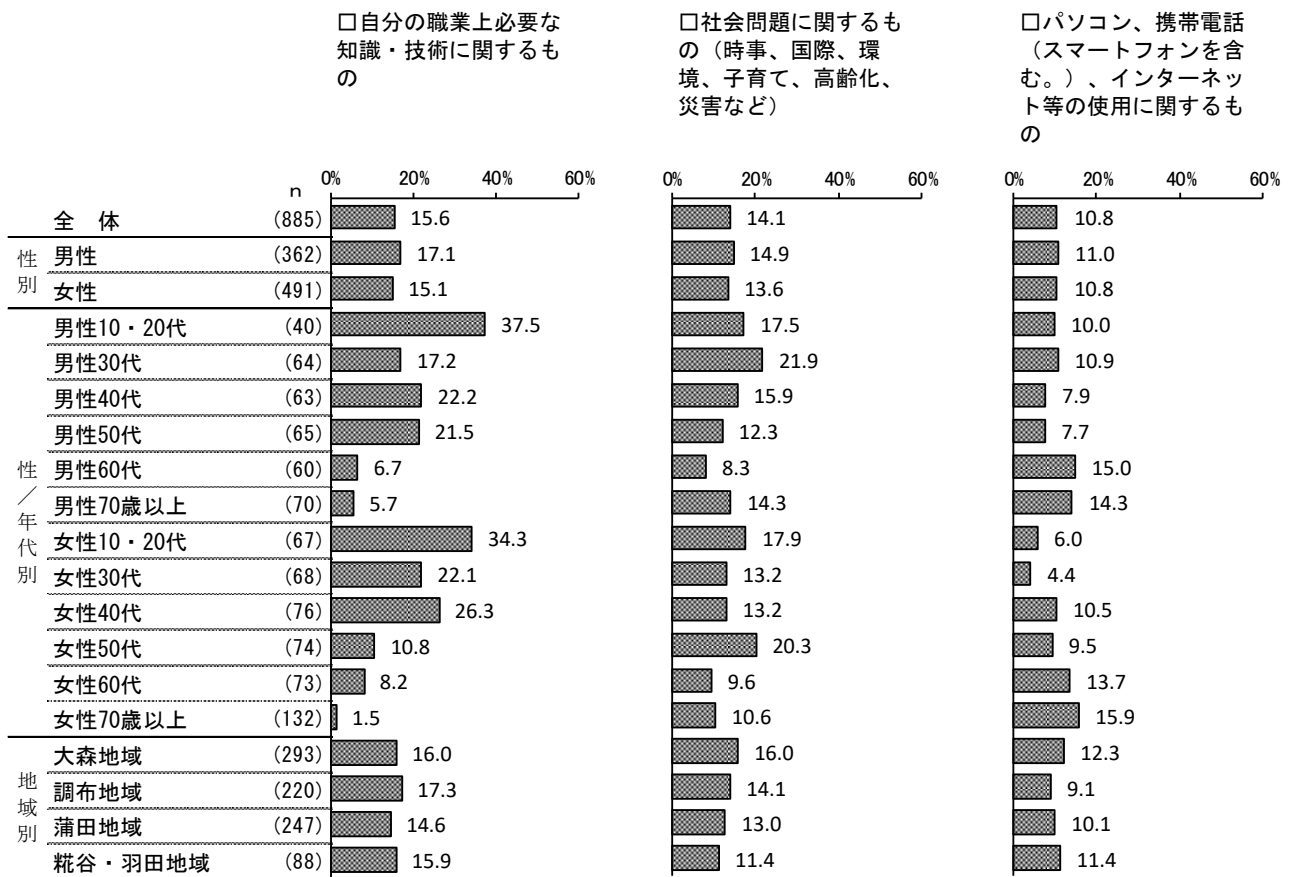
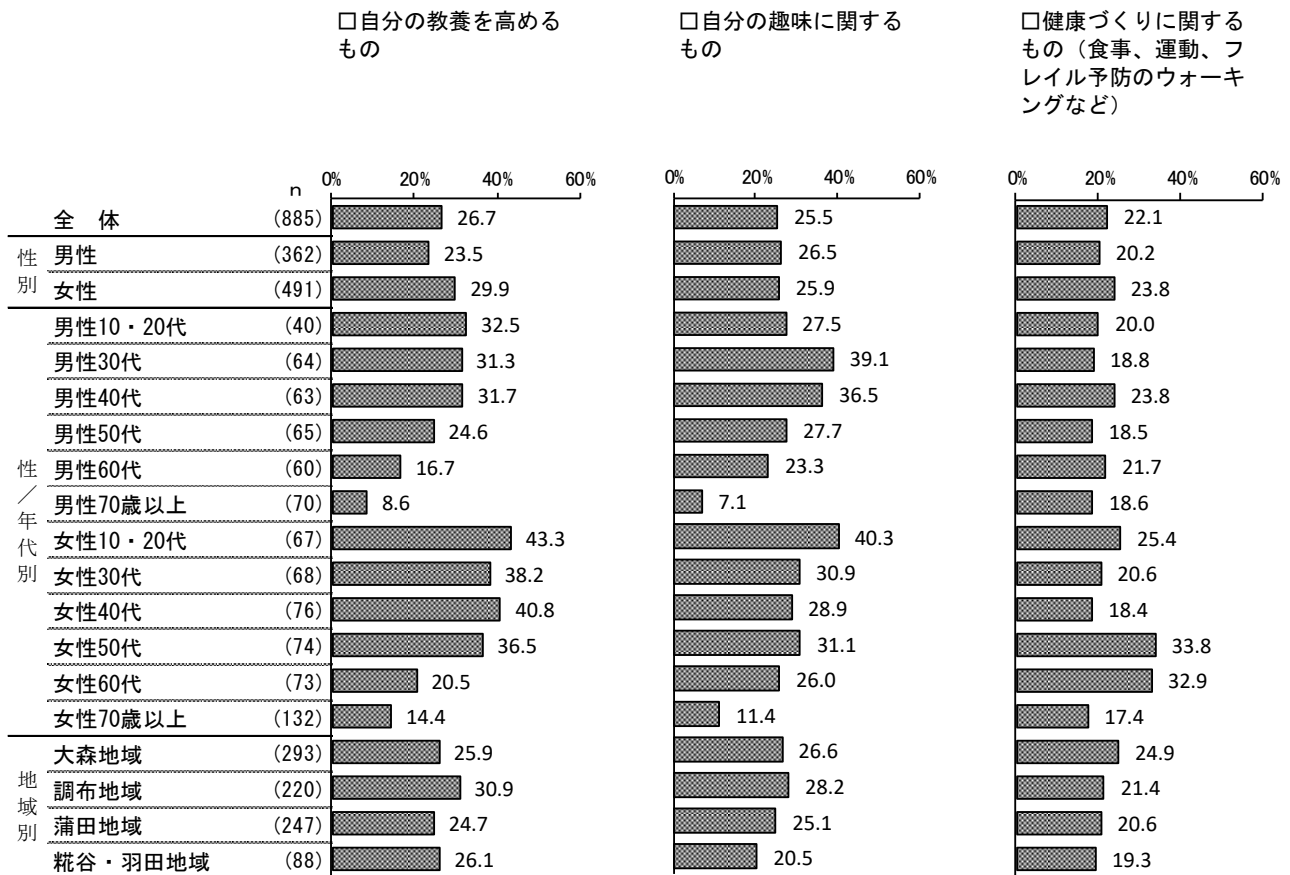
【新たに始めたい】生涯学習について聞いたところ、「自分の教養を高めるもの」が26.7%で最も高く、次いで、「自分の趣味に関するもの」(25.5%)、「健康づくりに関するもの(食事、運動、フレイル予防のウォーキングなど)」(22.1%)となっている。

一方、「特になし」は20.0%となっている。(図表4-1)

図表4-2 最近1年間の生涯学習の活動（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



図表4-3 新たに始めたい生涯学習の活動（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



【最近1年間で行った】生涯学習について、上位6項目を性別で見ると、男女ともに「自分の趣味に関するもの」が最も高くなっている。「自分の職業上必要な知識・技術に関するもの」では男性(18.5%)が女性(11.2%)を7.3ポイント上回っている。

性/年代別にみると、「自分の趣味に関するもの」は男性10・20代、女性10・20代、70歳以上で3割台となっている。「自分の職業上必要な知識・技術に関するもの」、「自分の教養を高めるもの」は、男女ともに概ね年齢が若いほど高くなっている。

地域別にみると、いずれの地域も「自分の趣味に関するもの」が最も高くなっている。(図表4-2)

【新たに始めたい】生涯学習について、上位6項目を性別で見ると、男性は「自分の趣味に関するもの」、女性は「自分の教養を高めるもの」が最も高くなっている。

性/年代別にみると、女性10・20代~50代では「自分の教養を高めるもの」が、男性30代~60代では「自分の趣味に関するもの」が、男性70歳以上、女性60代、70歳以上では「健康づくりに関するもの(食事、運動、フレイル予防のウォーキングなど)」が、男性10・20代では「自分の職業上必要な知識・技術に関するもの」が最も高くなっている。

地域別にみると、調布地域、糀谷・羽田地域では「自分の教養を高めるもの」が、大森地域、蒲田地域では「自分の趣味に関するもの」が最も高くなっている。(図表4-3)

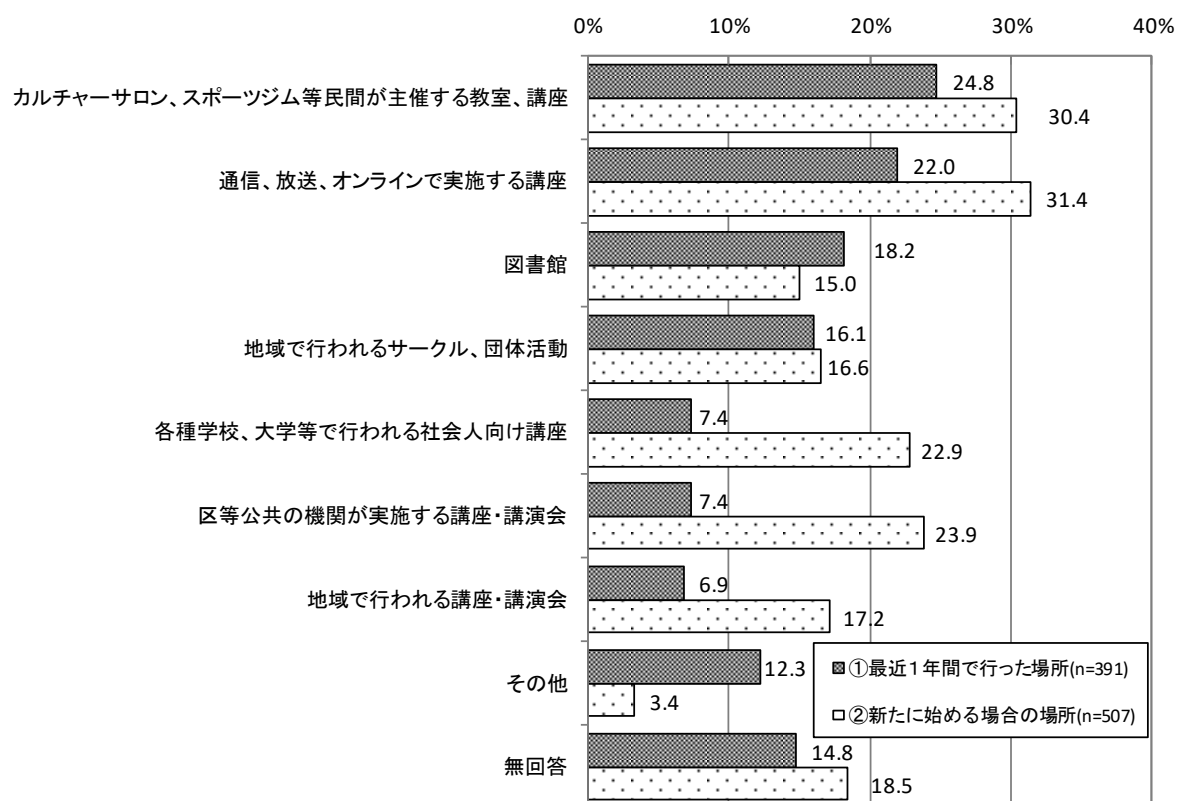
(2) 生涯学習を行った場所と行いたい場所

◎行った場所、行いたい場所、いずれも「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」、「通信、放送、オンラインで実施する講座」が高くなっている

【問6の①及び②で「1」～「10」と回答された方】

問6-1 どこで行いましたか。また、新たに始める場合はどこで行いたいですか。(「①最近1年間で行った場所」「②新たに始める場合の場所」、それぞれ〇はいくつでも)

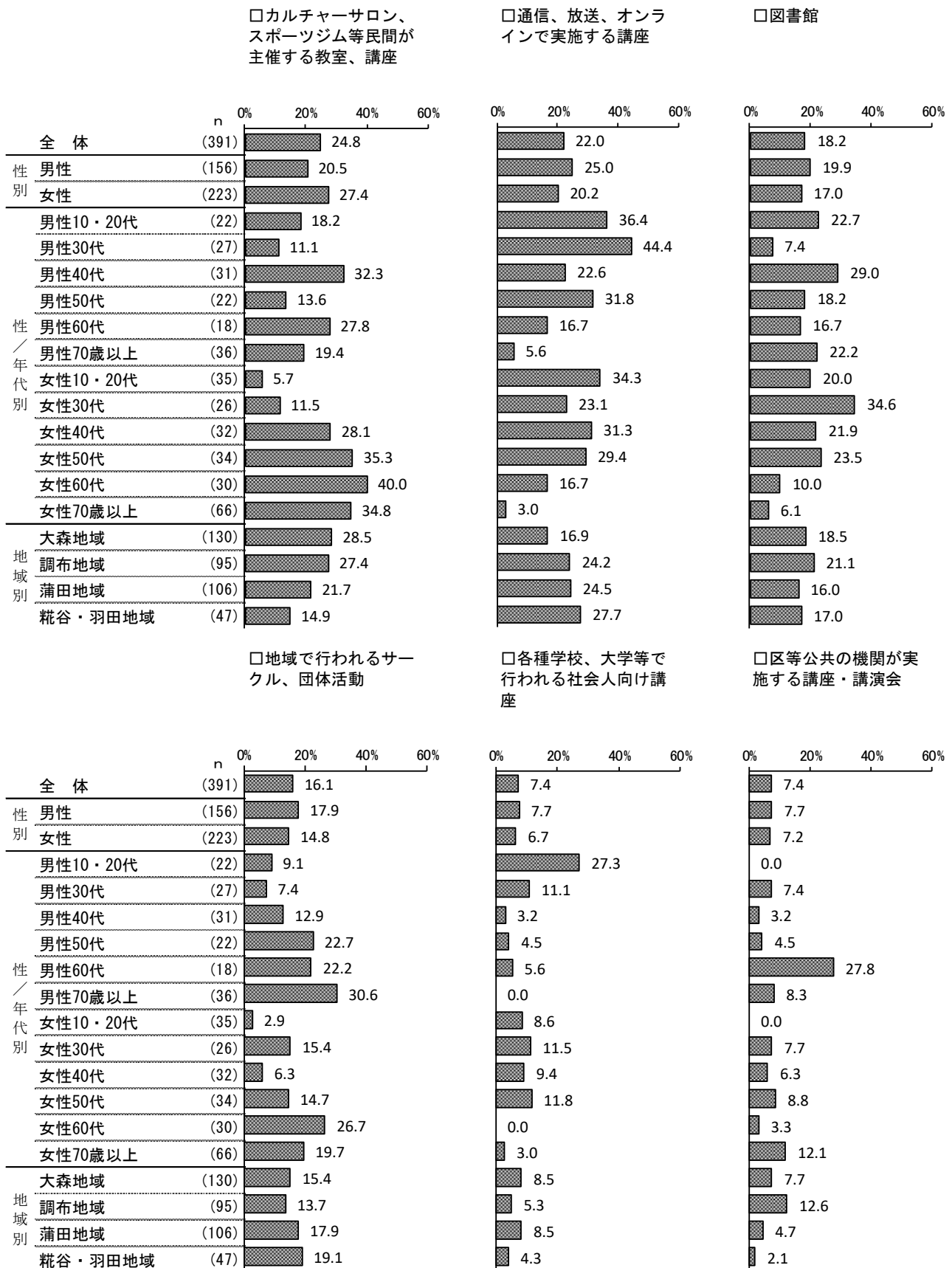
図表4-4 生涯学習を行った場所と行いたい場所



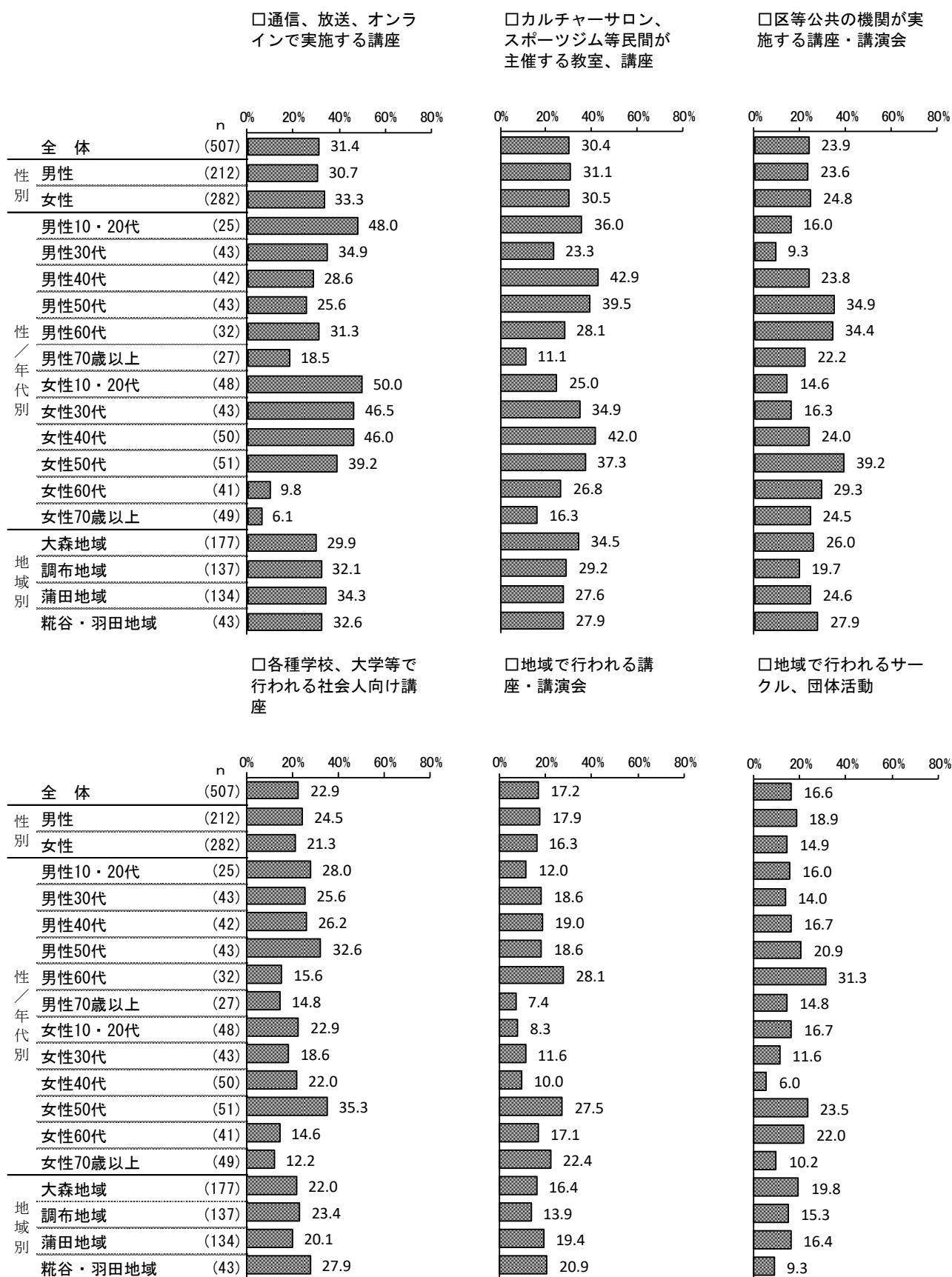
【生涯学習を行った】場所について聞いたところ、「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が24.8%で最も高く、次いで、「通信、放送、オンラインで実施する講座」(22.0%)、「図書館」(18.2%)となっている。

【生涯学習を新たに始める場合】の場所については、「通信、放送、オンラインで実施する講座」が31.4%で最も高く、次いで、「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」(30.4%)、「区等公共の機関が実施する講座・講演会」(23.9%)となっている。(図表4-4)

図表4-5 生涯学習を行った場所（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



図表4-6 生涯学習を新たに始める場合の場所（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



【生涯学習を行った】場所について、上位6項目を性別で見ると、男性は「通信、放送、オンラインで実施する講座」が、女性は「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、女性60代で「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が4割となっている。

地域別で見ると、大森地域、調布地域は「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が、蒲田地域、糀谷・羽田地域では「通信、放送、オンラインで実施する講座」が最も高くなっている。(図表4-5)

【生涯学習を新たに始める場合】の場所について、上位6項目を性別で見ると、男性は「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が、女性は「通信、放送、オンラインで実施する講座」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、男性40代、50代は「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が、男女ともに60代、70歳以上は「区等公共の機関が実施する講座・講演会」が最も高く、女性50代では「通信、放送、オンラインで実施する講座」、「区等公共の機関が実施する講座・講演会」が同率で最も高くなっている。その他の性／年代では「通信、放送、オンラインで実施する講座」が最も高くなっている。

地域別で見ると、大森地域は「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が、その他の地域では「通信、放送、オンラインで実施する講座」が最も高くなっている。(図表4-6)

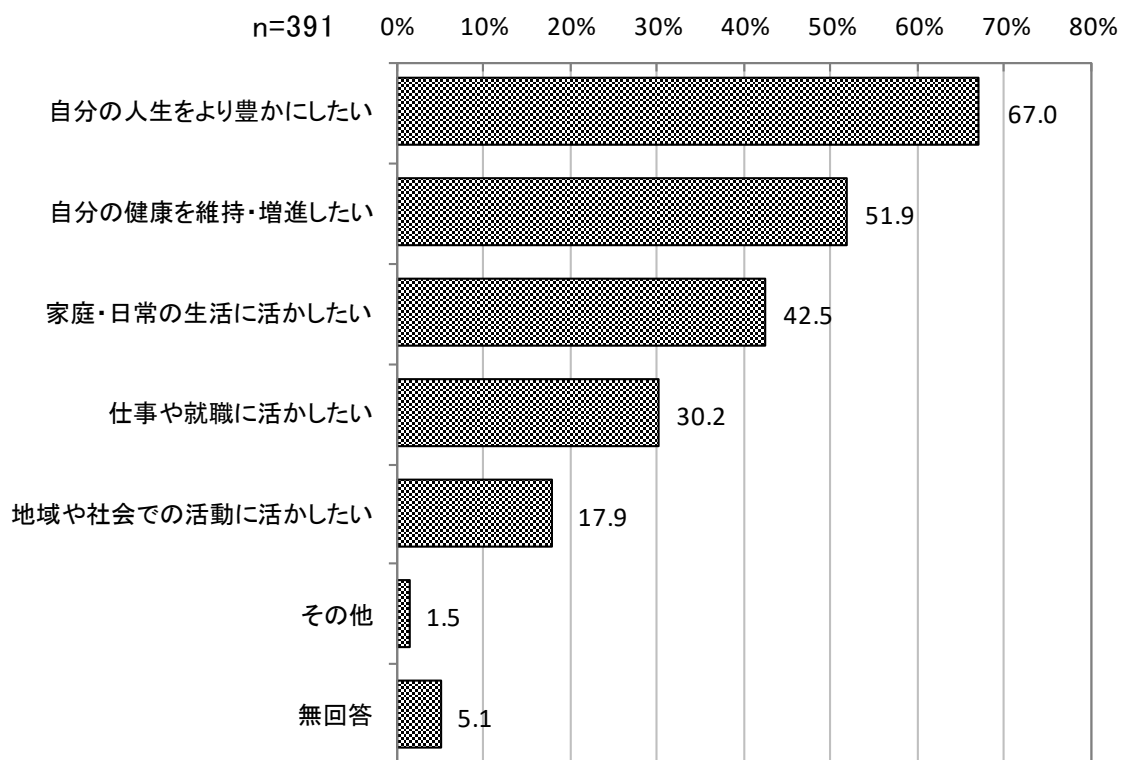
(3) 生涯学習で身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいか

◎「自分の人生をより豊かにしたい」が6割後半で最も高くなっている

【問6①最近1年間で行ったもので「1」～「10」と回答された方】

問6-2 あなたは生涯学習を通じて身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいですか。
(〇はいくつでも)

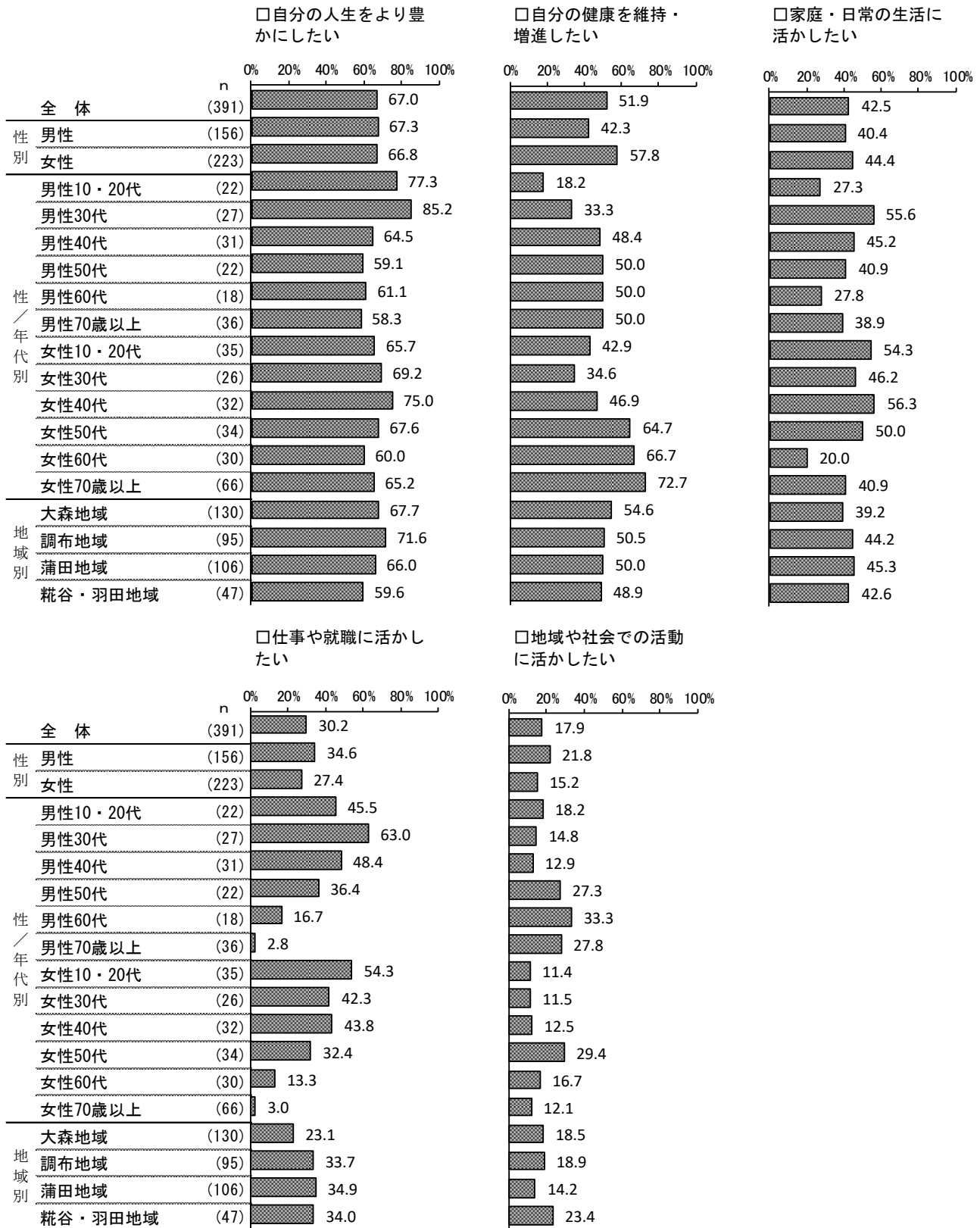
図表4-7 生涯学習で身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいか



最近1年間に生涯学習の活動を行った人に生涯学習で身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいか聞いたところ、「自分の人生をより豊かにしたい」が67.0%で最も高く、次いで、「自分の健康を維持・増進したい」(51.9%)、「家庭・日常の生活に活かしたい」(42.5%)となっている。

(図表4-7)

図表4-8 生涯学習で身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいか
(性別・性/年代別・地域別 上位5項目)



生涯学習で身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいかについて、上位5項目を性別で見ると、男女ともに「自分の人生をより豊かにしたい」が最も高くなっている。「自分の健康を維持・増進したい」は女性（57.8%）が男性（42.3%）を15.5ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、女性60代、70歳以上では「自分の健康を維持・増進したい」が、その他の性／年代では「自分の人生をより豊かにしたい」が最も高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「自分の人生をより豊かにしたい」が最も高くなっている。

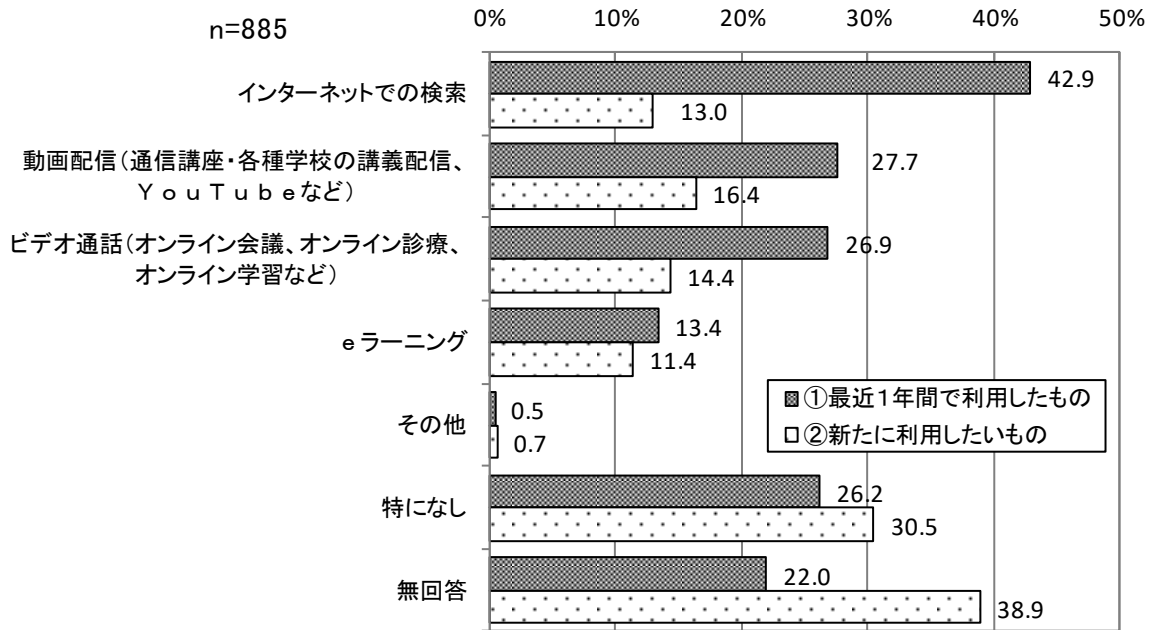
（図表4－8）

(4) 生涯学習での情報端末のサービスの利用と新たに利用したいもの

◎利用したサービスは「インターネットでの検索」が4割前半で最も高くなっている

問7 この1年間に、生涯学習を行うにあたり、パソコン、タブレットや携帯電話（スマートフォンを含む。）で以下の利用をしましたか。また、新たに利用したいことはありますか。
 （「①最近1年間で利用したもの」「②新たに利用したいもの」、それぞれ〇はいくつでも）

図表4-9 生涯学習での情報端末のサービスの利用と新たに利用したいもの



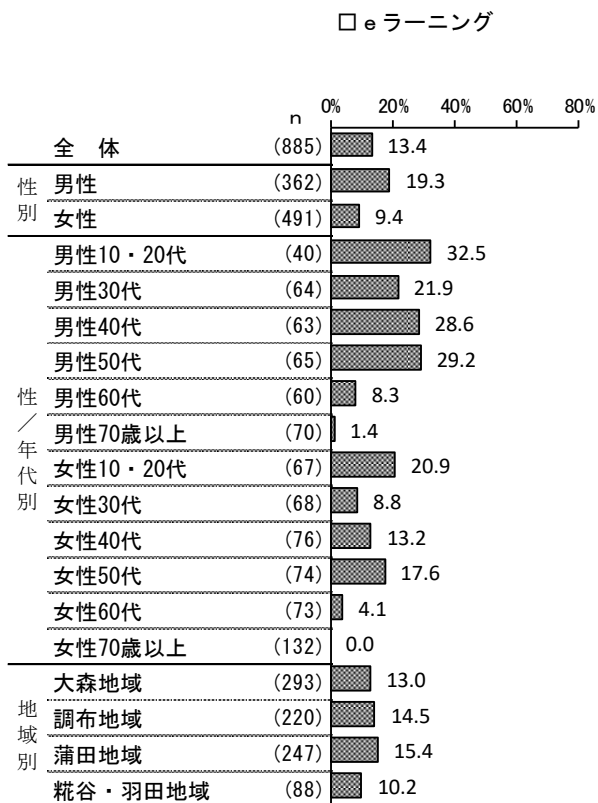
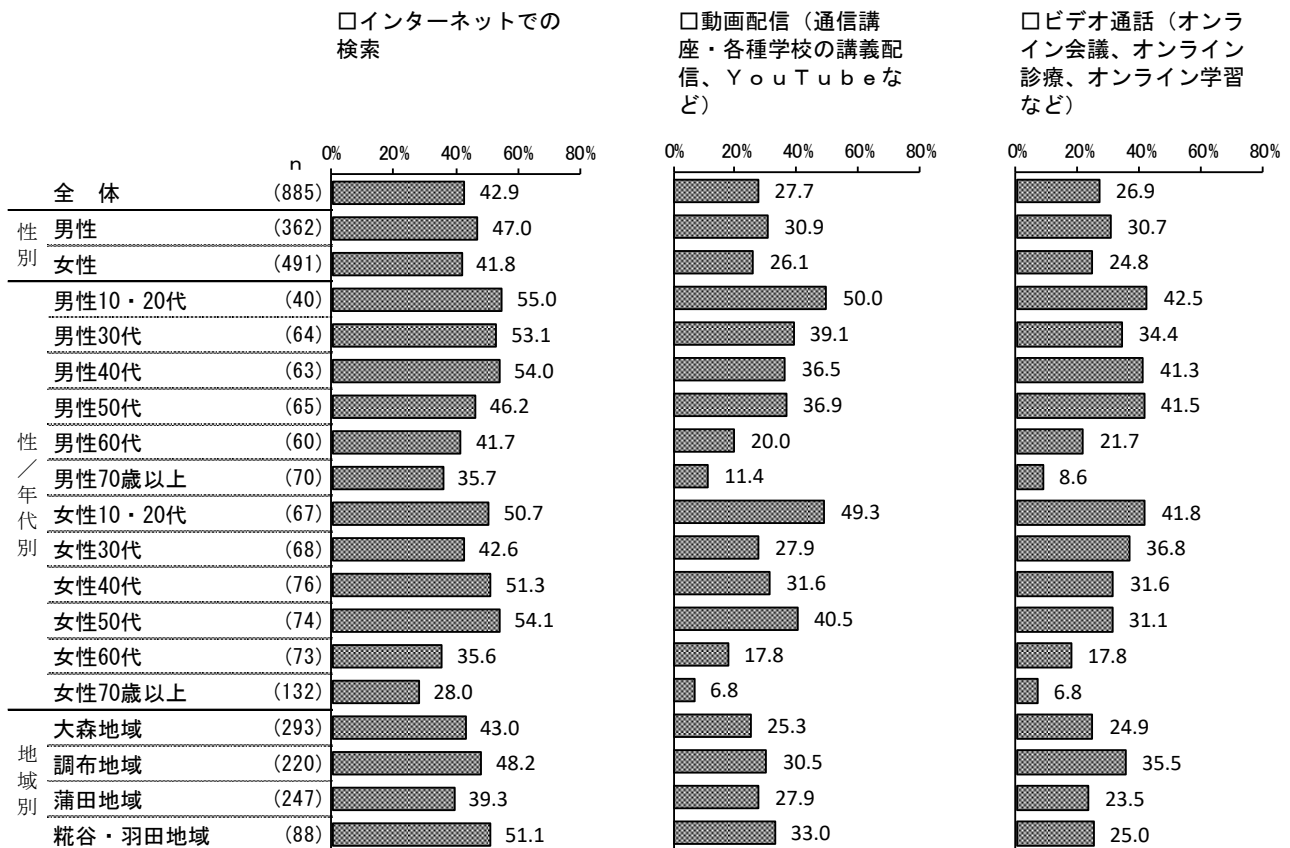
【最近1年間に生涯学習で利用した】情報端末のサービスについて聞いたところ、「インターネットでの検索」が42.9%で最も高く、次いで、「動画配信（通信講座・各種学校の講義配信、YouTubeなど）」(27.7%)、「ビデオ通話（オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など）」(26.9%)となっている。

一方、「特になし」は26.2%となっている。

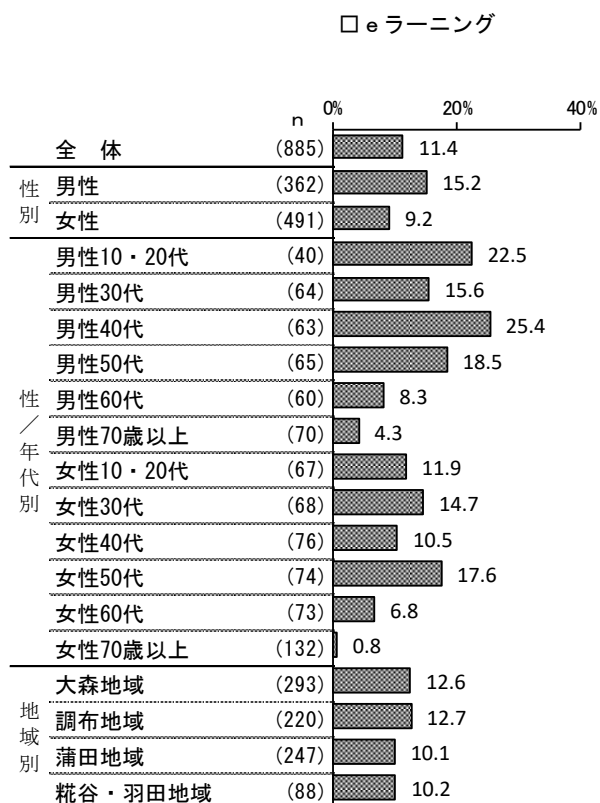
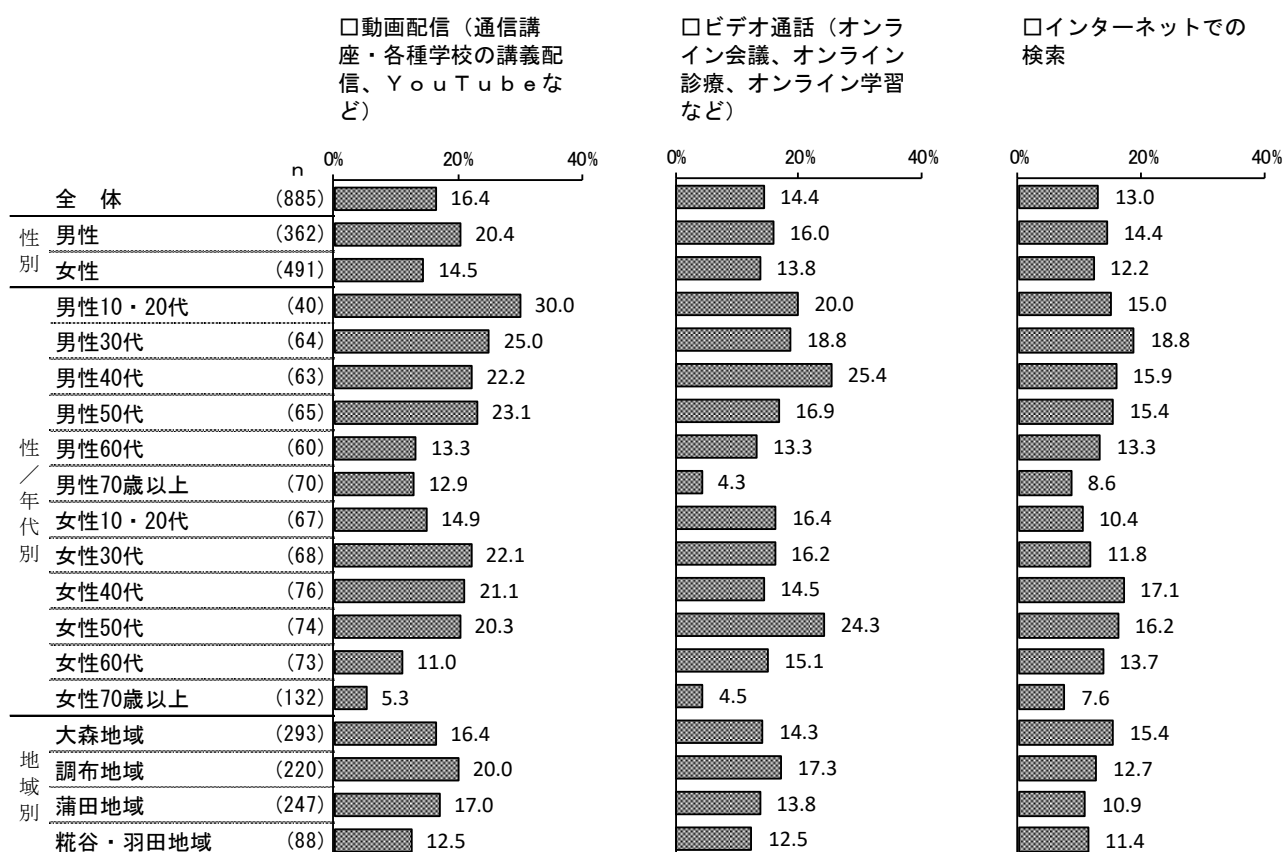
【新たに利用したい】情報端末のサービスについて聞いたところ、「動画配信（通信講座・各種学校の講義配信、YouTubeなど）」が16.4%で最も高く、次いで、「ビデオ通話（オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など）」(14.4%)、「インターネットでの検索」(13.0%)となっている。

一方、「特になし」は30.5%となっている。(図表4-9)

図表4-10 生涯学習での情報端末のサービスの利用（性・性／年齢別・地域別 上位4項目）



図表 4-11 新たに利用したいもの（性別・性/年代別・地域別 上位4項目）



【最近1年間に生涯学習で利用した】情報端末のサービスについて、上位4項目を性別で見ると、男女ともに「インターネットでの検索」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「インターネットでの検索」が最も高くなっている。男女ともに、10・20代～50代より60代、70歳以上は低い傾向がある。

地域別で見ると、すべての地域で「インターネットの検索」が最も高くなっている。(図表4-10)

【新しく利用したい】生涯学習での情報端末のサービスについて、性別で見ると、男女ともに「動画配信（通信講座・各種学校の講義配信、YouTubeなど）」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、女性10・20代、50代、60代では「ビデオ通話（オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など）」が、男性40代では「ビデオ通話（オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など）」と「eラーニング」が同率で最も高くなっている。その他の性／年代は「動画配信（通信講座・各種学校の講義配信、YouTubeなど）」が最も高くなっている。

地域別で見ると、糀谷・羽田地域で「動画配信（通信講座・各種学校の講義配信、YouTubeなど）」、「ビデオ通話（オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など）」が同率で、その他の地域では「ビデオ通話（オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など）」が最も高くなっている。(図表4-11)

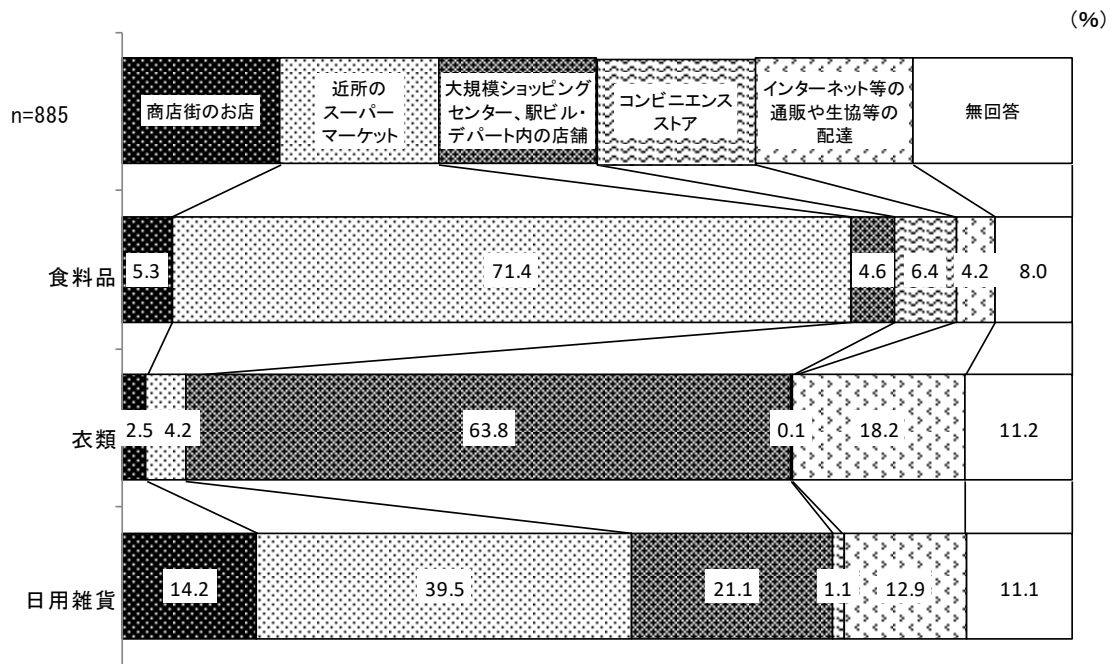
5 商店街について

(1) 普段の買い物で利用するお店

◎食料品は「近所のスーパーマーケット」が約7割、衣類は「大規模ショッピングセンター等」が6割前半、日用雑貨は「近所のスーパーマーケット」が約4割で、それぞれ最もよく利用されている

問8 あなたが普段の買い物で利用するのはどのようなお店ですか。項目ごとに最も多く利用する業態と、その理由をそれぞれ選択肢から1つ選んで番号を記入してください。

図表5-1 普段の買い物で利用するお店（業態）

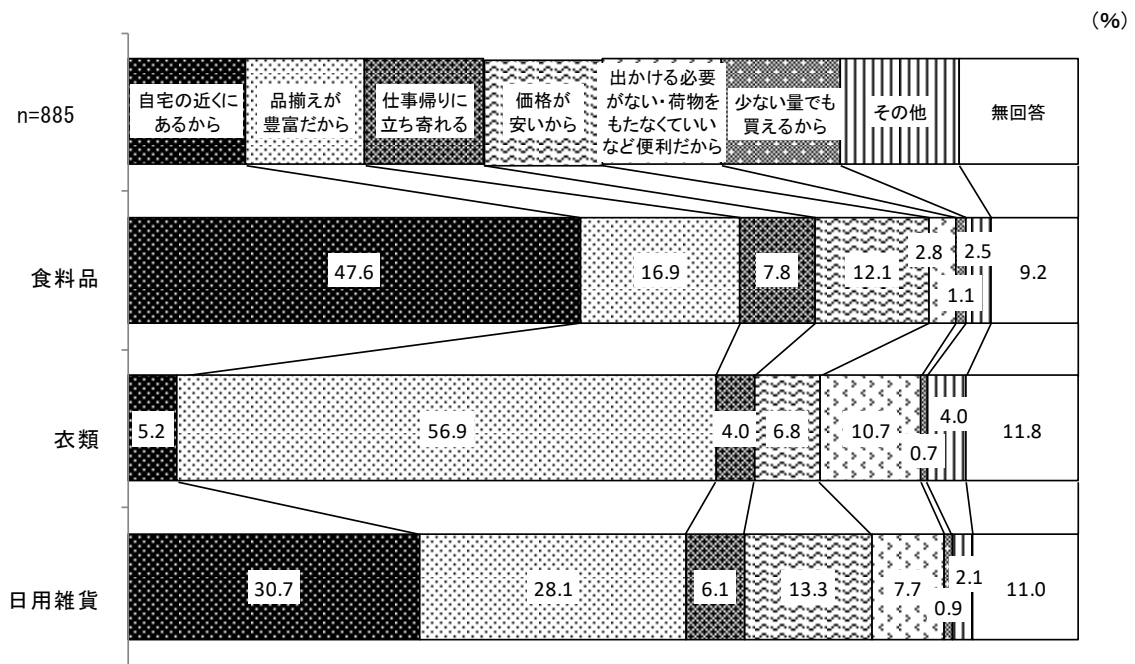


【食料品】を購入する際、普段の買い物で利用するお店の業態について聞いたところ、「近所のスーパーマーケット」が71.4%で最も高く、次いで、「コンビニエンスストア」(6.4%)、「商店街のお店」(5.3%)となっている。

【衣類】を購入する際、普段の買い物で利用するお店の業態について聞いたところ、「大規模ショッピングセンター、駅ビル・デパート内の店舗」が63.8%で最も高く、次いで、「インターネット等の通販や生協等の配達」(18.2%)、「近所のスーパーマーケット」(4.2%)となっている。

【日用雑貨】を購入する際、普段の買い物で利用するお店の業態について聞いたところ、「近所のスーパーマーケット」が39.5%で最も高く、次いで、「大規模ショッピングセンター、駅ビル・デパート内の店舗」(21.1%)、「商店街のお店」(14.2%)となっている。(図表5-1)

図表5-2 普段の買い物で利用するお店（理由）



【食料品】を購入する際、普段の買い物で利用するお店を選ぶ理由について聞いたところ、「自宅の近くにあるから」が47.6%で最も高く、次いで、「品揃えが豊富だから」(16.9%)、「価格が安いから」(12.1%)となっている。

【衣類】を購入する際、普段の買い物で利用するお店を選ぶ理由について聞いたところ、「品揃えが豊富だから」が56.9%で最も高く、次いで、「出かける必要がない・荷物をもたなくていいなど便利だから」(10.7%)、「価格が安いから」(6.8%)となっている。

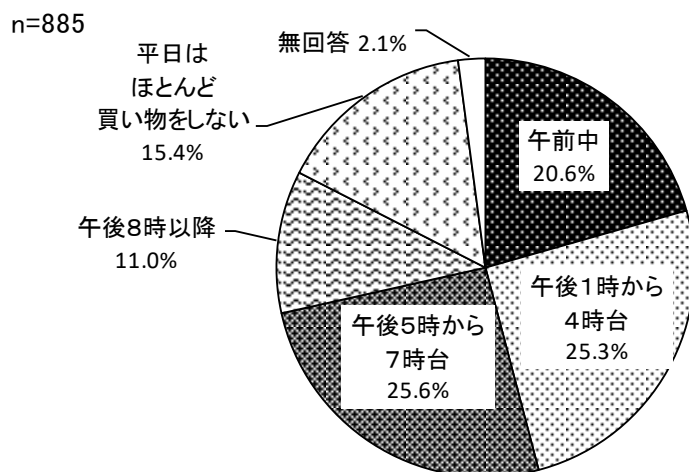
【日用雑貨】を購入する際、普段の買い物で利用するお店を選ぶ理由について聞いたところ、「自宅の近くにあるから」が30.7%で最も高く、次いで、「品揃えが豊富だから」(28.1%)、「価格が安いから」(13.3%)となっている。(図表5-2)

(2) 買い物をする時間帯について

◎「午後5時から7時台」、「午後1時から4時台」が2割半ばとなっている

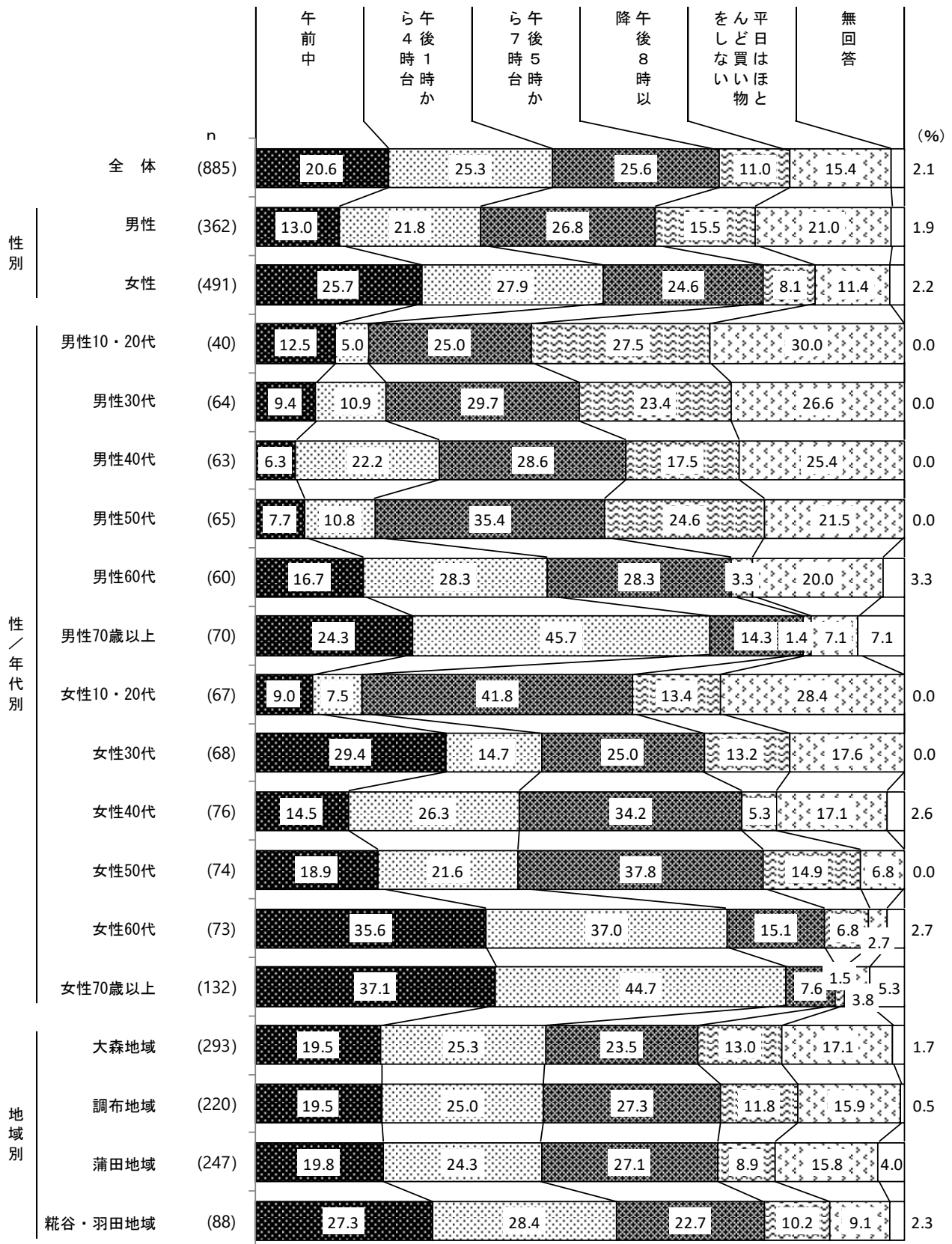
問9 平日に食料品の買い物をする時間帯はどれですか。最も多いものを選んでください。(○は1つ)

図表5-3 買い物をする時間帯について



食料品や日用品の買い物をする時間帯を聞いたところ、「午後5時から7時台」が25.6%で最も高く、次いで、「午後1時から4時台」(25.3%)、「午前中」(20.6%)となっている。(図表5-3)

図表5-4 買い物をする時間帯について（性別・性/年代別・地域別）



買い物をする時間帯について、性別で見ると、男性は「午後5時から7時台」(26.8%)が、女性は「午後1時から4時台」(27.9%)が最も高くなっている。「午前中」は女性(25.7%)が男性(13.0%)を12.7ポイント、「平日はほとんど買い物をしない」は男性(21.0%)が女性(11.4%)を9.6ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、男性では30代~50代は「午後5時から7時台」が、70歳以上は「午後1時から4時台」が最も高くなっている。60代は「午後5時から7時台」、「午後1時から4時台」が同率で、10・20代は「平日はほとんど買い物をしない」が最も高くなっている。女性では10・20代、40代、50代は「午後5時から7時台」が、60代、70歳以上では「午後1時から4時台」が、30代では「午前中」が最も高くなっている。

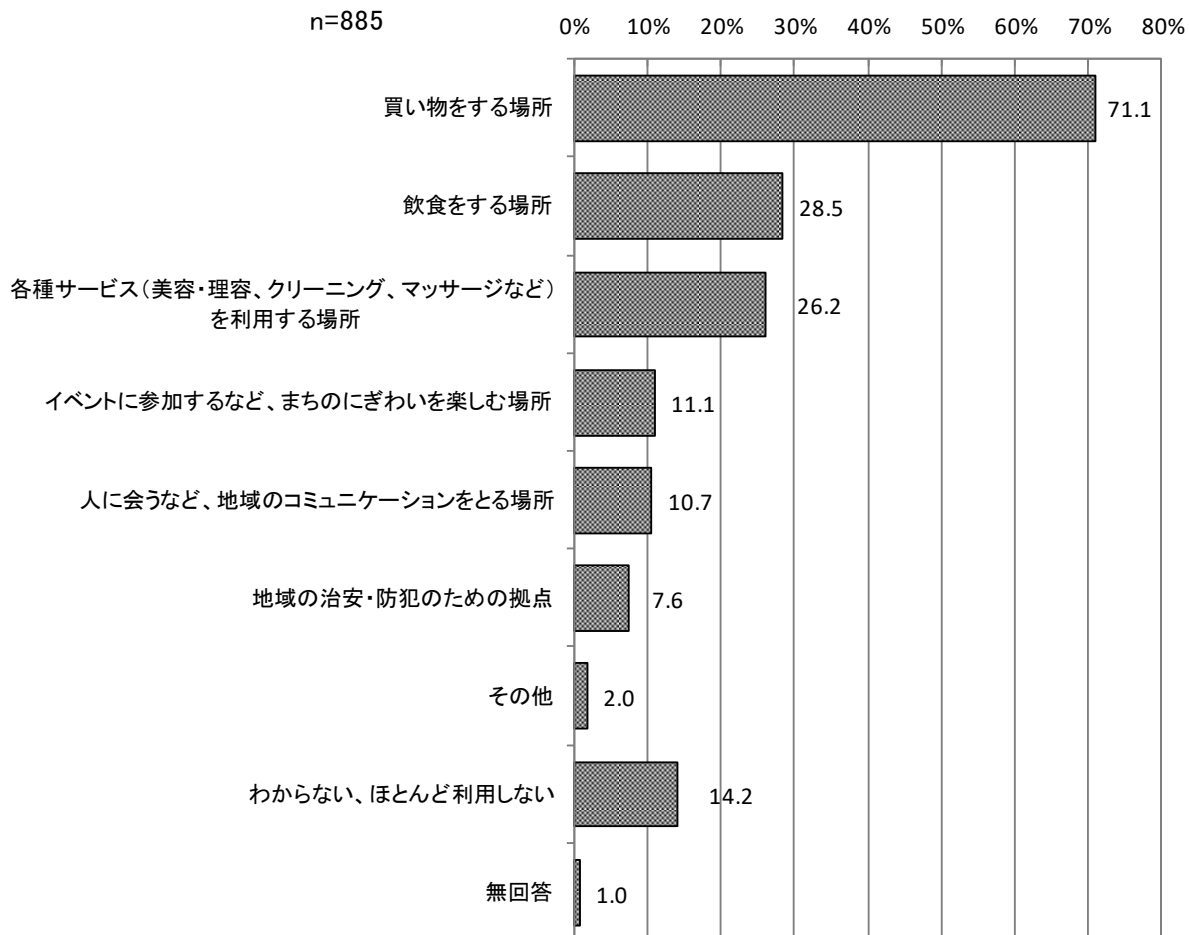
地域別で見ると、大森地域、糀谷・羽田地域では「午後1時から4時台」が、調布地域、蒲田地域では「午後5時から7時台」が最も高くなっている。(図表5-4)

(3) 商店街への印象

◎「買い物をする場所」が約7割で最も高くなっている

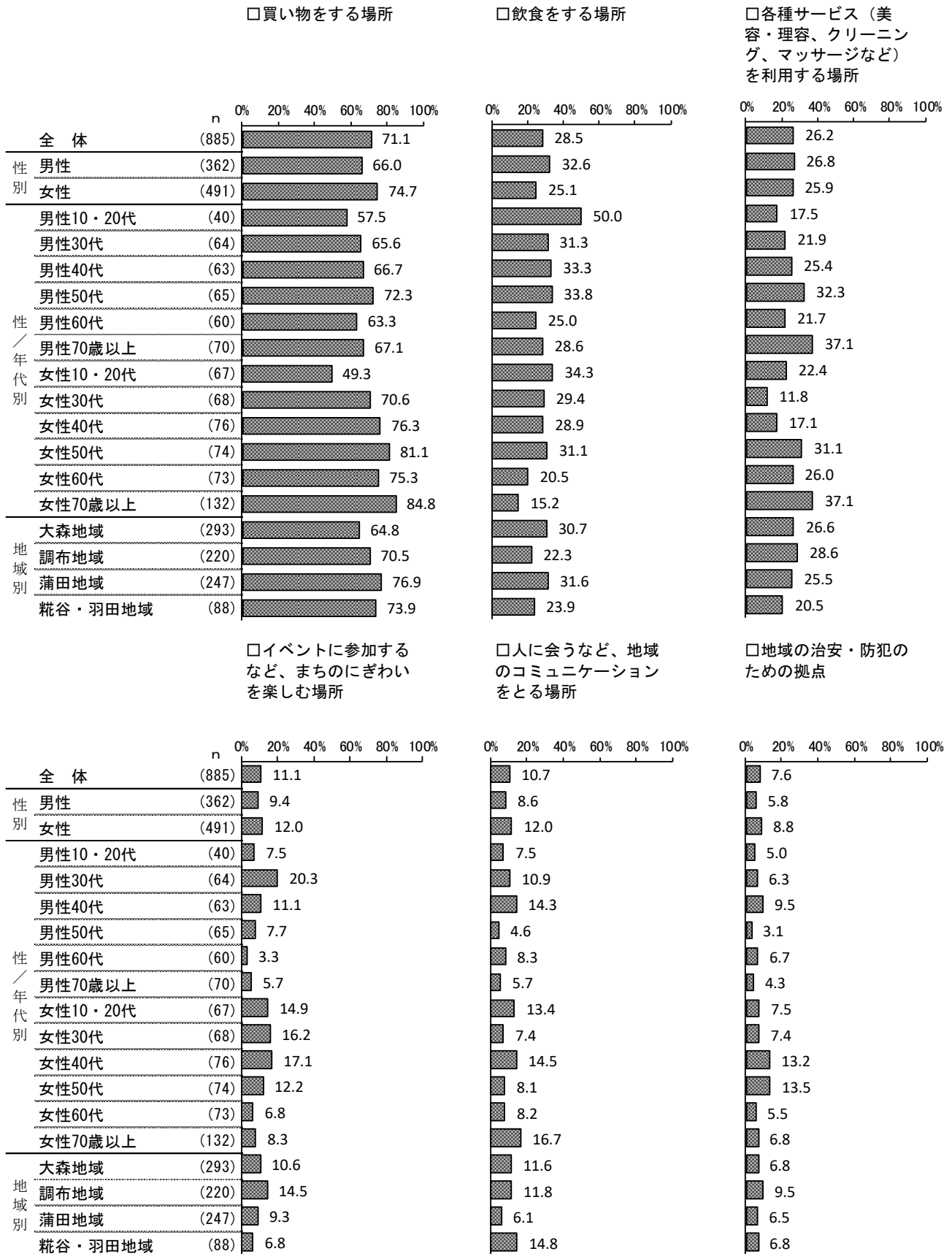
問10 あなたにとって、商店街はどのような場所ですか。お考えの近いものを選んでください。
(○はいくつでも)

図表5-5 商店街への印象



商店街への印象について聞いたところ、「買い物をする場所」が71.1%で最も高く、次いで、「飲食をする場所」(28.5%)、「各種サービス(美容・理容、クリーニング、マッサージなど)を利用する場所」(26.2%)などとなっている。(図表5-5)

図表5-6 商店街への印象（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



商店街への印象について、上位6項目を性別で見ると、男女ともに「買い物をする場所」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「買い物をする場所」が最も高くなっている。男性10・20代で「飲食をする場所」が5割となっている。

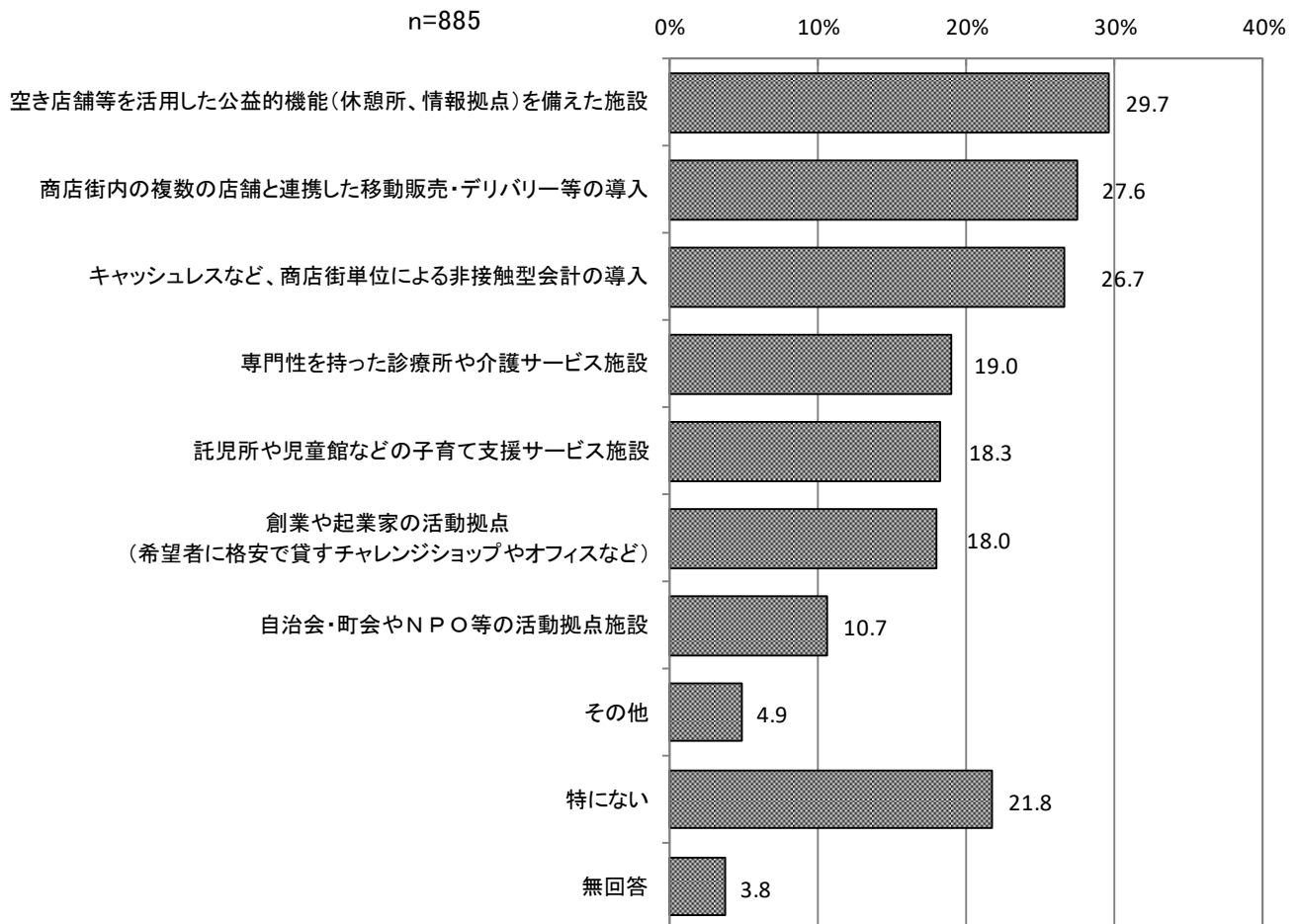
地域別で見ると、すべての地域で「買い物をする場所」が最も高くなっている。(図表5-6)

(4) 商店街に必要だと思うサービス・施設等

◎「空き店舗等を活用した公益的機能（休憩所、情報拠点）を備えた施設」が約3割で最も高い

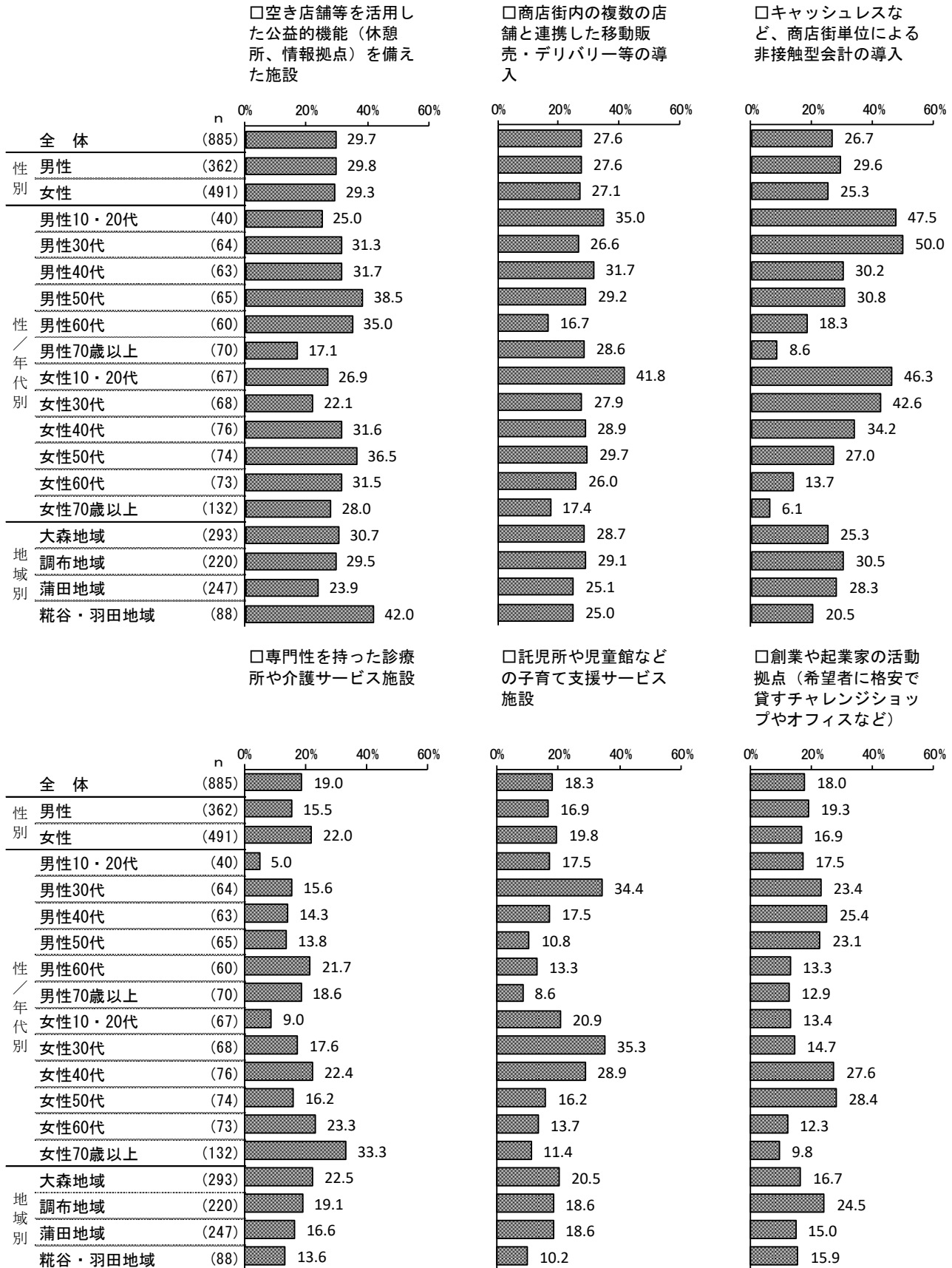
問 11 あなたが商店街に必要だと思うサービスや施設等は何ですか。（〇はいくつでも）

図表5-7 商店街に必要だと思うサービス・施設等



商店街に必要だと思うサービス・施設等について聞いたところ、「空き店舗等を活用した公益的機能（休憩所、情報拠点）を備えた施設」が29.7%で最も高く、次いで、「商店街内の複数の店舗と連携した移動販売・デリバリー等の導入」(27.6%)、「キャッシュレスなど、商店街単位による非接触型会計の導入」(26.7%)となっている。(図表5-7)

図表5-8 商店街に必要なだと思うサービス・施設等（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



商店街に必要なと思うサービスや施設等について、上位6項目を性別で見ると、男女ともに「空き店舗等を活用した公益的機能（休憩所、情報拠点）を備えた施設」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、男性10・20代、30代、女性10・20代、30代、40代で「キャッシュレスなど、商店街単位による非接触型会計の導入」が最も高くなっている。男性30代、女性30代、40代で「託児所や児童館などの子育て支援サービス施設」がその他の性／年代より高くなっている。

地域別で見ると、大森地域、糀谷・羽田地域では「空き店舗等を活用した公益的機能（休憩所、情報拠点）を備えた施設」が、調布地域、蒲田地域では「キャッシュレスなど、商店街単位による非接触型会計の導入」が最も高くなっている。（図表5－8）

6 蒲田駅周辺地区グランドデザインについて

(1) 蒲田のまちづくりのために整備が必要なもの

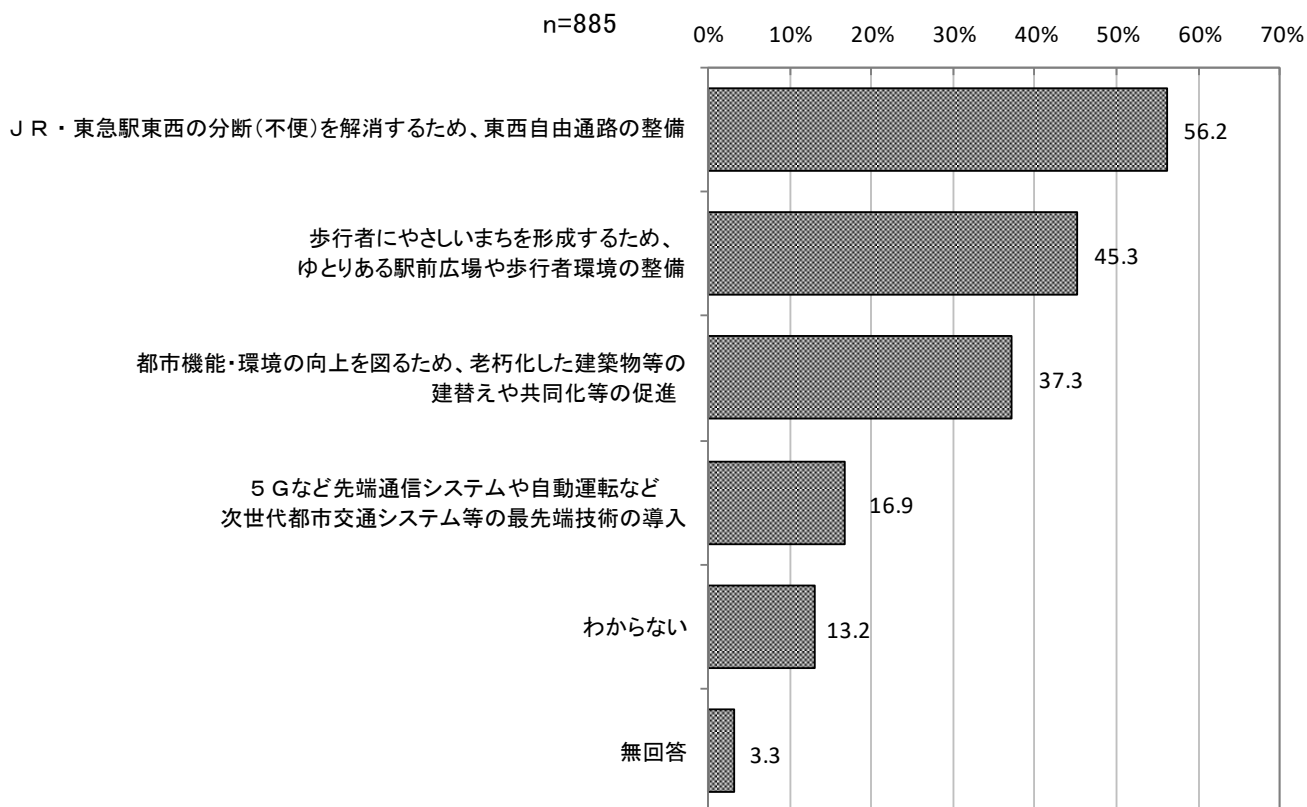
◎「JR・東急駅東西の分断（不便）を解消するため、東西自由通路の整備」が5割半ばで最も高い

問12 蒲田のまちづくりを進めるに当たり、整備が必要と考えるものを選んでください。

(○はいくつでも)

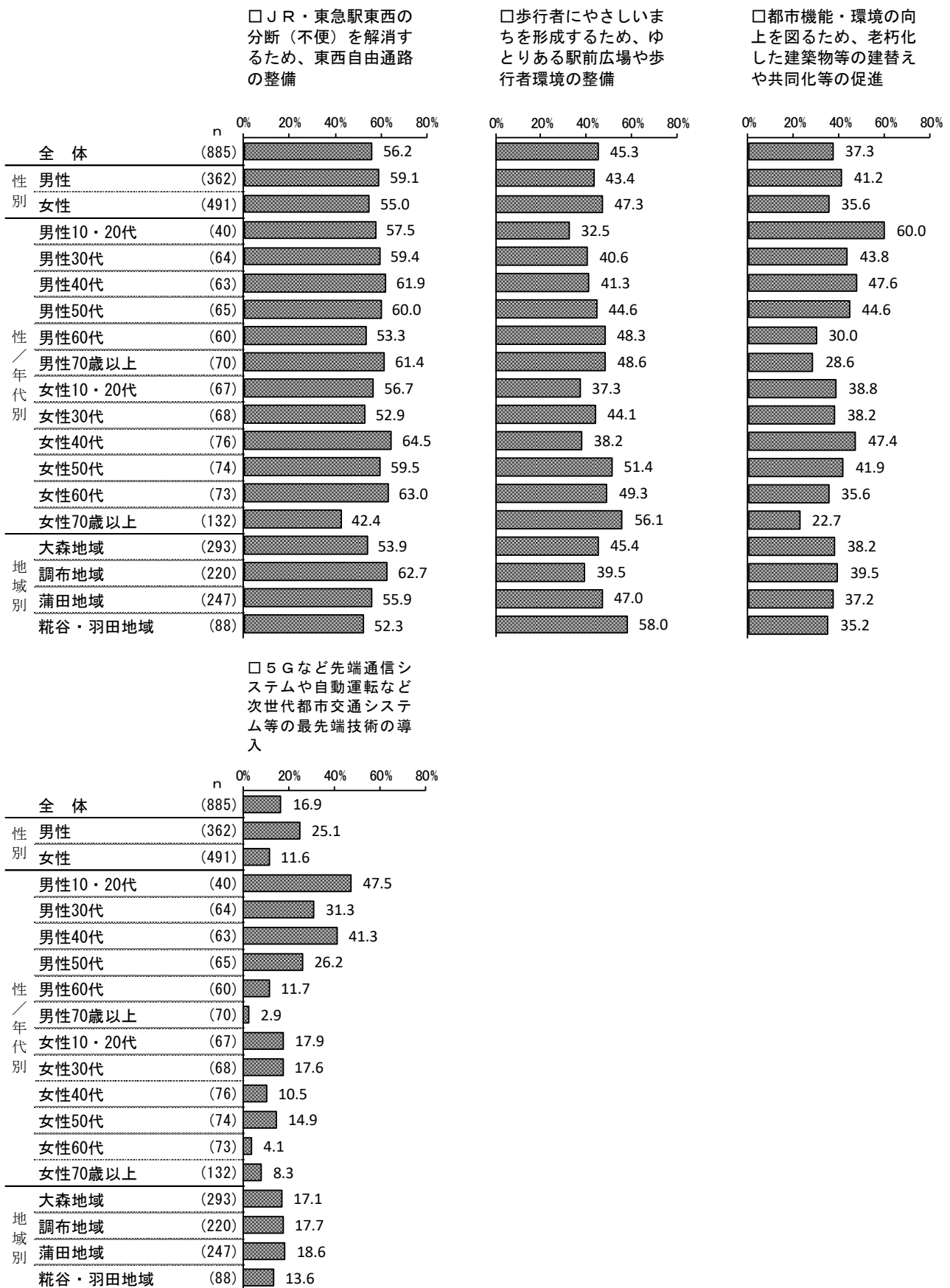
※蒲田のまちは、戦災復興の土地区画整理事業により形成されました。事業完成から約50年が経過し、現在建物などが更新時期を迎えていることから、新空港線と合わせてまちづくりを行う必要があります。

図表6-1 蒲田のまちづくりのために整備が必要なもの



蒲田のまちづくりのために整備が必要なものについて聞いたところ、「JR・東急駅東西の分断（不便）を解消するため、東西自由通路の整備」が56.2%で最も高く、次いで、「歩行者にやさしいまちを形成するため、ゆとりある駅前広場や歩行者環境の整備」（45.3%）、「都市機能・環境の向上を図るため、老朽化した建築物等の建替えや共同化等の促進」（37.3%）となっている。（図表6-1）

図表6-2 蒲田のまちづくりのために整備が必要なもの（性別・性／年代別・地域別 上位4項目）



蒲田のまちづくりのために整備が必要なものについて、性別で見ると男女ともに「JR・東急駅東西の分断（不便）を解消するため、東西自由通路の整備」が最も高くなっている。「5Gなど先端通信システムや自動運転などの次世代都市交通システム等の最先端技術の導入」は男性（25.1%）が女性（11.6%）を13.5ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、男性10・20代で「都市機能・環境の向上を図るため、老朽化した建築物等の建替えや共同化等の促進」が、その他の性／年代では「JR・東急駅東西の分断（不便）を解消するため、東西自由通路の整備」が最も高くなっている。

地域別で見ると、糀谷・羽田地域は「歩行者にやさしいまちを形成するため、ゆとりある駅前広場や歩行者環境の整備」が、その他の地域では「JR・東急駅東西の分断（不便）を解消するため、東西自由通路の整備」が最も高くなっている。（図表6-2）

7 蒲蒲線について

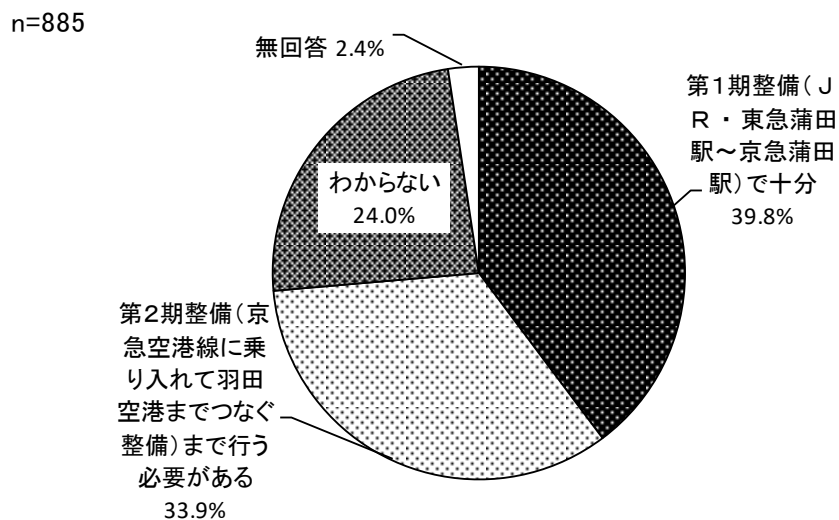
(1) 蒲蒲線について

◎「第1期整備（JR・東急蒲田駅～京急蒲田駅）で十分」が約4割となっている

問13 JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅を結ぶ新空港線（蒲蒲線）の構想について、あなたの考えに最も近いものを選択してください。（○は1つ）

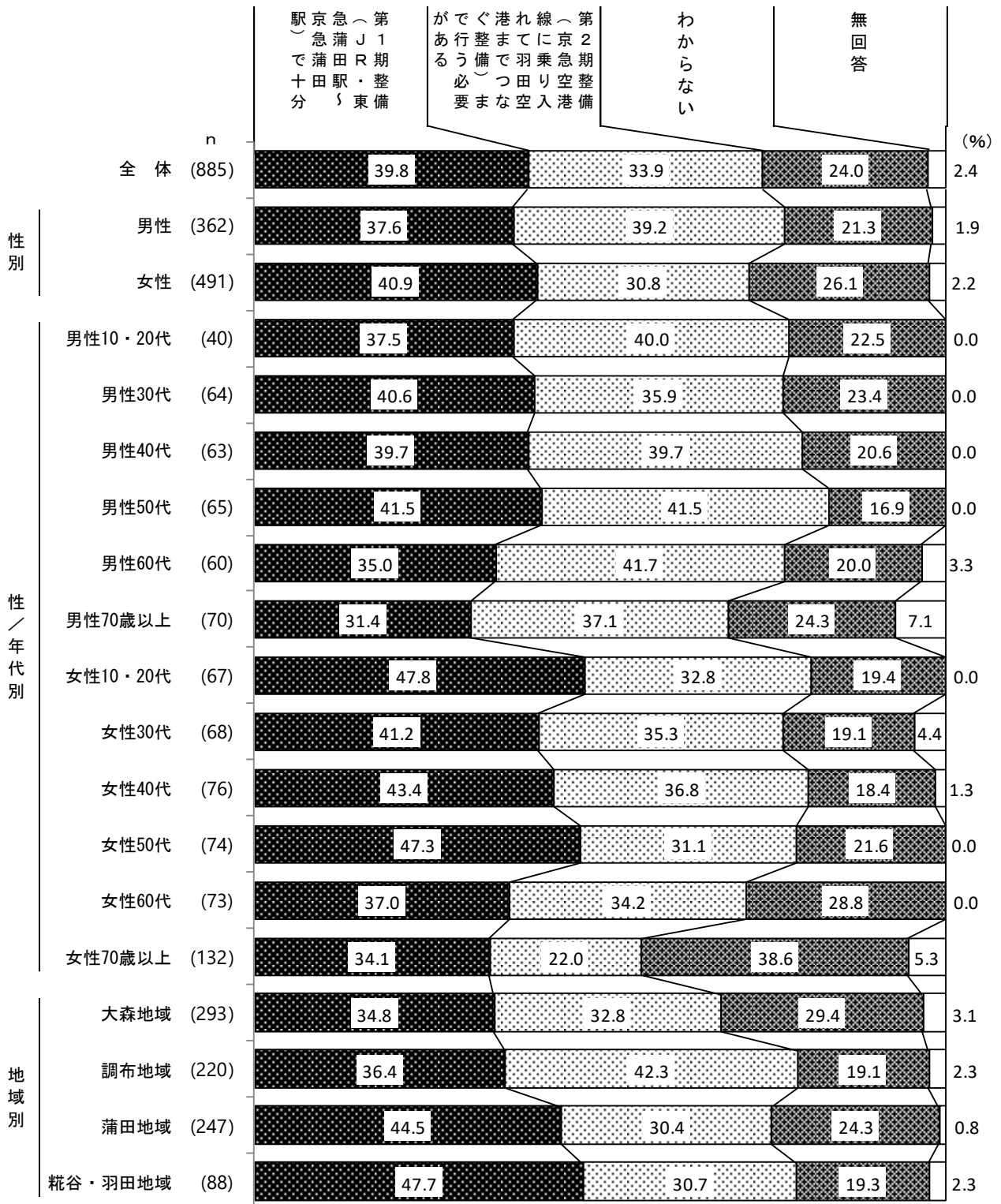
※新空港線（蒲蒲線）の構想は、JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅をつなぐ第1期整備と、その後の京急蒲田駅から京急空港線に乗り入れる第2期整備との2段階に分かれています。新空港線（蒲蒲線）は、現在、第1期整備の実現に取り組んでいます。第1期整備のみの場合、羽田空港へ行く時は京急蒲田駅で京急空港線に乗り換える必要があります。第2期整備まで行う場合、東急線と京急線のレール幅の違いなどの課題があり、実現までに更なる整備費用と時間が掛かりますが、京急蒲田駅で乗り換える必要がありません。

図表7-1 蒲蒲線について



蒲蒲線の構想について聞いたところ、「第1期整備（JR・東急蒲田駅～京急蒲田駅）で十分」が39.8%で最も高く、「第2期整備（京急空港線に乗り入れて羽田空港までつなぐ整備）まで行う必要がある」が33.9%、「わからない」が24.0%となっている。（図表7-1）

図表7-2 蒲蒲線について（性別・性/年代別・地域別）



蒲蒲線について性別でみると、女性は「第1期整備（J R・東急蒲田駅～京急蒲田駅）で十分」（40.9%）が、男性は「第2期整備（京急空港線に乗り入れて羽田空港までつなぐ整備）まで行う必要がある」（39.2%）が最も高くなっている。

性／年代でみると、男性30代で「第1期整備（J R・東急蒲田駅～京急蒲田駅）で十分」が、10・20代、60代、70歳以上では「第2期整備（京急空港線に乗り入れて羽田空港までつなぐ整備）まで行う必要がある」が最も高く、40代、50代では同率となっている。女性では70歳以上を除くすべての年代で「第1期整備（J R・東急蒲田駅～京急蒲田駅）で十分」が最も高くなっている。

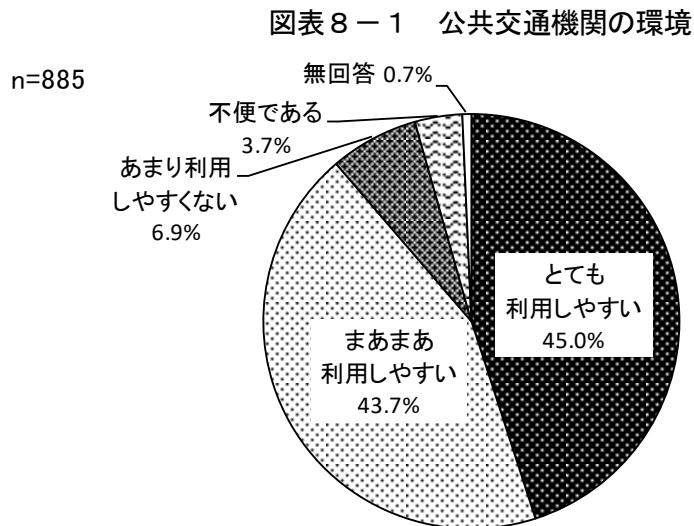
地域別でみると、調布地域では「第2期整備（京急空港線に乗り入れて羽田空港までつなぐ整備）まで行う必要がある」が、その他の地域では「第1期整備（J R・東急蒲田駅～京急蒲田駅）で十分」が最も高くなっている。（図表7-2）

8 公共交通機関について

(1) 公共交通機関の環境

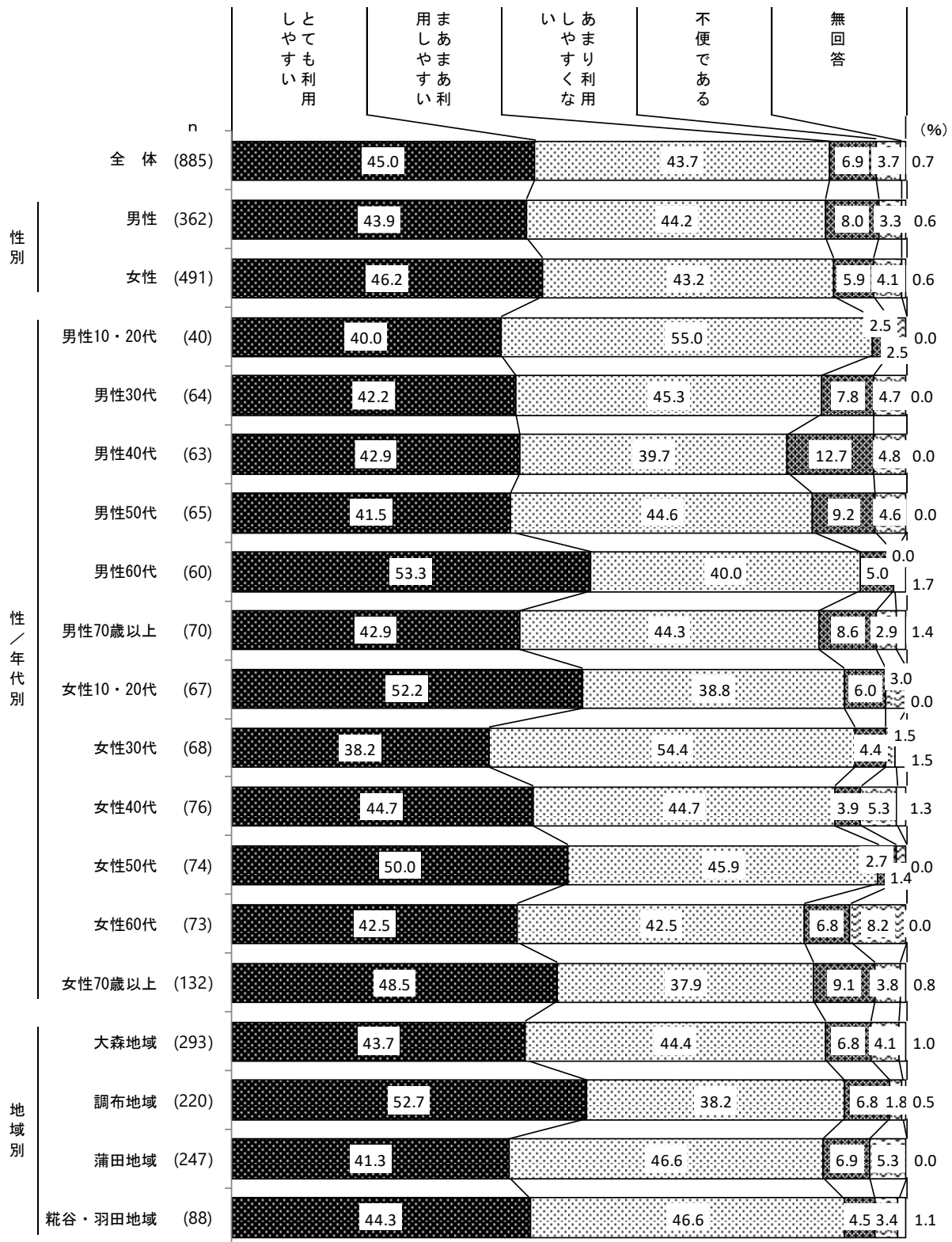
◎「とても利用しやすい」が4割半ばとなっている

問 14 自宅の近くにバス停や駅があるなど、公共交通機関が利用しやすい環境ですか。(○は1つ)



自宅近くの公共交通機関の環境について聞いたところ、「とても利用しやすい」が45.0%で最も高く、次いで、「まあまあ利用しやすい」(43.7%)、「あまり利用しやすすくない」(6.9%)、「不便である」(3.7%)となっている。(図表8-1)

図表 8-2 公共交通機関の環境（性別・性／年代別・地域別）



公共交通機関の環境について、性別でみると大きな差異は見られない。

性／年代別でみると、「とても利用しやすい」は男性60代、女性10・20代、50代で5割台となっている。

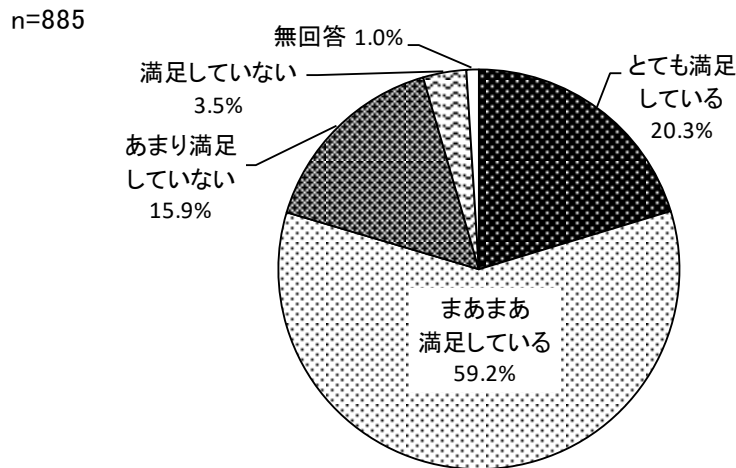
地域別でみると、「とても利用しやすい」は調布地域で52.7%となっている。(図表8-2)

(2) 大田区の公共交通網の満足度

◎「まあまあ満足している」が約6割で最も高くなっている

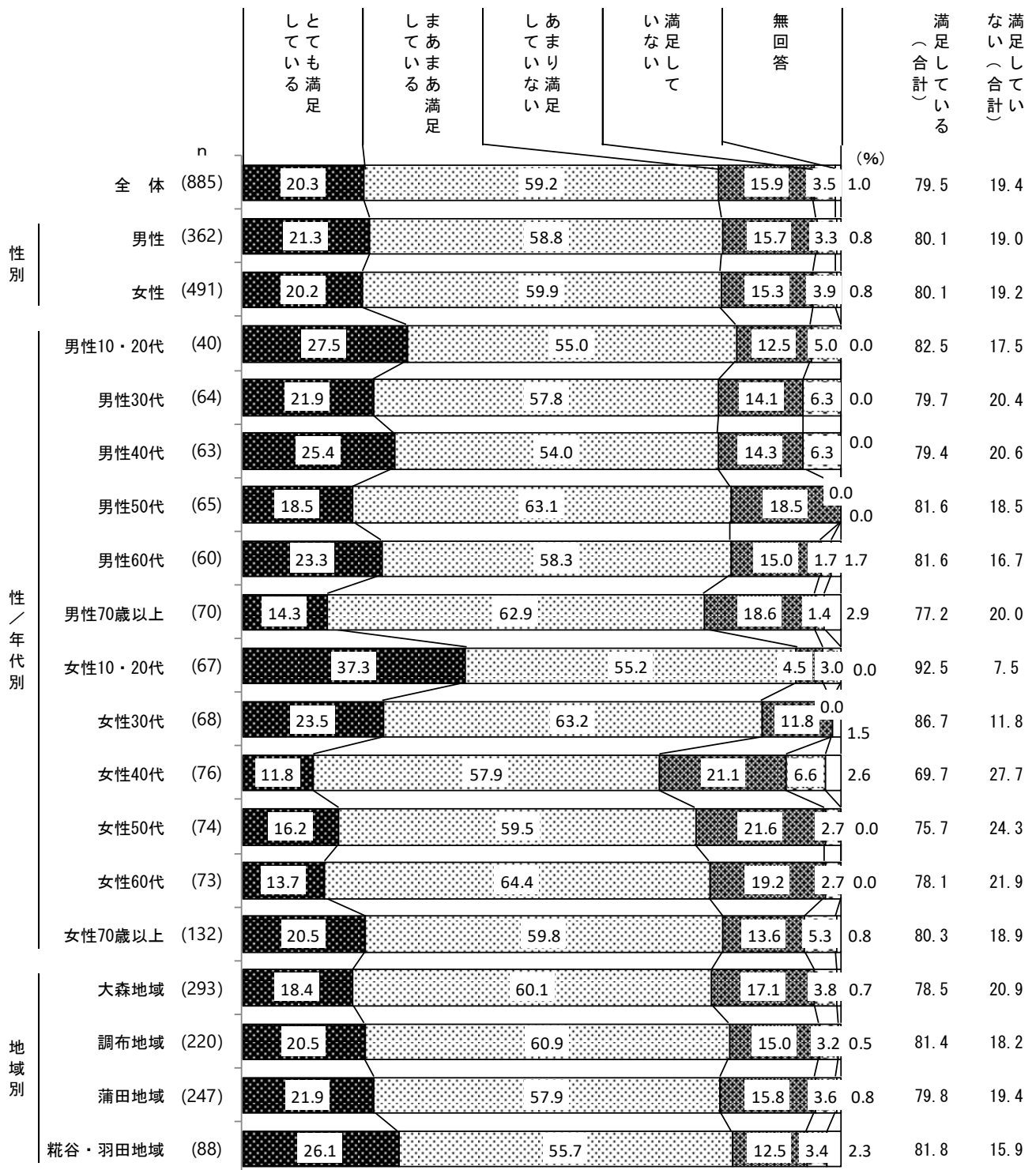
問 15 大田区内の公共交通網に満足していますか。(○は1つ)

図表 8 - 3 大田区の公共交通網の満足度



大田区の公共交通網の満足度について聞いたところ、「まあまあ満足している」が59.2%で最も高く、「とても満足している」(20.3%)と合わせた《満足している(合計)》は79.5%となっている。「あまり満足していない」(15.9%)、「満足していない」(3.5%)を合わせた《満足していない(合計)》は19.4%となっている。(図表8-3)

図表 8-4 大田区の公共交通網の満足度（性別・性/年代別・地域別）



大田区の公共交通網への満足度について、性別で見ると大きな差異は見られなかった。性/年代別で見ると、「とても満足している」は女性10・20代が37.3%でその他の性/年代より高くなっている。

地域別で見ると、「満足している（合計）」はすべての地域で7割後半以上となっている。

(図表 8-4)

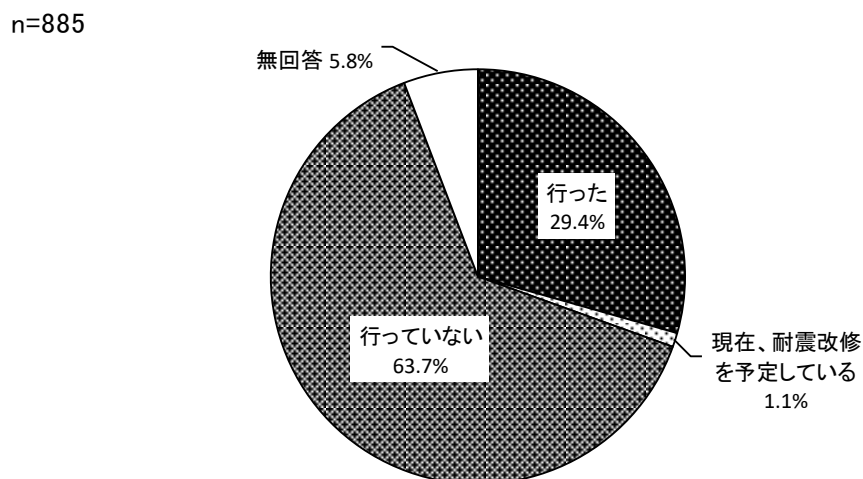
9 耐震改修について

(1) 住まいや所有建築物の耐震改修状況

◎「行った」は約3割となっている

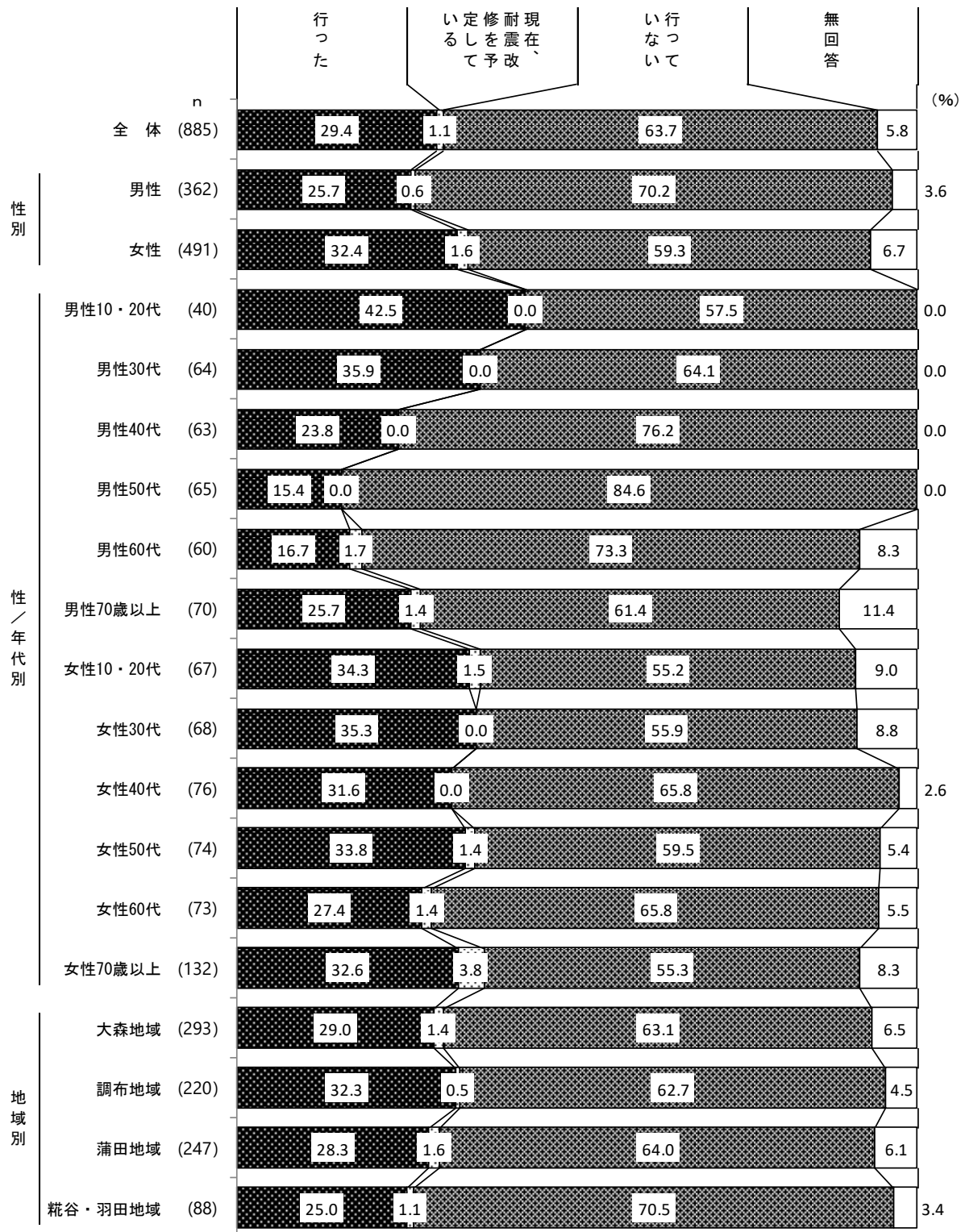
問16 あなたは、現在のお住まいや所有している建物の耐震改修を行いましたか。(○は1つ)

図表9-1 住まいや所有建築物の耐震改修状況



住まいや所有建築物の耐震改修状況について聞いたところ、「行った」が29.4%、「行っていない」が63.7%となっている。(図表9-1)

図表 9-2 住まいや所有建築物の耐震改修状況（性別・性／年代別・地域別）



住まいや所有建築物の耐震改修状況を性別でみると、「行った」は女性（32.4%）が男性（25.7%）を6.7ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「行った」は男性50代、60代で1割半ばと、その他の性／年代より低くなっている。

地域別でみると、「行った」は調布地域で3割前半、その他の地域では2割台となっている。（図表9-2）

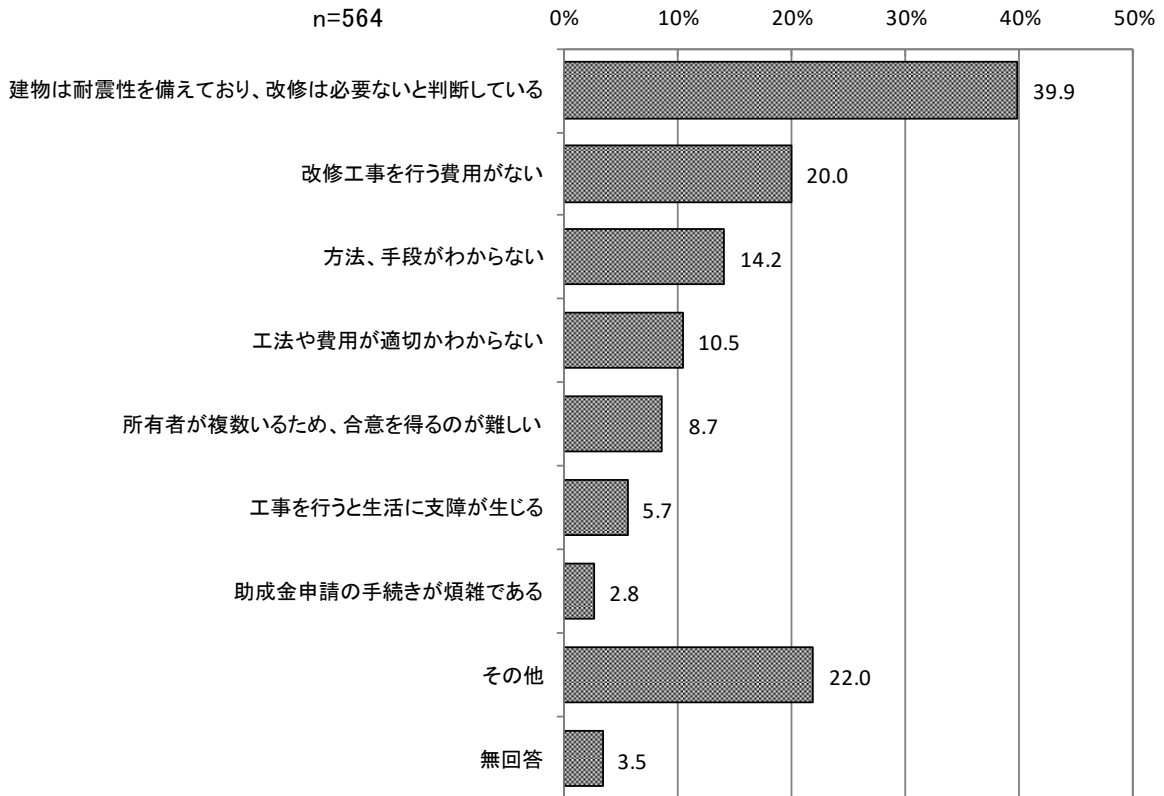
(2) 耐震改修を行わない理由

◎「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」が約4割で最も高くなっている

【問16で「3. 行っていない」と回答された方】

問16-1 耐震改修を行っていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

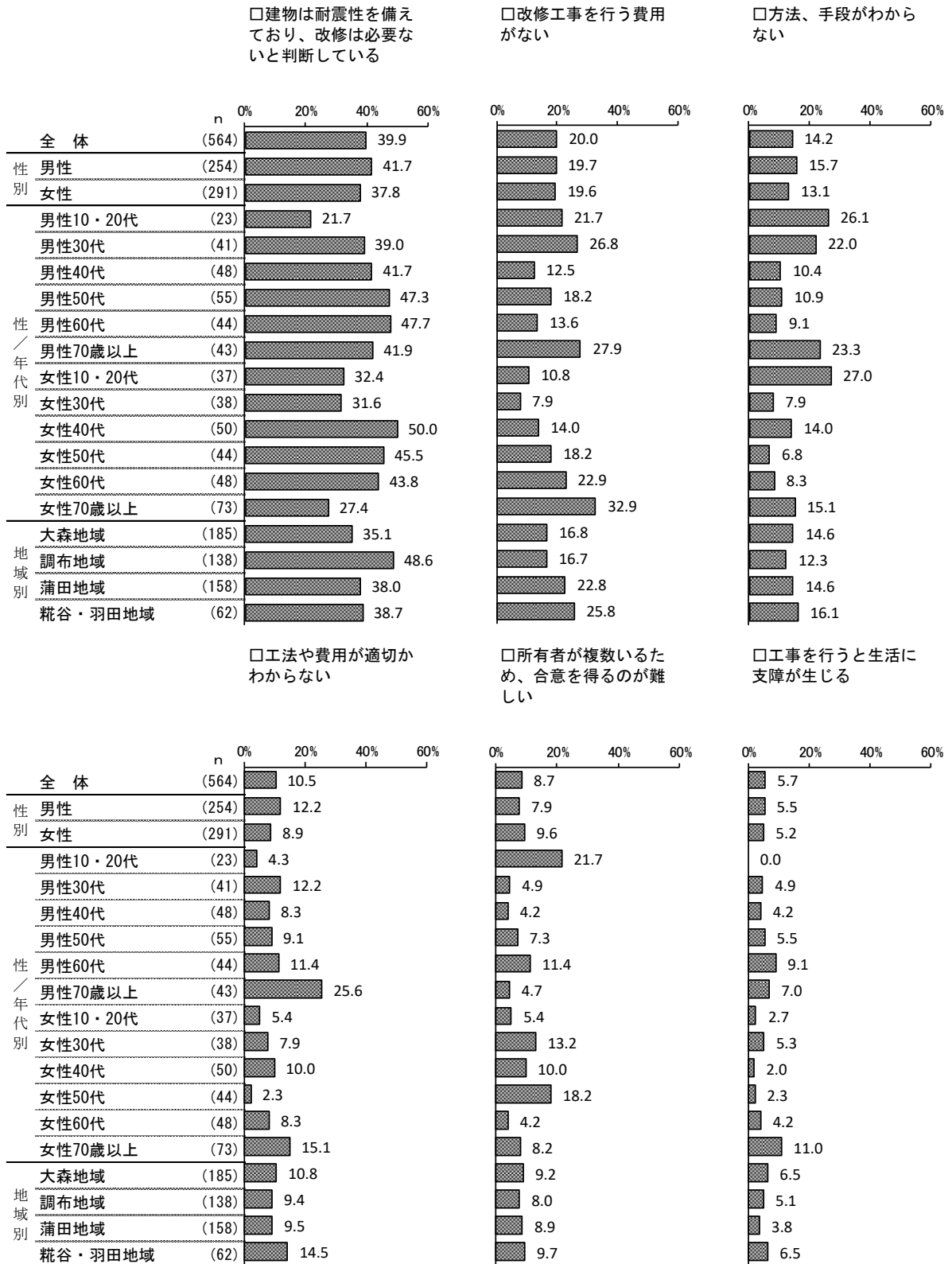
図表9-3 耐震改修を行わない理由



建物の耐震改修を行っていない人にその理由を聞いたところ、「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」が39.9%で最も高く、次いで、「改修工事を行う費用がない」(20.0%)、「方法、手段がわからない」(14.2%)となっている。

また、「その他」(22.0%)の回答の8割以上が『賃貸住宅』または『集合住宅』のためとなっている。(図表9-3)

図表9-4 耐震改修を行わない理由（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



耐震改修を行わない理由について、上位6項目を性別で見ると、男女ともに「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、女性70歳以上で「改修工事を行う費用がない」が、男性10・20代で「方法、手段がわからない」が最も高くなっている。その他の性／年代では「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」が最も高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」が最も高く、調布地域では4割後半となっている。(図表9-4)

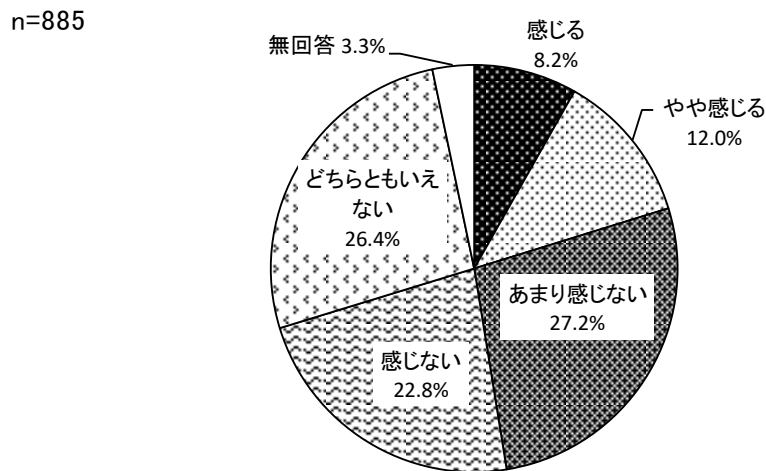
10 空港臨海部について

(1) 空港臨海部へのアクセスについて

◎「あまり感じない」が2割後半で最も高くなっている

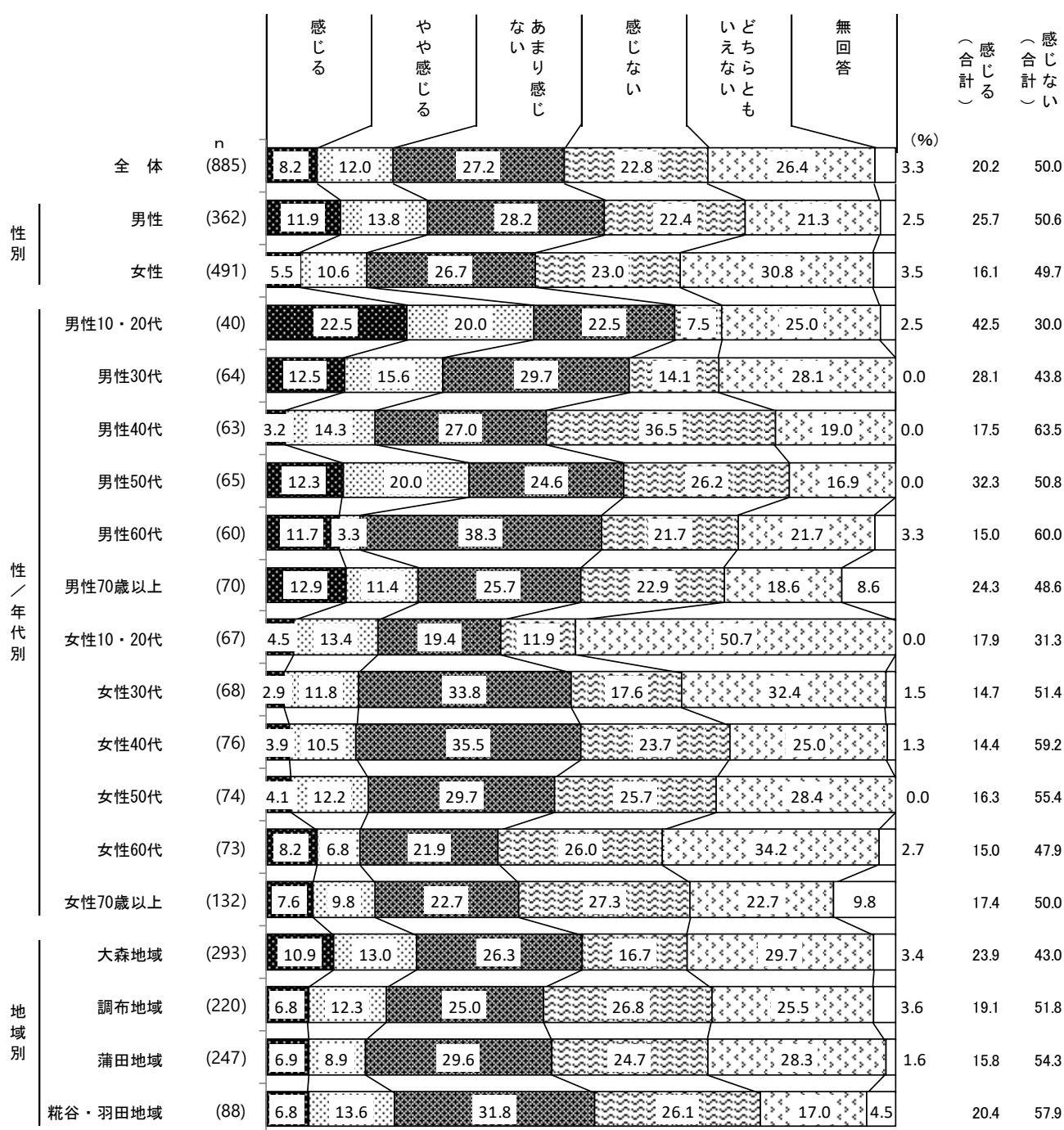
問17 バス、車、自転車等で空港臨海部の埋立島部（平和島、昭和島、京浜島、東海、城南島、令和島）へ訪れやすくなったと感じますか。（○は1つ）

図表 10-1 空港臨海部へのアクセスについて



空港臨海部への訪れやすさについて聞いたところ、「あまり感じない」が27.2%で最も高く、「感じない」(22.8%)と合わせた《感じない(合計)》は50.0%となっている。「感じる」(8.2%)、「やや感じる」(12.0%)を合わせた《感じる(合計)》は20.2%となっている。(図表10-1)

図表 10-2 空港臨海部へのアクセスについて（性別・性／年代別・地域別）



空港臨海部への訪れやすさを性別で見ると、「感じる (合計)」は男性 (25.7%) が女性 (16.1%) を 9.6 ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「感じる (合計)」は男性 10・20 代で 4 割前半、男性 50 代で 3 割前半となっている。女性ではすべての年代で 1 割台となっている。

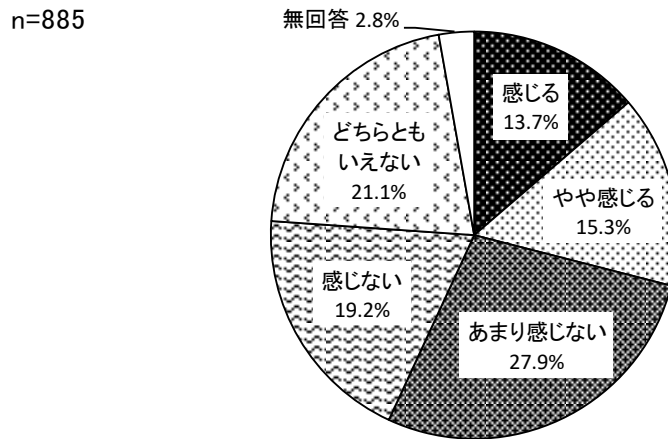
地域別で見ると、「感じる (合計)」は大森地域、糀谷・羽田地域で 2 割台、調布地域、蒲田地域で 1 割台となっている。(図表 10-2)

(2) 空港臨海部の魅力度

◎「あまり感じない」が2割後半で最も高くなっている

問 18 遊ぶ場所、働く場所として空港臨海部に魅力を感じますか。(○は1つ)

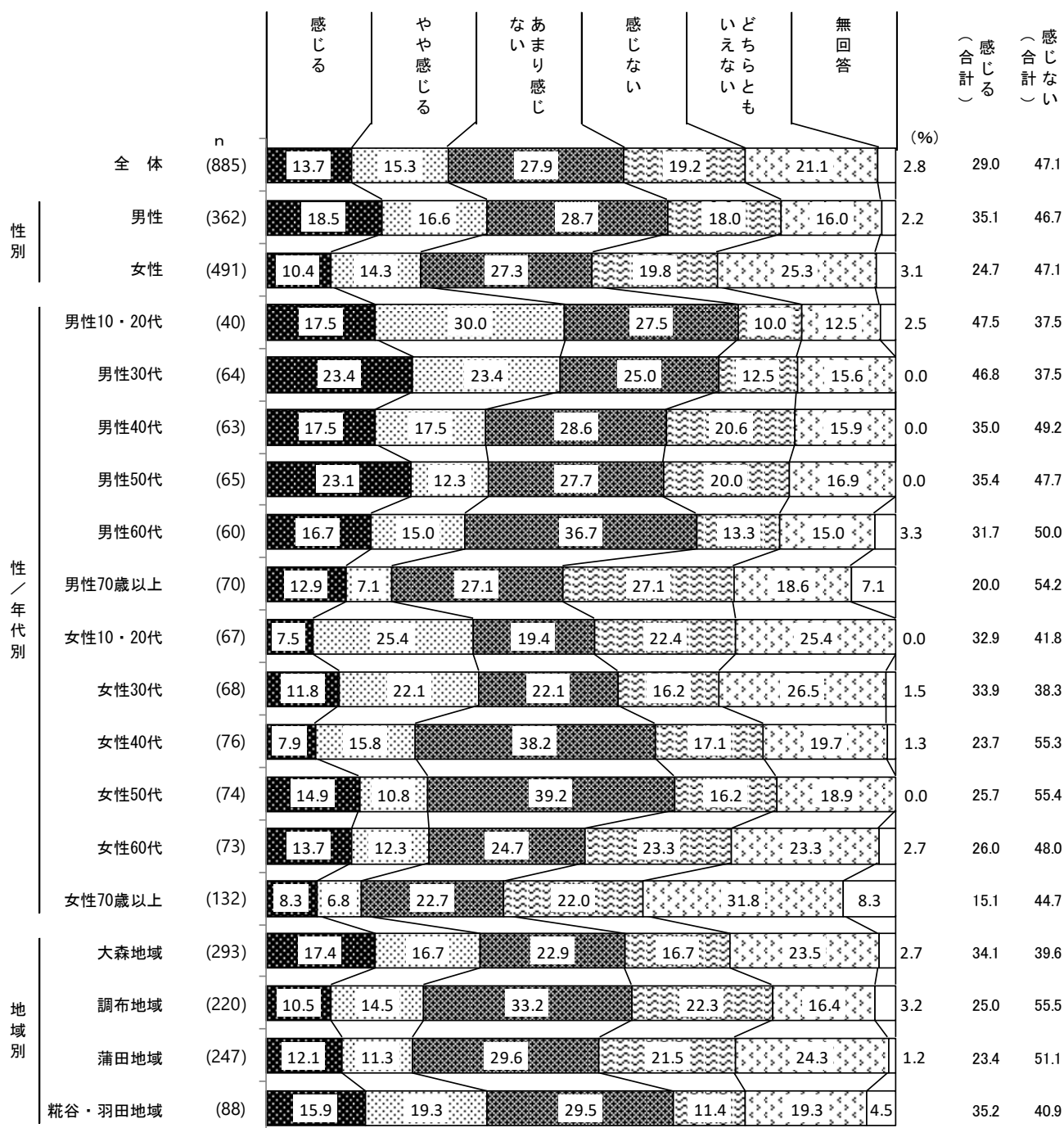
図表 10-3 空港臨海部の魅力度



空港臨海部の魅力度について聞いたところ、「あまり感じない」が27.9%で最も高く、「感じない」(19.2%)と合わせた《感じない(合計)》は47.1%となっている。

「感じる」(13.7%)、「やや感じる」(15.3%)を合わせた《感じる(合計)》は29.0%となっている。(図表10-3)

図表 10-4 空港臨海部の魅力度（性別・性／年代別・地域別）



空港臨海部の魅力度を性別で見ると、「感じる」は男性（18.5%）が女性（10.4%）を8.1ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「感じる（合計）」は男性10・20代、30代で4割台となっている。「感じない（合計）」は男性60代、70歳以上、女性40代、50代で5割台となっている。

地域別で見ると、調布地域、蒲田地域で「感じない（合計）」が5割台となっている。（図表10-4）

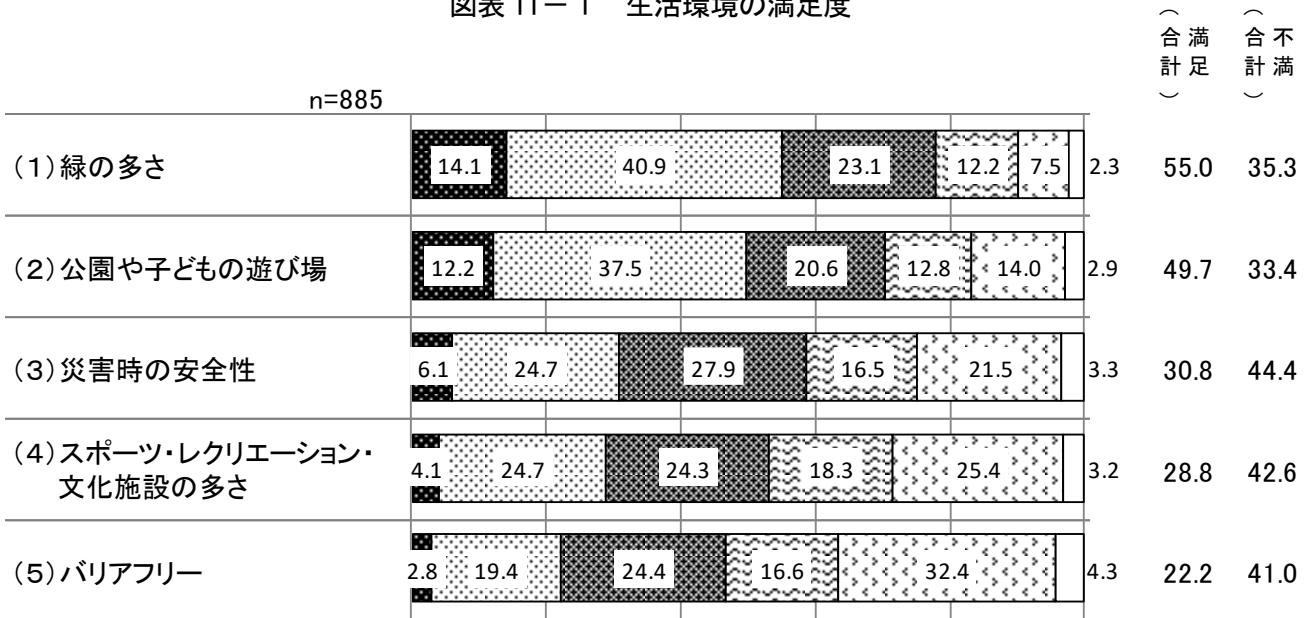
11 グリーンプラン関連について

(1) 生活環境の満足度

◎緑の多さで《満足（合計）》が5割半ばとなっている

問 19 住んでいるまちの生活環境について、どの程度満足していますか。
 ((1)～(5)、それぞれ○は1つ)

図表 11-1 生活環境の満足度

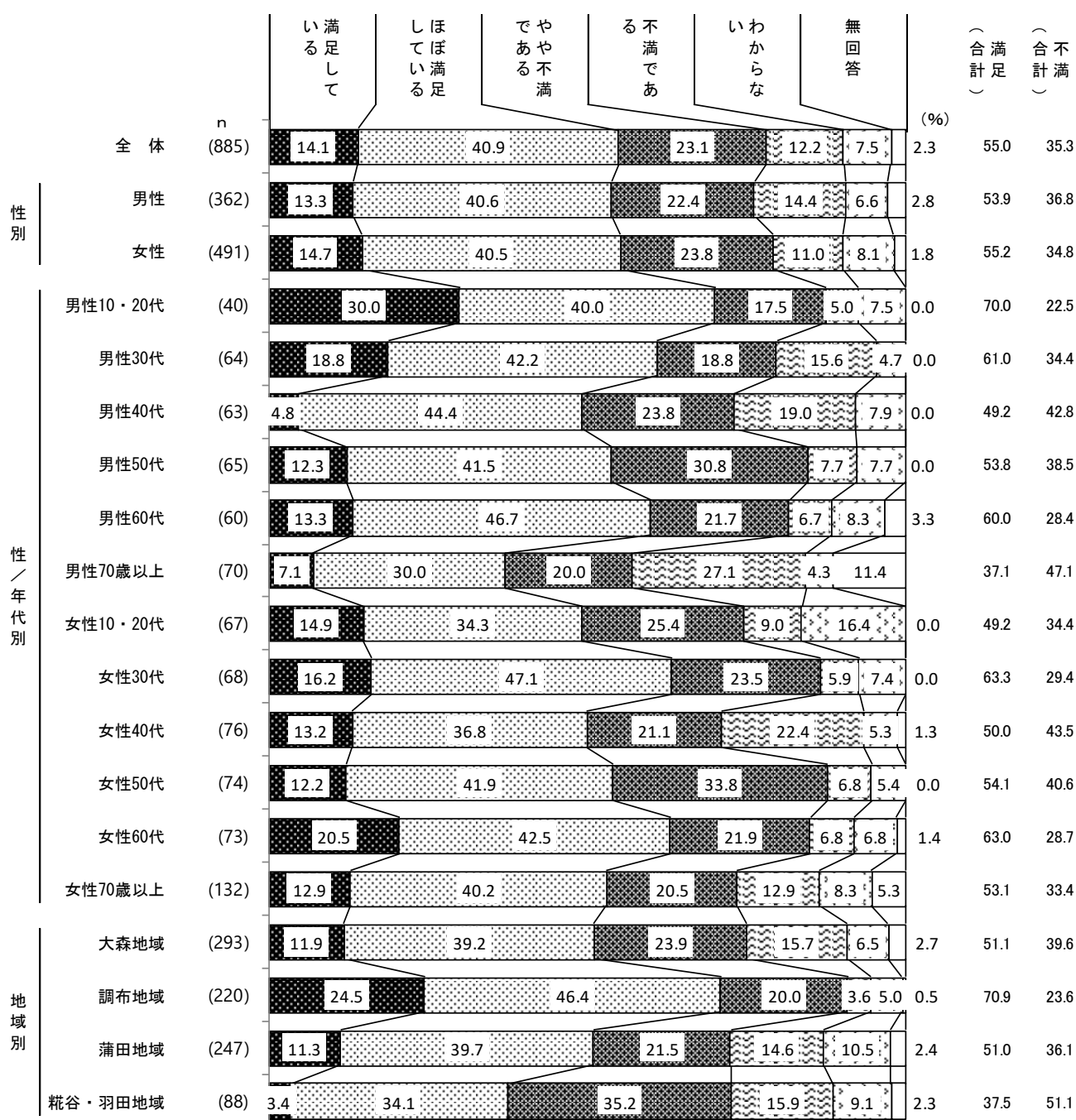


■満足している □ほぼ満足している ■やや不満である □不満である □わからない □無回答

生活環境の満足度について聞いたところ、【緑の多さ】の「満足している」(14.1%)、「ほぼ満足している」(40.9%)を合わせた《満足（合計）》が55.0%で5項目中最も高く、5割以上となっている。次いで、【公園や子どもの遊び場】の《満足（合計）》が49.7%で、「やや不満である」、「不満である」を合わせた《不満（合計）》を上回っている。

《不満（合計）》は【災害時の安全性】が44.4%で5項目中最も高く、次いで【スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ】が42.6%、【バリアフリー】が41.0%で、《満足（合計）》を上回っている。(図表 11-1)

図表 11-2 生活環境の満足度（1）緑の多さ（性別・性／年代別・地域別）



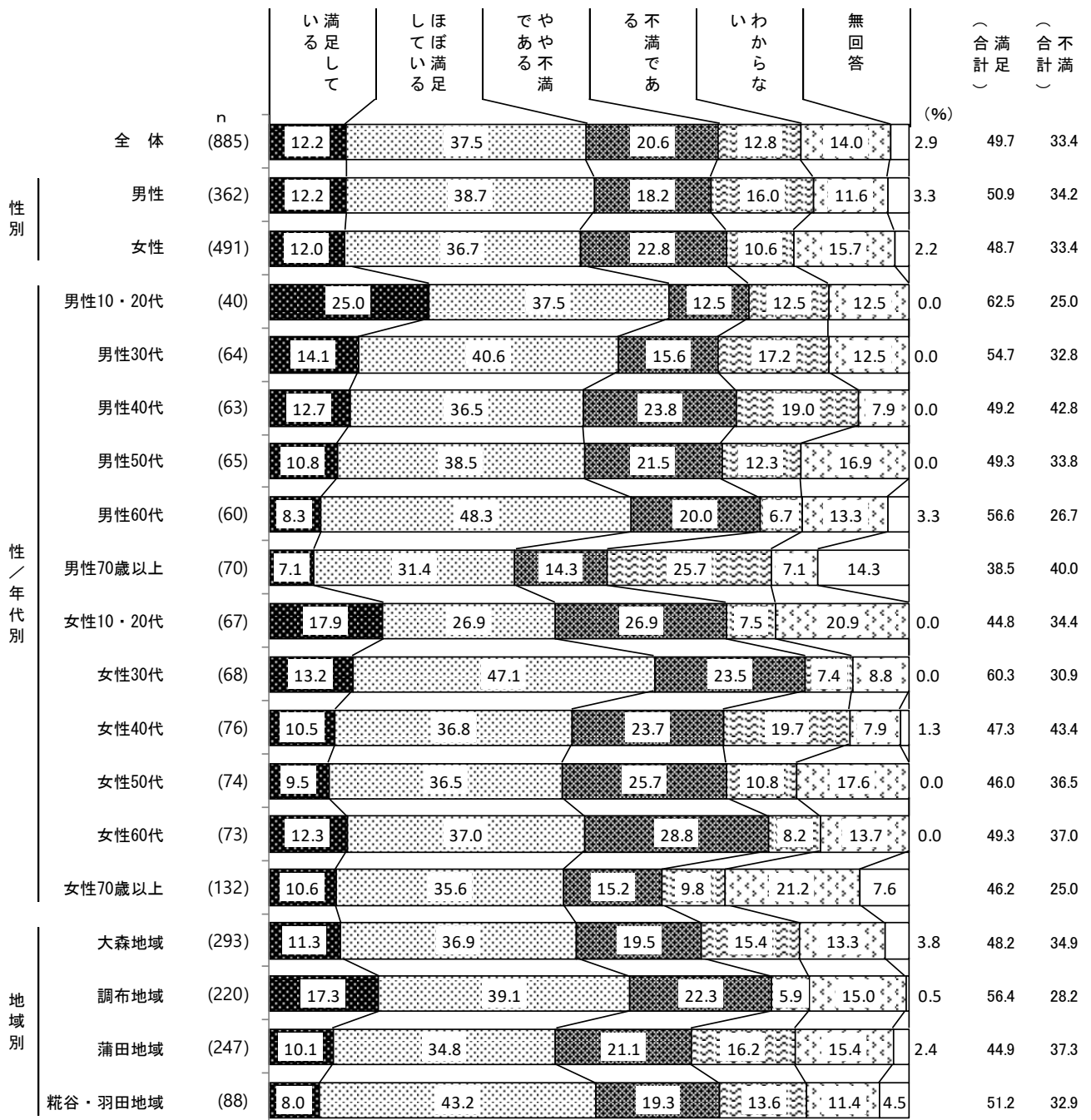
【緑の多さ】の満足度について、性別でみると大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、男性70歳以上で《不満（合計）》（47.1%）が《満足（合計）》（37.1%）を上回っている。その他の性／年代では《満足（合計）》が《不満（合計）》を上回っており、《満足（合計）》は男性10・20代で7割、男性30代、60代、女性30代、60代で6割台となっている。

地域別でみると、《満足（合計）》は調布地域が約7割、大森地域、蒲田地域が約5割で《不満（合計）》を上回っている。糞谷・羽田地域は《不満（合計）》が約5割で《満足（合計）》を上回っている。

（図表 11-2）

図表 11-3 生活環境の満足度（2）公園や子どもの遊び場（性別・性／年代別・地域別）

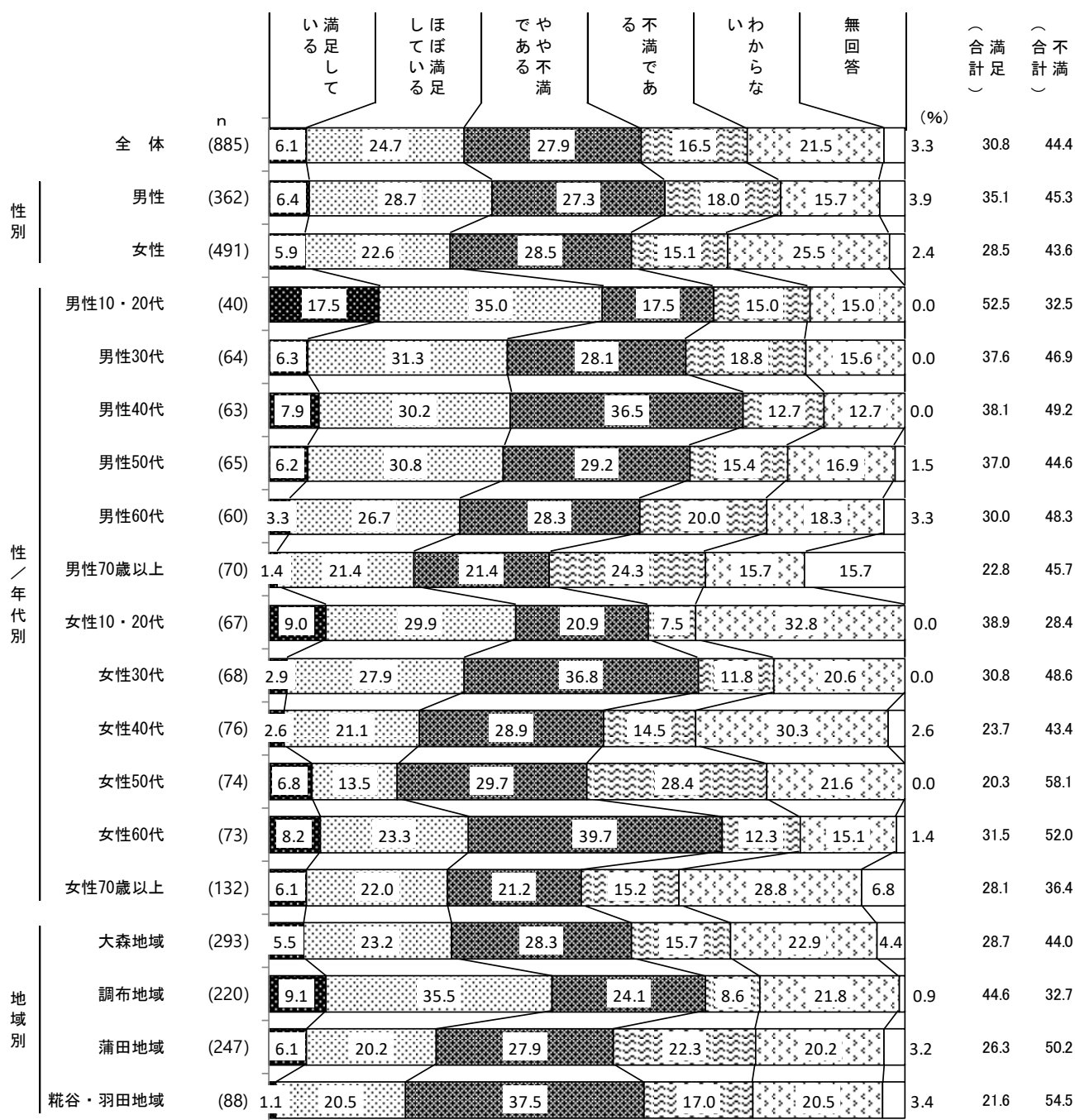


【公園や子どもの遊び場】の満足度について、性別で見ると大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、男性70歳以上で《不満（合計）》（40.0%）が《満足（合計）》（38.5%）を上回っている。その他の性／年代では《満足（合計）》が《不満（合計）》を上回っており、《満足（合計）》は男性10・20代、女性30代で6割台となっている。

地域別で見ると、《満足（合計）》は調布地域、糞谷・羽田地域が5割台、大森地域、蒲田地域が4割台で《不満（合計）》を上回っている。（図表11-3）

図表 11-4 生活環境の満足度 (3) 災害時の安全性 (性別・性/年代別・地域別)

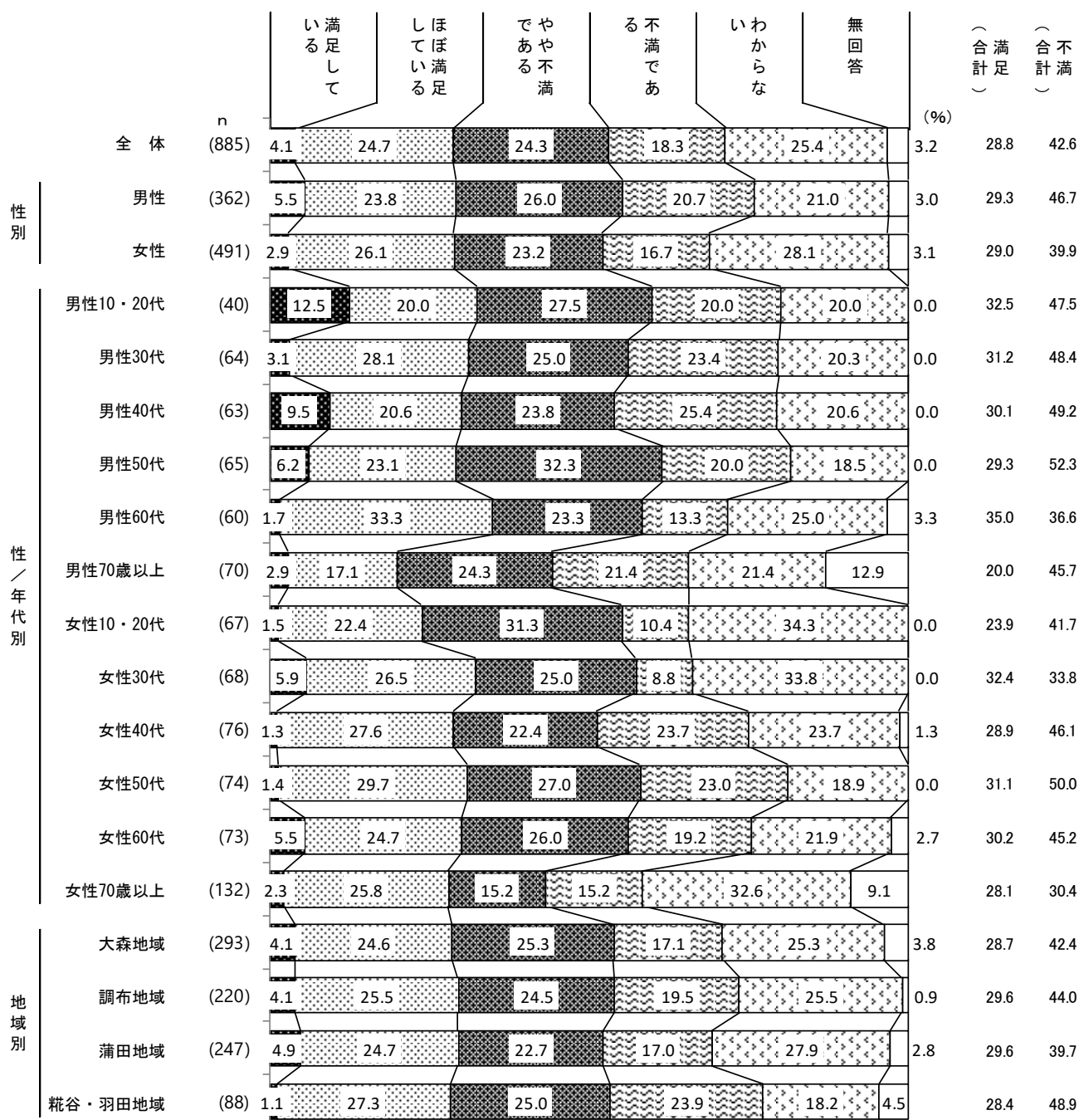


【災害時の安全性】の満足度を性別で見ると、「ほぼ満足している」は男性 (28.7%) が女性 (22.6%) を 6.1 ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「満足 (合計)」は男性 10・20 代で 5 割前半、女性 10・20 代が 3 割後半で「不満 (合計)」を上回っている。その他の性/年代では「不満 (合計)」が「満足 (合計)」を上回っており、「不満 (合計)」は女性 50 代、60 代で 5 割台となっている。

地域別で見ると、「満足 (合計)」は調布地域が 4 割半ばで「不満 (合計)」を上回っている。大森地域、蒲田地域、糀谷・羽田地域は「不満 (合計)」が「満足 (合計)」を上回っており、「不満 (合計)」は蒲田地域、糀谷・羽田地域で 5 割台となっている。(図表 11-4)

図表 11-5 生活環境の満足度（4）スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ
（性別・性／年代別・地域別）



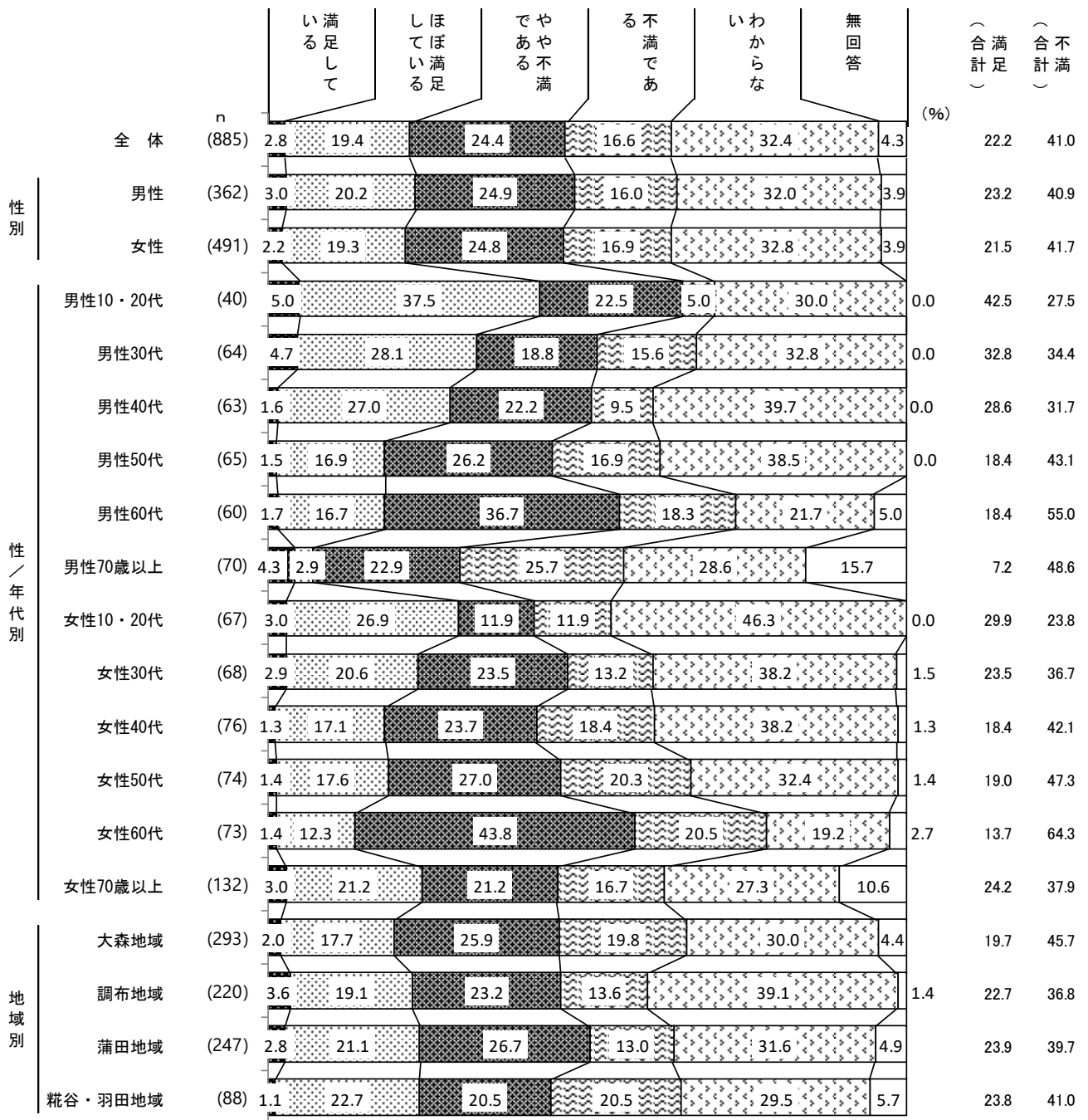
【スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ】の満足度を性別で見ると、「不満（合計）」は男性（46.7%）が女性（39.9%）を6.8ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「不満（合計）」が「満足（合計）」を上回っており、「不満（合計）」は男女ともに50代で5割台となっている。

地域別で見ると、すべての地域で「不満（合計）」が「満足（合計）」を上回っている。

（図表 11-5）

図表 11-6 生活環境の満足度 (5) バリアフリー (性別・性/年代別・地域別)



【バリアフリー】の満足度について、性別で見ると特徴的な差異は見られなかった。

性/年代別で見ると、《満足 (合計)》は男性 10・20 代で 4 割前半、女性 10・20 代が約 3 割で《不満 (合計)》を上回っている。その他の性/年代では《不満 (合計)》が《満足 (合計)》を上回っており、《不満 (合計)》は女性 60 代で 6 割半ば、男性 60 代で 5 割半ばとなっている。

地域別で見ると、すべての地域で《不満 (合計)》が《満足 (合計)》を上回っている。

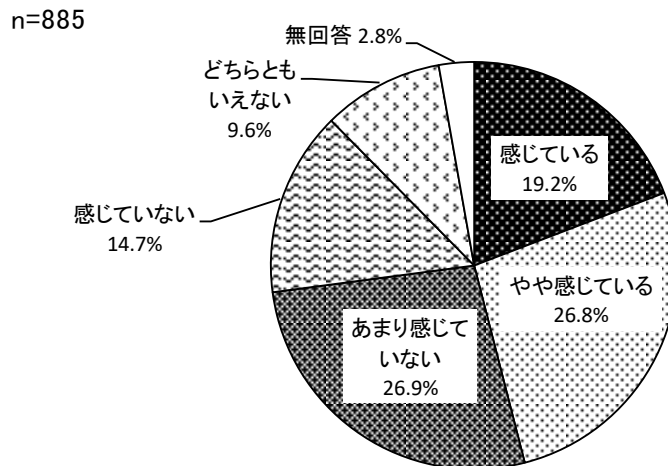
(図表 11-6)

(2) 身近な場所の水や緑の有無

◎《感じている（合計）》が4割半ばとなっている

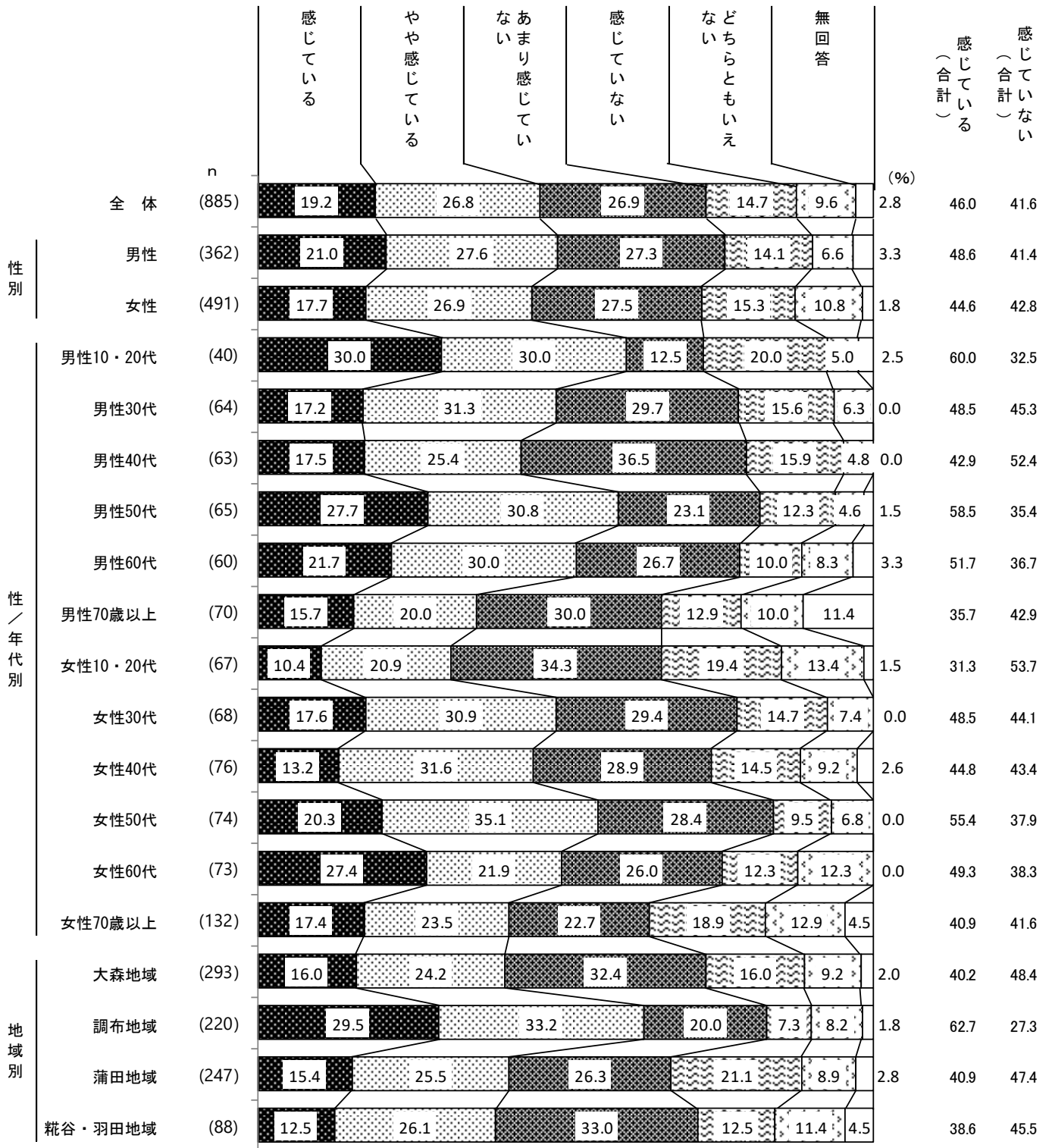
問 20 身近な場所で水や緑に親しめると感じていますか。(○は1つ)

図表 11-7 身近な場所の水や緑の有無



身近に水や緑に親しめると感じるかについて聞いたところ、「あまり感じていない」が26.9%で最も高く、「感じていない」(14.7%)と合わせた《感じていない(合計)》は41.6%となっている。一方、「感じている」(19.2%)、「やや感じている」(26.8%)を合わせた《感じている(合計)》は46.0%となっている。(図表11-7)

図表 11-8 身近な場所の水や緑の有無（性別・性/年代別・地域別）



身近な場所で水や緑に親しめると感じるかについて、性別でみると大きな差異は見られなかった。性/年代別でみると、《感じている（合計）》は男性10・20代、50代、60代、女性50代で5割以上となっている。男性40代、女性10・20代では《感じていない（合計）》が5割以上となっている。地域別でみると《感じている（合計）》は調布地域で6割前半となっている。（図表11-8）

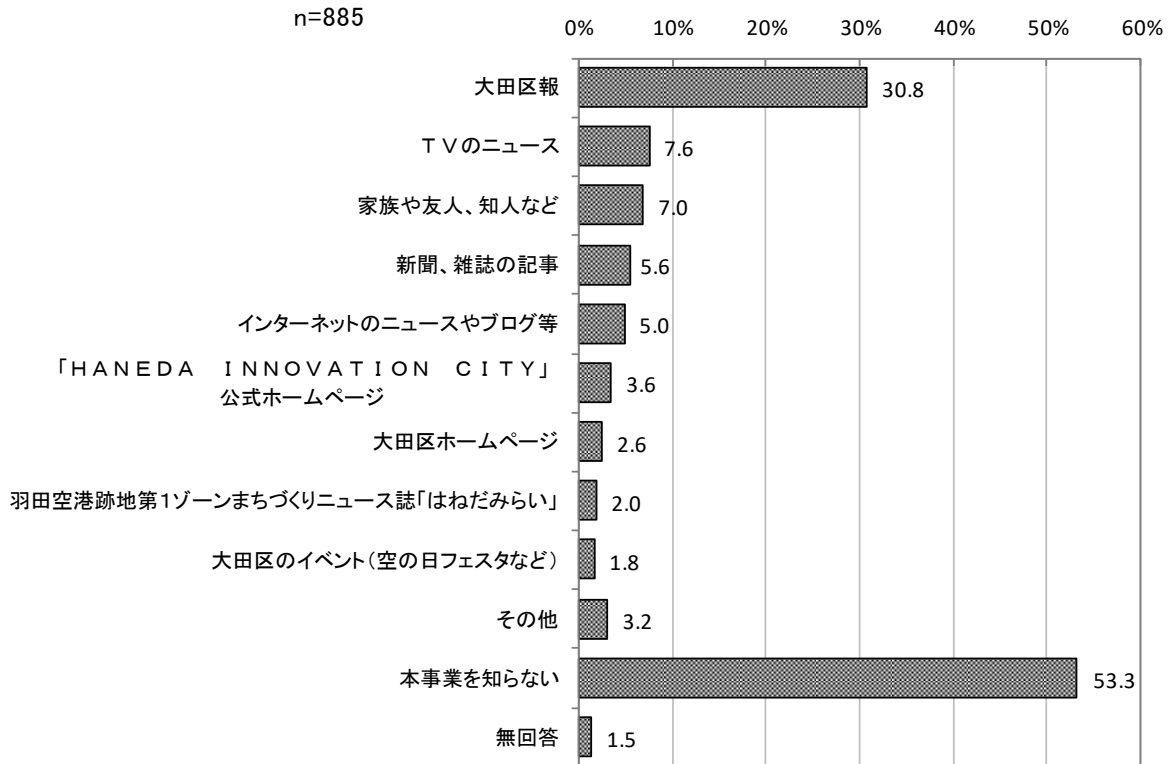
12 羽田空港跡地について

(1) 「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」を知った方法

◎「本事業を知らない」が5割前半、知った方法は「大田区報」が約3割で最も高くなっている

問 21 空港の沖合移転に伴い発生した天空橋駅周辺の羽田空港跡地のまちづくり「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」が現在進められています。本事業についてはどのような方法で知りましたか。(〇はいくつでも)

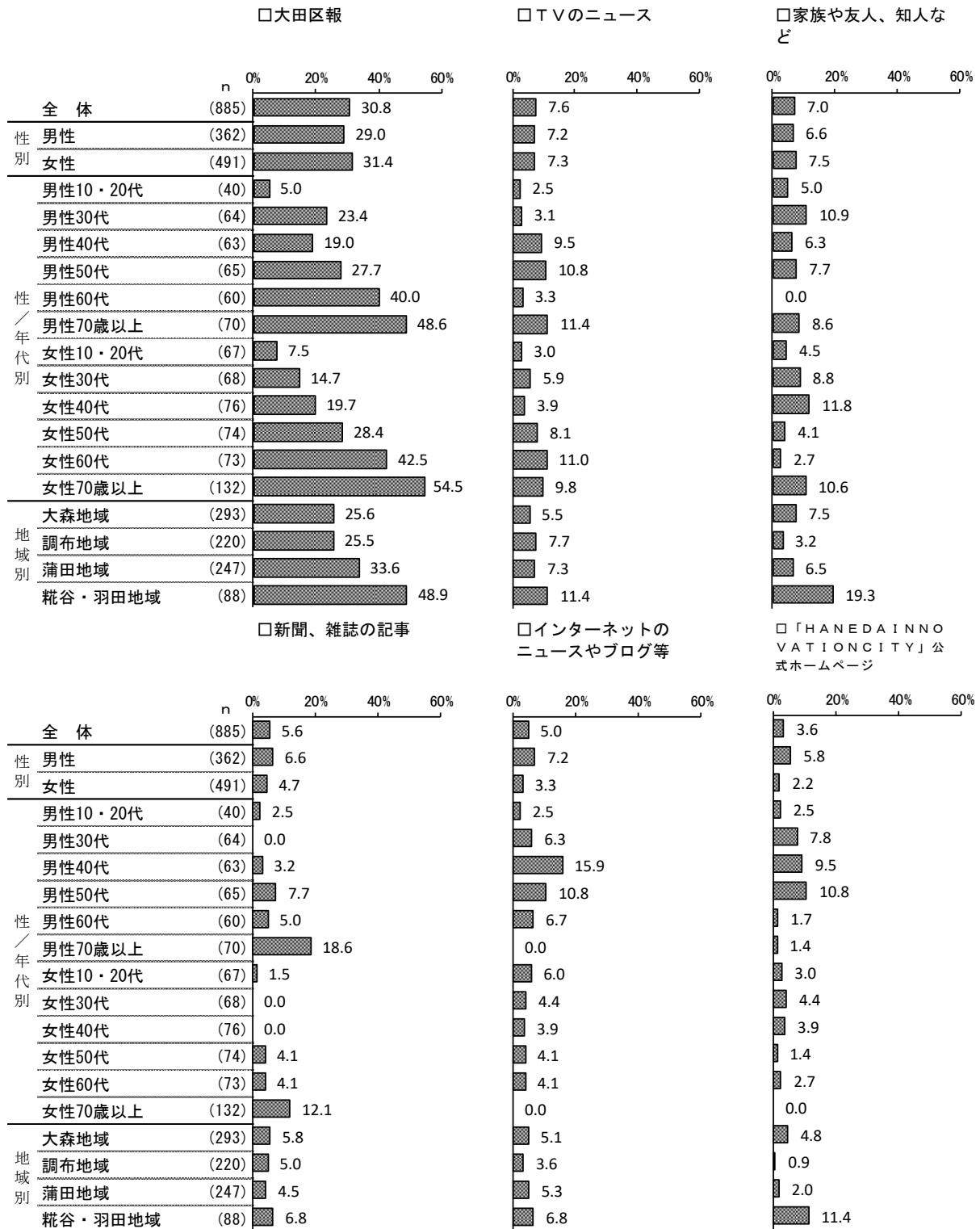
図表 12-1 「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」を知った方法



「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」を知った方法について聞いたところ、「大田区報」が30.8%で最も高く、次いで、「TVのニュース」(7.6%)、「家族や友人、知人など」(7.0%)となっている。

一方、「本事業を知らない」が53.3%となっている。(図表 12-1)

図表 12-2 「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」を知った方法（性別・性／年代別・地域別）



「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」を知った方法について、男女ともに「大田区報」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、男女ともに「大田区報」は概ね年代が上がるにつれ高くなっている。

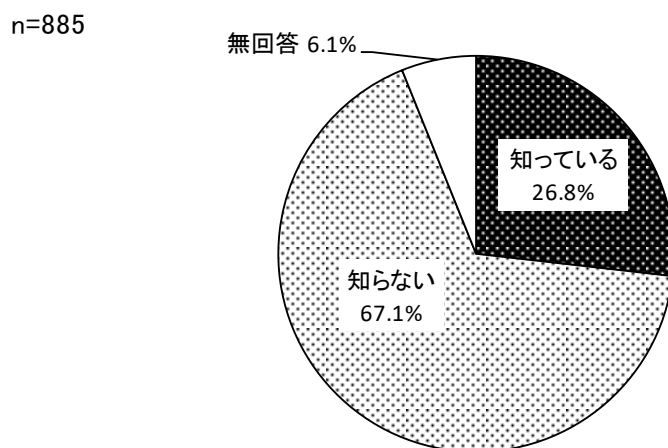
地域別でみると、「大田区報」は糞谷・羽田地域で4割後半となっている。また、「家族や友人、知人など」は糞谷・羽田地域で約2割と高くなっている。（図表 12-2）

(2) 「羽田イノベーションシティ」の認知度

◎「知っている」は2割半ばとなっている

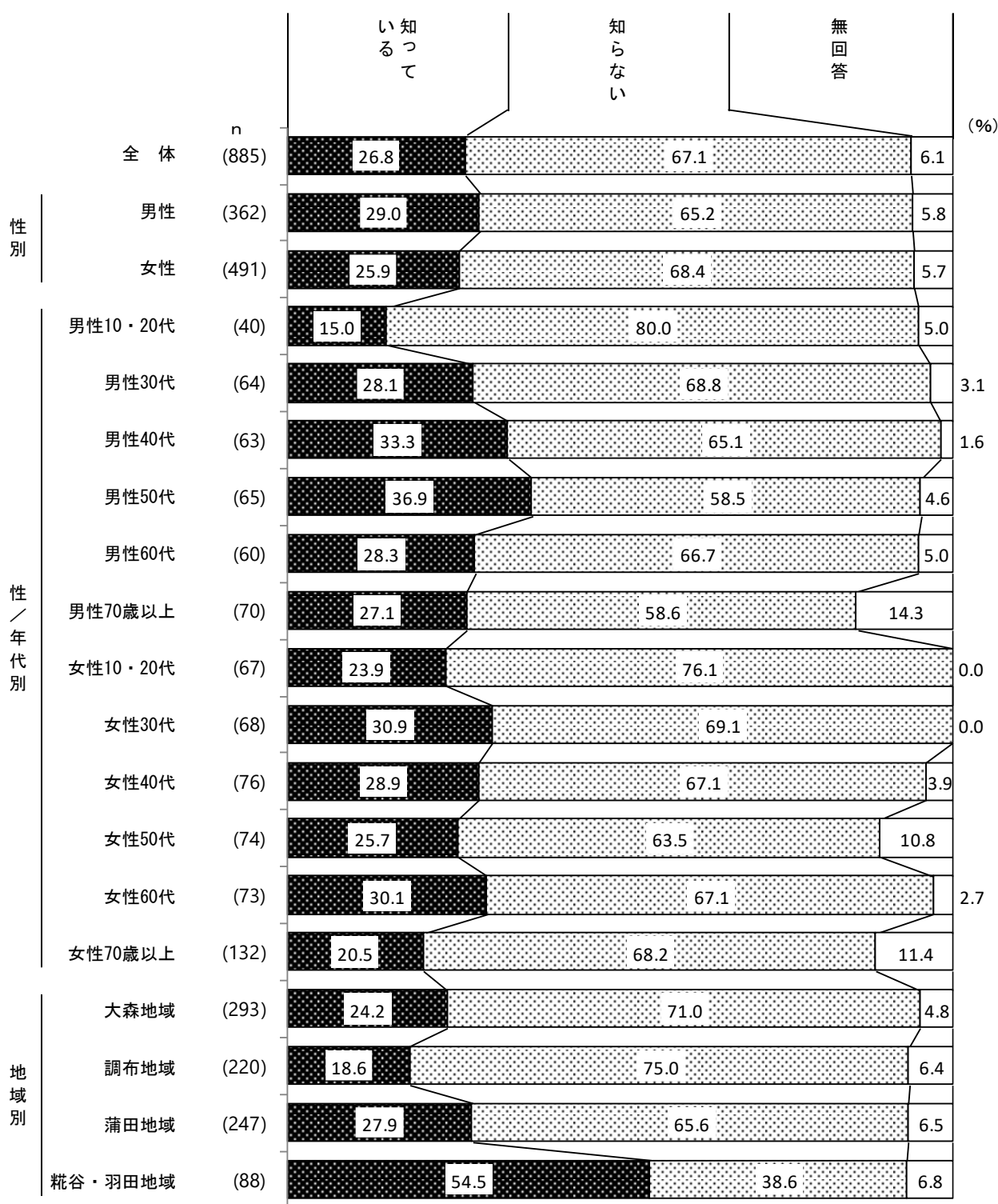
問 22 「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」の第一期事業（羽田イノベーションシティ）についてご存じですか。（〇は1つ）

図表 12-3 「羽田イノベーションシティ」の認知度



「羽田イノベーションシティ」の認知度について聞いたところ、「知っている」は26.8%、「知らない」が67.1%となっている。（図表 12-3）

図表 12-4 「羽田イノベーションシティ」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「羽田イノベーションシティ」の認知度について、性別でみると大きな差異は見られなかった。性／年代別でみると、「知っている」は男性10・20代で1割半ばと、その他の性／年代より低くなっている。

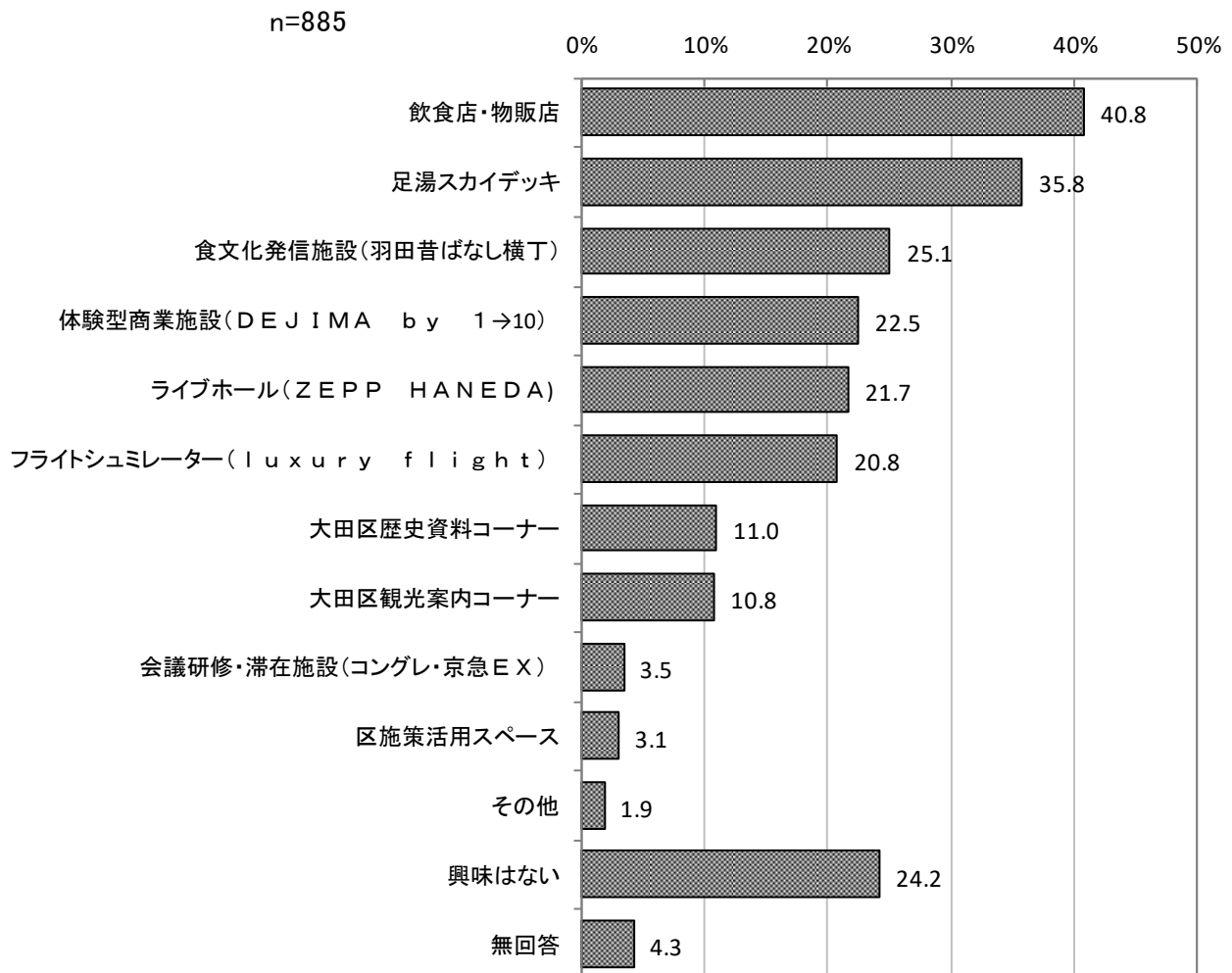
地域別でみると、「知っている」は糞谷・羽田地域で5割半ばと半数以上となっている。大森地域、蒲田地域は2割台、調布地域は1割後半となっている。（図表 12-4）

(3) 「羽田イノベーションシティ」において興味があるもの

◎「飲食店・物販店」が約4割で最も高くなっている

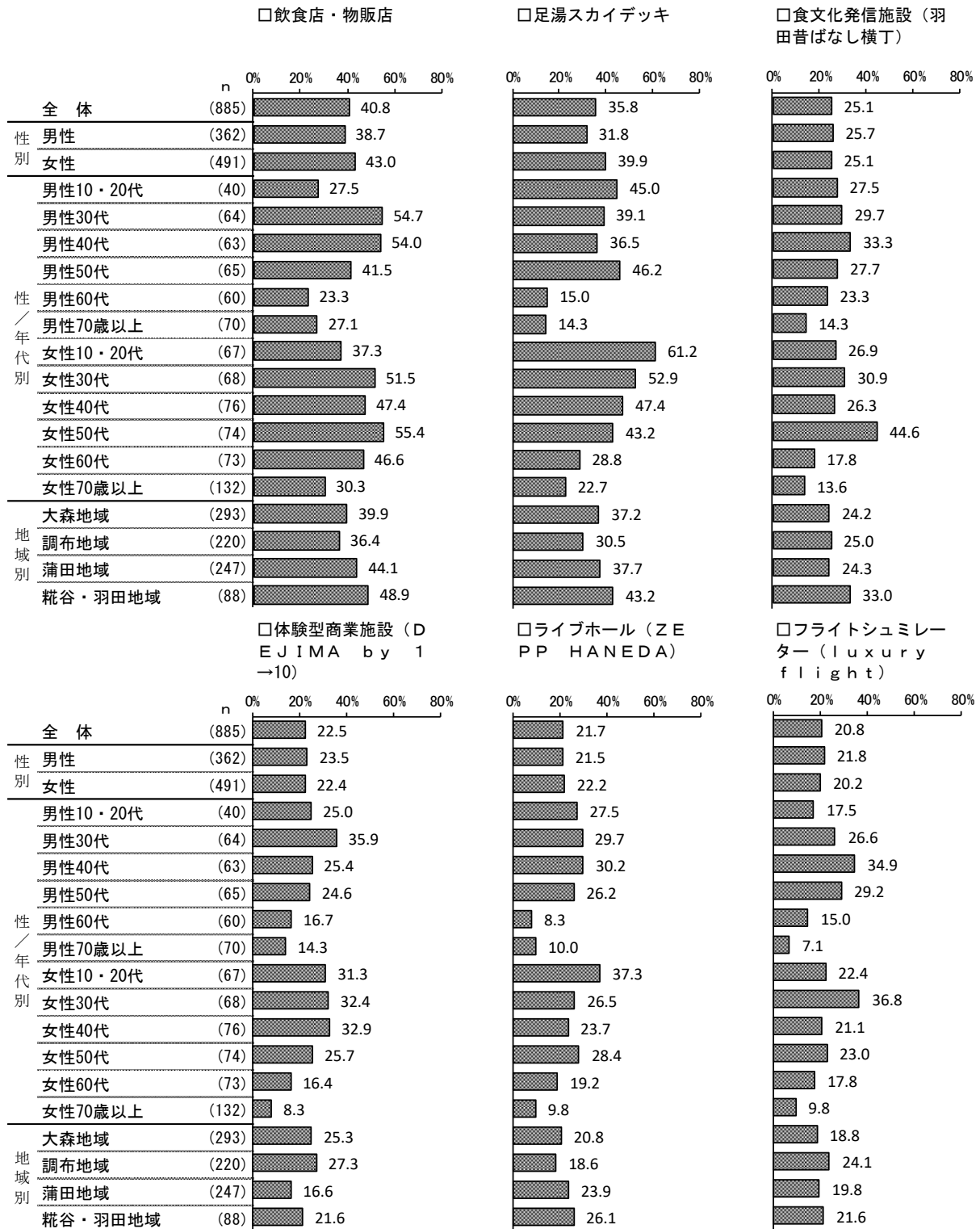
問 23 第一期事業（羽田イノベーションシティ）のうち、興味があるものはありますか。
 (○はいくつでも)

図表 12-5 「羽田イノベーションシティ」において興味があるもの



「羽田イノベーションシティ」において興味があるものについて聞いたところ、「飲食店・物販店」が40.8%で最も高く、次いで、「足湯スカイデッキ」(35.8%)、「食文化発信施設(羽田昔ばなし横丁)」(25.1%)となっている。(図表 12-5)

図表 12-6 「羽田イノベーションシティ」において興味があるもの（性別・性／年代別・地域別）



「羽田イノベーションシティ」において興味があるものを性別で見ると、男女ともに「飲食店・物販店」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、男性10・20代、50代、女性10・20代、30代は「足湯スカイデッキ」が最も高く、女性40代は「飲食店・物販店」「足湯スカイデッキ」が同率で最も高くなっている。その他の性／年代では「飲食店・物販店」が最も高くなっている。

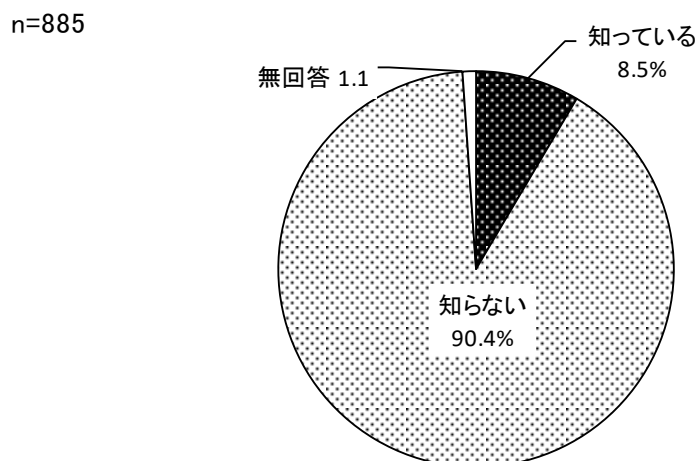
地域別で見ると、すべての地域で「飲食店・物販店」が最も高くなっている。(図表 12-6)

(4) 羽田空港跡地第1ゾーンの公園整備の認知度

◎「知らない」が約9割となっている

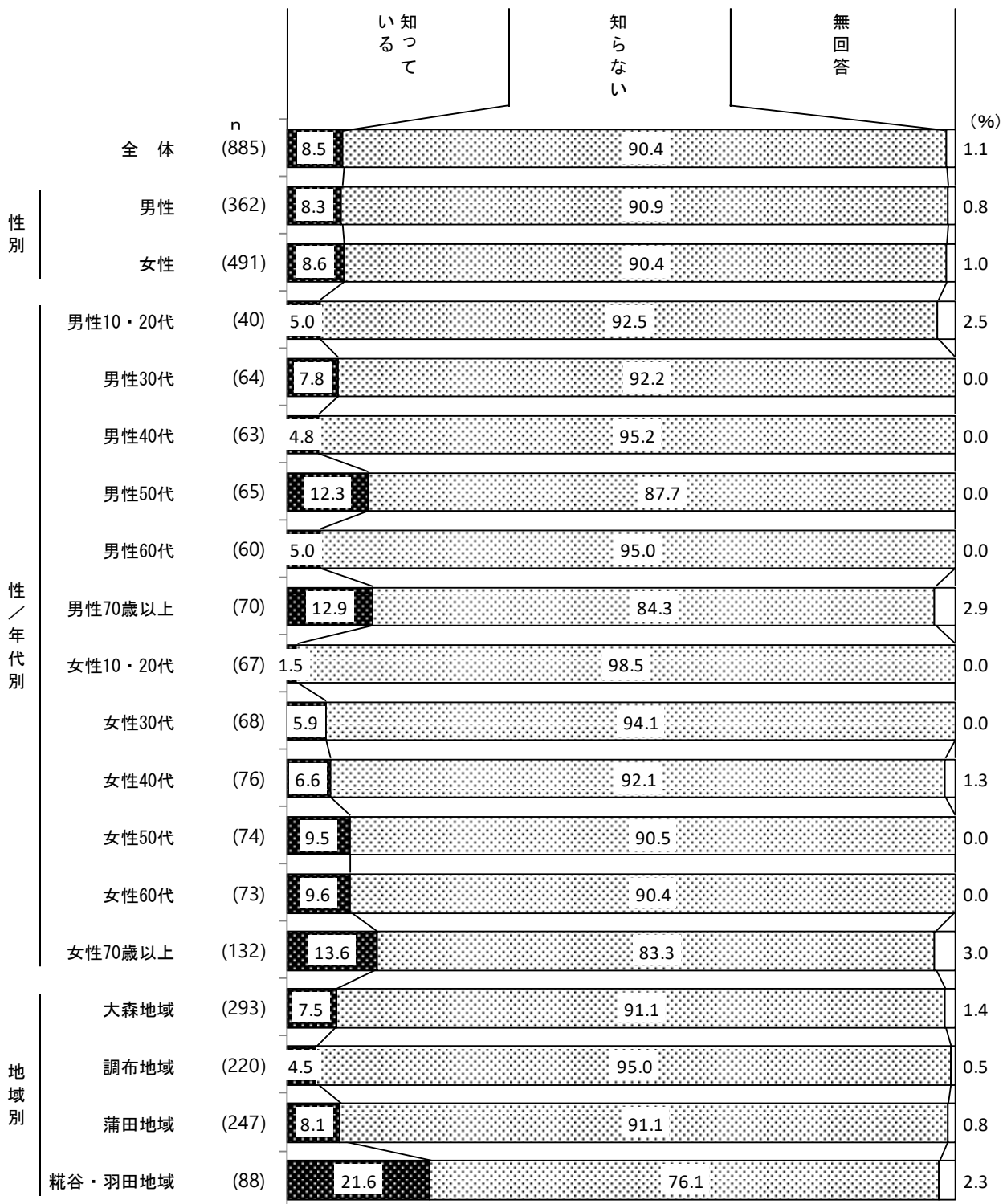
問 24 羽田空港跡地第1ゾーンに公園(300m×70m程度)が整備される予定があることをご存知ですか。(○は1つ)

図表 12-7 羽田空港跡地第1ゾーンの公園整備の認知度



羽田空港跡地第1ゾーンの公園整備の認知度について聞いたところ、「知っている」が8.5%、「知らない」が90.4%となっている。(図表 12-7)

図表 12-8 羽田空港跡地第1ゾーンの公園整備の認知度（性別・性/年代別・地域別）



羽田空港跡地第1ゾーンの公園整備の認知度について、性別でみると大きな差異は見られなかった。性/年代別でみると、「知っている」は男性50代、70歳以上、女性70歳以上で1割前半となっている。女性において「知っている」は年齢が上がるにつれ高くなっている。

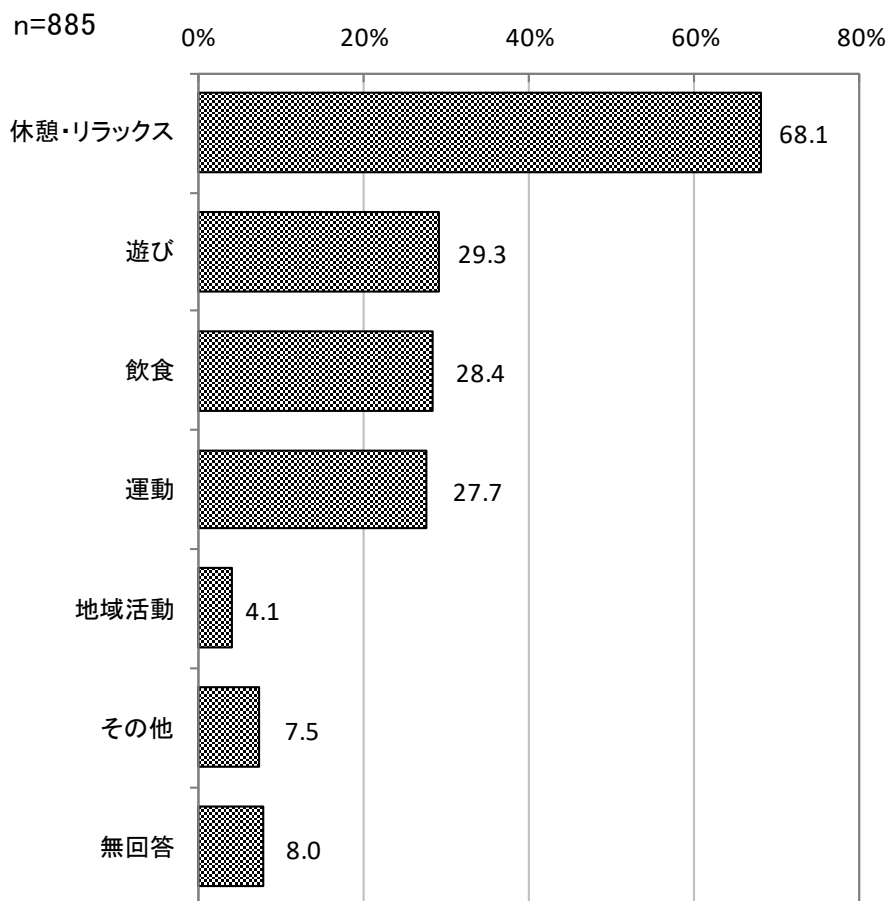
地域別でみると、「知っている」は糞谷・羽田地域で約2割となっているが、その他の地域では1割に満たない。(図表12-8)

(5) 公園が完成した時にしたいこと

◎「休憩・リラックス」が6割後半となっている

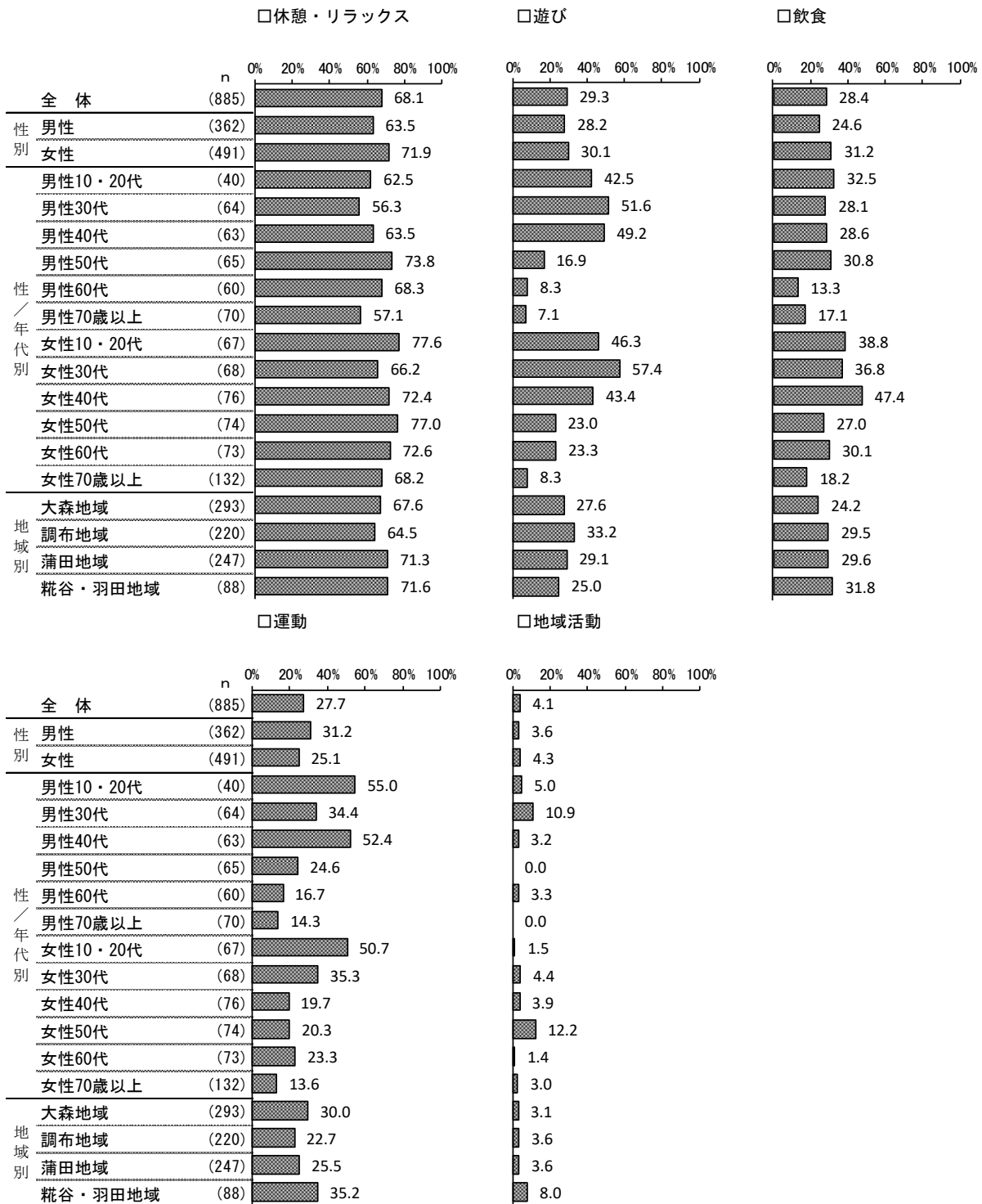
問 25 その公園が完成した時に、したいことはありますか。(〇はいくつでも)

図表 12-9 公園が完成した時にしたいこと



公園が完成した時にしたいことを聞いたところ、「休憩・リラックス」が68.1%で最も高く、次いで、「遊び」(29.3%)、「飲食」(28.4%)となっている。(図表 12-9)

図表 12-10 公園が完成した時にしたいこと（性別・性／年代別・地域別 上位5項目）



公園が完成した時にしたいことについて、上位5項目を性別で見ると、「休憩・リラックス」が男女ともに最も高くなっている。

性／年代別で見ると、すべての年代で「休憩・リラックス」が5割以上で最も高くなっている。「運動」は男性10・20代、40代、女性10・20代で5割以上となっている。「遊び」は男性・女性ともに10・20代～40代でその他の性／年代より高くなっている。

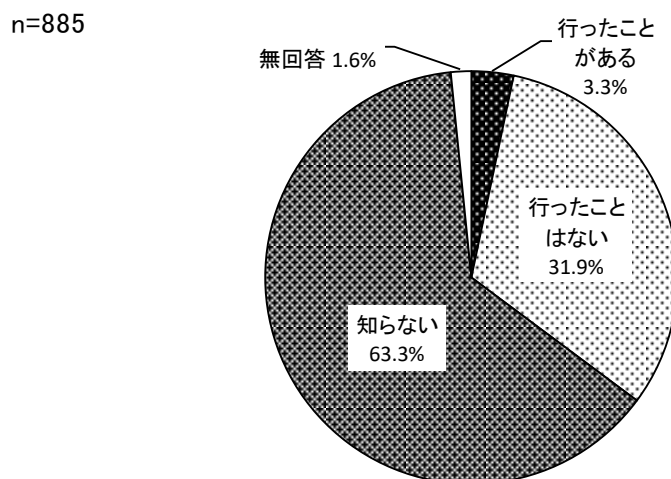
地域別で見ると、すべての地域で「休憩・リラックス」が最も高くなっている。(図表 12-10)

(6)「ソラムナード羽田緑地」に行ったことがあるかについて

◎「知らない」が6割前半となっている

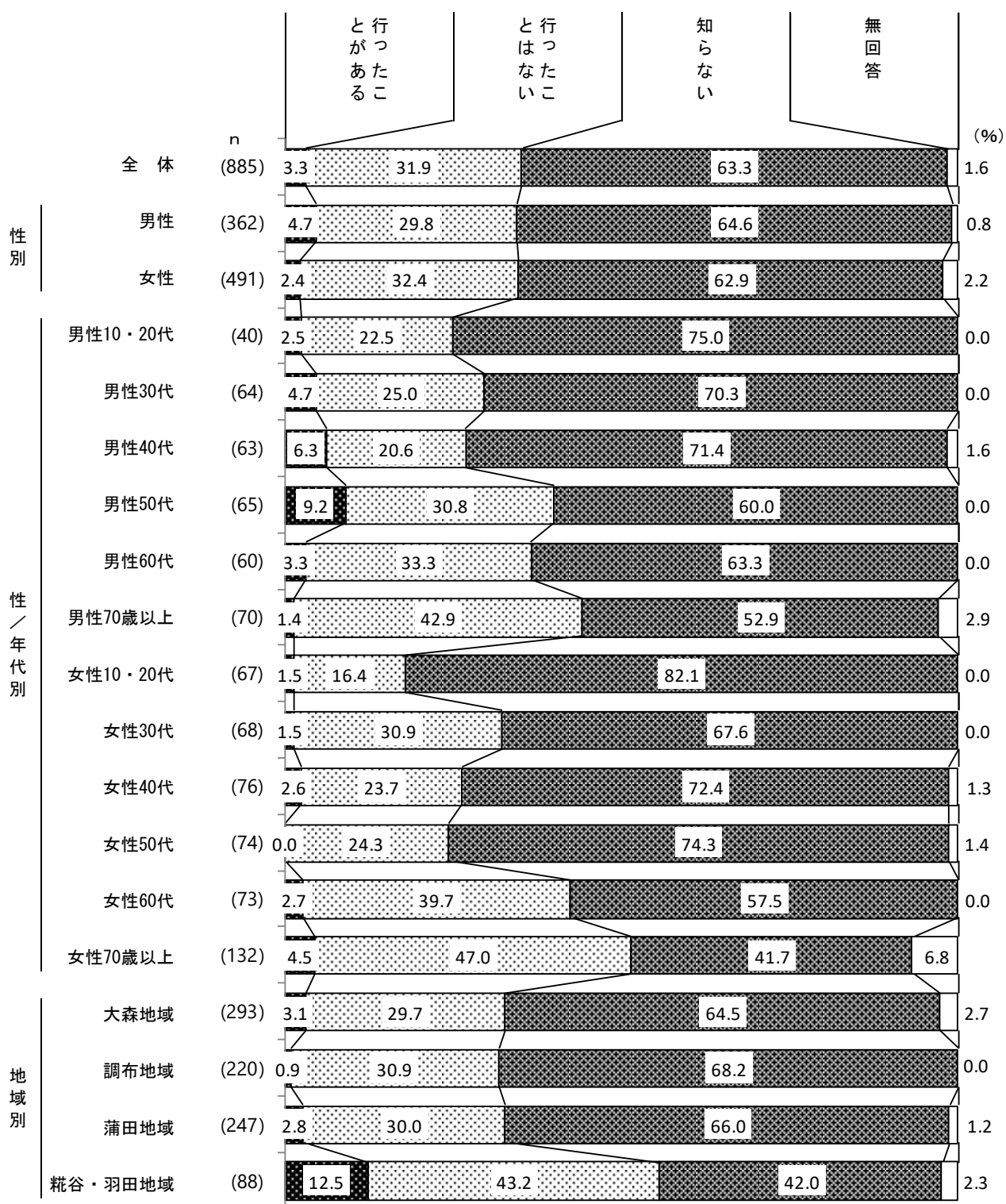
問 26 羽田空港跡地の多摩川沿い（第2ゾーン）に整備された「ソラムナード羽田緑地」（1,100m×15m程度）に行ったことはありますか。（○は1つ）

図表 12-11 「ソラムナード羽田緑地」に行ったことがあるか



「ソラムナード羽田緑地」に行ったことがあるか聞いたところ、「行ったことがある」は3.3%、「行ったことはない」が31.9%、「知らない」が63.3%となっている。（図表 12-11）

図表 12-12 「ソラムナード羽田緑地」に行ったことがあるか（性別・性／年代別・地域別）



「ソラムナード羽田緑地」の訪問経験について、性別で見ると大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、「行ったことがある」は男性50代で約1割となっている。女性70歳以上を除いたすべての性／年代で「知らない」が半数以上となっている。

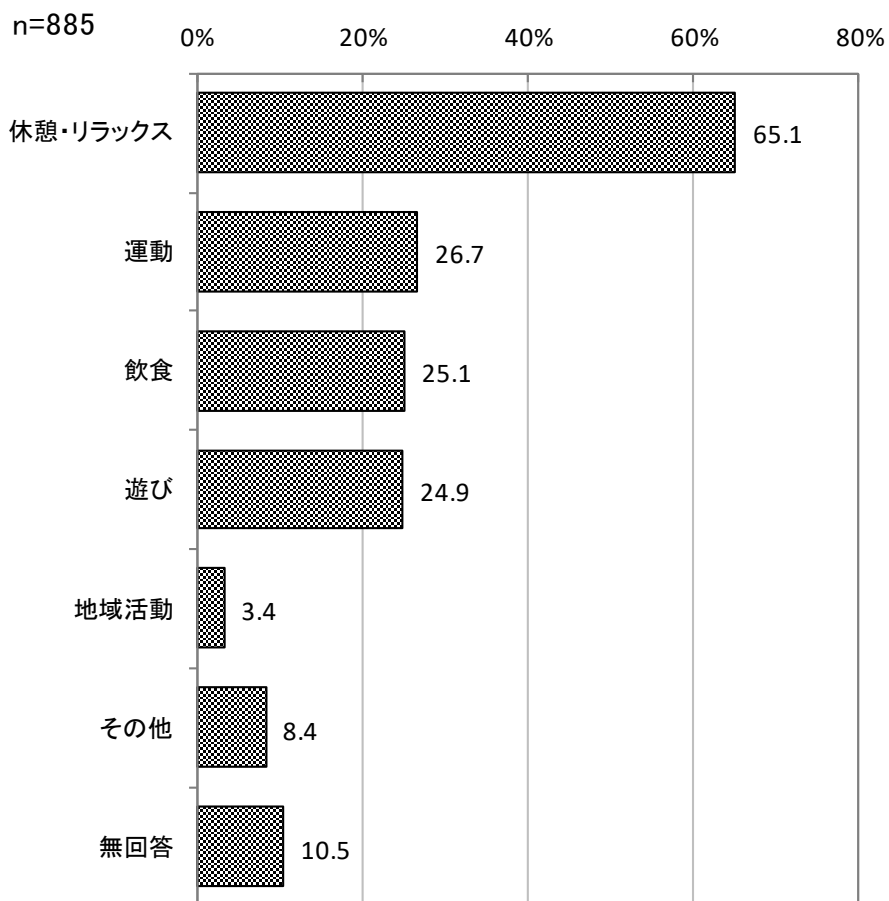
地域別で見ると、「行ったことがある」は糞谷・羽田地域で1割前半となっている。その他の地域では「知らない」が6割台となっている。(図表 12-12)

(7) 「ソラムナード羽田緑地」でしたいこと

◎「休憩・リラックス」が6割半ばとなっている

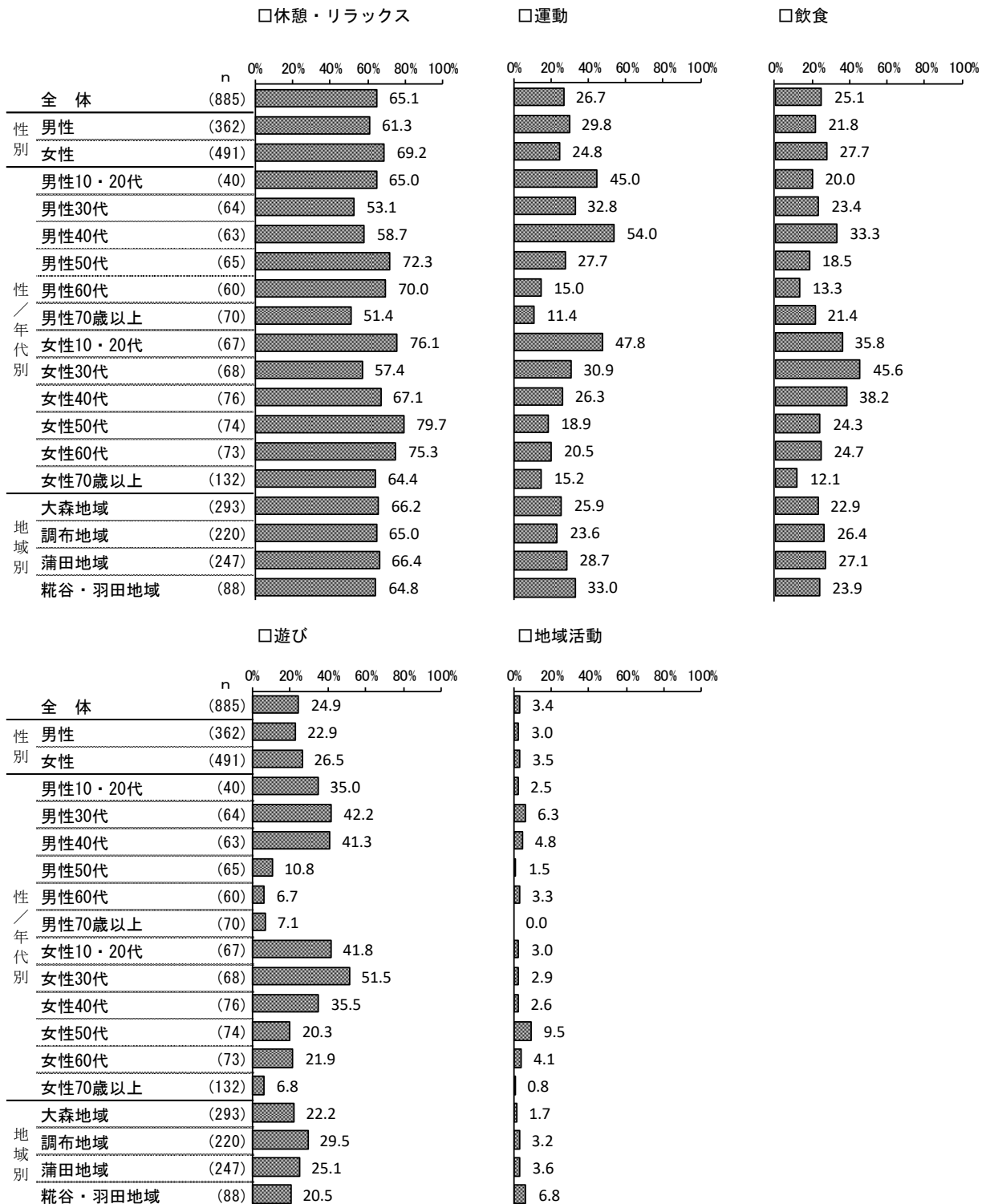
問 27 「ソラムナード羽田緑地」でしたいことはありますか。(〇はいくつでも)

図表 12-13 「ソラムナード羽田緑地」でしたいこと



「ソラムナード羽田緑地」でしたいことについて聞いたところ、「休憩・リラックス」が65.1%で最も高く、次いで、「運動」(26.7%)、「飲食」(25.1%)となっている。(図表 12-13)

図表 12-14 「ソラムナード羽田緑地」でしたいこと（性別・性／年代別・地域別 上位5項目）



「ソラムナード羽田緑地」でしたいことを性別で見ると、男女ともに「休憩・リラックス」が6割台で最も高くなっている。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「休憩・リラックス」が最も高くなっている。「運動」は女性で年代が若いほど高くなっている。「遊び」は男女ともに10・20代～40代で高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「休憩・リラックス」が6割半ばで最も高くなっている。

(図表 12-14)

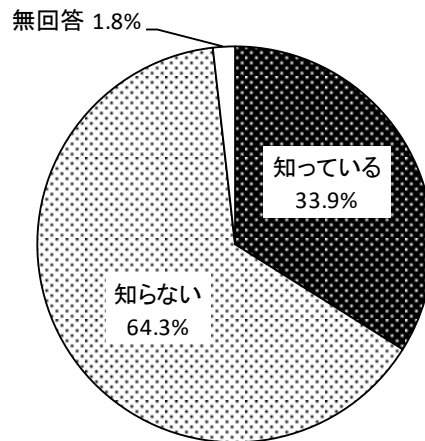
13 自転車の利用について

(1) 大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度

◎「知っている」は3割前半となっている

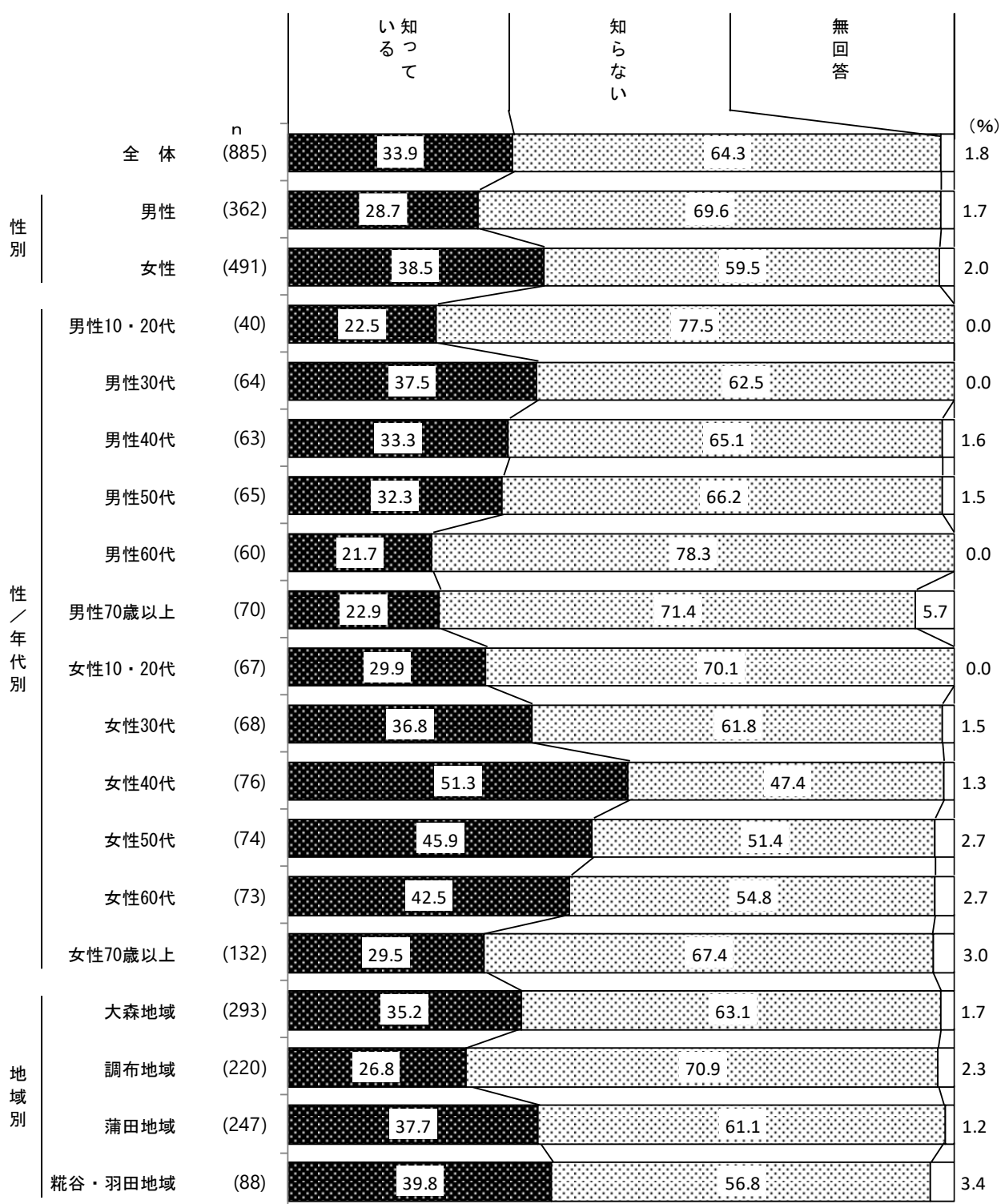
問 28 あなたは、大田区内で「コミュニティサイクル」が運営されていることを知っていますか。
(○は1つ)

図表 13-1 大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度
n=885



大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度について聞いたところ、「知っている」が33.9%、「知らない」が64.3%となっている。(図表 13-1)

図表 13-2 大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度（性別・性／年代別・地域別）



大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度を性別で見ると、「知っている」は女性（38.5%）が男性（28.7%）を9.8ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「知っている」は女性40代で約5割、50代、60代で4割台となっている。

地域別で見ると、「知っている」は調布地域で2割半ば、その他の地域で3割台となっている。

（図表 13-2）

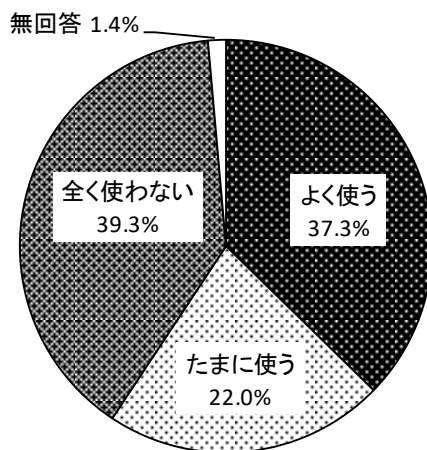
(2) 自転車の利用について

◎「よく使う」は3割後半となっている

問 29 あなたは、普段から自転車を使いますか。(○は1つ)

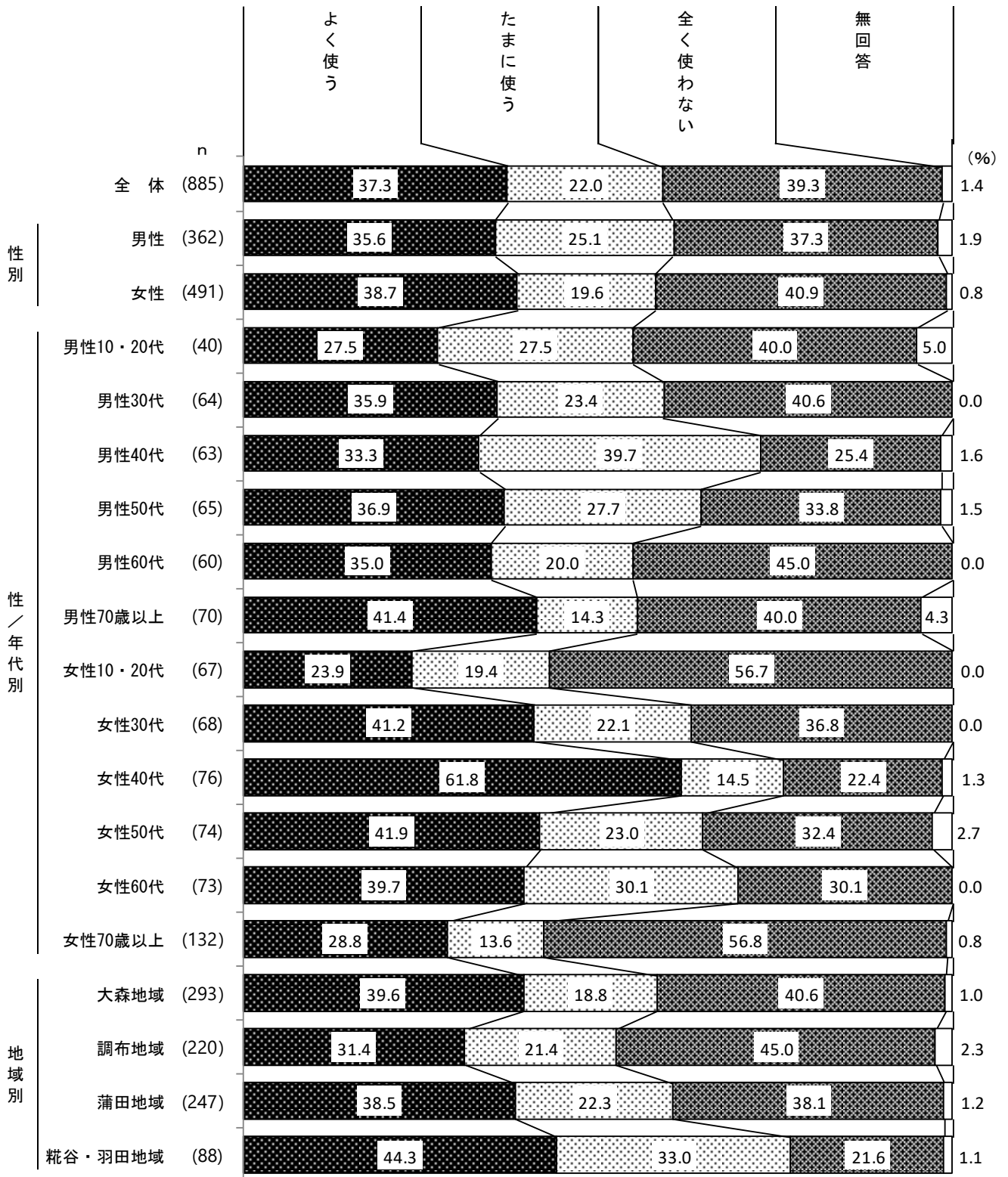
図表 13-3 自転車の利用について

n=885



普段の自転車の利用について聞いたところ、「全く使わない」が39.3%で最も高く、次いで、「よく使う」(37.3%)、「たまに使う」(22.0%)となっている。(図表 13-3)

図表 13-4 自転車の利用について（性別・性／年代別・地域別）



普段の自転車の利用について、性別でみると大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、「よく使う」は女性40代で約6割となっている。

地域別でみると、糀谷・羽田地域で「よく使う」が4割半ば、その他の地域では3割台となっている。

(図表 13-4)

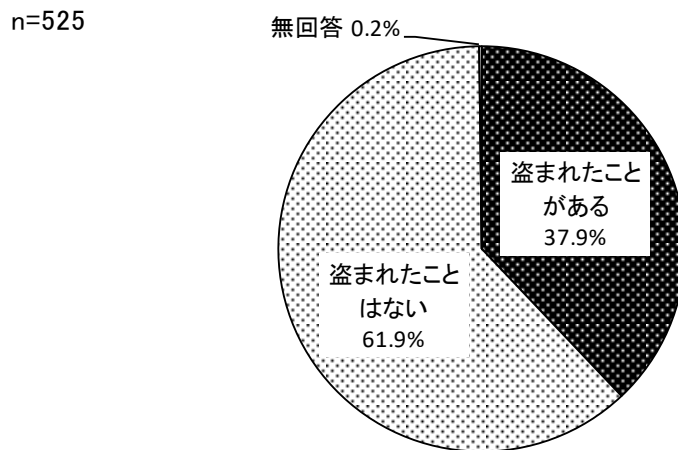
(3) 自転車を盗まれた経験

◎「盗まれたことがある」は3割後半となっている

【問 29 で「1」～「2」（自転車を使う）と回答された方】

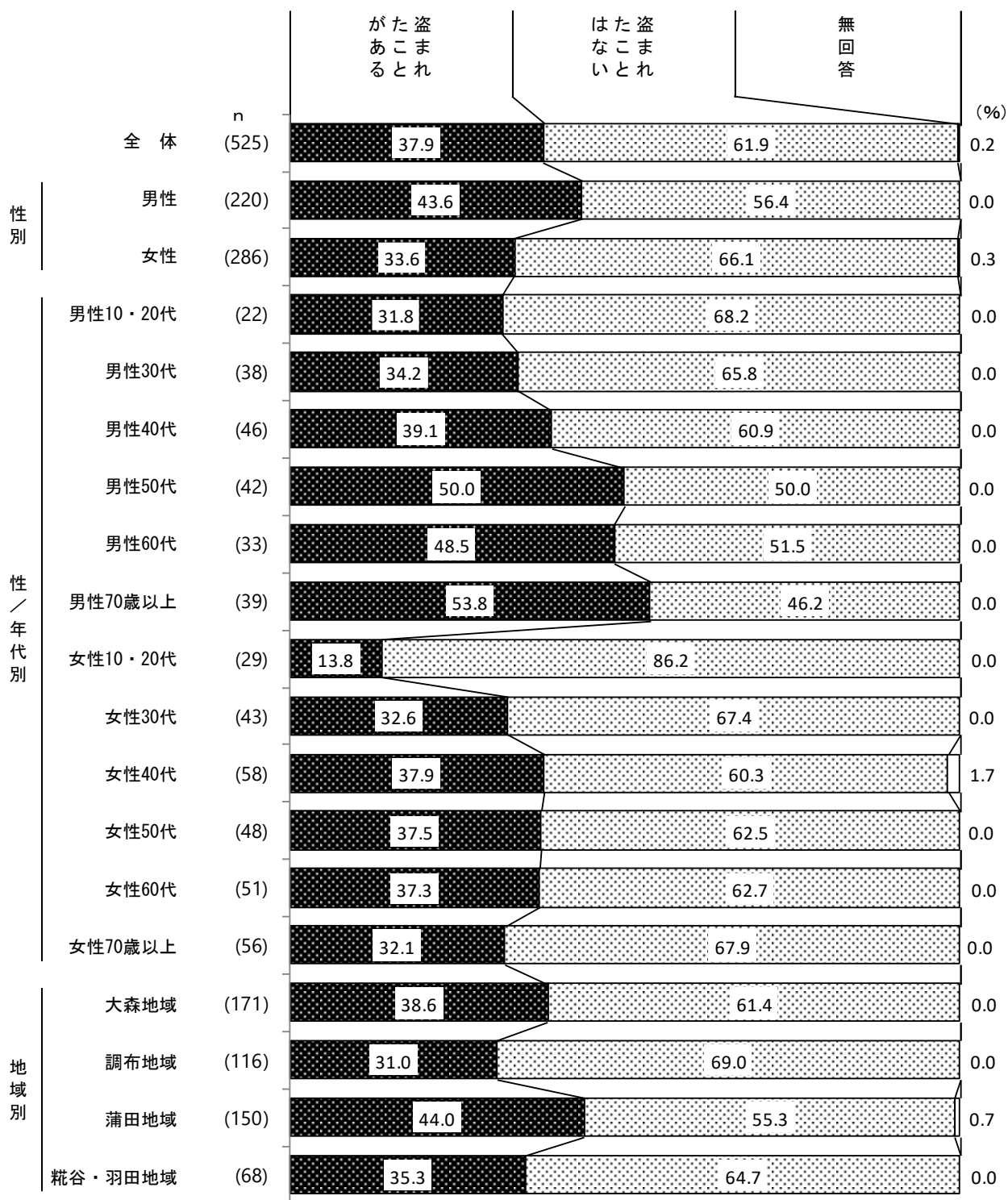
問 30 あなたは、過去に自転車を盗まれたことがありますか。（○は1つ）

図表 13-5 自転車を盗まれた経験



自転車を使う人に自転車を盗まれた経験を聞いたところ、「盗まれたことがある」は37.9%、「盗まれたことはない」は61.9%となっている。（図表 13-5）

図表 13-6 自転車被盗まれた経験（性別・性/年代別・地域別）



自転車を盗まれた経験を性別で見ると、「盗られたことがある」は男性（43.6%）が女性（33.6%）を10.0ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「盗られたことがある」は男性50代、70歳以上で5割台となっている。

地域別で見ると、「盗られたことがある」は蒲田地域で4割半ば、その他の地域で3割台となっている。（図表13-6）

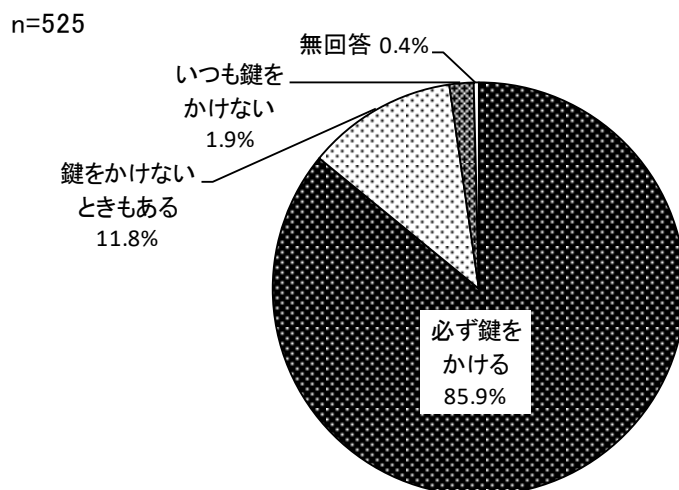
(4) 自転車の鍵をかけるかについて

◎「必ず鍵をかける」が8割半ばとなっている

【問 29 で「1」～「2」(自転車を使う)と回答された方】

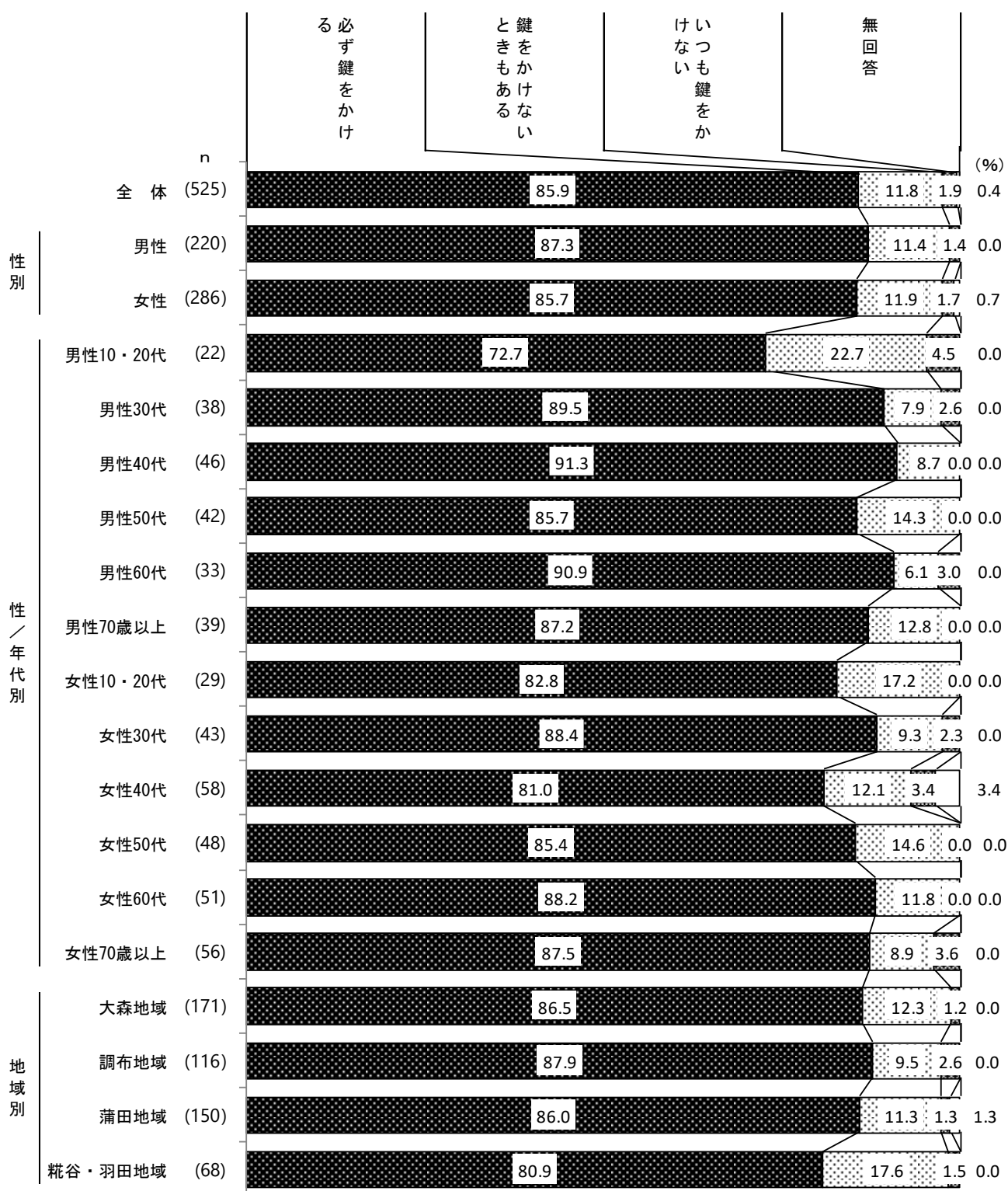
問 31 あなたは、普段自転車から降りた後、鍵をかけますか。(○は1つ)

図表 13-7 自転車の鍵をかけるかについて



自転車を使う人に自転車の鍵をかけるかについて聞いたところ、「必ず鍵をかける」が85.9%、「鍵をかけないときもある」が11.8%、「いつも鍵をかけない」が1.9%となっている。(図表 13-7)

図表 13-8 自転車の鍵をかけるかについて（性別・性／年代別・地域別）



自転車の鍵をかけるかについて、性別でみると大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、「必ず鍵をかける」は男性10・20代で7割前半、40代、60代で約9割、その他の性／年代で8割台となっている。

地域別でみると、すべての地域で「必ず鍵をかける」が8割台となっている。（図表 13-8）

(5) 自転車の鍵をかけないのは、どのような場所か

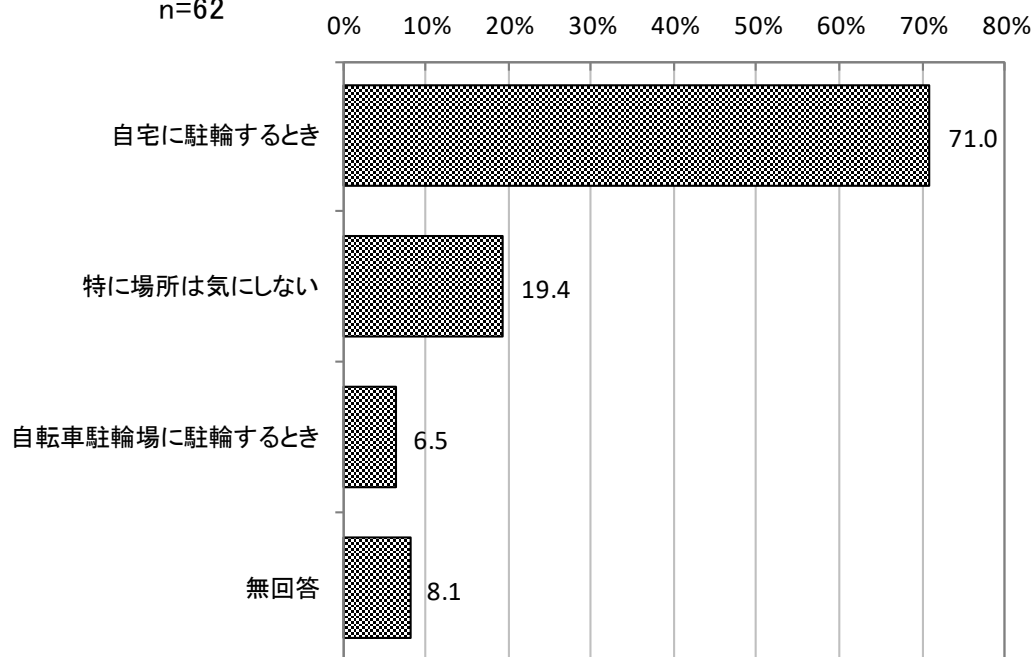
◎「自宅に駐輪するとき」が約7割となっている

【問31で「2. 鍵をかけないときもある」と回答された方】

問31-1 あなたが自転車の鍵をかけないのは、どのような場所ですか。(○はいくつでも)

図表 13-9 自転車の鍵をかけないのは、どのような場所か

n=62



自転車の鍵をかけないときもある人に鍵をかけないのは、どのような場所か聞いたところ、「自宅に駐輪するとき」が71.0%で最も高く、次いで、「特に場所は気にしない」(19.4%)、「自転車駐輪場に駐輪するとき」(6.5%)となっている。(図表13-9)

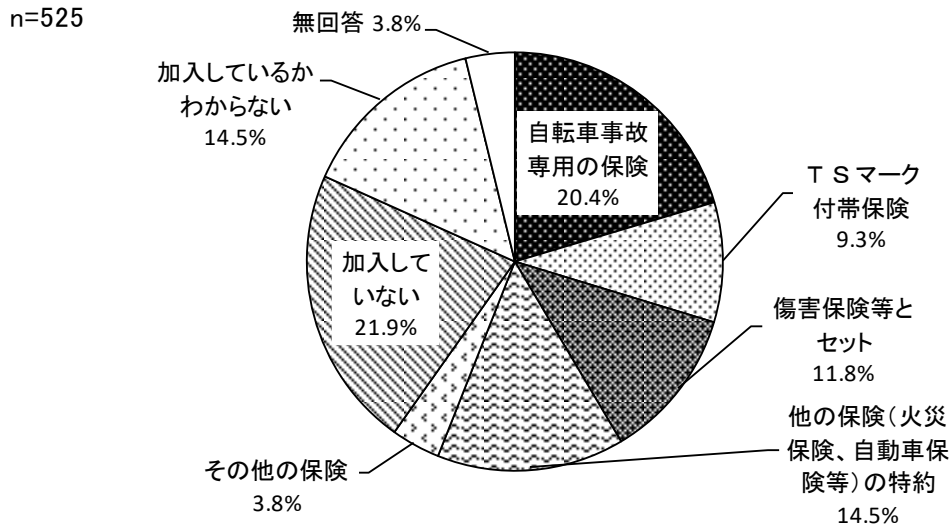
(6) 自転車事故に係る損害賠償保険への加入の有無

◎《加入している(合計)》は約6割となっている

【問29で「1」～「2」(自転車を使う)と回答された方】

問32 あなたは、自転車事故に係る損害賠償保険に加入していますか。(○は1つ)

図表 13-10 自転車事故に係る損害賠償保険への加入の有無

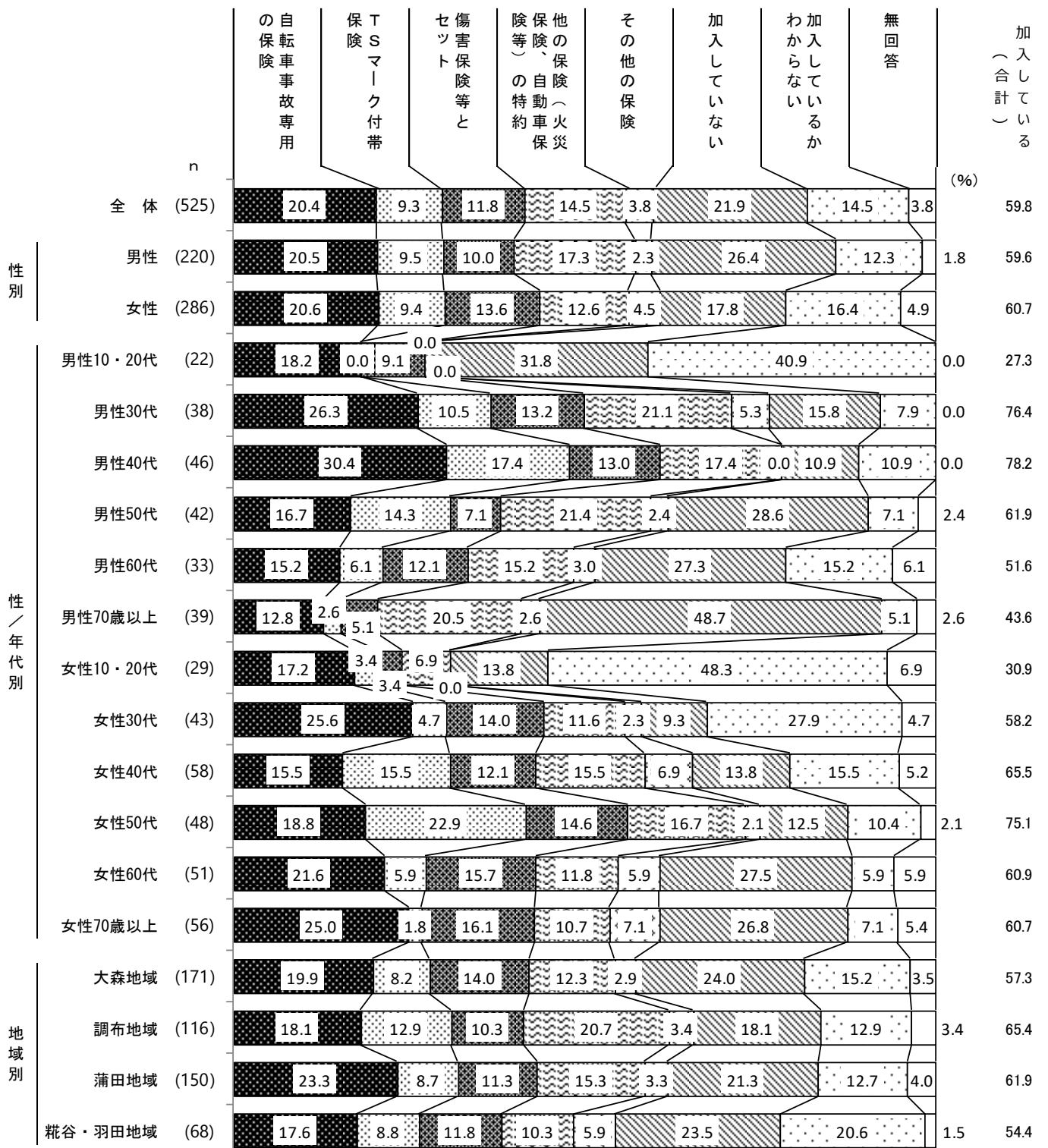


自転車を使う人に自転車事故に係る損害賠償保険へ加入しているか聞いたところ、加入している保険は「自転車事故専用の保険」が20.4%で最も高く、次いで、「他の保険(火災保険、自動車保険等)の特約」(14.5%)、「傷害保険等とセット」(11.8%)などとなっている。《加入している(合計)》は59.8%となっている。

一方、「加入していない」は21.9%、「加入しているかわからない」は14.5%となっている。

(図表 13-10)

図表 13-11 自転車事故に係る損害賠償保険への加入の有無（性・性／年齢別・地域別）



自転車事故に係る損害賠償保険へ加入しているかを性別で見ると、男女ともに《加入している（合計）》は約6割となっている。

性／年齢別で見ると、「加入していない」が男性70歳以上で48.7%となっている。「加入しているかわからない」が男性・女性ともに10・20代で4割台となっている。

地域別で見ると、いずれの地域も《加入している（合計）》は5割以上となっている。（図表 13-11）

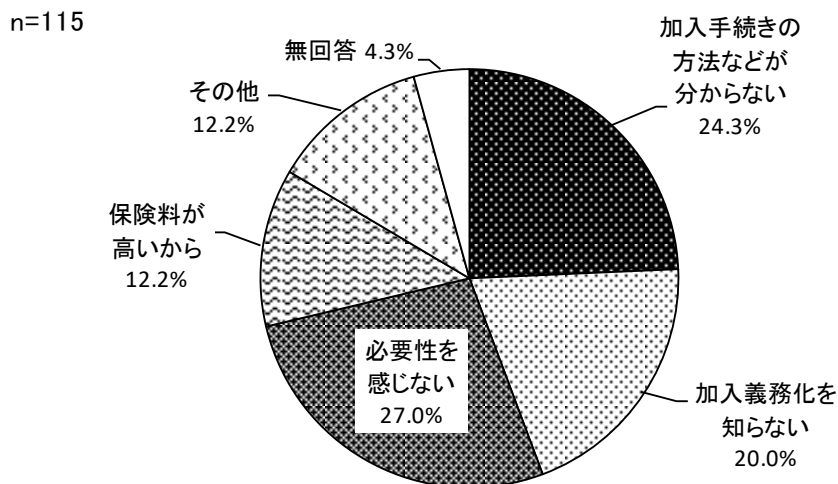
(7) 自転車事故に係る損害賠償保険に加入していない理由

◎「必要性を感じない」が2割後半となっている

【問 32 で「6. 加入していない」と回答された方】

問 32-1 あなたが保険に加入していない理由は、何ですか。(○は1つ)

図表 13-12 自転車事故に係る損害賠償保険に加入していない理由



自転車事故に係る損害賠償保険に加入していない理由について聞いたところ、「必要性を感じない」が27.0%で最も高く、次いで、「加入手続きの方法などが分からない」(24.3%)、「加入義務化を知らない」(20.0%)となっている。(図表 13-12)

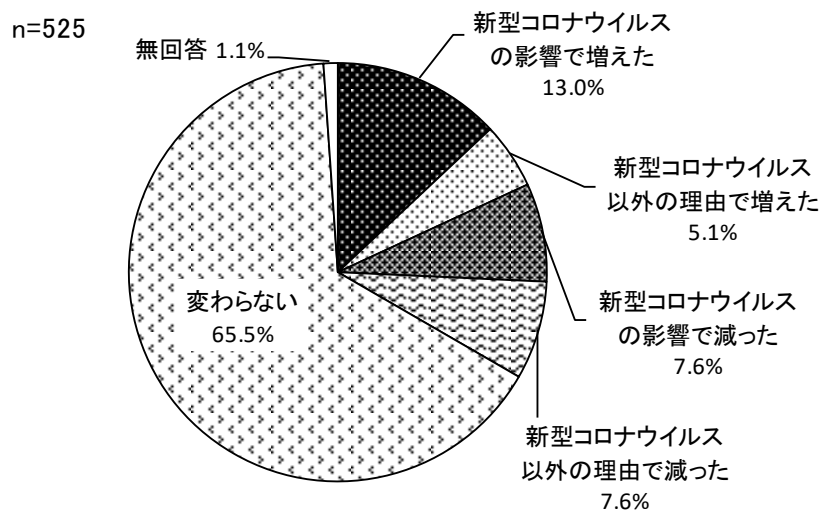
(8) 自転車を使う頻度について

◎「変わらない」が6割半ばとなっている

【問 29 で「1」～「2」(自転車を使う) と回答された方】

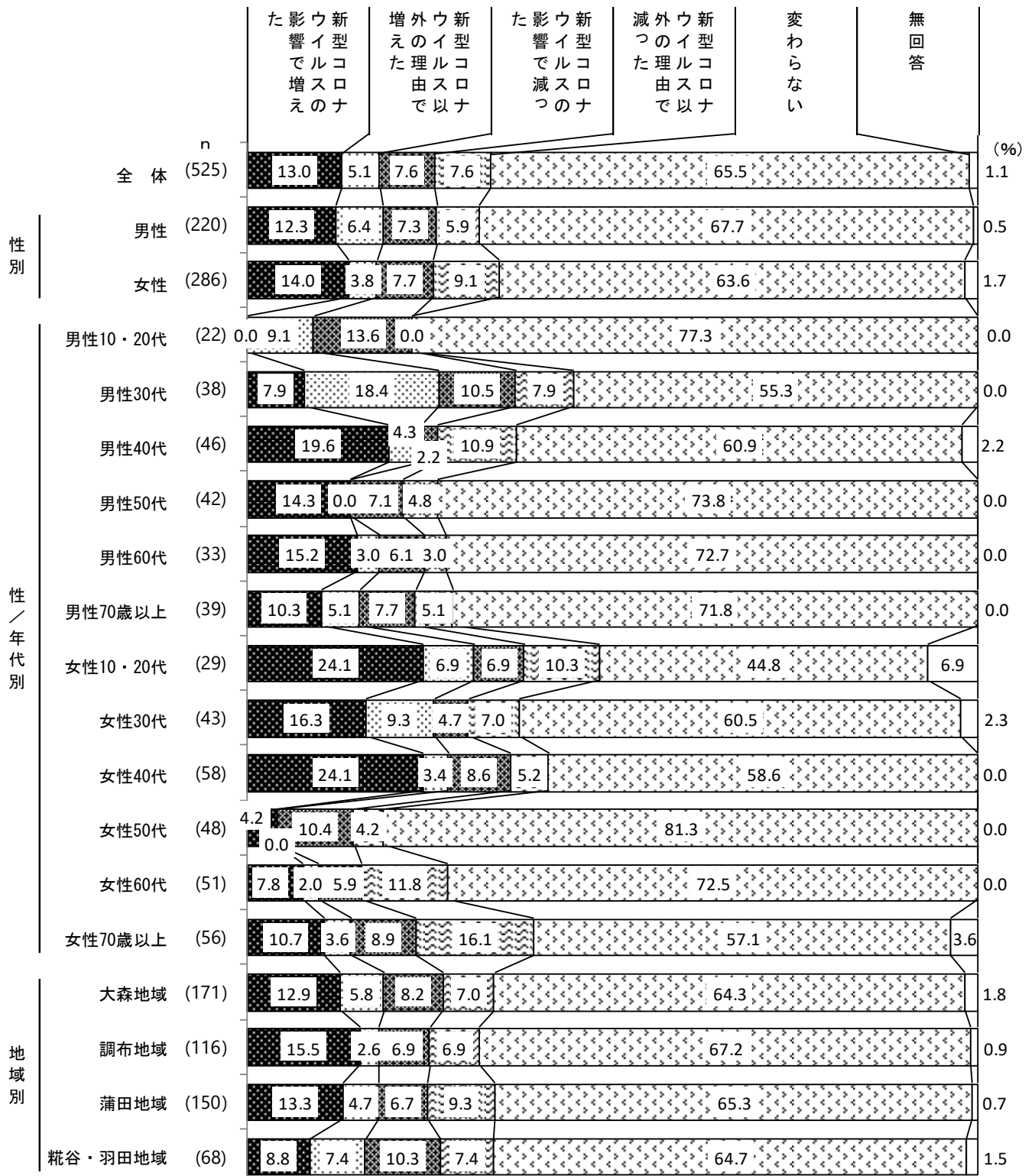
問 33 前年に比べ、自転車を使う機会が増えましたか。(○は1つ)

図表 13-13 自転車を使う頻度について



前年と比べて自転車を使う頻度について聞いたところ、「変わらない」が65.5%で最も高く、次いで、「新型コロナウイルスの影響で増えた」(13.0%)、「新型コロナウイルスの影響で減った」「新型コロナウイルス以外の理由で減った」(ともに7.6%)となっている。(図表 13-13)

図表 13-14 自転車を使う頻度について（性別・性／年代別・地域別）



前年と比べた自転車を使う頻度について、性別で見ると大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、女性10・20代、40代で「新型コロナウイルスの影響で増えた」が2割半ばとなっている。

地域別で見ると大きな差異は見られなかった。(図表 13-14)

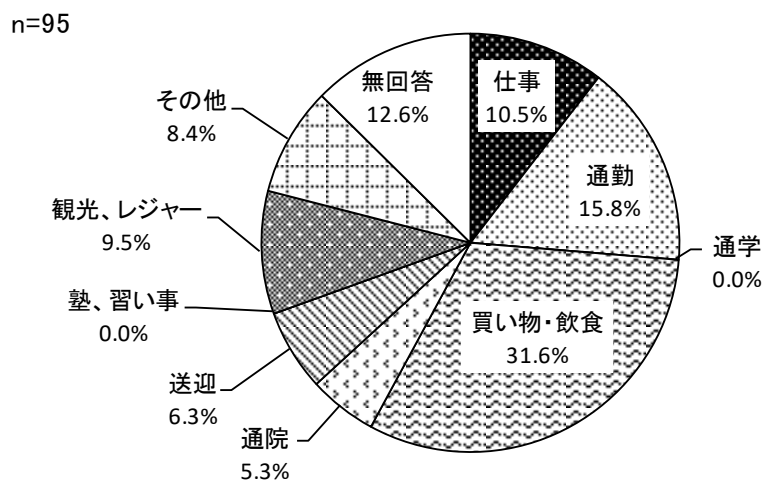
(9) 自転車を使う機会が増えた主な理由

◎「買い物・飲食」が約3割となっている

【問33で「1」～「2」(使う機会が増えた)と回答された方】

問33-1 自転車を使う機会が増えた主な理由は、何ですか。(○は1つ)

図表 13-15 自転車を使う頻度について



自転車を使う機会が増えた主な理由について聞いたところ、「買い物・飲食」が31.6%で最も高く、次いで、「通勤」(15.8%)、「仕事」(10.5%)となっている。(図表13-15)

14 食品ロス・フードドライブについて

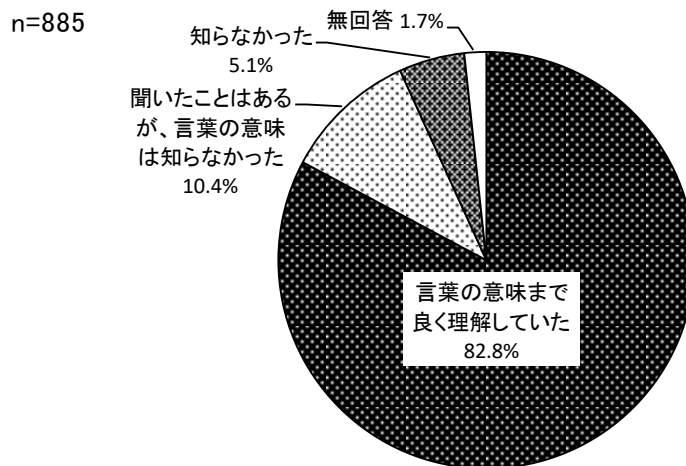
(1) 「食品ロス」の認知度

◎「言葉の意味まで良く理解していた」が8割前半となっている

問 34 あなたは、「食品ロス」という言葉をご存知ですか。(○は1つ)

※食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品

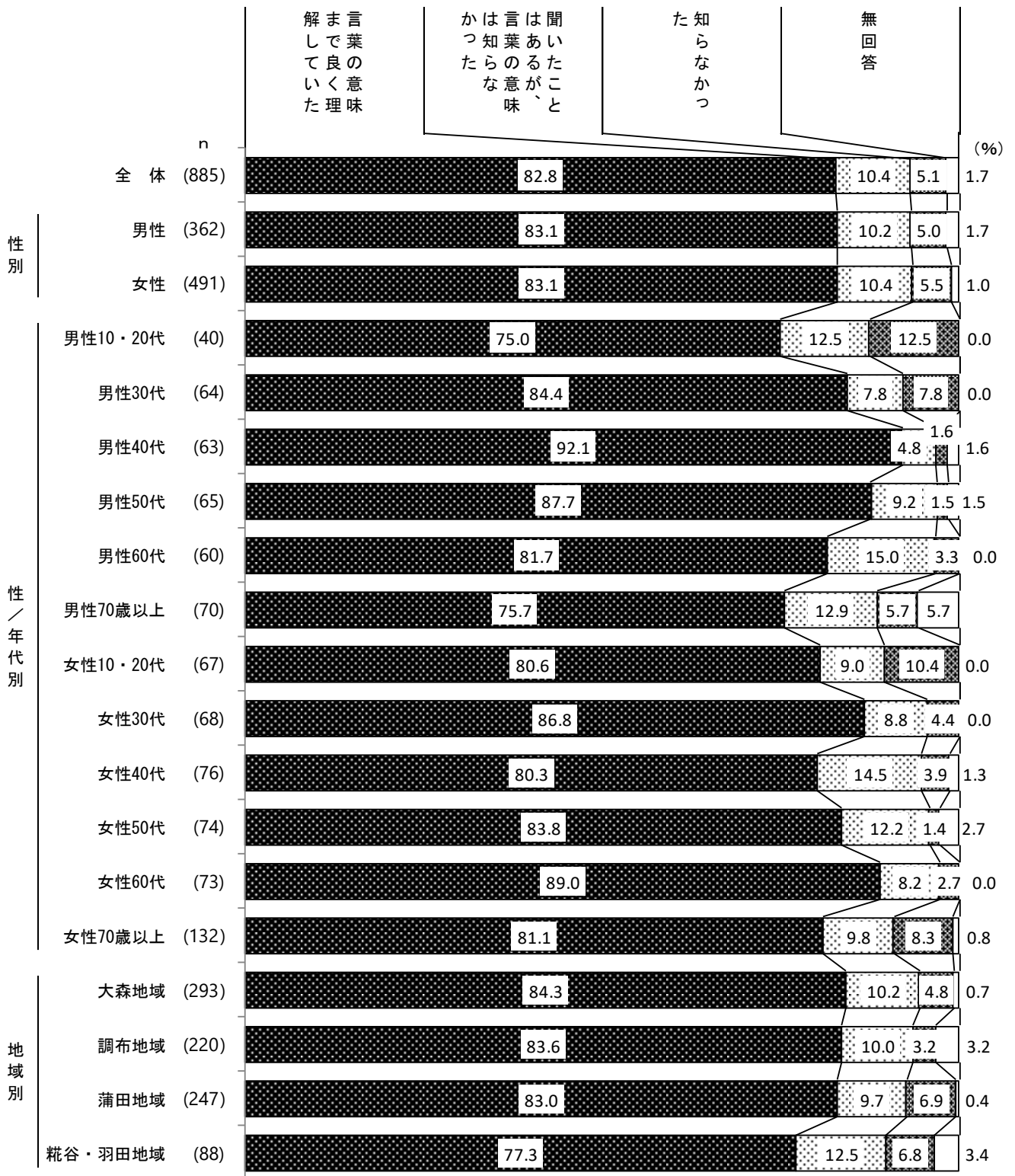
図表 14-1 「食品ロス」の認知度



「食品ロス」の認知度について聞いたところ、「言葉の意味まで良く理解していた」が82.8%、「聞いたことはあるが、言葉の意味は知らなかった」が10.4%、「知らなかった」が5.1%となっている。

(図表 14-1)

図表 14-2 「食品ロス」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「食品ロス」の認知度について、性別でみると大きな差異は見られなかった。

年代別でみると、「言葉の意味まで良く理解していた」は男性40代で9割前半となっている。

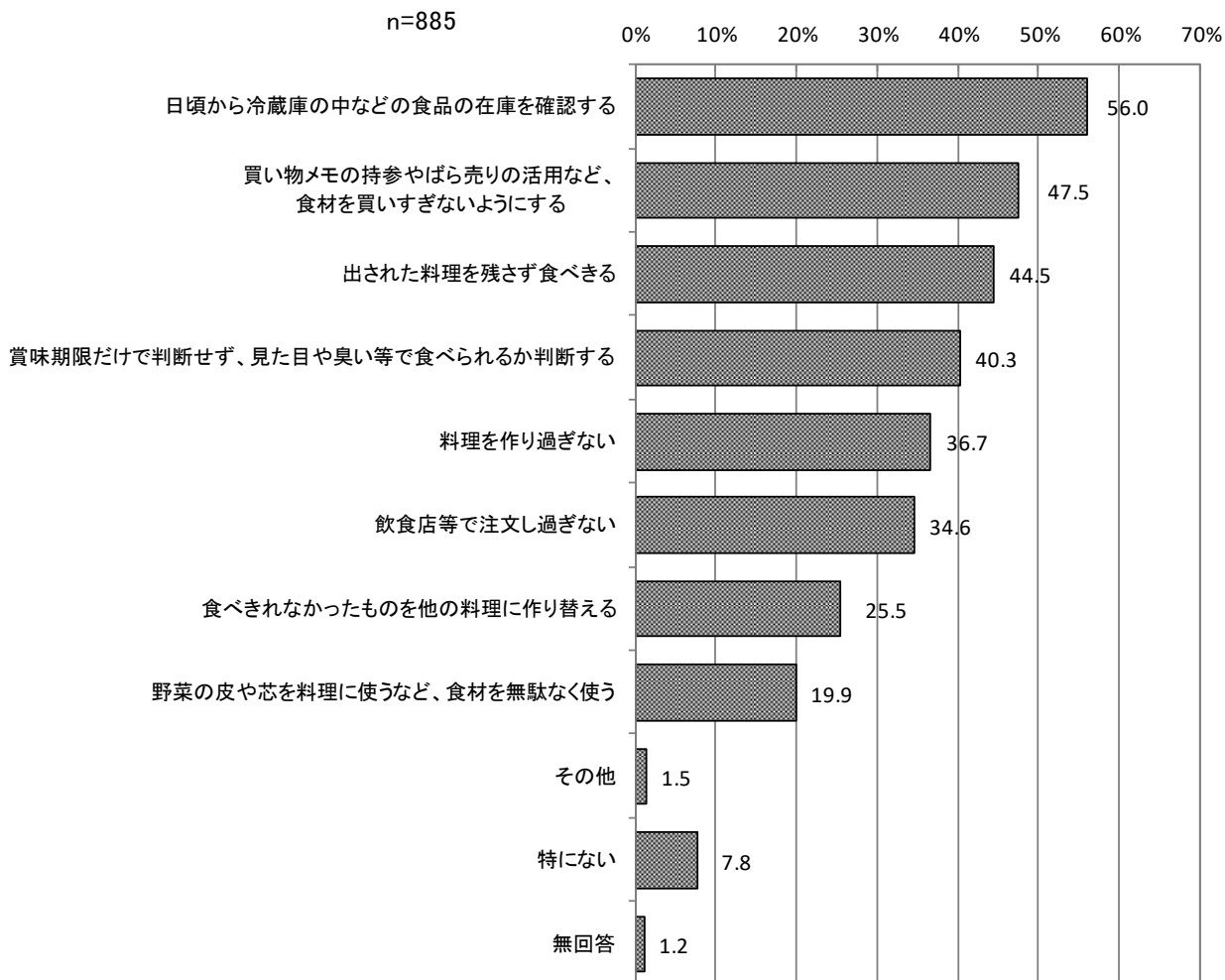
地域別でみると、「言葉の意味まで良く理解していた」は糞谷・羽田地域で7割後半、その他の地域で8割台となっている。(図表 14-2)

(2) 「食品ロス」を減らすための取り組み

◎「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が5割半ばで最も高くなっている

問 35 あなたは、生活の中で「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。
(○はいくつでも)

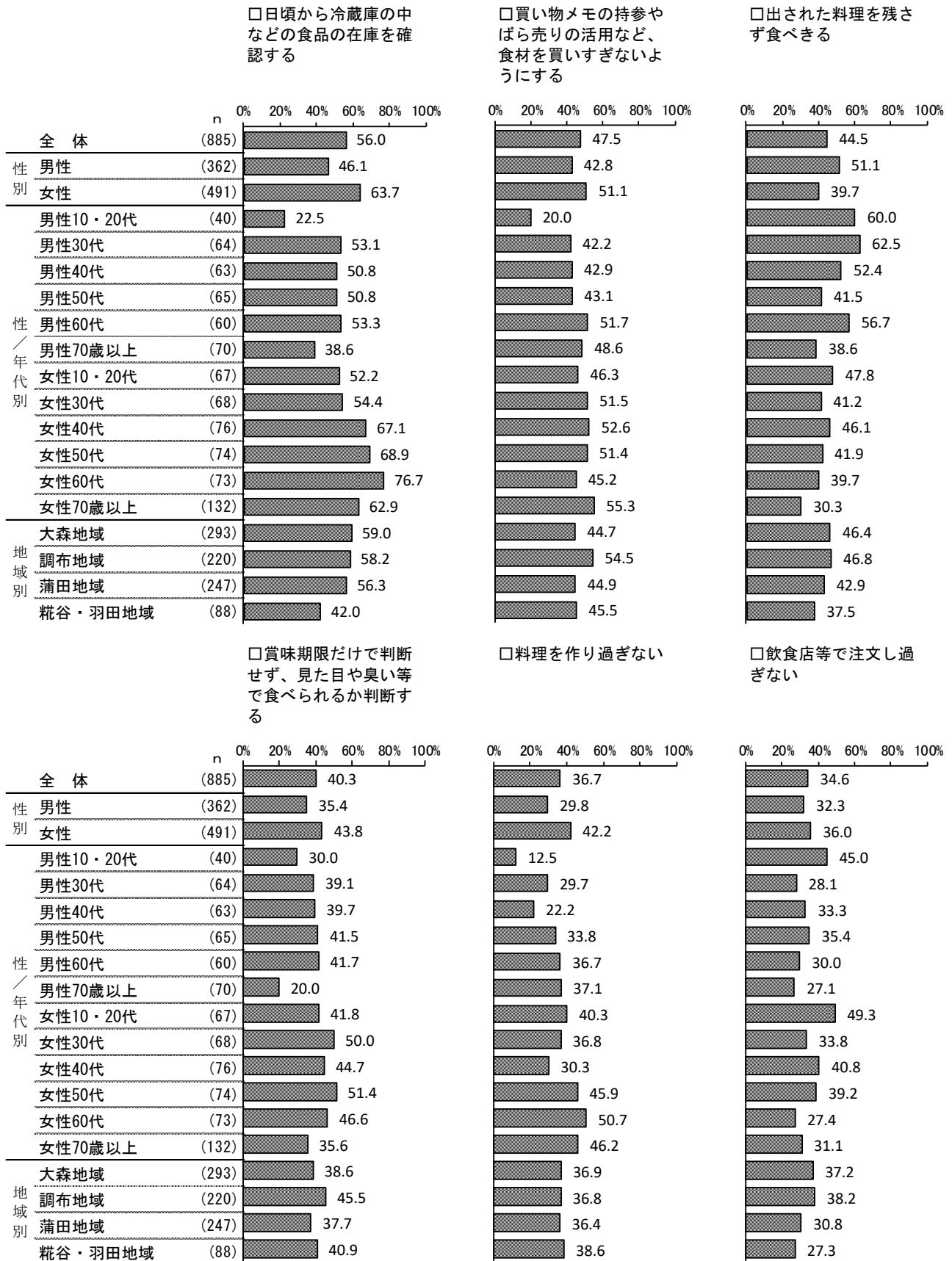
図表 14-3 「食品ロス」を減らすための取り組み



「食品ロス」を減らすために取り組んでいることを聞いたところ、「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が56.0%で最も高く、次いで、「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする」(47.5%)、「出された料理を残さず食べきる」(44.5%)となっている。

(図表 14-3)

図表 14-4 「食品ロス」を減らすための取り組み（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



「食品ロス」を減らすための取り組みについて、上位6項目を性別で見ると、男性は「出された料理を残さず食べきる」が、女性は「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、女性はすべての年代で「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が最も高くなっている。男性では10・20代、30代、40代、60代で「出された料理を残さず食べきる」が、50代で「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が、70歳以上で「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買い過ぎないようにする」が最も高くなっている。

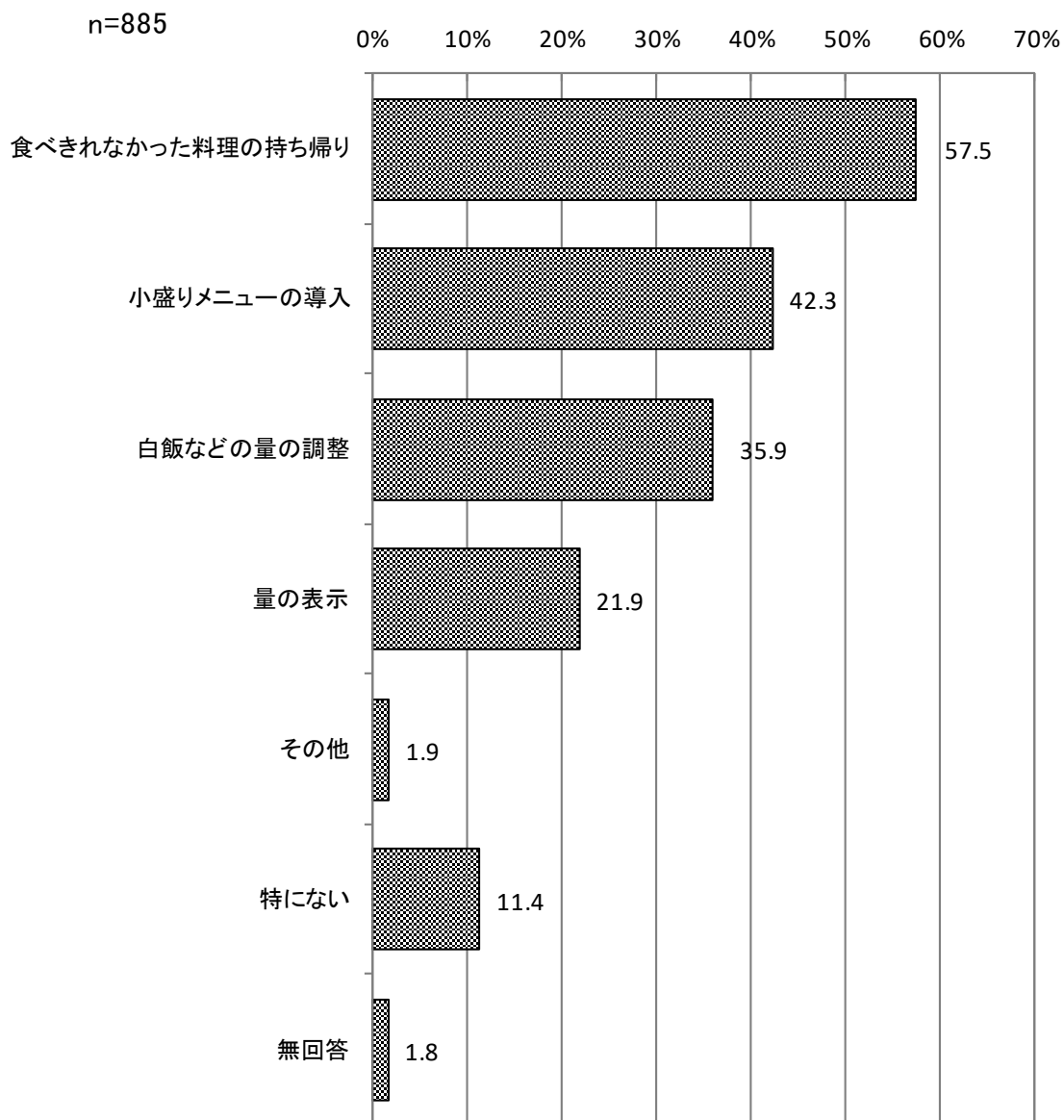
地域別で見ると、糀谷・羽田地域で「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買い過ぎないようにする」が、その他の地域で「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が最も高くなっている。(図表14-4)

(3) 食べ残しをしないためにお店にして欲しいこと

◎「食べきれなかった料理の持ち帰り」が5割後半で最も高くなっている

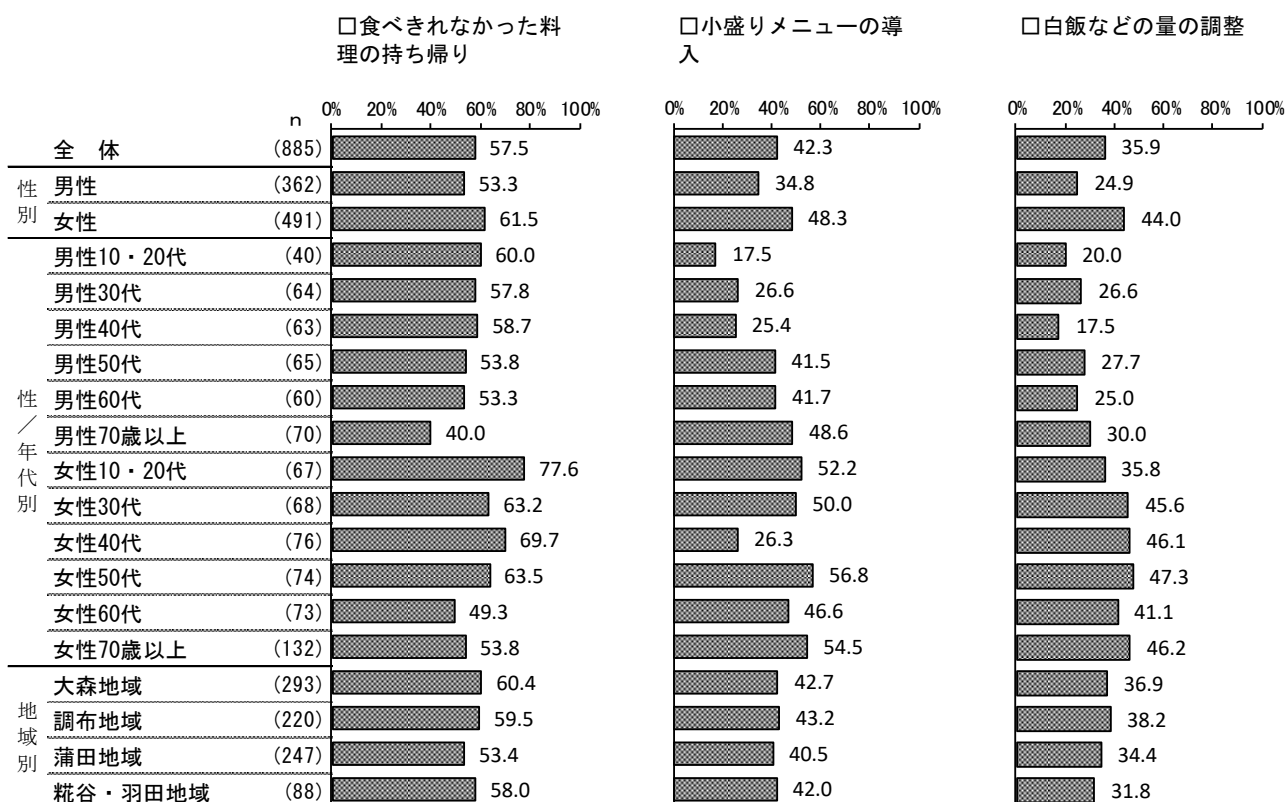
問 36 外食をするとき、食べ残しをしないためにお店にして欲しいことは何ですか。
(○はいくつでも)

図表 14-5 食べ残しをしないためにお店にして欲しいこと

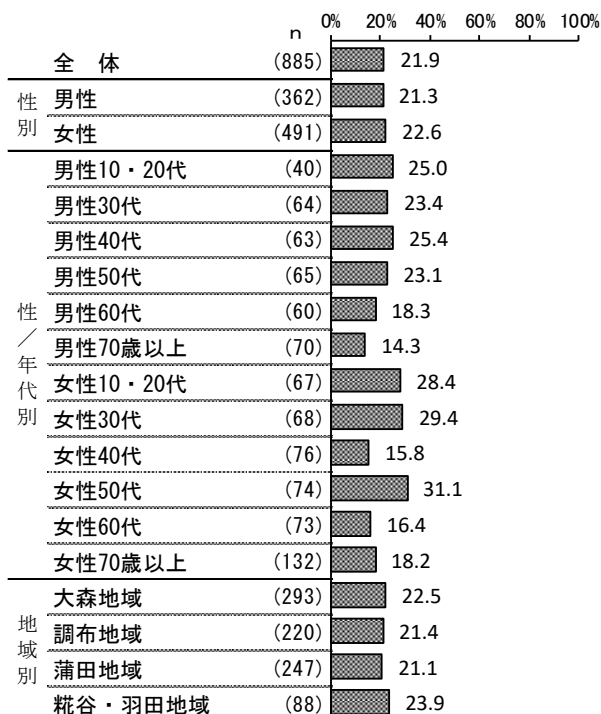


食べ残しをしないためにお店にして欲しいことについて聞いたところ、「食べきれなかった料理の持ち帰り」が57.5%で最も高く、次いで、「小盛りメニューの導入」(42.3%)、「白飯などの量の調整」(35.9%)となっている。(図表 14-5)

図表 14-6 食べ残しをしないためにお店にして欲しいこと（性別・性／年代別・地域別 上位4項目）



量の表示



食べ残しをしないためにお店にして欲しいことを性別で見ると、男女ともに「食べきれなかった料理の持ち帰り」が最も高くなっている。「小盛りメニューの導入」で女性（48.3%）が男性（34.8%）を13.5ポイント、「白飯などの量の調整」で女性（44.0%）が男性（24.9%）を19.1ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、男女ともに70歳以上で「小盛りメニューの導入」が、その他の性／年代では「食べきれなかった料理の持ち帰り」が最も高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「食べきれなかった料理の持ち帰り」が最も高くなっている。

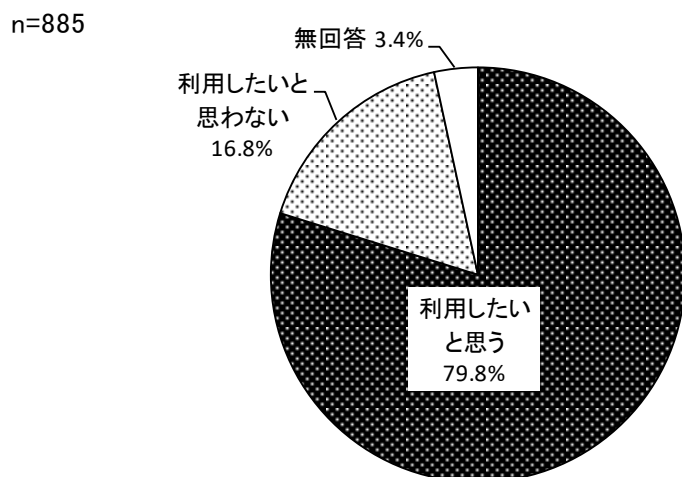
（図表14-6）

(4) 「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望

◎「利用したいと思う」が約8割となっている

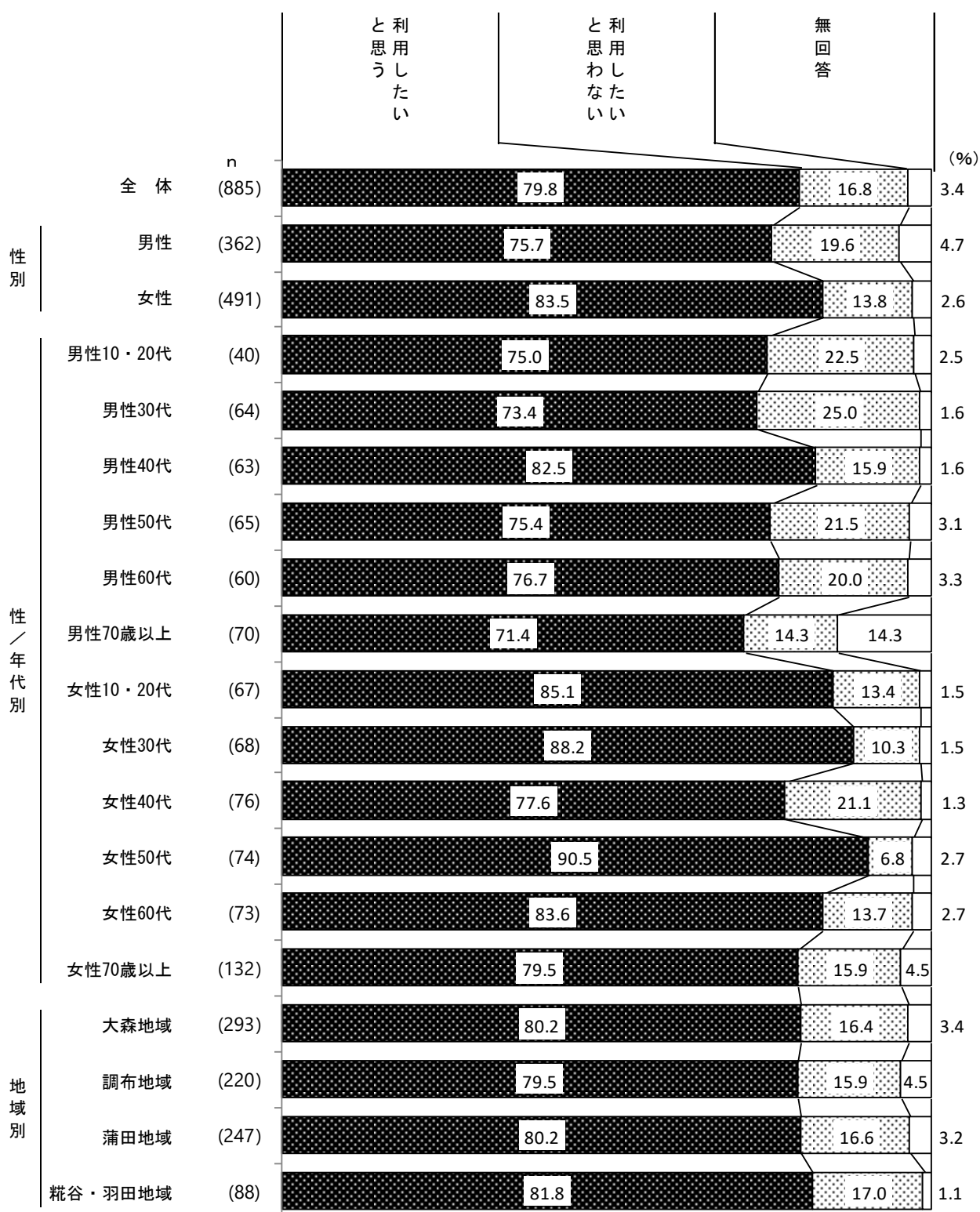
問 37 食品ロス削減に取り組む飲食店や食料品小売店等の情報があれば、そのお店を利用したいと思いますか。(〇は1つ)

図表 14-7 「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望



食品ロス削減に取り組むお店の情報があれば、そのお店を利用したいか聞いたところ、「利用したいと思う」が79.8%、「利用したいと思わない」が16.8%となっている。(図表14-7)

図表 14-8 「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望（性別・性／年代別・地域別）



「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望を性別で見ると、「利用したいと思う」は女性(83.5%)が男性(75.7%)を7.8ポイント上回っている。

性／年代別にみると、「利用したいと思う」は女性50代で約9割となっている。

地域別で見ると、「利用したいと思う」はすべての地域で約8割となっている。(図表 14-8)

(5) 「フードドライブ」への提供について

◎「提供したいと思う」が約5割となっている

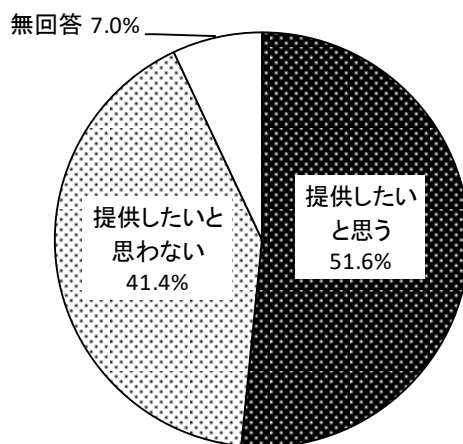
問 38 ご家庭の未利用食品を集めて、必要としている団体等に提供する活動を「フードドライブ」といいます。あなたの家で未利用食品が出た際、フードドライブに提供したいと思えますか。

(○は1つ)

※フードドライブに提供できる食品…主に米などの穀類、調味料、缶詰、インスタント食品など

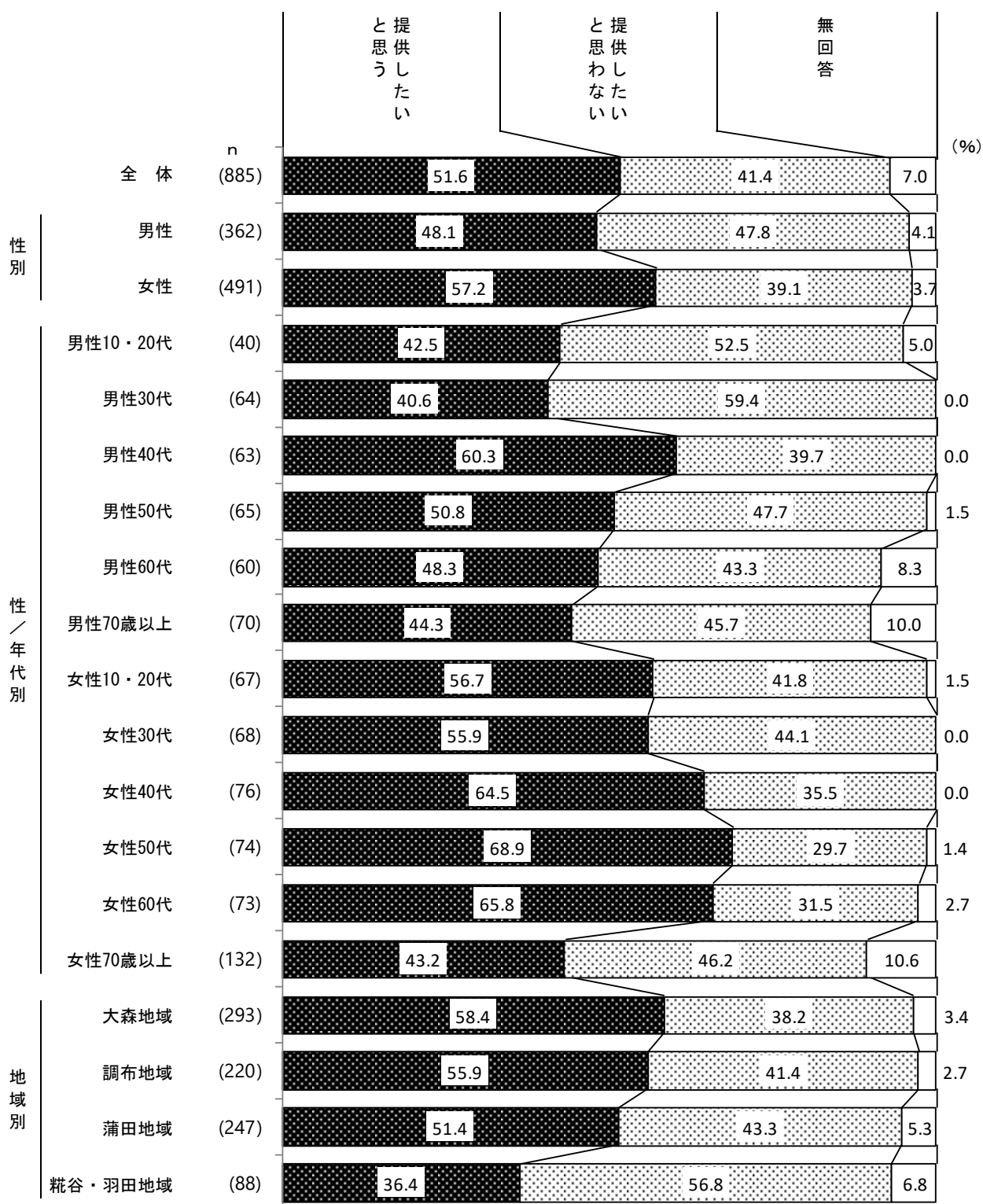
図表 14-9 「フードドライブ」への提供について

n=885



「フードドライブ」への提供について聞いたところ、「提供したいと思う」が51.6%、「提供したいと思わない」が41.4%となっている。(図表 14-9)

図表 14-10 「フードドライブ」への提供について（性・性／年齢別・地域別）



「フードドライブ」への提供について性別でみると、「提供したいと思う」は女性（57.2%）が男性（48.1%）を9.1ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「提供したいと思う」は男性40代、女性40代～60代で6割台となっている。

地域別でみると、大森地域、調布地域、蒲田地域では「提供したいと思う」が5割台となっている。

（図表 14-10）

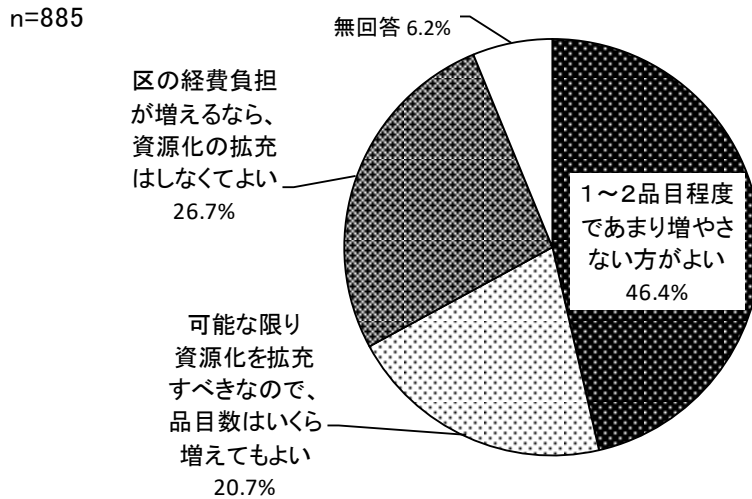
15 プラスチック容器の回収について

(1) 資源化のために適当な品目数について

◎「1～2品目程度であまり増やさない方がよい」が4割半ばで最も高くなっている

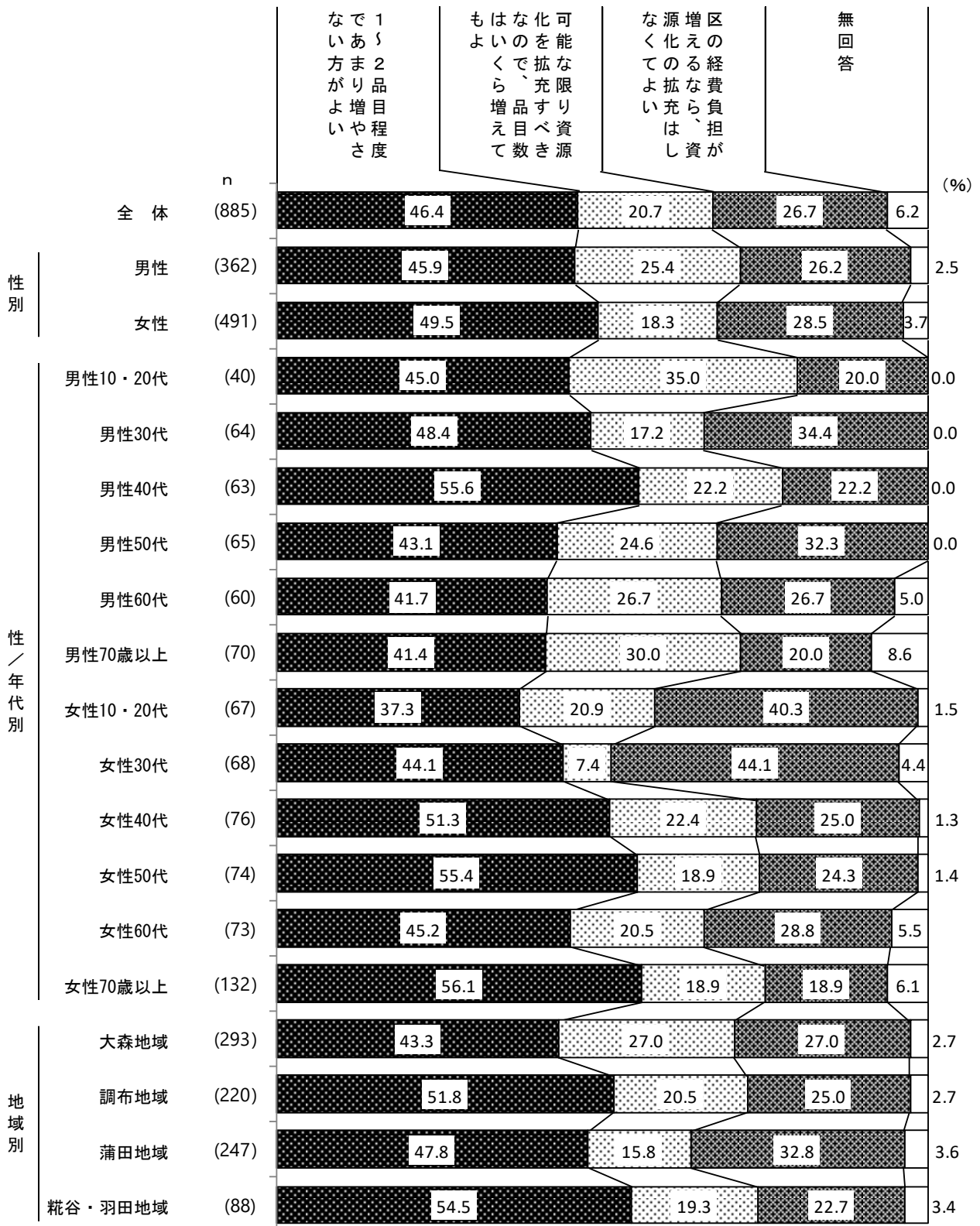
問 39 今まで可燃ごみとして出していたプラスチック製の容器や包装材を、今後資源として回収することになった場合、どの程度品目を増やすことが適当だと考えますか。(最も近いもの1つに○) ※資源化が拡充されますが、その分区の経費負担は増加します。

図表 15-1 資源化のために適当な品目数について



プラスチック容器の資源化のために適当な品目数について聞いたところ、「1～2品目程度であまり増やさない方がよい」が46.4%で最も高く、次いで、「区を経費負担が増えるなら、資源化の拡充はしなくてよい」(26.7%)、「可能な限り資源化を拡充すべきなので、品目数はいくら増えてもよい」(20.7%)となっている。(図表 15-1)

図表 15-2 資源化のために適当な品目数について（性別・性／年代別・地域別）



プラスチック容器の資源化のために適当な品目数について、性別でみると大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、男性はすべての年代で「1～2品目程度であまり増やさない方がよい」が最も高くなっている。女性は40代以上で「1～2品目程度であまり増やさない方がよい」が、10・20代で「区の経費負担が増えるなら、資源化の拡充はしなくてよい」が、30代で「1～2品目程度であまり増やさない方がよい」と「区の経費負担が増えるなら、資源化の拡充はしなくてよい」が同率で最も高くなっている。

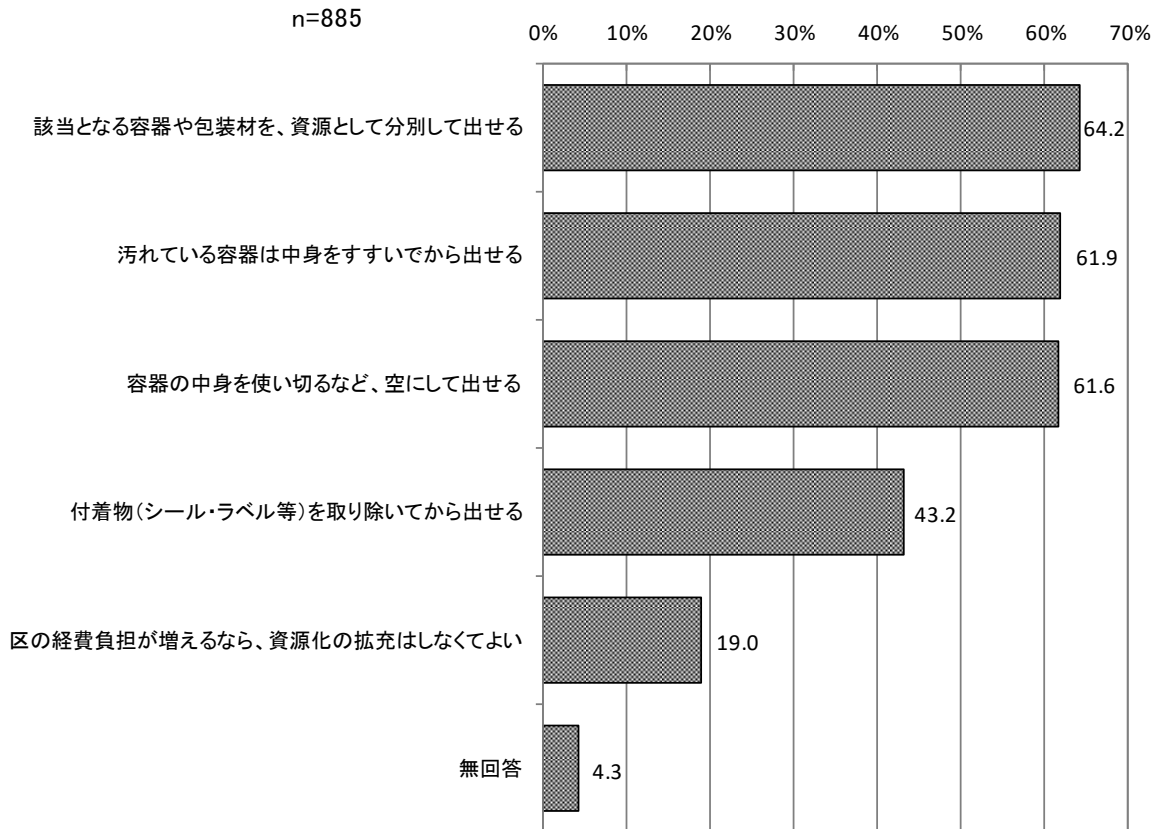
地域別でみると、すべての地域が「1～2品目程度であまり増やさない方がよい」が最も高くなっている。(図表 15-2)

(2) 資源化のために、どこまで手間をかけられるか

◎「該当となる容器や包装材を、資源として分別して出せる」、「汚れている容器は中身をすすいでから出せる」、「容器の中身を使い切るなど、空にして出せる」が6割台となっている

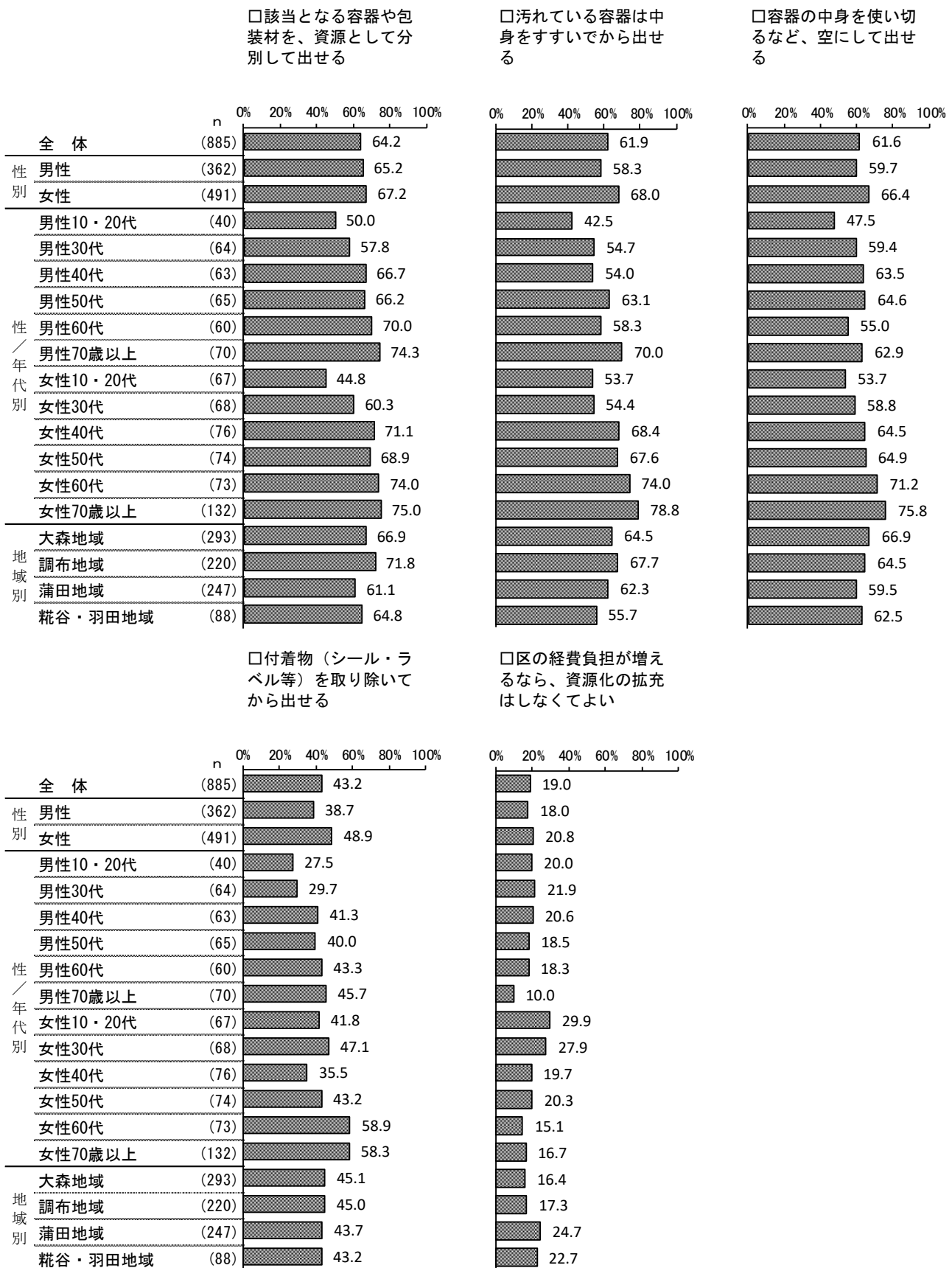
問 40 今まで可燃ごみとして出していたプラスチック製の容器や包装材を、今後資源として回収することになった場合、どこまでなら手間をかけることができますか。(〇はいくつでも)
 ※資源化拡充のため経費は増えますが、かける手間が多くなると、区の経費負担は抑制されます。

図表 15-3 資源化のために、どこまで手間をかけられるか



プラスチック容器の資源化のために、どこまで手間をかけられるかについて聞いたところ、「該当となる容器や包装材を、資源として分別して出せる」が64.2%で最も高く、次いで、「汚れている容器は中身をすすいでから出せる」(61.9%)、「容器の中身を使い切るなど、空にして出せる」(61.6%)となっている。(図表 15-3)

図表 15-4 資源化のために、どこまで手間をかけられるか（性別・性/年代別・地域別 上位5項目）



プラスチック容器の資源化のために、どこまで手間をかけられるかについて、上位5項目を性別で見ると、「付着物（シール・ラベル等）を取り除いてから出せる」は女性（48.9%）が男性（38.7%）を10.2ポイント、「汚れている容器は中身をすすいでから出せる」は女性（68.0%）が男性（58.3%）を9.7ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「該当となる容器や包装材を、資源として分別して出せる」、「汚れている容器は中身をすすいでから出せる」は男女ともに概ね年代が上がるにつれ高くなっている。

地域別で見ると、「該当となる容器や包装材を、資源として分別して出せる」、「汚れている容器は中身をすすいでから出せる」、「容器の中身を使い切るなど、空にして出せる」はいずれの地域でも5割以上となっている。（図表15-4）

Ⅲ 18歳以上の区民の方が対象

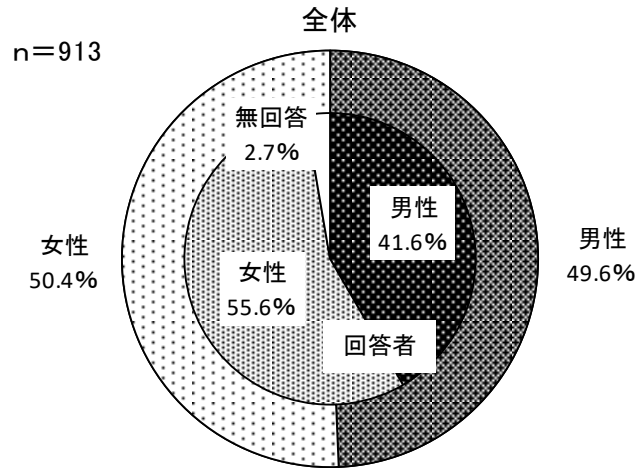
②スポーツ・福祉・保健分野などの調査結果

1 回答者の属性

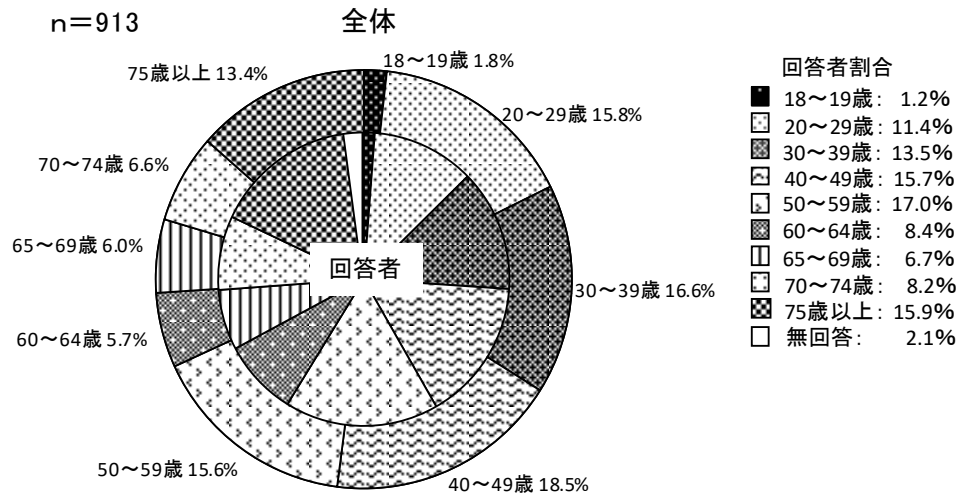
【性別】

全体：大田区の18歳以上の人口（n=638,565）※令和3年1月1日

回答者：有効回収数（n=913）

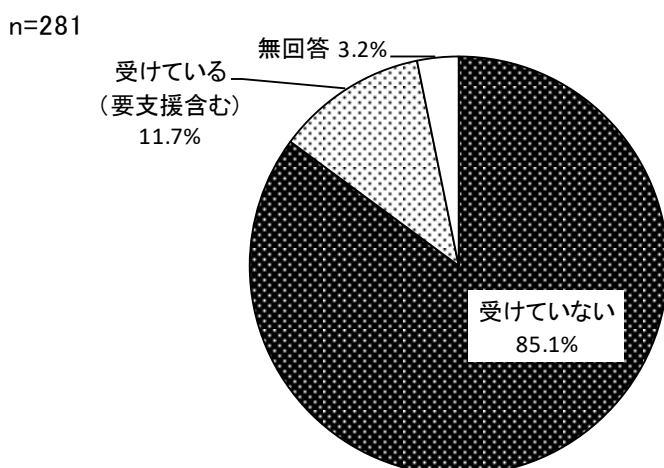


【年齢】

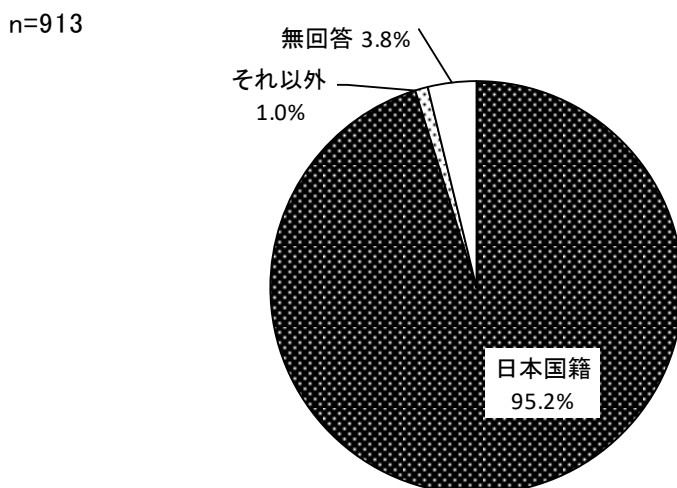


【出典】大田区：年齢別人口報告表資料（日本人+外国人）令和3年1月1日現在版

【介護保険制度の要介護認定を受けているか（65歳以上の方）】



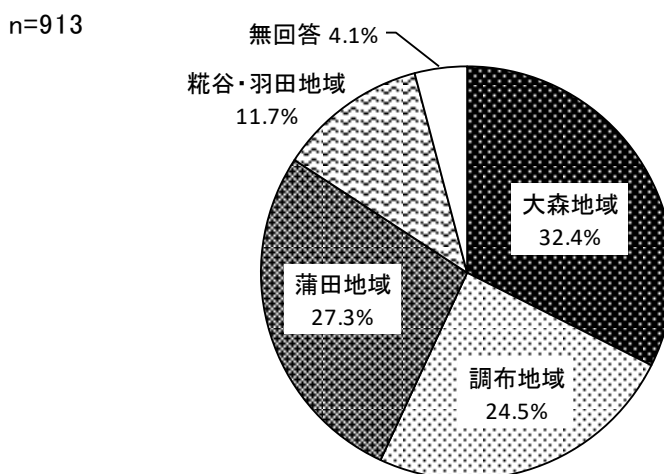
【国籍】



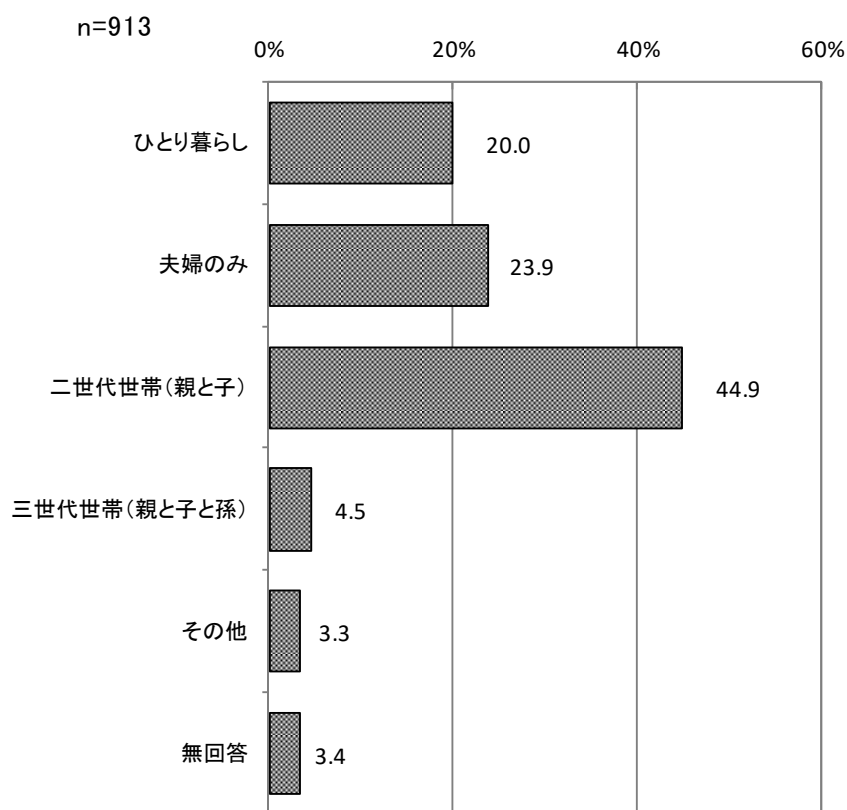
(日本国籍以外)

	中国	韓国	モンゴル	ネパール	ベトナム	無回答
人数	2	2	1	1	1	2

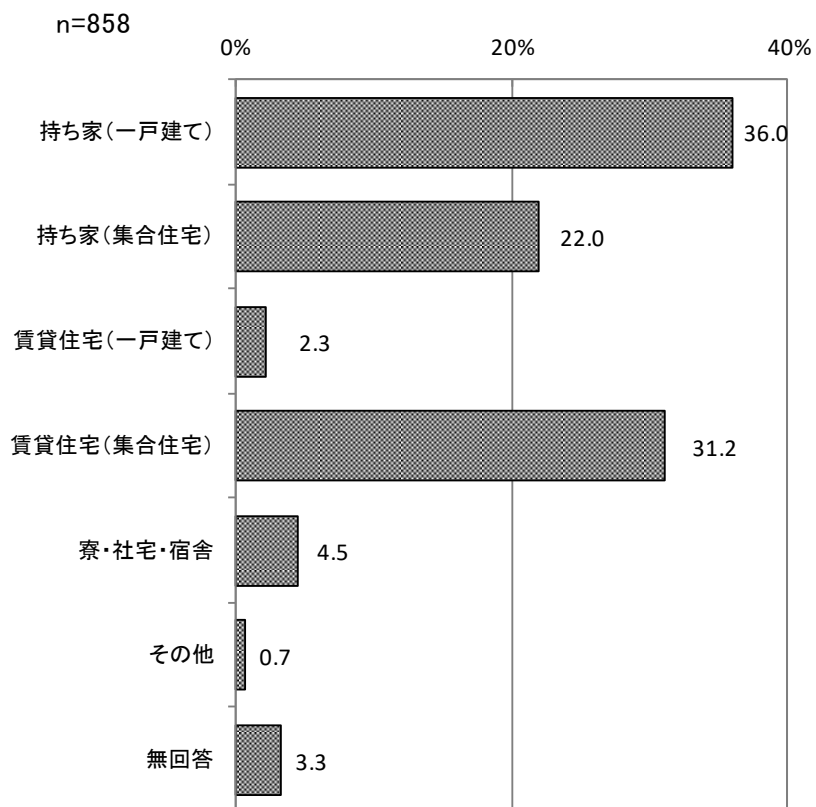
【住まいの地域】



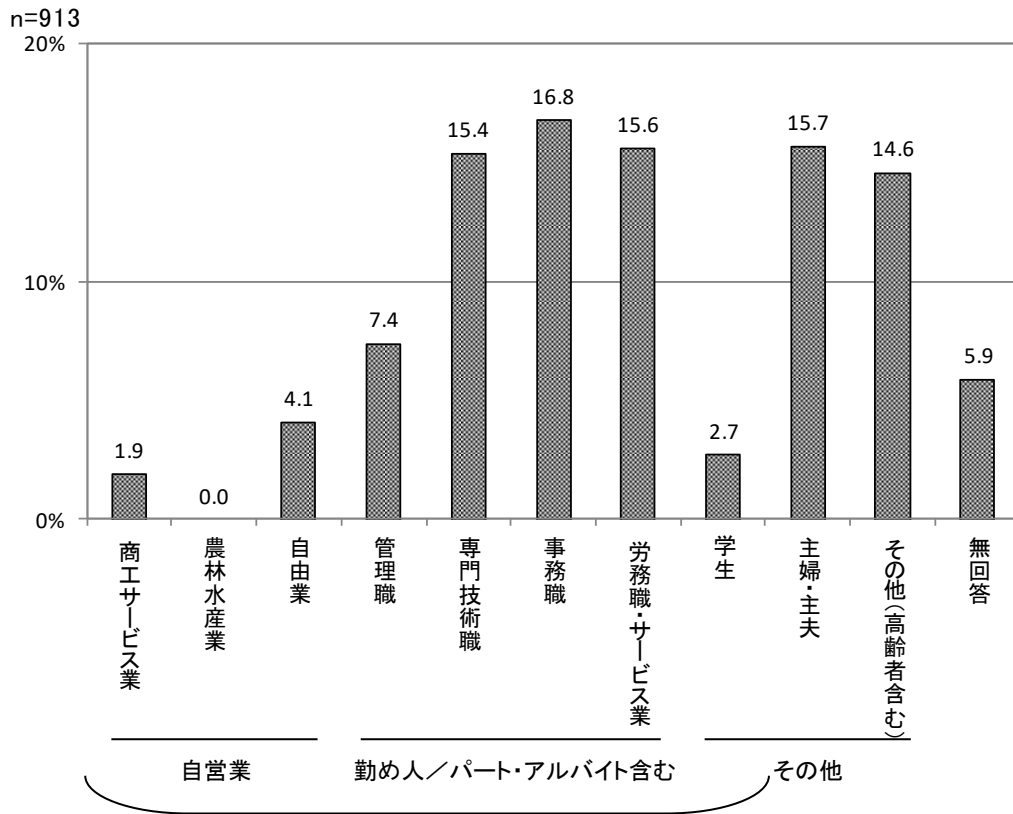
【家族構成】



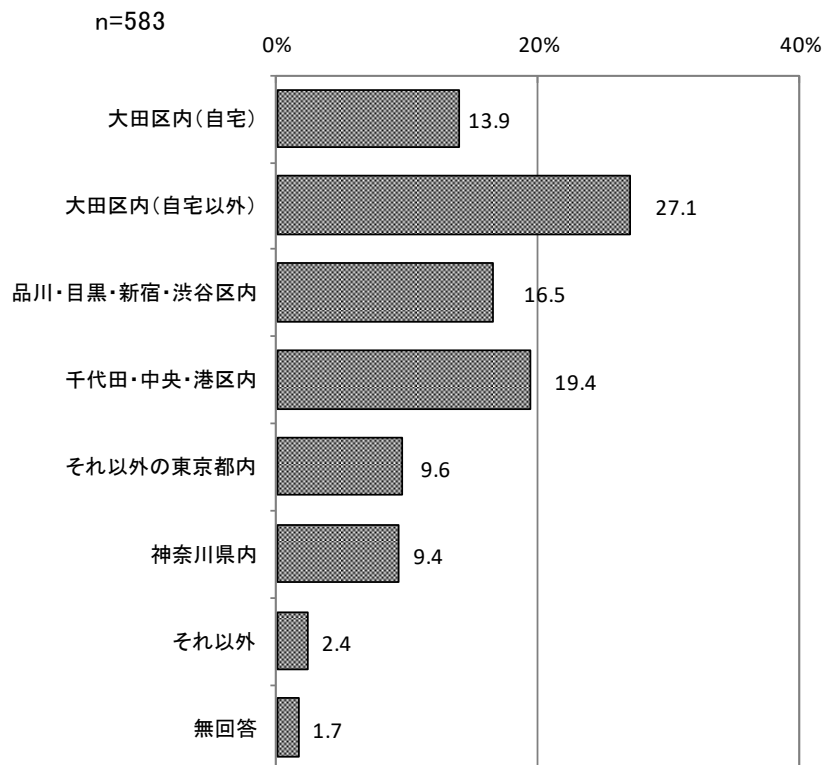
【住まいの種類】



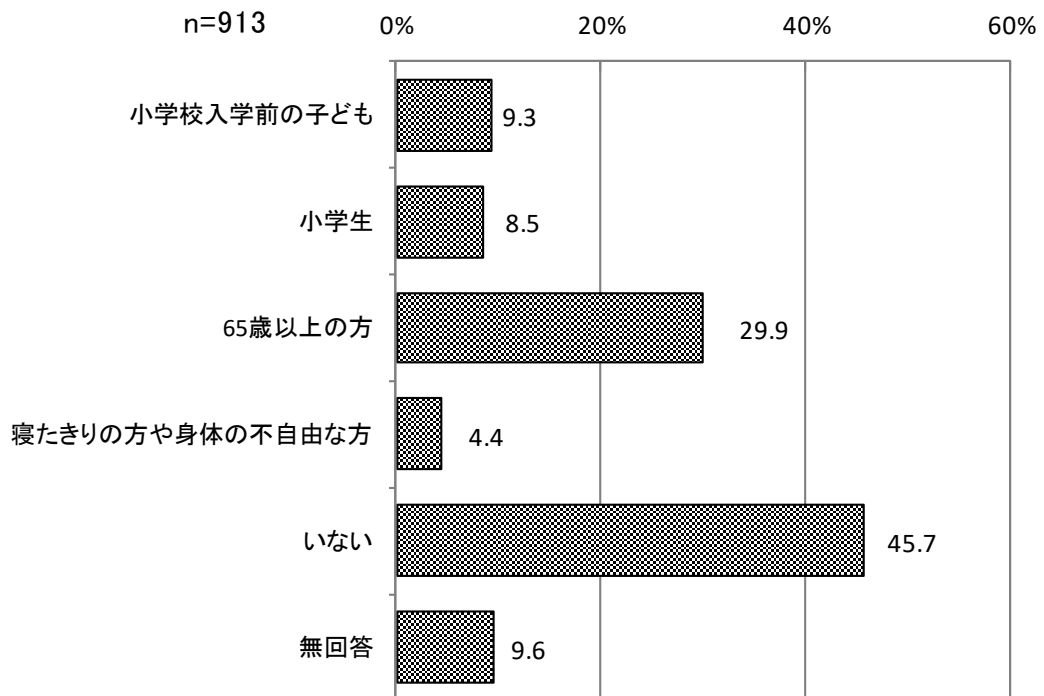
【職業】



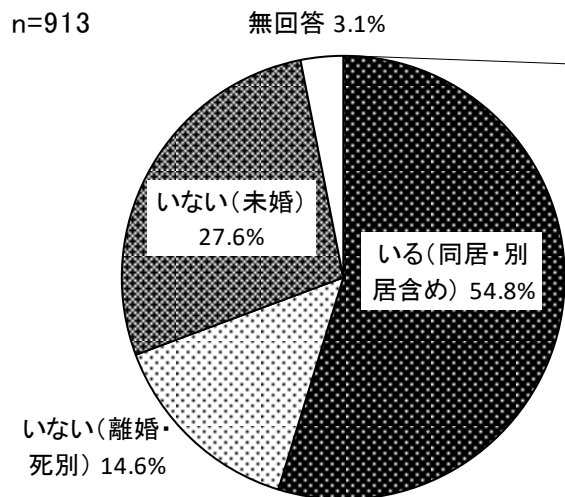
【主な通勤・通学先】



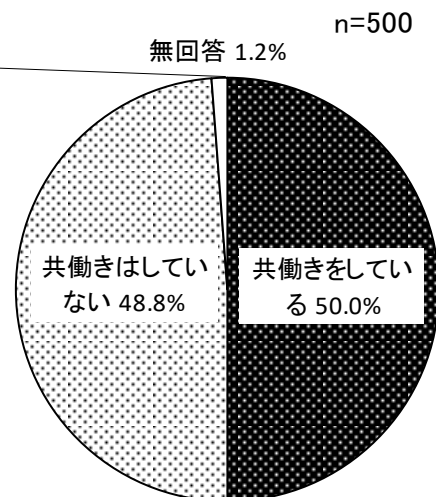
【同居家族】



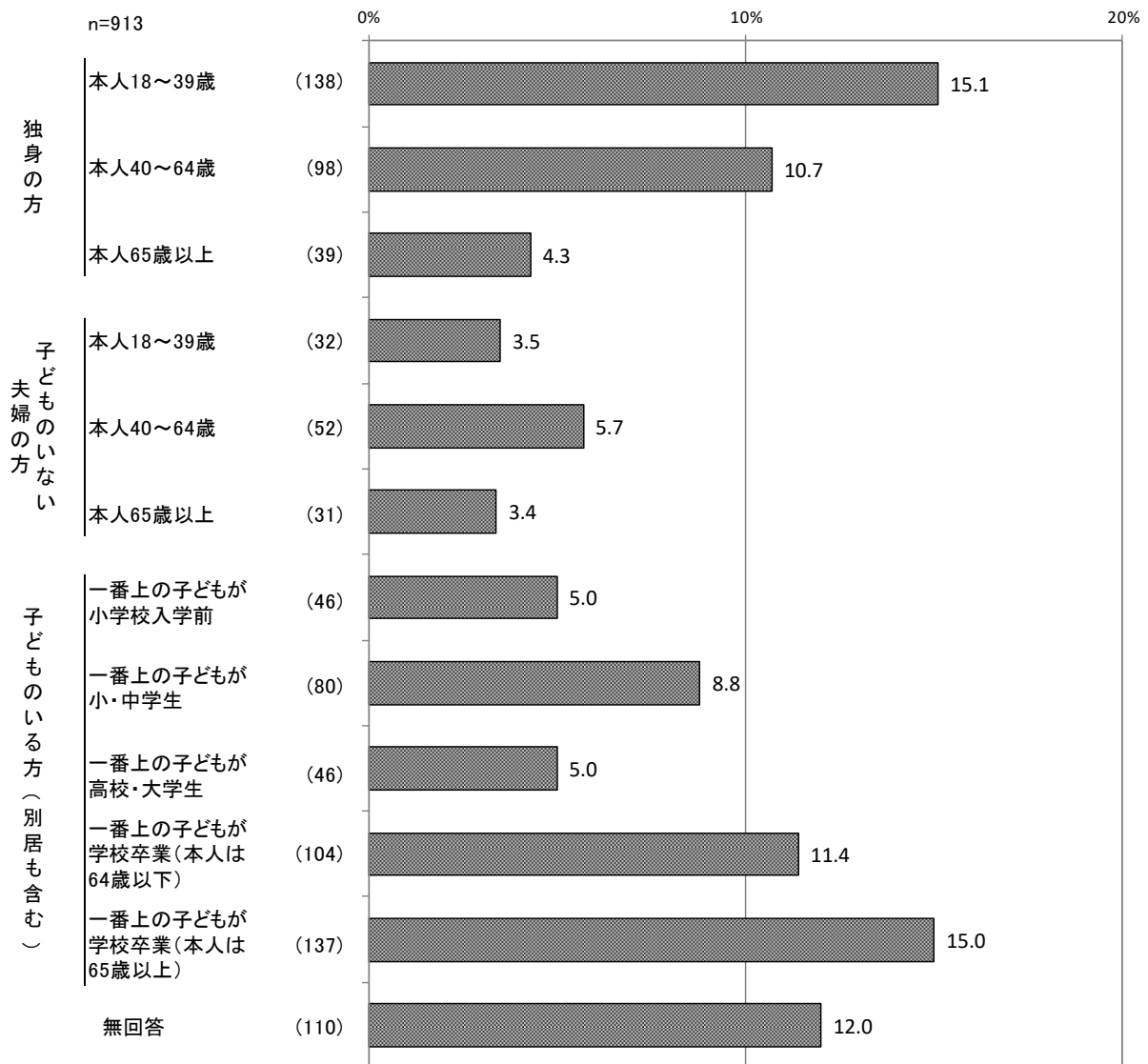
【配偶者の有無】



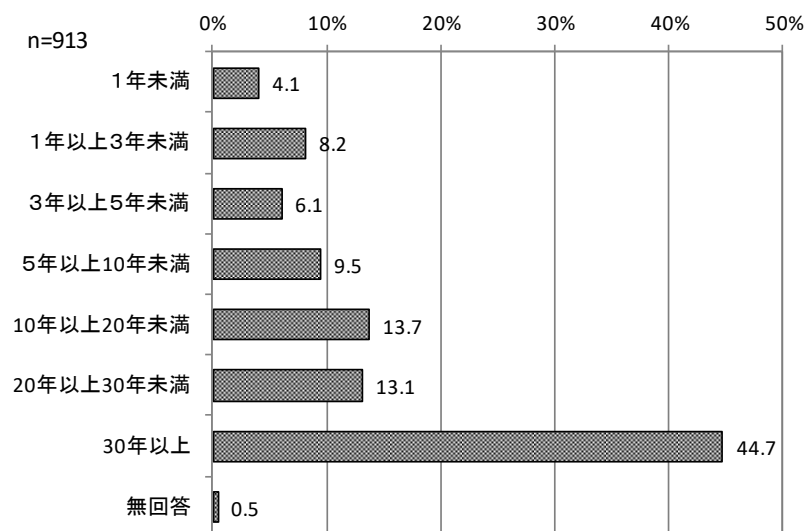
【(配偶者のいる方) 共働きについて】



【ご自身のステージ】



【大田区にお住まいの期間】



2 各種認知度について

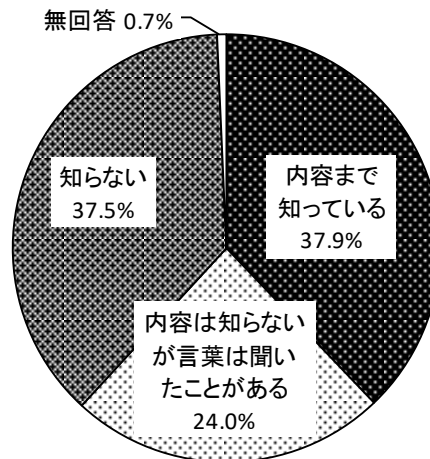
(1) 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度

◎ 「内容まで知っている」は3割後半となっている

問1 「ワーク・ライフ・バランス」とは、「仕事と生活の調和」を意味する言葉ですが、あなたはこの言葉を知っていましたか。(○は1つ)

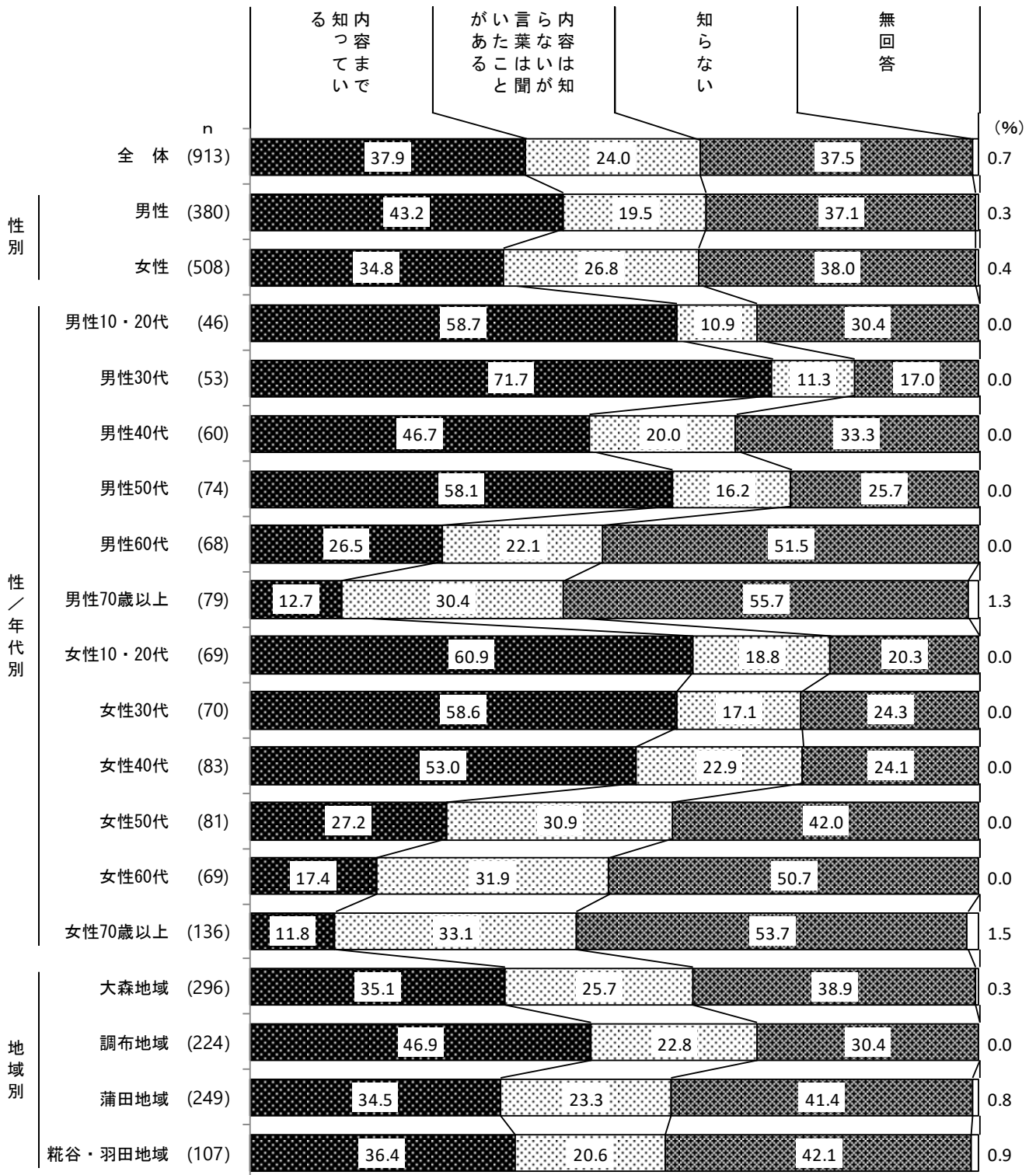
図表2-1 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度

n=913



「ワーク・ライフ・バランス」の認知度について聞いたところ、「内容まで知っている」が37.9%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が24.0%、「知らない」が37.5%となっている。(図表2-1)

図表2-2 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度（性・性/年齢別・地域別）



「ワーク・ライフ・バランス」の認知度を性別で見ると、「内容まで知っている」は男性（43.2%）が女性（34.8%）を8.4ポイント上回っている。

性/年齢別で見ると、「内容まで知っている」は男性では30代が約7割、10・20代、50代が5割後半となっている。女性では10・20代が約6割で、年代が上がるにつれて低くなっている。

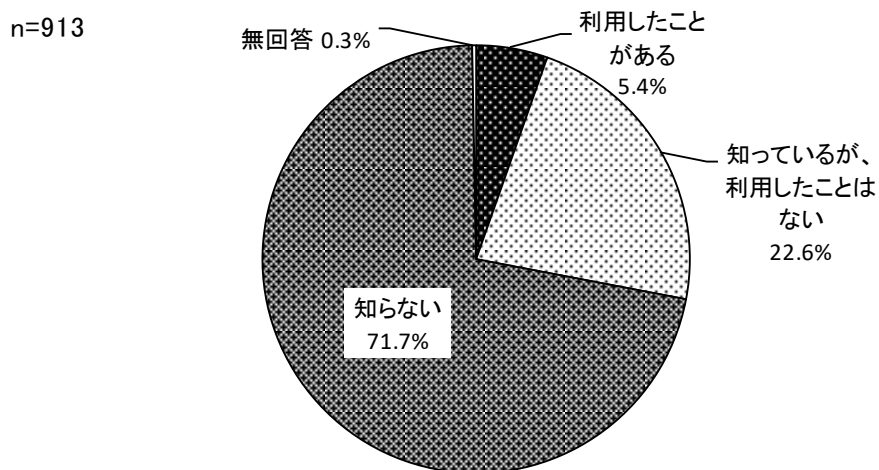
地域別で見ると、「内容まで知っている」は調布地域で4割半ば、その他の地域では3割半ばとなっている。（図表2-2）

(2)「エセナおおた」の認知度

◎「知らない」が約7割となっている

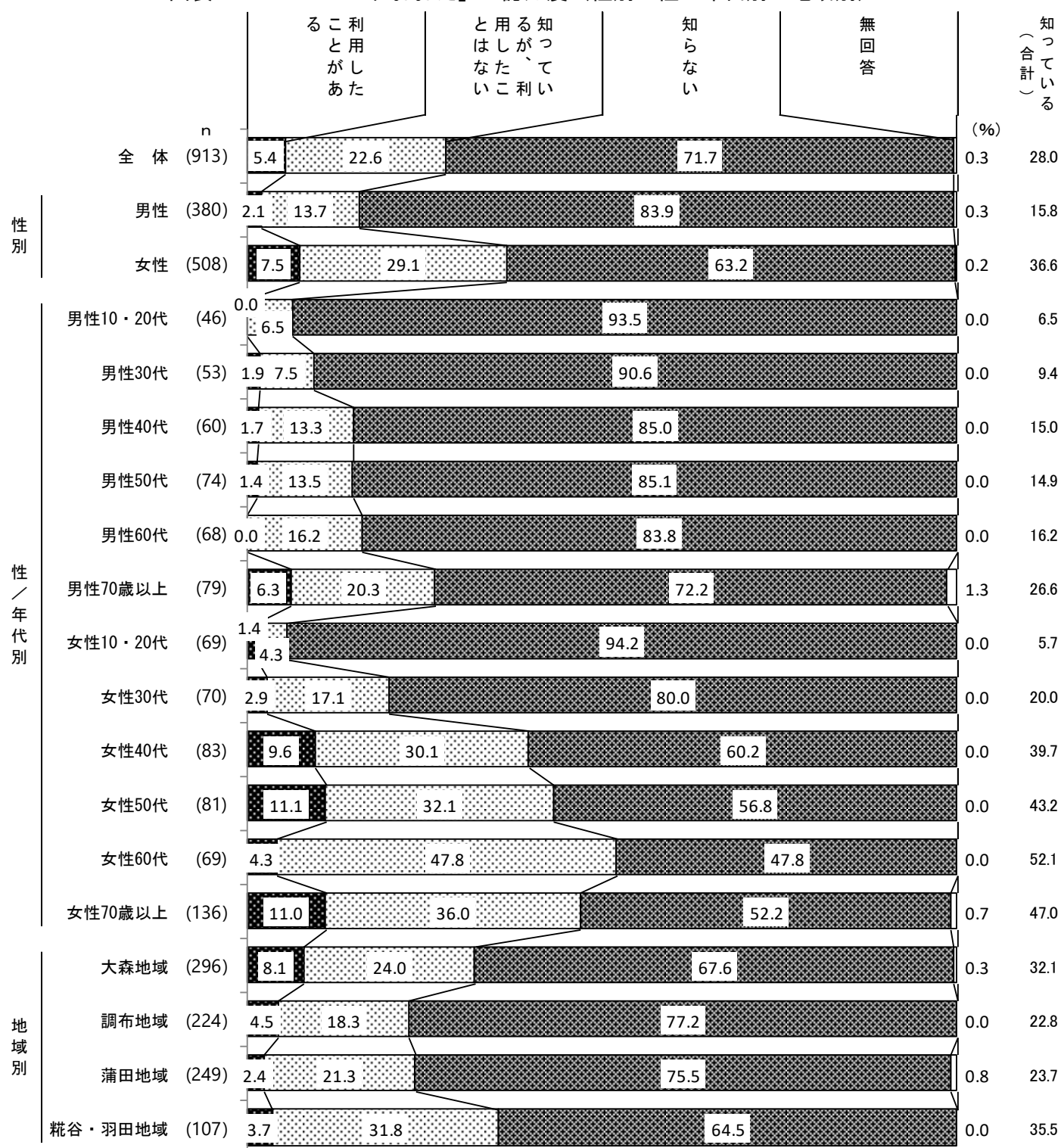
問2 区では、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みとして様々な講座や展示などの事業を実施しています。これらを主に実施している施設である、男女平等推進センター「エセナおおた」を知っていますか。(○は1つ)

図表2-3 「エセナおおた」の認知度



「エセナおおた」の認知度について聞いたところ、「知っているが、利用したことはない」(22.6%)、「利用したことがある」(5.4%)を合わせた《知っている(合計)》は28.0%となっている。一方、「知らない」は71.7%となっている。(図表2-3)

図表 2-4 「エセナおおた」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「エセナおおた」の認知度を性別で見ると、「知っている (合計)」は女性 (36.6%) が男性 (15.8%) を 20.8 ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「知っている (合計)」は、男性は年代が上がるにつれて高くなっている。女性は 60 代 (52.1%) で 5 割前半となっている。

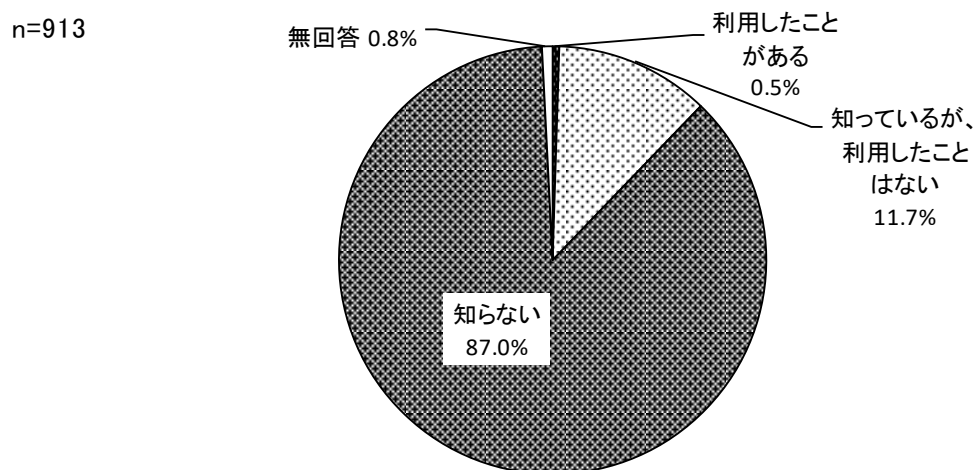
地域別で見ると、「知っている (合計)」は大森地域、糞谷・羽田地域で 3 割台、調布地域、蒲田地域で 2 割前半となっている。(図表 2-4)

(3) 「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度

◎ 「知らない」が8割後半となっている

問3 男女平等推進センター「エセナおおた」では、「女性のためのたんぽぽ相談」で女性の様々な悩みに関する相談を受け付けていることを知っていますか。(○は1つ)

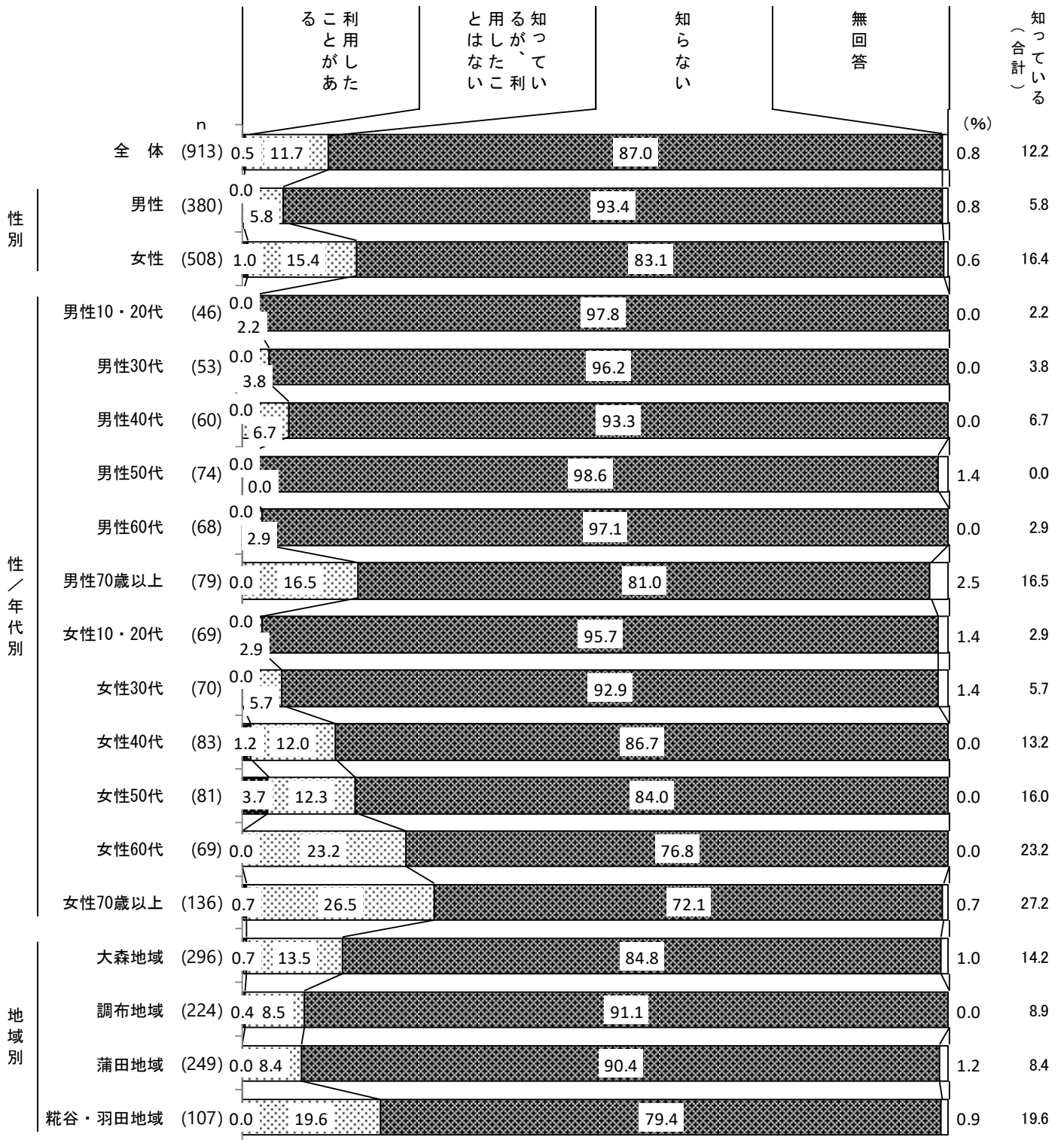
図表2-5 「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度



「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度について聞いたところ、「利用したことがある」(0.5%)、「知っているが利用したことはない」(11.7%)を合わせた《知っている(合計)》は12.2%となっている。

一方、「知らない」は87.0%となっている。(図表2-5)

図表 2-6 「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度を性別で見ると、《知っている（合計）》は女性（16.4%）が男性（5.8%）を10.6ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、《知っている（合計）》は女性では年代が上がるにつれて高くなっている。男性では70歳以上が1割半ば、その他の年代は1割に満たず、50代では0.0%となっている。

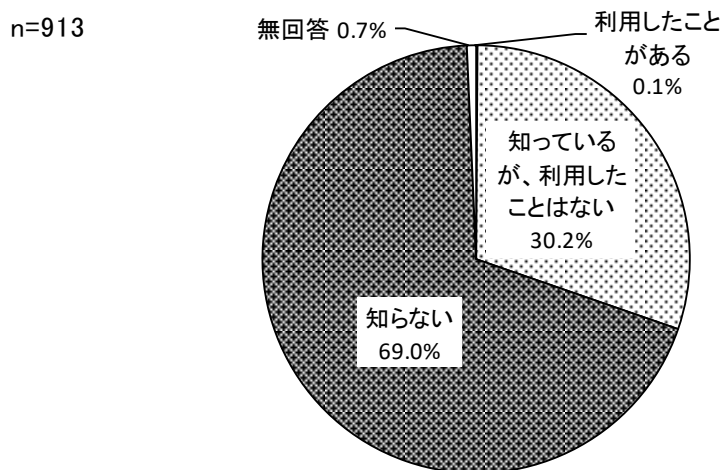
地域別で見ると、《知っている（合計）》は調布地域（8.9%）、蒲田地域（8.4%）で1割未満となっている。（図表2-6）

(4) 「大田区DV相談ダイヤル」の認知度

◎ 「知らない」が約7割となっている

問4 区では、「大田区DV相談ダイヤル」を設置し、配偶者やパートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）に関する相談を受け付けていることを知っていますか。
(○は1つ)

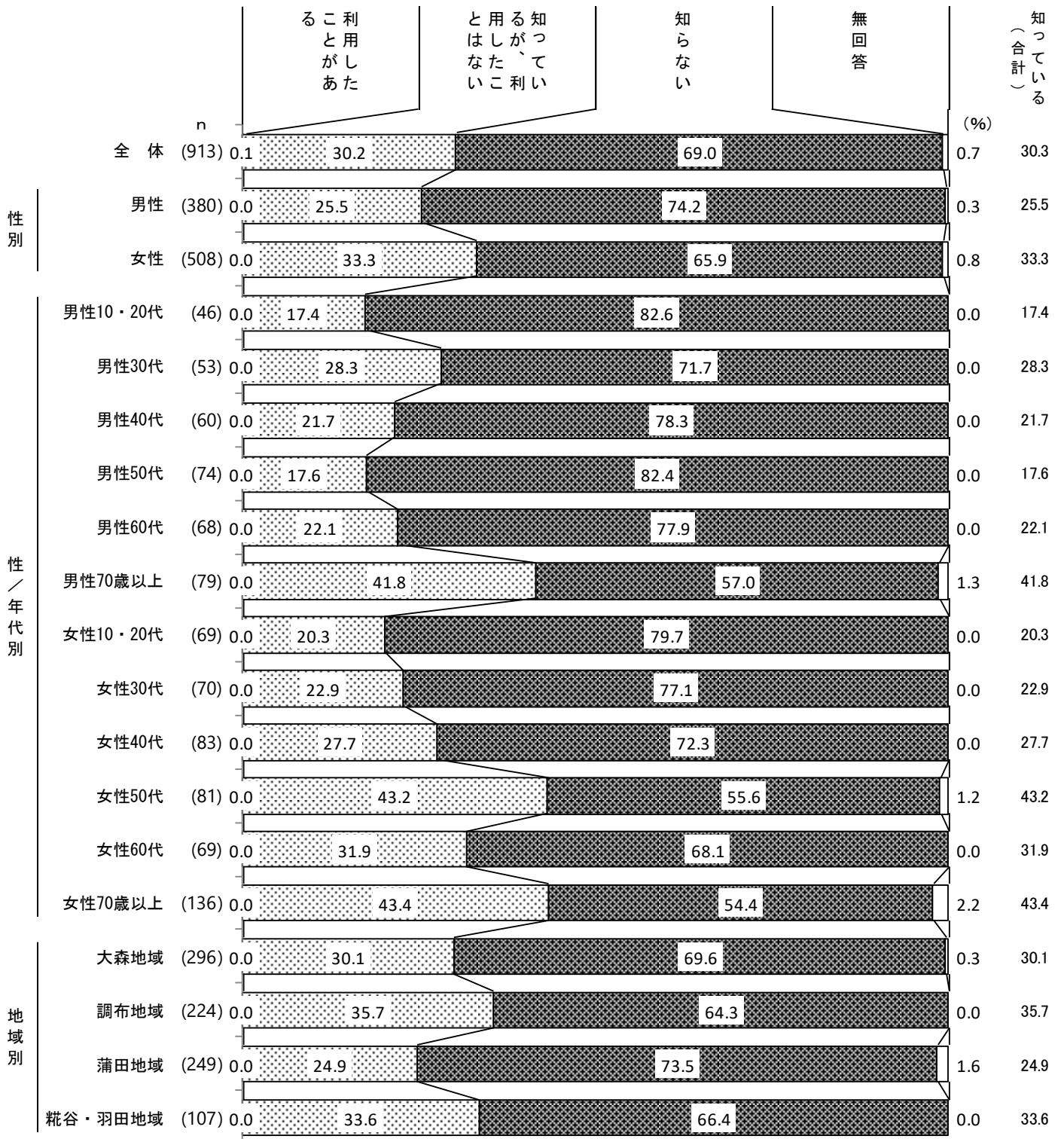
図表2-7 「大田区DV相談ダイヤル」の認知度



「大田区DV相談ダイヤル」の認知度について聞いたところ、「利用したことがある」(0.1%)、「知っているが、利用したことはない」(30.2%)を合わせた《知っている(合計)》は30.3%となっている。

一方、「知らない」が69.0%となっている。(図表2-7)

図表 2-8 「大田区DV相談ダイヤル」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「大田区DV相談ダイヤル」の認知度を性別で見ると、「知っているが、利用したことはない」は女性（33.3%）が男性（25.5%）を7.8ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「知っているが、利用したことはない」は男性70歳以上、女性50代、70歳以上で4割台となっている。

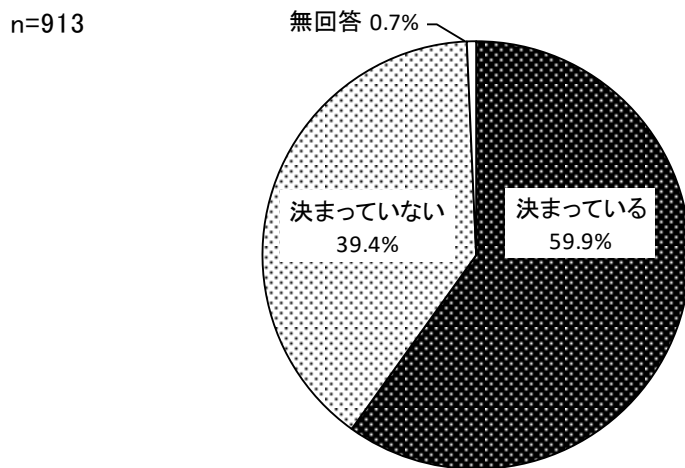
地域別で見ると、「知っているが、利用したことはない」は蒲田地域で2割半ば、その他の地域で3割台となっている。（図表2-8）

(5) 災害時の避難先を決めているか

◎「決まっている」が約6割となっている

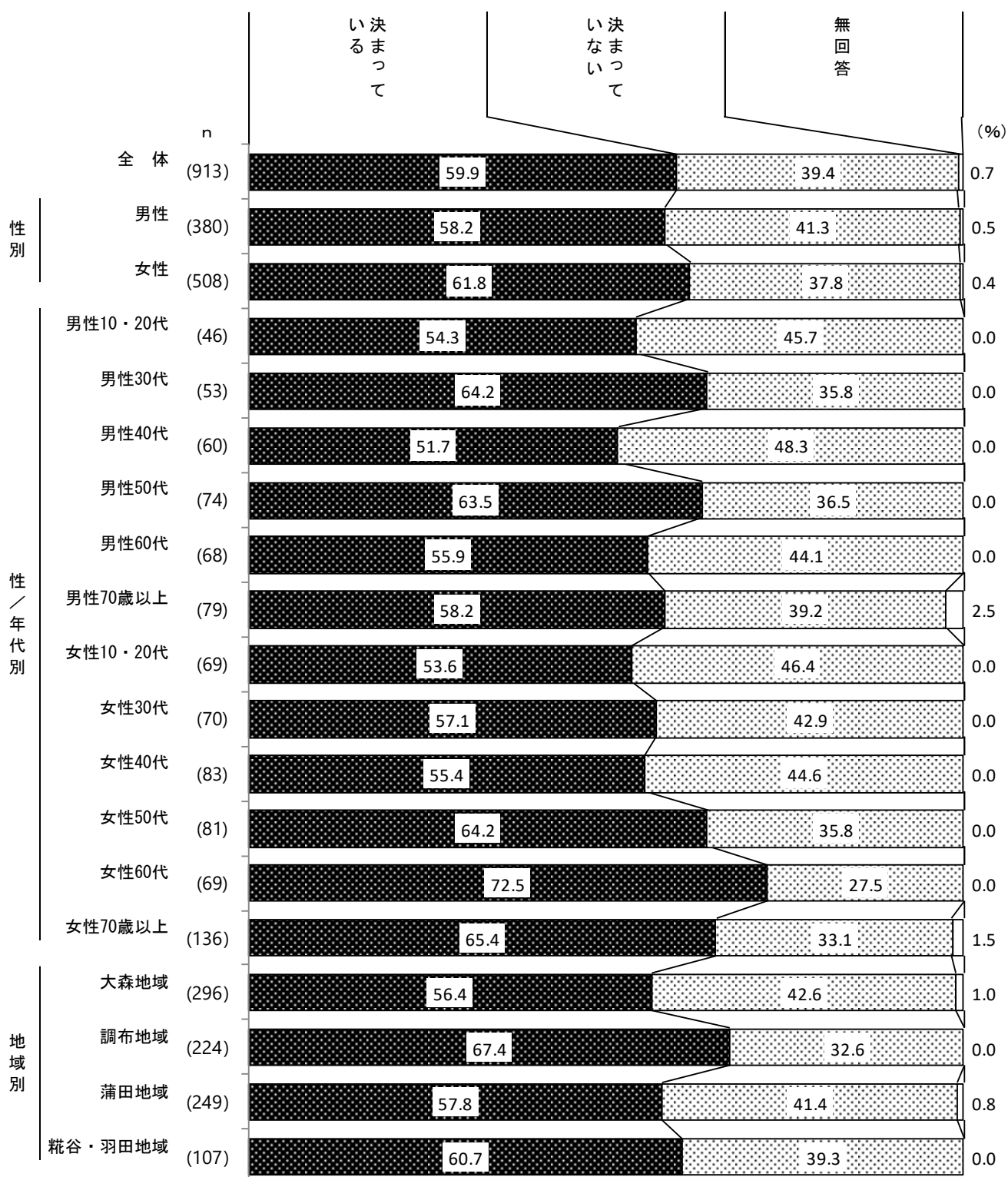
問5 災害時の避難先は決まっていますか。(○は1つ)

図表2-9 災害時の避難先を決めているか



災害時の避難先を決めているかについて聞いたところ、「決まっている」が59.9%、「決まっていない」が39.4%となっている。(図表2-9)

図表 2-10 災害時の避難先を決めているか（性別・性／年代別・地域別）



災害時の避難先を決めているかについて性別で見ると、大きな差異は見られなかった。性／年代別で見ると、「決まっている」はすべての性／年代で5割以上となっている。

地域別で見ると、「決まっている」は調布地域、糀谷・羽田地域で6割台、大森地域、蒲田地域で5割台となっている（図表2-10）

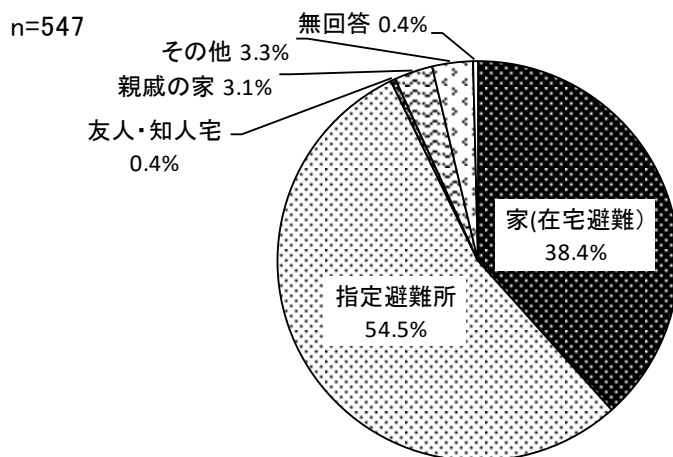
(6) 災害時の避難場所

◎「指定避難所」が5割半ばで最も高くなっている

【問5で「1. 決まっている」と回答された方】

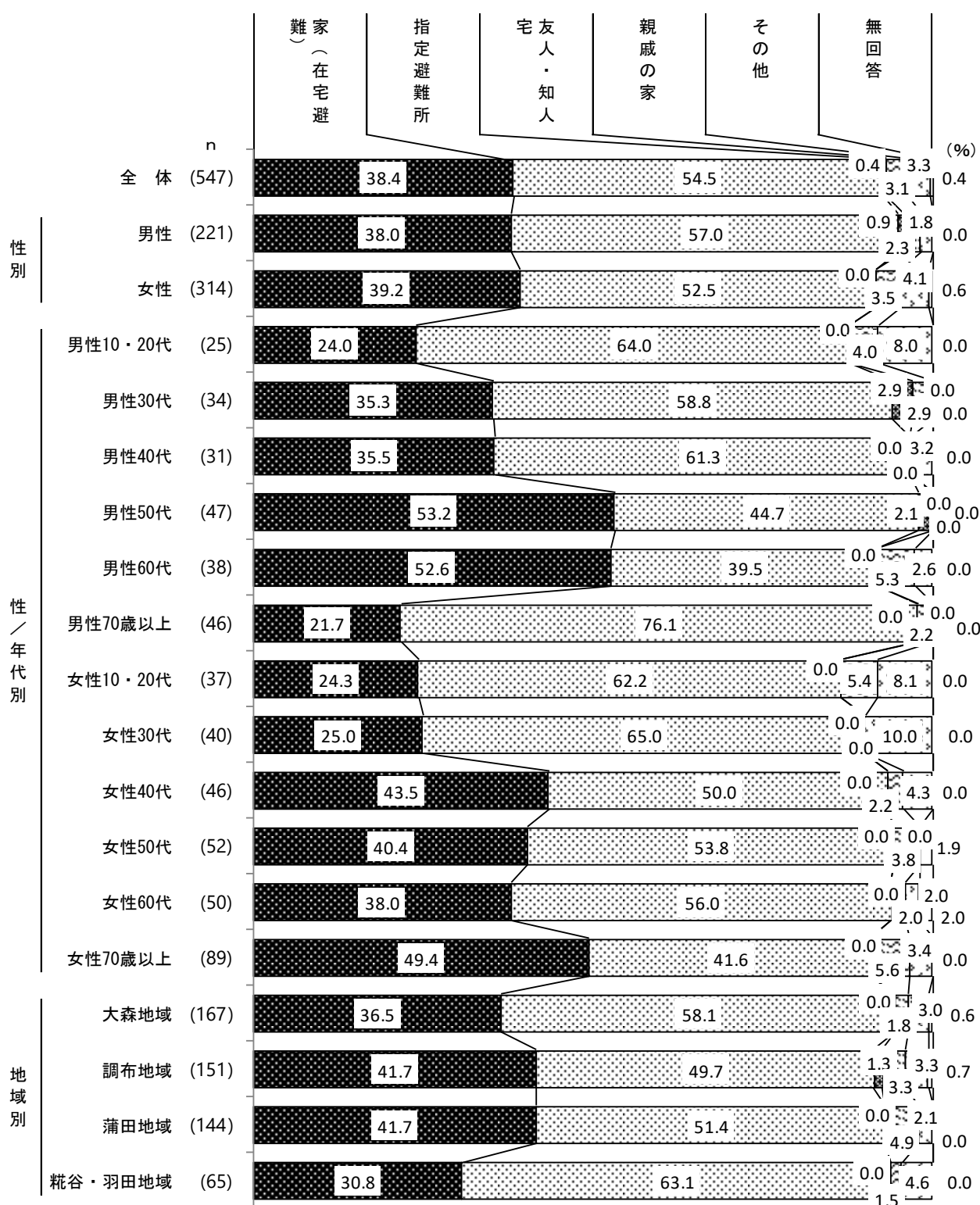
問5-1 避難先はどこですか。(○は1つ)

図表2-11 災害時の避難場所



災害時の避難場所について聞いたところ、「指定避難所」が54.5%で最も高く、次いで、「家（在宅避難）」（38.4%）などとなっている。（図表2-11）

図表 2-12 災害時の避難場所（性別・性／年代別・地域別）



災害時の避難場所について性別でみると、大きな差異はみられなかった。

性／年代別でみると、「家（在宅避難）」は男性 50 代、60 代が 5 割前半、女性 70 歳以上が約 5 割で最も高くなっている。

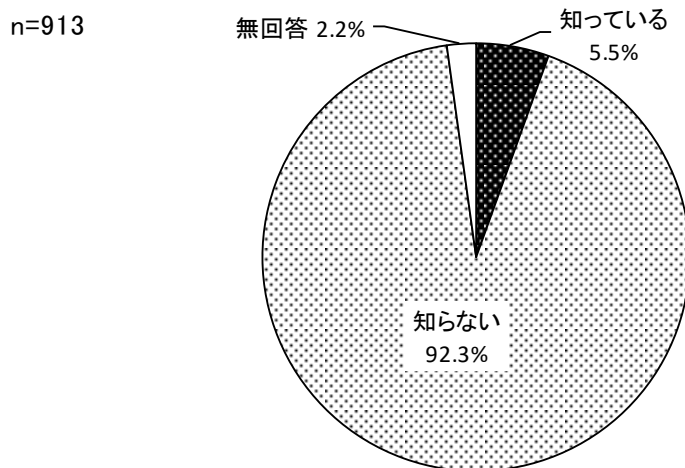
地域別でみると、すべての地域で「指定避難所」が最も高くなっている。（図表 2-12）

(7)「マイ・タイムライン講習会」の認知度

◎「知らない」が9割前半となっている

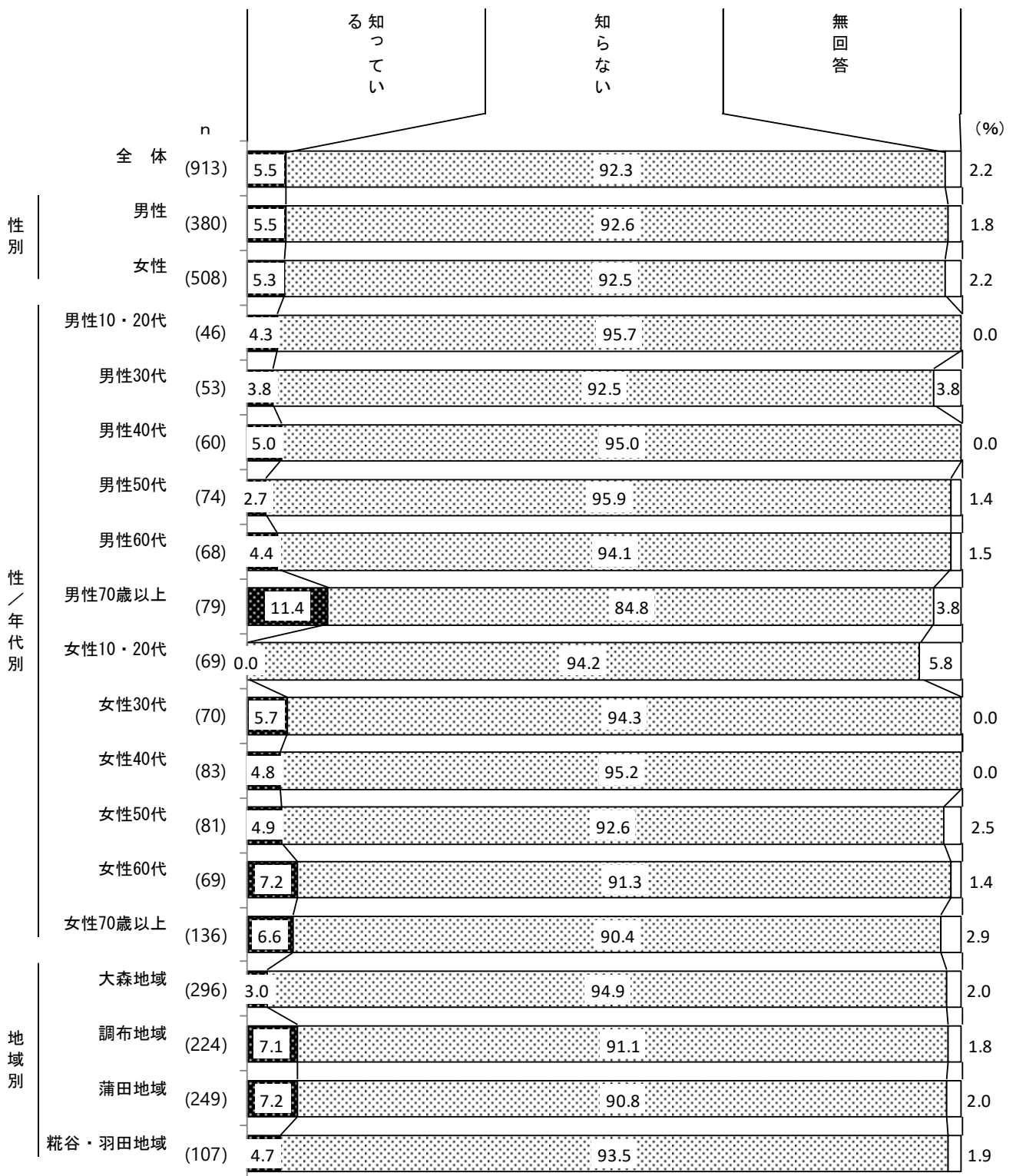
問6 区は大規模水害に備え、家族構成や生活環境に合わせた防災行動を予め時系列にまとめておく「マイ・タイムライン（個人の避難計画）」の普及を進めていますが、「マイ・タイムライン講習会」を開催していることを知っていますか。（○は1つ）

図表2-13 「マイ・タイムライン講習会」の認知度



「マイ・タイムライン講習会」の認知度について聞いたところ、「知っている」が5.5%、「知らない」が92.3%となっている。（図表2-13）

図表2-14 「マイ・タイムライン講習会」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「マイ・タイムライン講習会」の認知度について性別でみると、大きな差異はみられなかった。性／年代別でみると、「知っている」は男性70歳以上で約1割となっている。地域別でみると、「知らない」がすべての地域で9割台となっている。（図表2-14）

(8)「マイ・タイムライン講習会」への参加の有無と参加した理由

◎「参加した」は1割前半、参加した理由は「災害への備えが必要と思ったから」

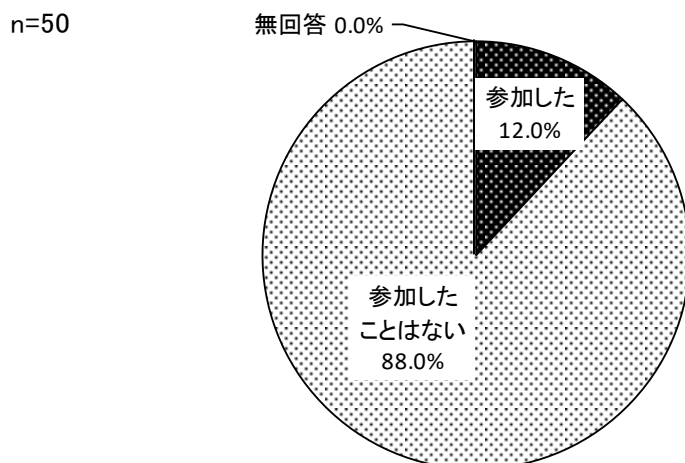
【問6で「1. 知っている」と回答された方】

問6-1 マイ・タイムライン講習会に参加したことがありますか。(○は1つ)

【問6-1で「1. 参加した」と回答された方】

問6-2 マイ・タイムライン講習会に参加した理由は何ですか。(○はいくつでも)

図表2-15 「マイ・タイムライン講習会」への参加経験



「マイ・タイムライン講習会」への参加したことがあるか聞いたところ、「参加した」は12.0%、「参加したことはない」が88.0%となっている。(図表2-15)

また、「マイ・タイムライン講習会」へ参加した人(n=6)に参加した理由を聞いたところ、全員が「災害への備えが必要と思ったから」と回答した。

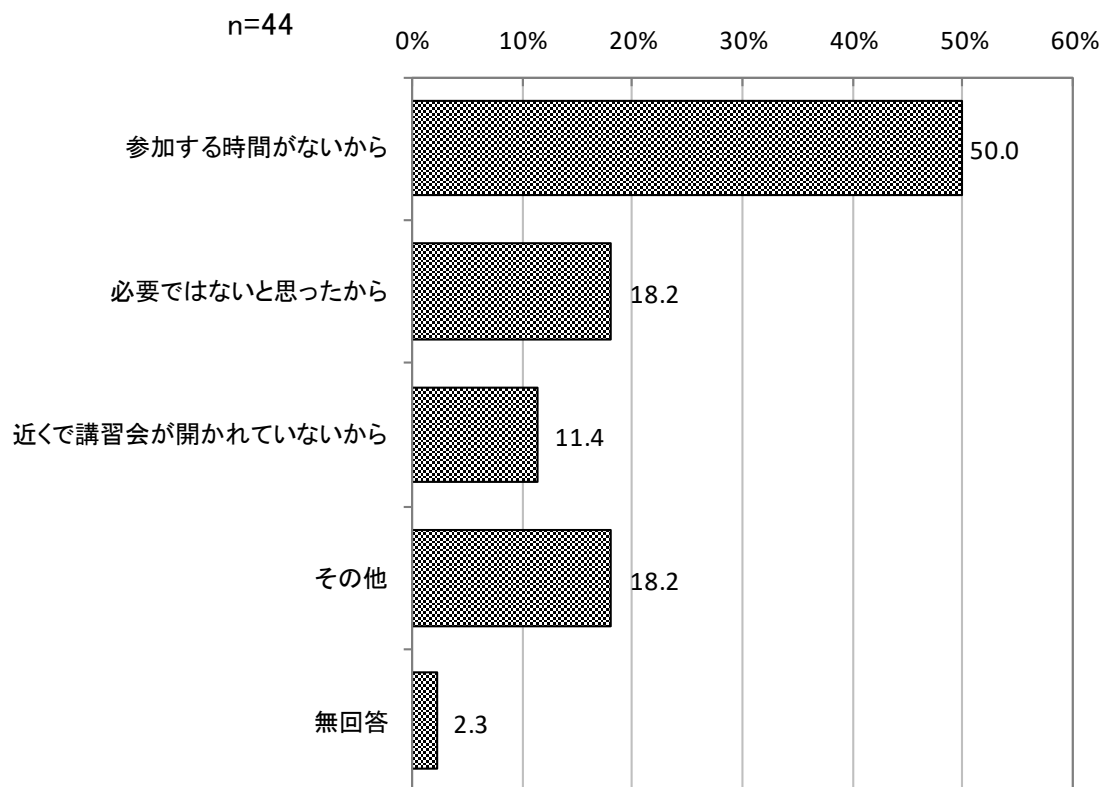
(9) 「マイ・タイムライン講習会」へ参加したことがない理由

◎「参加する時間がないから」が5割で最も高くなっている

【問6-1で「2. 参加したことはない」と回答された方】

問6-3 マイ・タイムライン講習会に参加したことがない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図表2-16 「マイ・タイムライン講習会」へ参加したことがない理由



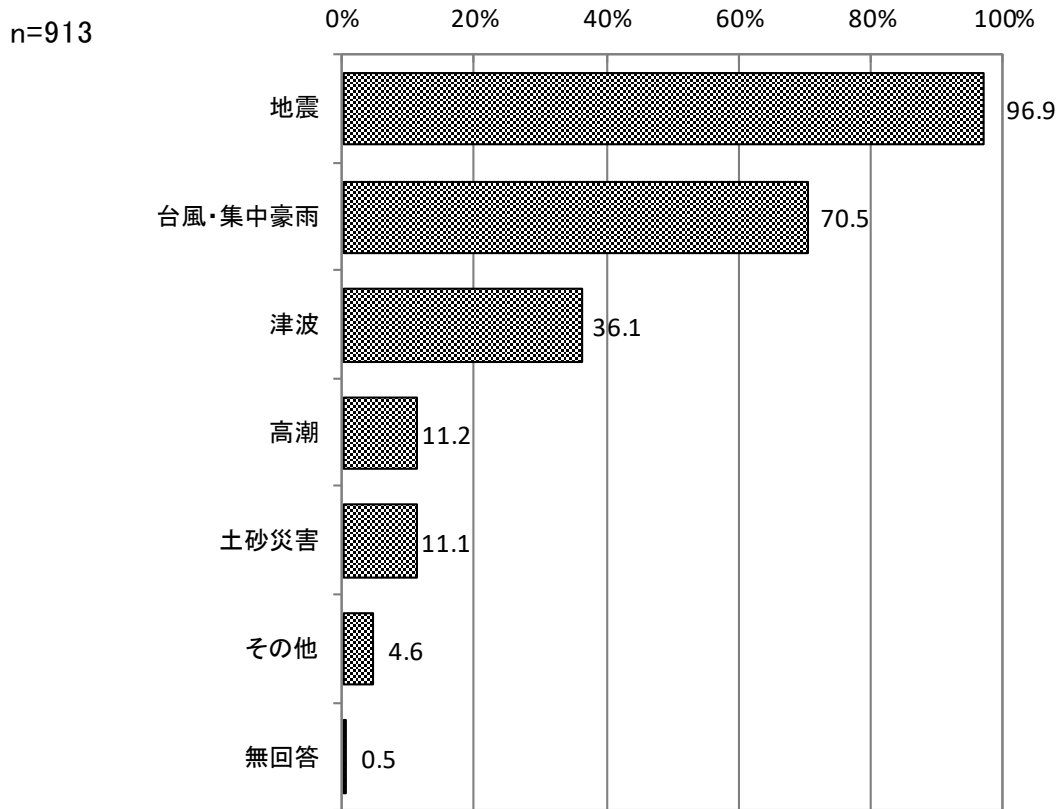
「マイ・タイムライン講習会」へ参加したことがない理由を聞いたところ、「参加する時間がないから」が50.0%で最も高く、次いで、「必要ではないと思ったから」(18.2%)、「近くで講習会が開かれていないから」(11.4%)となっている。(図表2-16)

(10) 自然災害で不安だと思うもの

◎「地震」が9割半ばで最も高くなっている

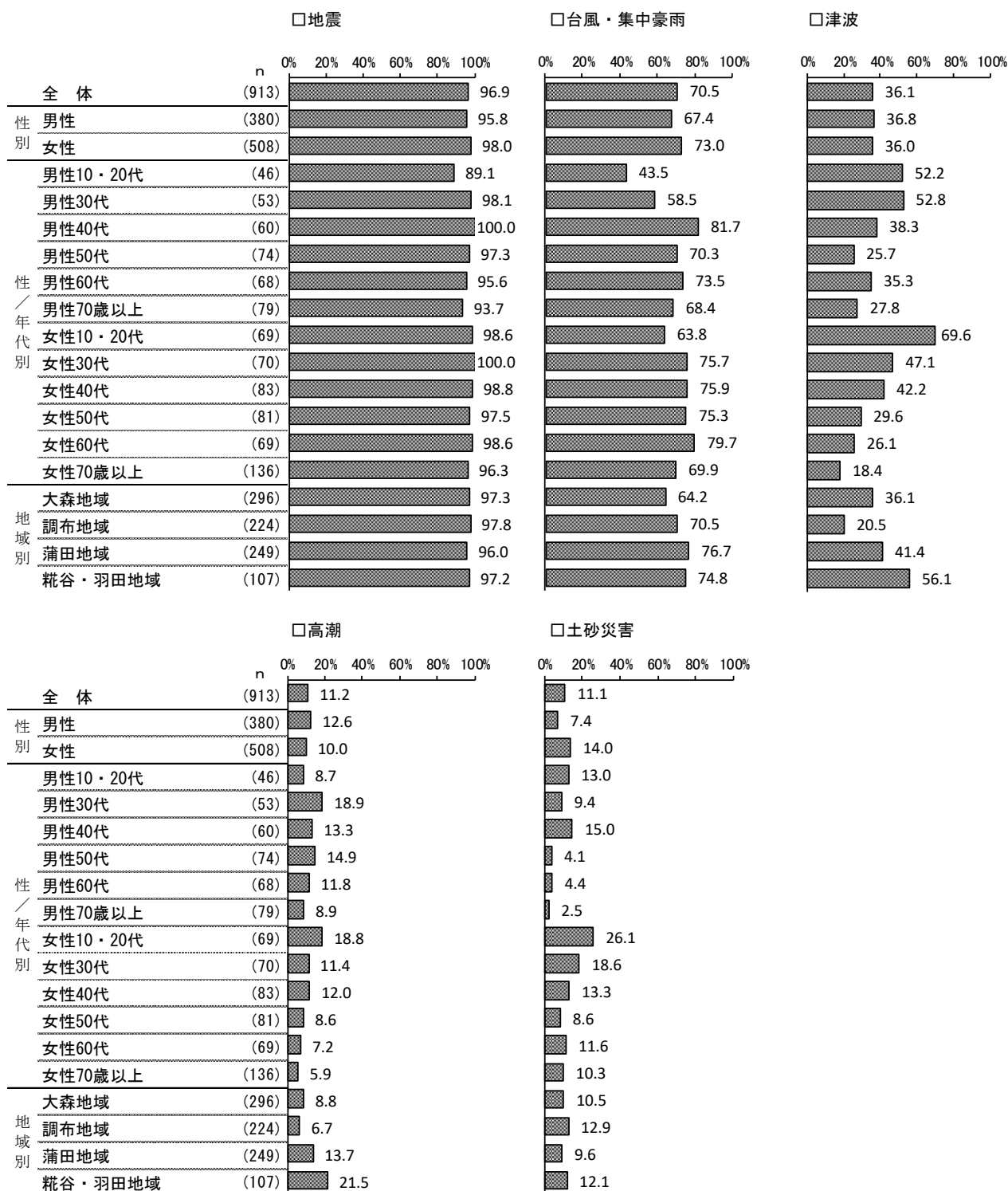
問7 自然災害で不安だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

図表2-17 自然災害で不安だと思うもの



自然災害で不安だと思うものについて聞いたところ、「地震」が96.9%で最も高く、次いで、「台風・集中豪雨」(70.5%)、「津波」(36.1%)となっている。(図表2-17)

図表2-18 自然災害で不安だと思うもの（性別・性／年代別・地域別 上位5項目）



自然災害で不安だと思うものについて、性別で見ると、男女ともに「地震」が9割台と最も高くなっている。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「地震」が最も高く、次いで、男女ともに10・20代が「津波」、その他の年代が「台風・集中豪雨」となっている。

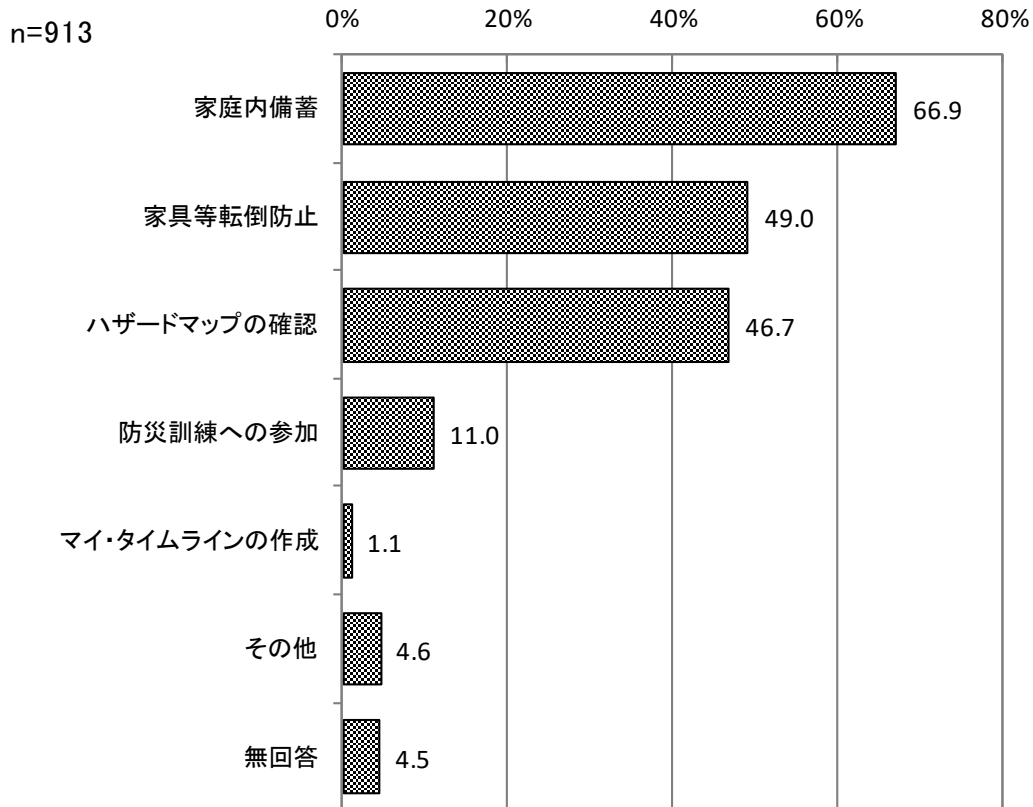
地域別で見ると、すべての地域で「地震」が最も高くなっている。また、糞谷・羽田地域で「津波」が56.1%、「高潮」が21.5%と他の地域より高くなっている。(図表2-18)

(11) 災害から自身を守るための取り組み

◎「家庭内備蓄」が6割半ばで最も高くなっている

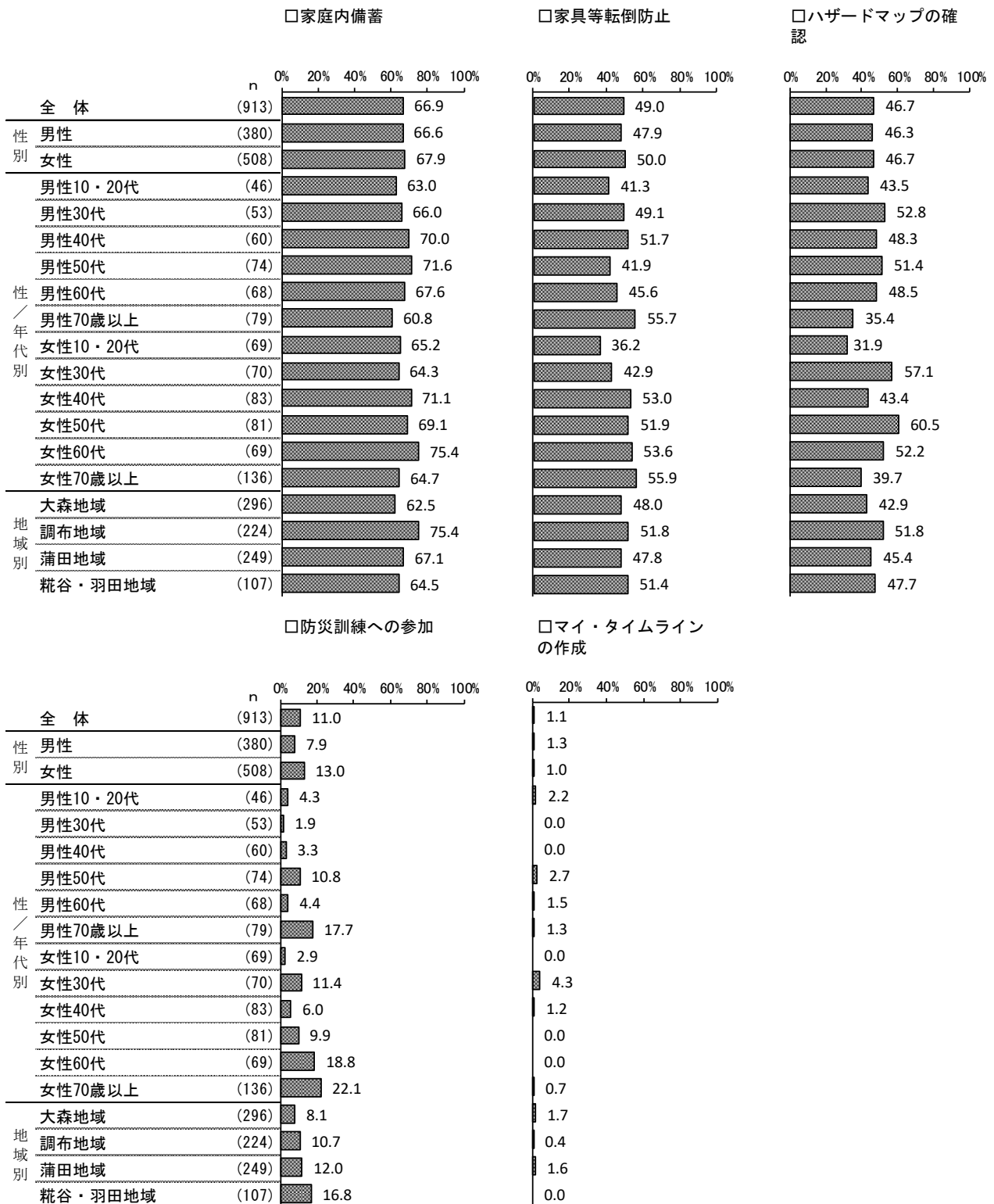
問8 災害から自身を守るためにどのような取り組みをしていますか。(〇はいくつでも)

図表2-19 災害から自身を守るための取り組み



災害から自身を守るためにどのような取り組みをしているか聞いたところ、「家庭内備蓄」が66.9%で最も高く、次いで、「家具等転倒防止」(49.0%)、「ハザードマップの確認」(46.7%)となっている。(図表2-19)

図表 2-20 災害から自身を守るための取り組み（性別・性／年代別・地域別 上位5項目）



災害から自身を守るための取り組みについて、上位5項目を性別で見ると、男女ともに「家庭内備蓄」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「家庭内備蓄」が最も高くなっている。

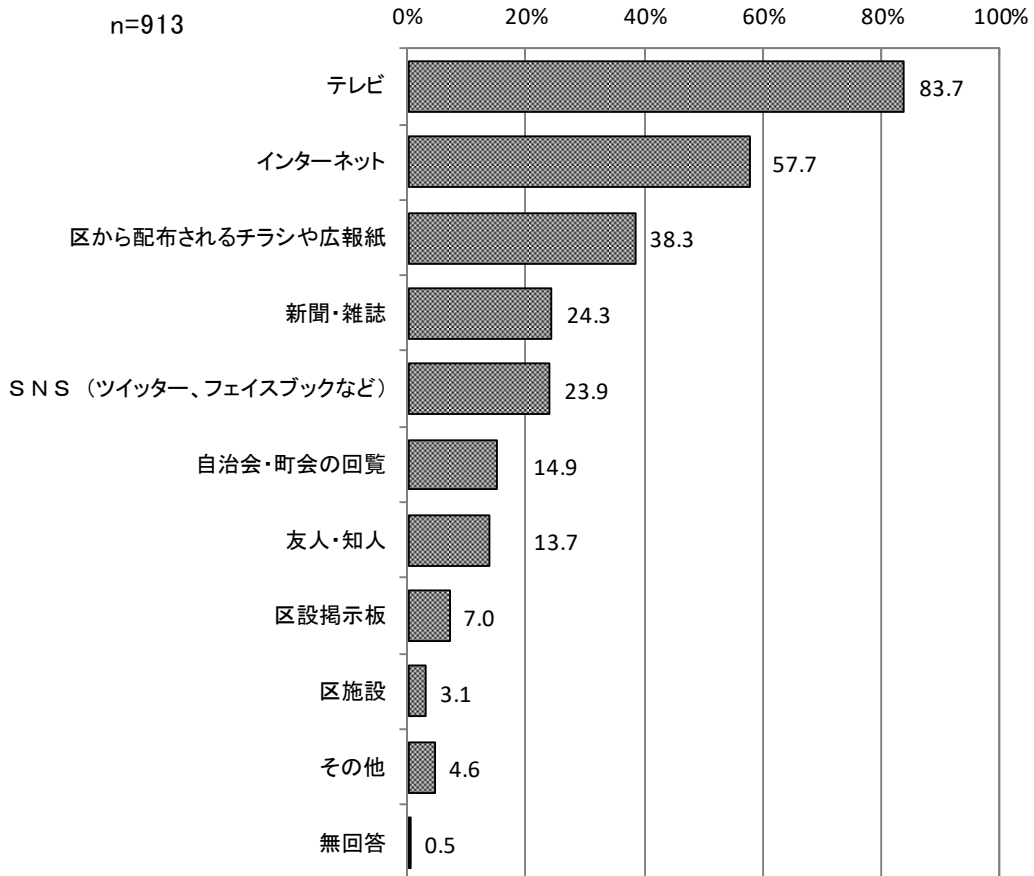
地域別で見ると、すべての地域で「家庭内備蓄」が最も高くなっている。(図表 2-20)

(12) 防災に関する情報の収集方法

◎「テレビ」が8割前半で最も高くなっている

問9 「防災に関する情報」をどのように収集していますか。(〇はいくつでも)

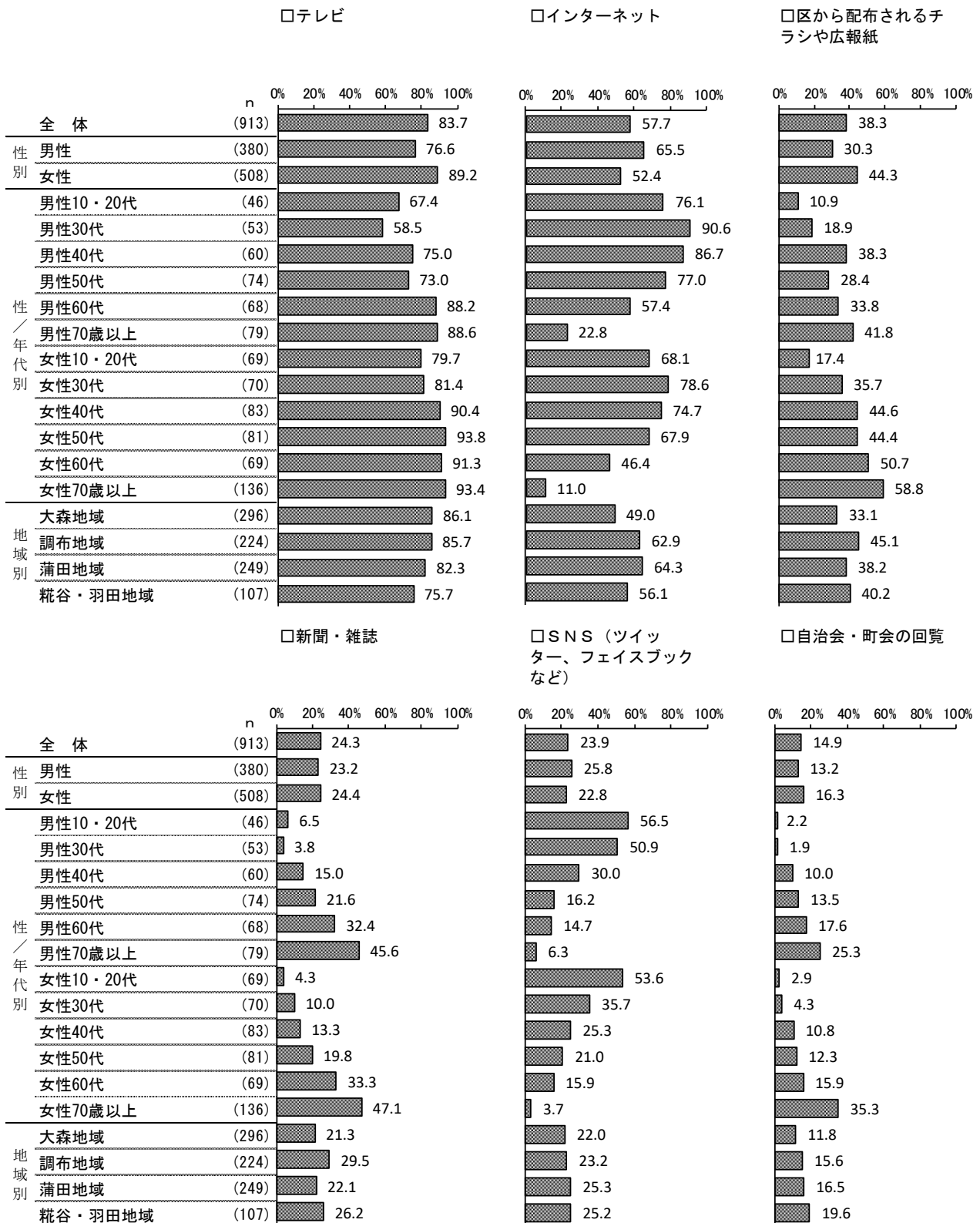
図表2-21 防災に関する情報の収集方法



防災に関する情報の収集方法について聞いたところ、「テレビ」が83.7%で最も高く、次いで、「インターネット」(57.7%)、「区から配布されるチラシや広報紙」(38.3%)となっている。

(図表2-21)

図表2-22 防災に関する情報の収集方法（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



防災に関する情報の収集方法について、上位6項目を性別で見ると、「テレビ」は女性（89.2%）が男性（76.6%）を12.6ポイント、「区から配布されるチラシや広報紙」は女性（44.3%）が男性（30.3%）を14.0ポイント上回っている。「インターネット」は男性（65.5%）が女性（52.4%）を13.1ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、男性は60代、70歳以上で、女性はすべての年代で「テレビ」が最も高くなっている。男性50代以下の年代では「インターネット」が最も高くなっている。「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）」は男女ともに10・20代で5割を超えているのに対し、70歳以上では1割未満と若年層に比べて高齢層が低くなっている。一方、「新聞・雑誌」は男女ともに10・20代では1割未満に対し、70歳以上では4割台と年代が上がるにつれて高くなっている。

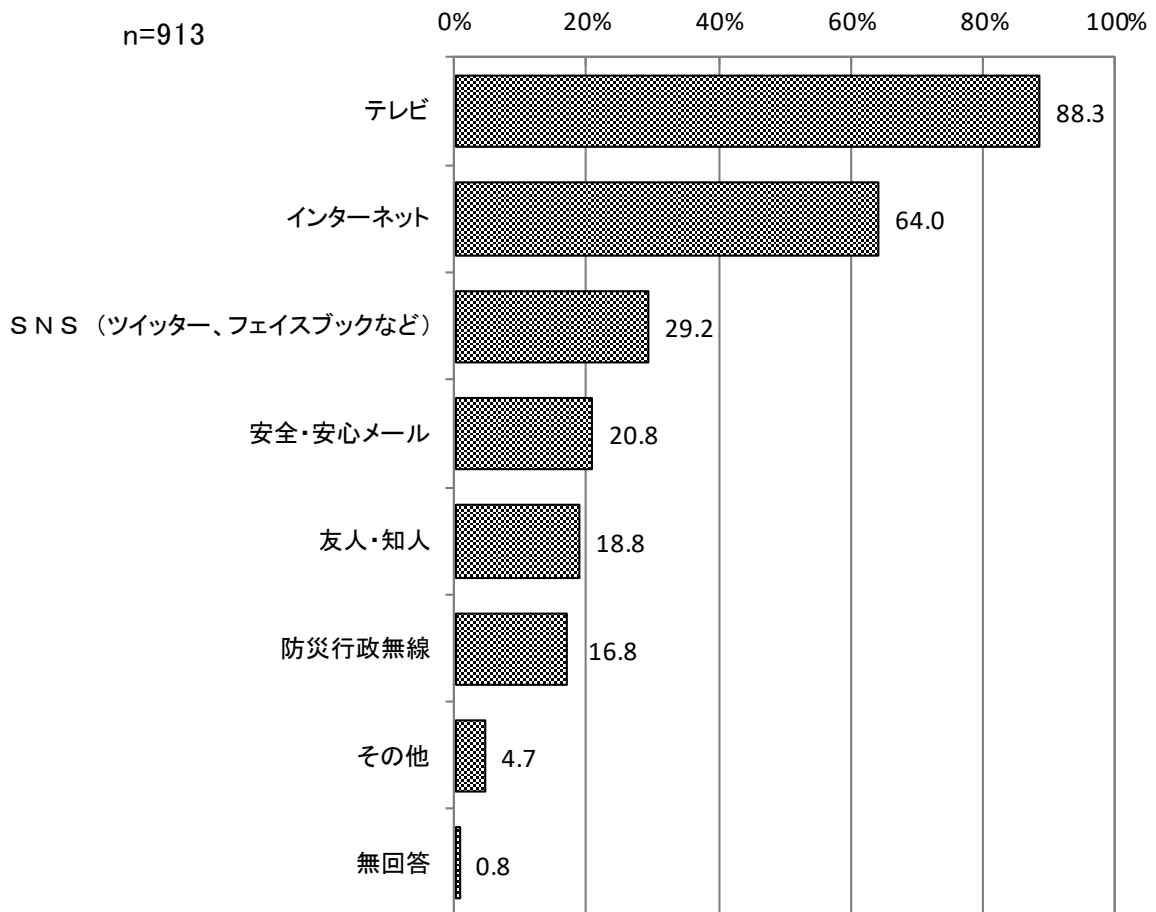
地域別で見ると、いずれの地域も「テレビ」が最も高くなっている。（図表2-22）

(13) 災害時の情報の収集方法

◎「テレビ」が8割後半で最も高くなっている

問10 「災害時の情報」をどのように収集していますか。(〇はいくつでも)

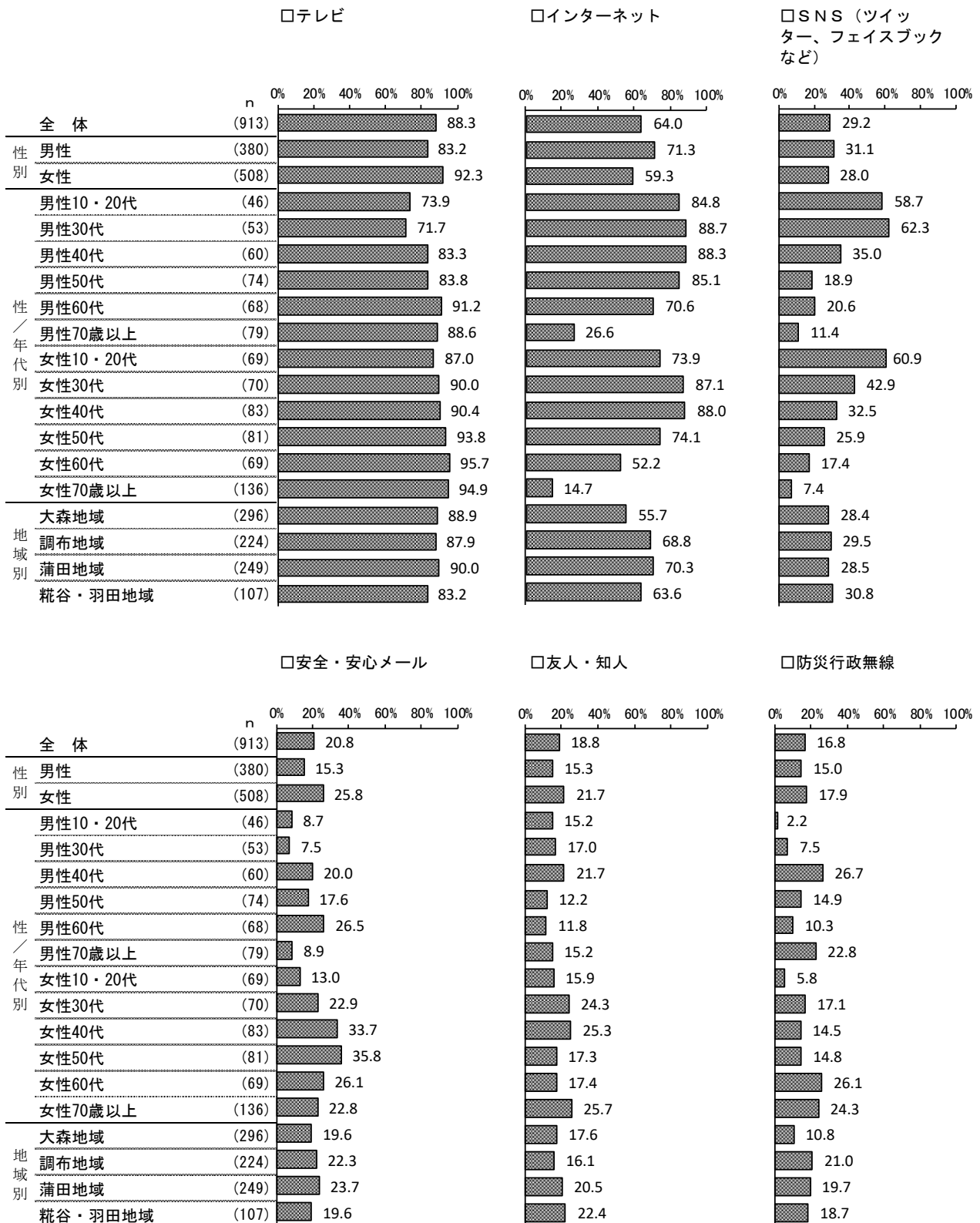
図表2-23 災害時の情報の収集方法



災害時の情報の収集方法について聞いたところ、「テレビ」が88.3%で最も高く、次いで、「インターネット」(64.0%)、「SNS (ツイッター、フェイスブックなど)」(29.2%)となっている。

(図表2-23)

図表 2-24 災害時の情報の収集方法（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



災害時の情報の収集方法について、上位6項目を性別で見ると、「インターネット」では男性（71.3%）が女性（59.3%）を12.0ポイント上回っている。「安全・安心メール」では女性（25.8%）が男性（15.3%）を10.5ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、男性50代以下は「インターネット」が最も高く、男性60代以上と女性のすべての年代で「テレビ」が最も高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「テレビ」が最も高くなっている。「防災行政無線」では大森地域では約1割に留まっている。（図表2-24）

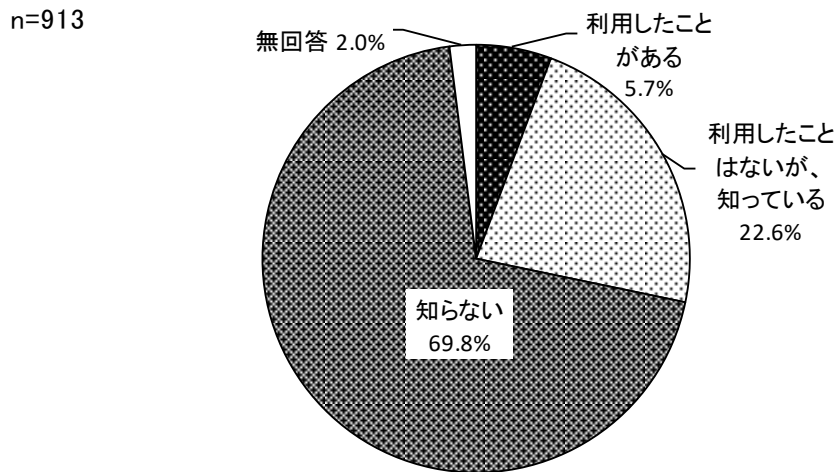
3 観光について

(1) 「大田区観光情報センター」の利用の有無

◎ 「知らない」が約7割となっている

問 11 大田区観光情報センターを利用したことはありますか。(○は1つ)

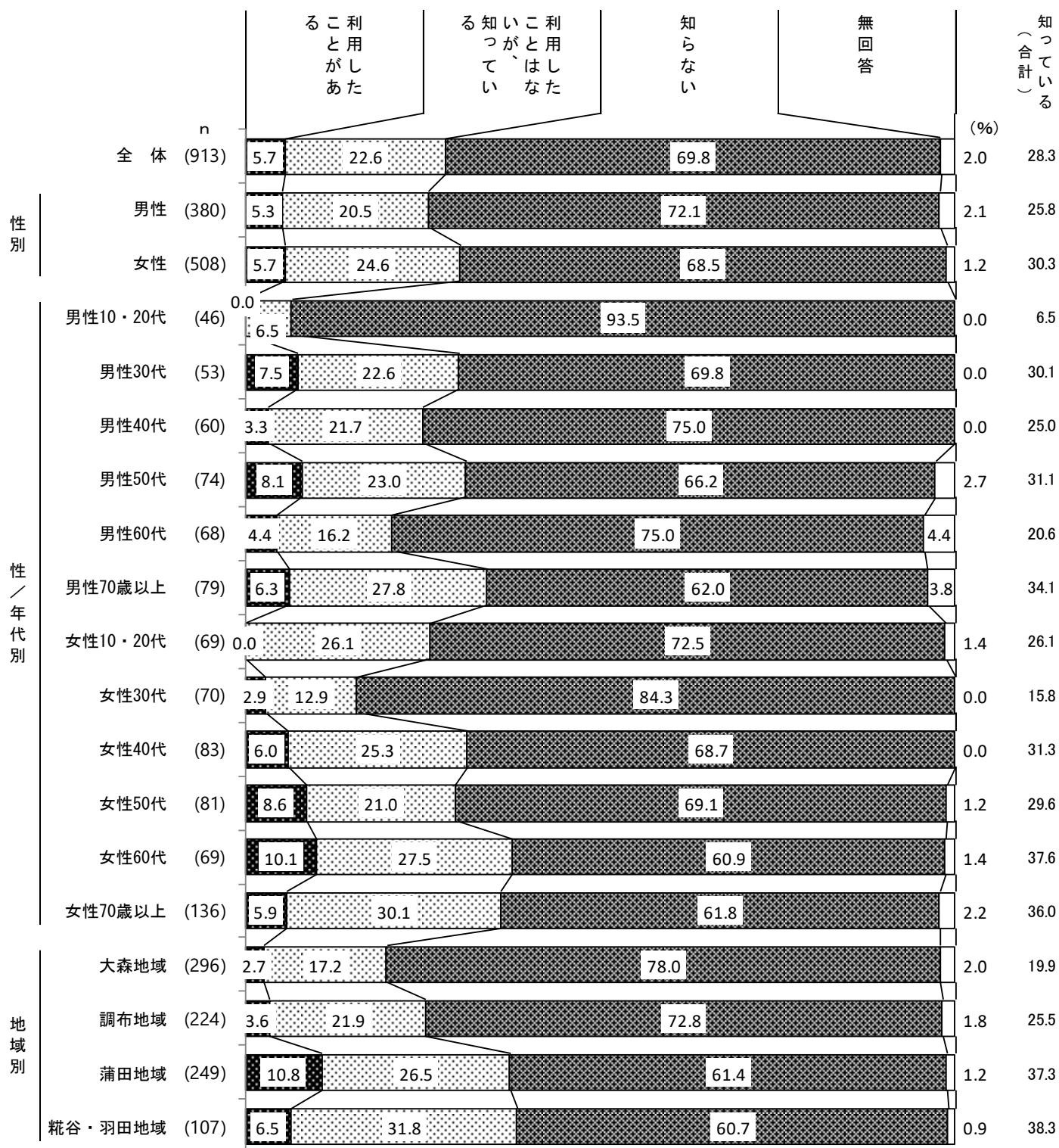
図表 3-1 「大田区観光情報センター」の利用の有無



「大田区観光情報センター」を利用したことがあるか聞いたところ、「利用したことがある」(5.7%)、「利用したことはないが、知っている」(22.6%)を合わせた《知っている(合計)》は28.3%となっている。

一方、「知らない」が69.8%となっている。(図表3-1)

図表3-2 「大田区観光情報センター」の利用の有無（性別・性／年代別・地域別）



「大田区観光情報センター」の利用の有無について、性別で見ると大きな差異は見られなかった。性／年代別で見ると、すべての性／年代において「知らない」は6割以上となっている。

地域別で見ると、「知っている (合計)」は蒲田地域、糎谷・羽田地域で3割後半、調布地域で2割半ば、大森地域で約2割となっている。(図表3-2)

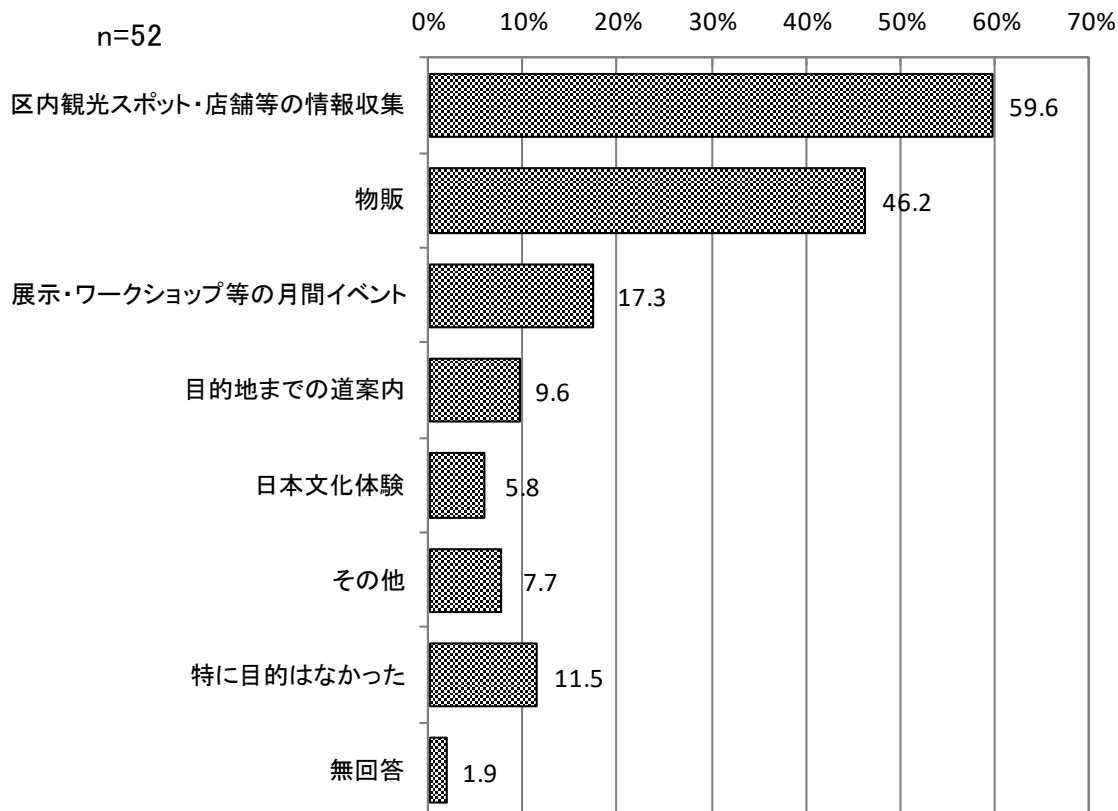
(2) 「大田区観光情報センター」の利用目的

◎ 「区内観光スポット・店舗等の情報収集」が約6割となっている

【問11で「1. 利用したことがある」と回答された方】

問11-1 どのような目的で利用しましたか。(〇はいくつでも)

図表3-3 「大田区観光情報センター」の利用目的



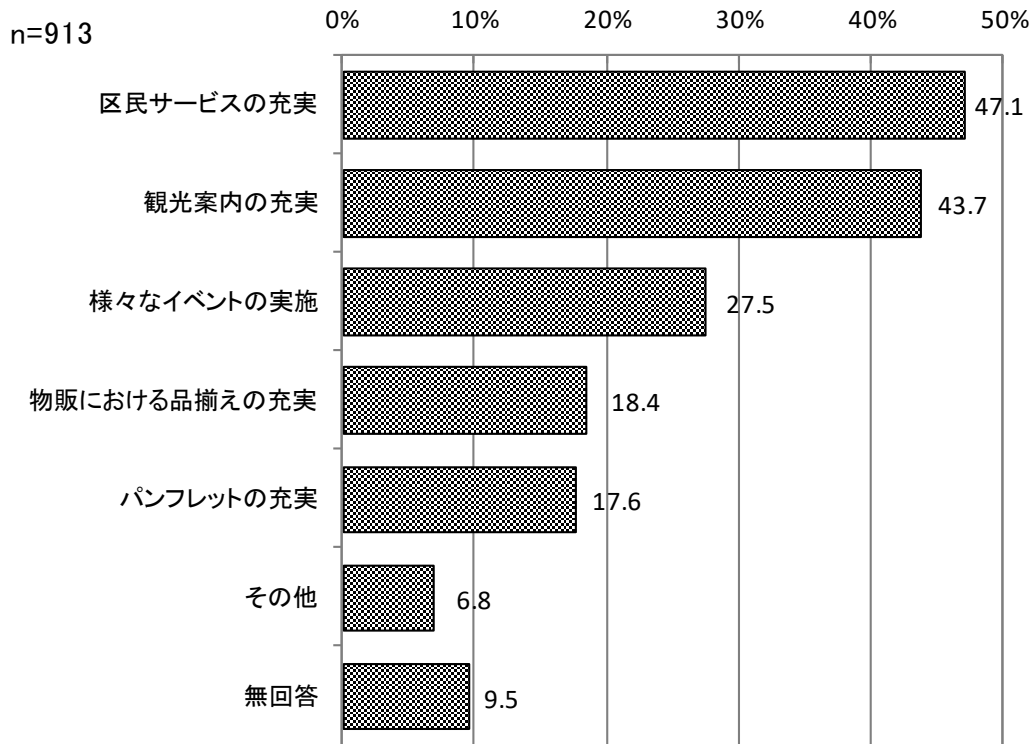
「大田区観光情報センター」の利用目的について聞いたところ、「区内観光スポット・店舗等の情報収集」が59.6%で最も高く、次いで、「物販」(46.2%)、「展示・ワークショップ等の月間イベント」(17.3%)となっている。(図表3-3)

(3) 「大田区観光情報センター」へ期待すること

◎「区民サービスの充実」が4割後半で最も高くなっている

問12 大田区観光情報センターに今後期待することは何ですか。(〇はいくつでも)

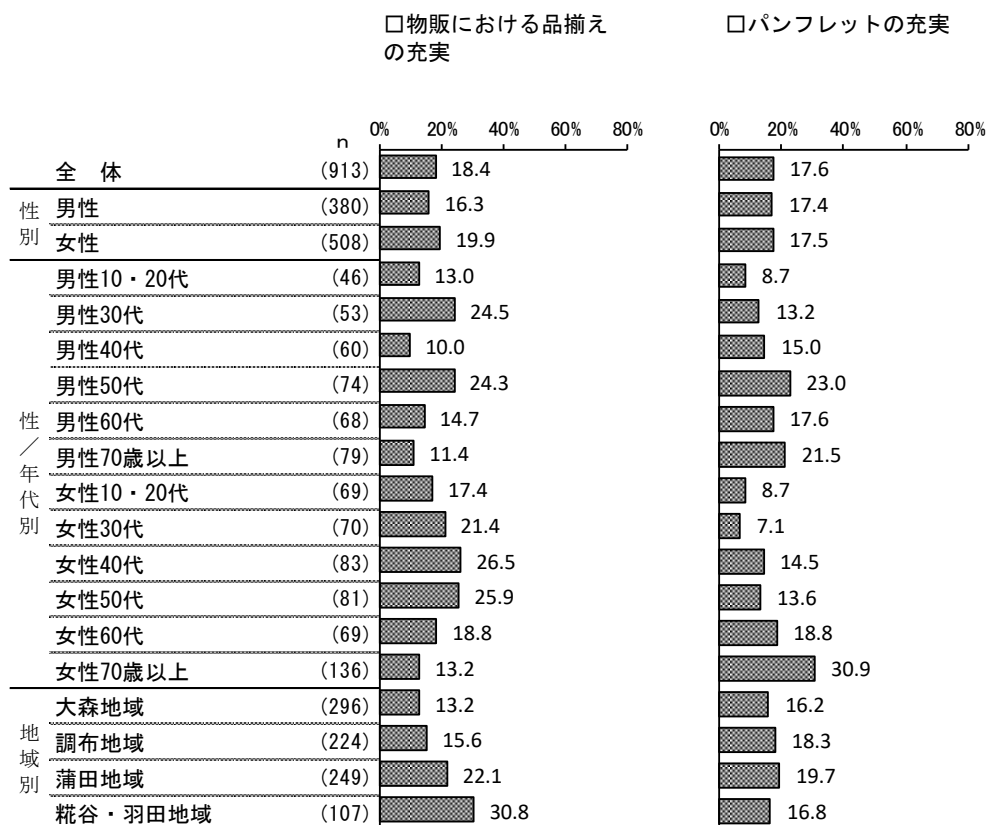
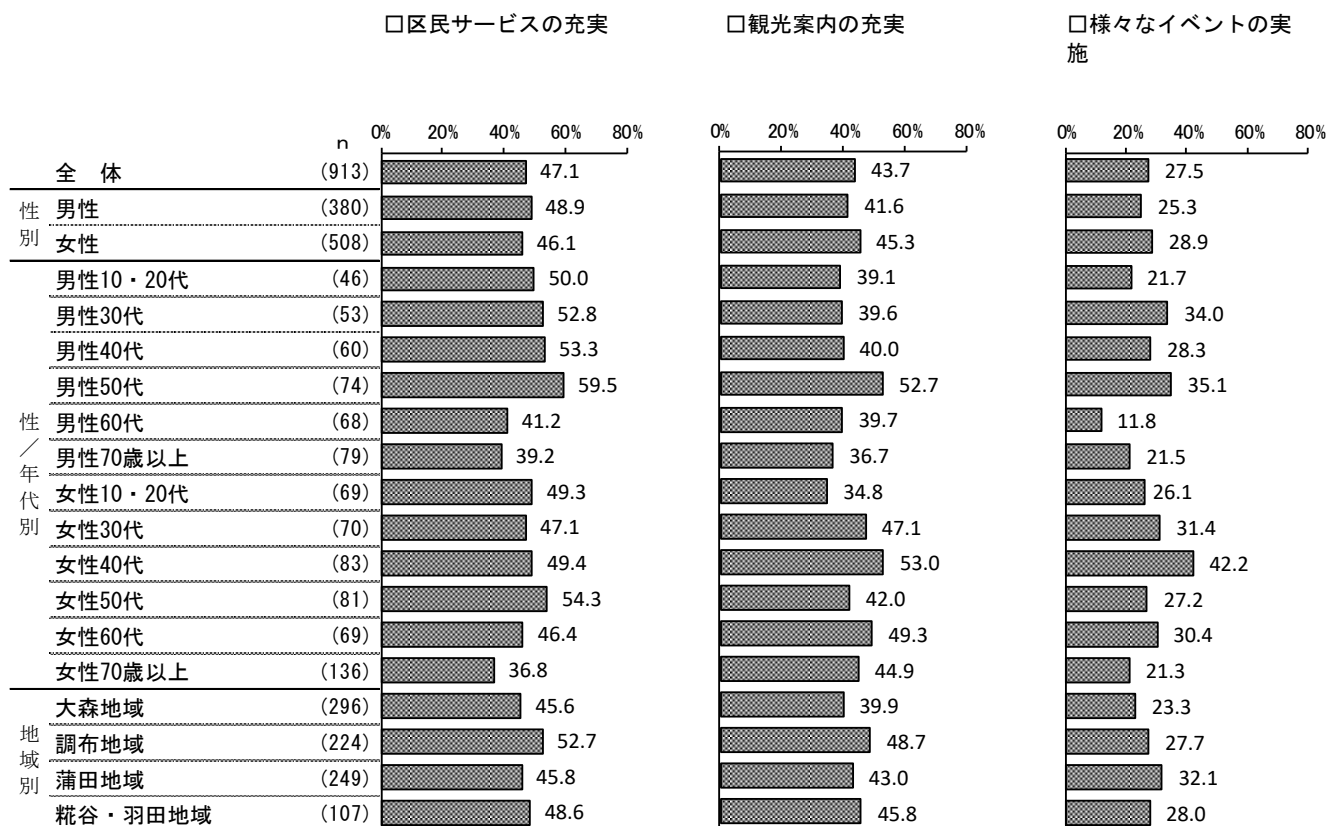
図表3-4 「大田区観光情報センター」へ期待すること



「大田区観光情報センター」へ期待することを聞いたところ、「区民サービスの充実」が47.1%で最も高く、次いで、「観光案内の充実」(43.7%)、「様々なイベントの実施」(27.5%)となっている。

(図表3-4)

図表3-5 「大田区観光情報センター」へ期待すること
(性別・性/年代別・地域別 上位5項目)



「大田区観光情報センター」へ期待することについて、上位5項目を性別で見ると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、男性ではすべての年代で「区民サービスの充実」が最も高くなっている。女性では10・20代、50代で「区民サービスの充実」が、40代、60代、70歳以上で「観光案内の充実」が、30代で「区民サービスの充実」と「観光案内の充実」が同率で最も高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「区民サービスの充実」が最も高くなっている。糺谷・羽田地域で「物販における品揃えの充実」が約3割とその他の地域より高くなっている。(図表3-5)

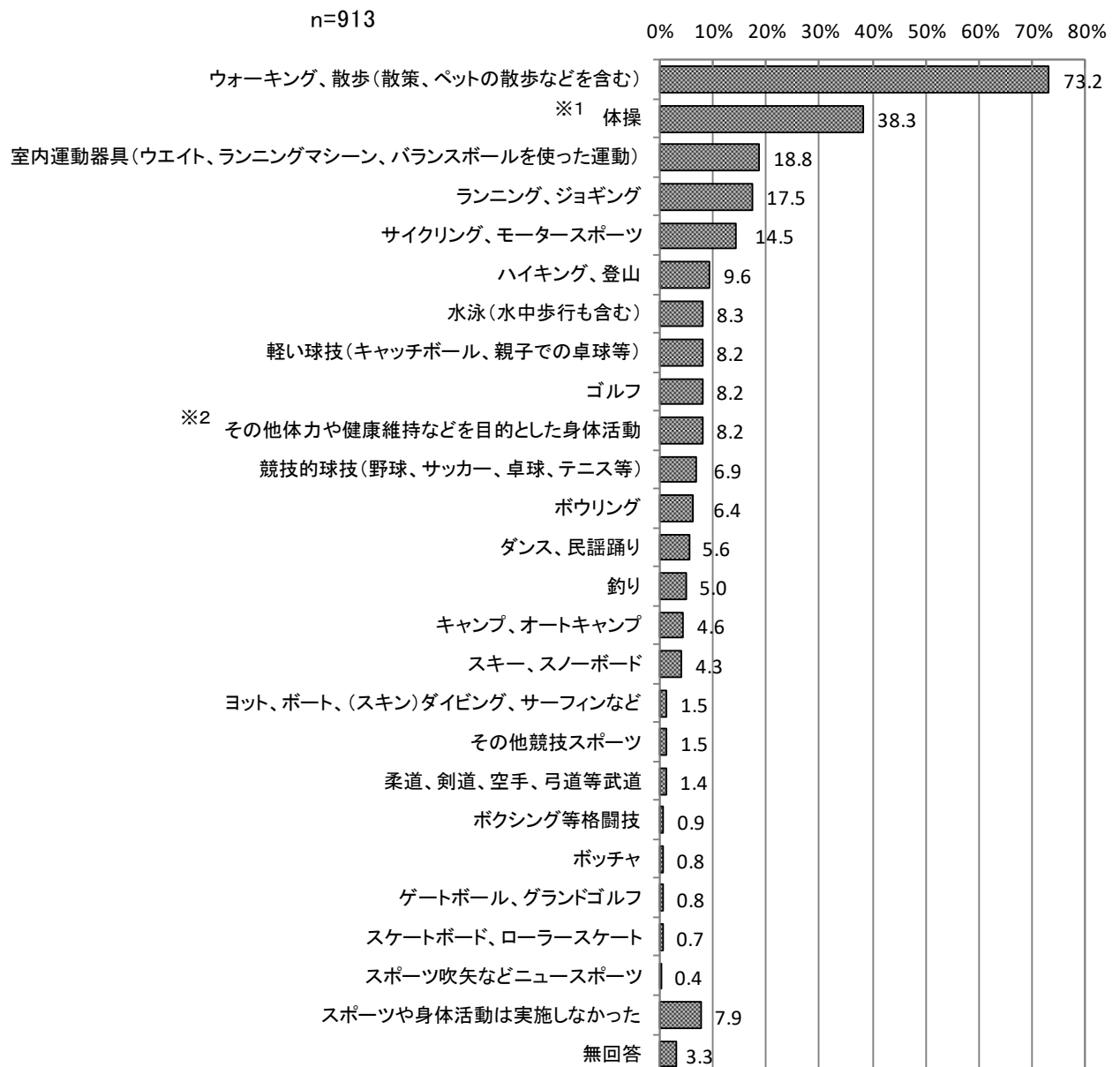
4 運動・スポーツについて

(1) 最近1年で行った運動・スポーツ

◎「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が7割前半で最も高くなっている

問 13 この中にあなたが、この1年間で行ったスポーツや運動があれば、すべてお選びください。
（〇はいくつでも）

図表 4-1 最近1年で行った運動・スポーツ



※1 体操（ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む）

※2 その他体力や健康の維持向上、介護予防、ストレスの解消を目的としたスポーツ、身体活動

最近1年で行った運動・スポーツについて聞いたところ、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が73.2%で最も高く、次いで、「体操（ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む）」（38.3%）、「室内運動器具（ウエイト、ランニングマシン、バランスボールを使った運動）」（18.8%）となっている。（図表4-1）

最近1年で行った運動・スポーツを性別で見ると、男女ともに「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が最も高くなっている。「体操（ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む）」は女性（49.0%）が男性（24.2%）を24.8ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が最も高く、6割以上となっている。「体操（ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む）」は女性30代～50代で5割台となっている。「ランニング・ジョギング」は男性で10・20代が5割となっており、年代が上がるにつれて割合は概ね低くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が最も高く、7割以上となっている。（図表4-2）

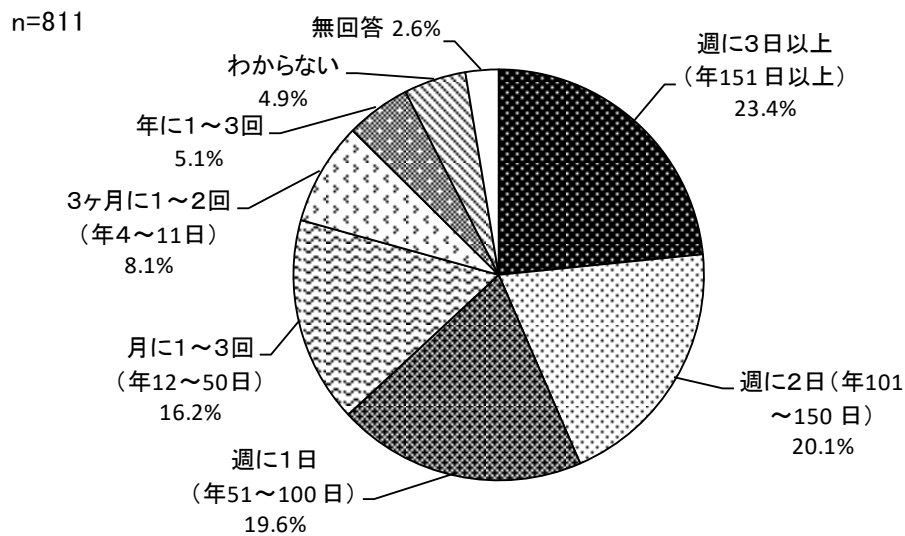
(2) 最近1年間の運動・スポーツの活動頻度

◎「週に3日以上（年151日以上）」が2割前半で最も高くなっている

【問13で「1」～「24」と回答された方】

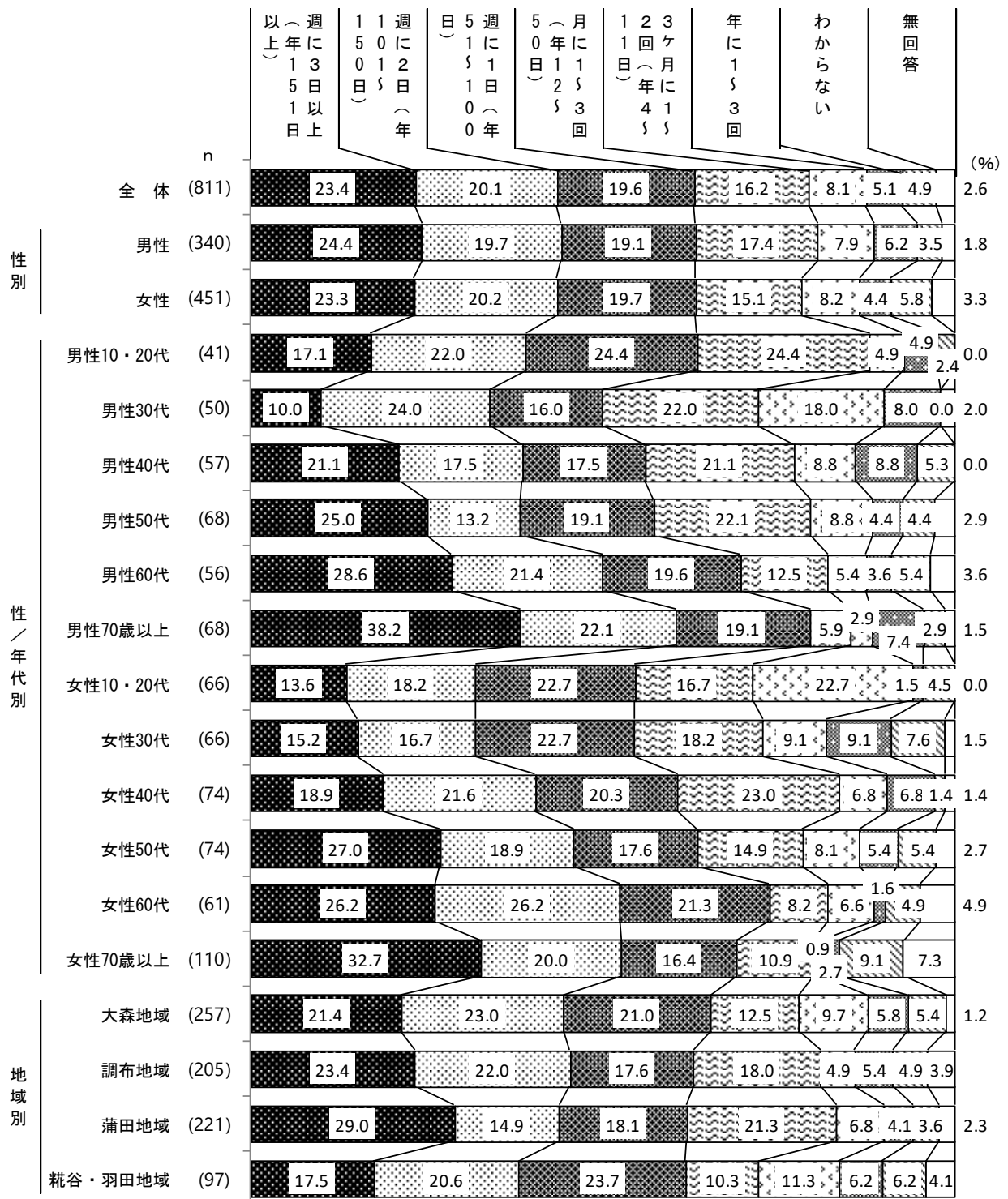
問13-1 この1年間に運動・スポーツ活動を実施した日数を全部合わせると、何日ぐらいになりますか。（週での換算日数）（○は1つ）

図表4-3 最近1年間の運動・スポーツの活動頻度



最近1年間の運動・スポーツの活動頻度について聞いたところ、「週に3日以上（年151日以上）」が23.4%で最も高く、次いで、「週に2日（年101~150日）」（20.1%）、「週に1日（年51~100日）」（19.6%）などとなっている。（図表4-3）

図表4-4 最近1年間の運動・スポーツの活動頻度（性別・性/年代別・地域別）



最近1年間の運動・スポーツの活動頻度を性別で見ると、大きな差異は見られなかった。

性/年代別で見ると、「週に3日以上（年151日以上）」は男女ともに70歳以上で3割台となっており、若年層に比べ高齢層が高くなっている。

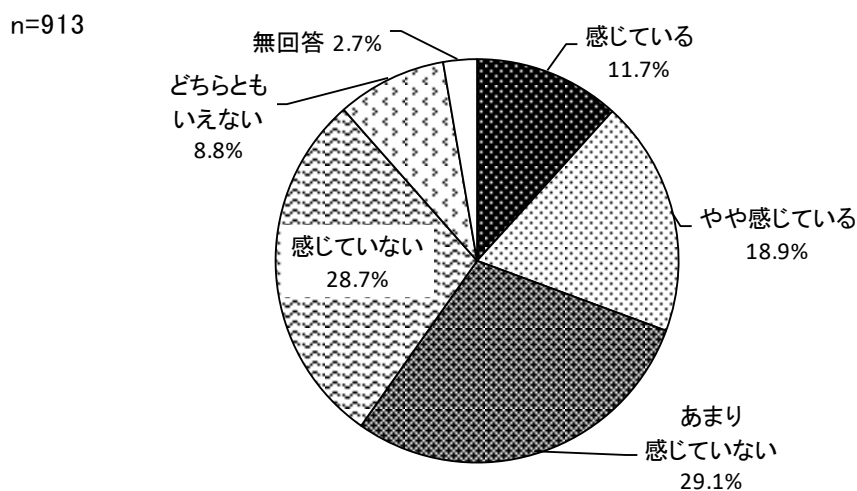
地域別で見ると、糞谷・羽田地域は「週に1日以上（年51~100日）」が、大森地域は「週に2日以上（年101~150日）」が、調布地域、蒲田地域は「週に3日以上（年151日以上）」が最も高くなっている。（図表4-4）

(3) 東京 2020 大会について

◎ 「あまり感じていない」が約3割となっている

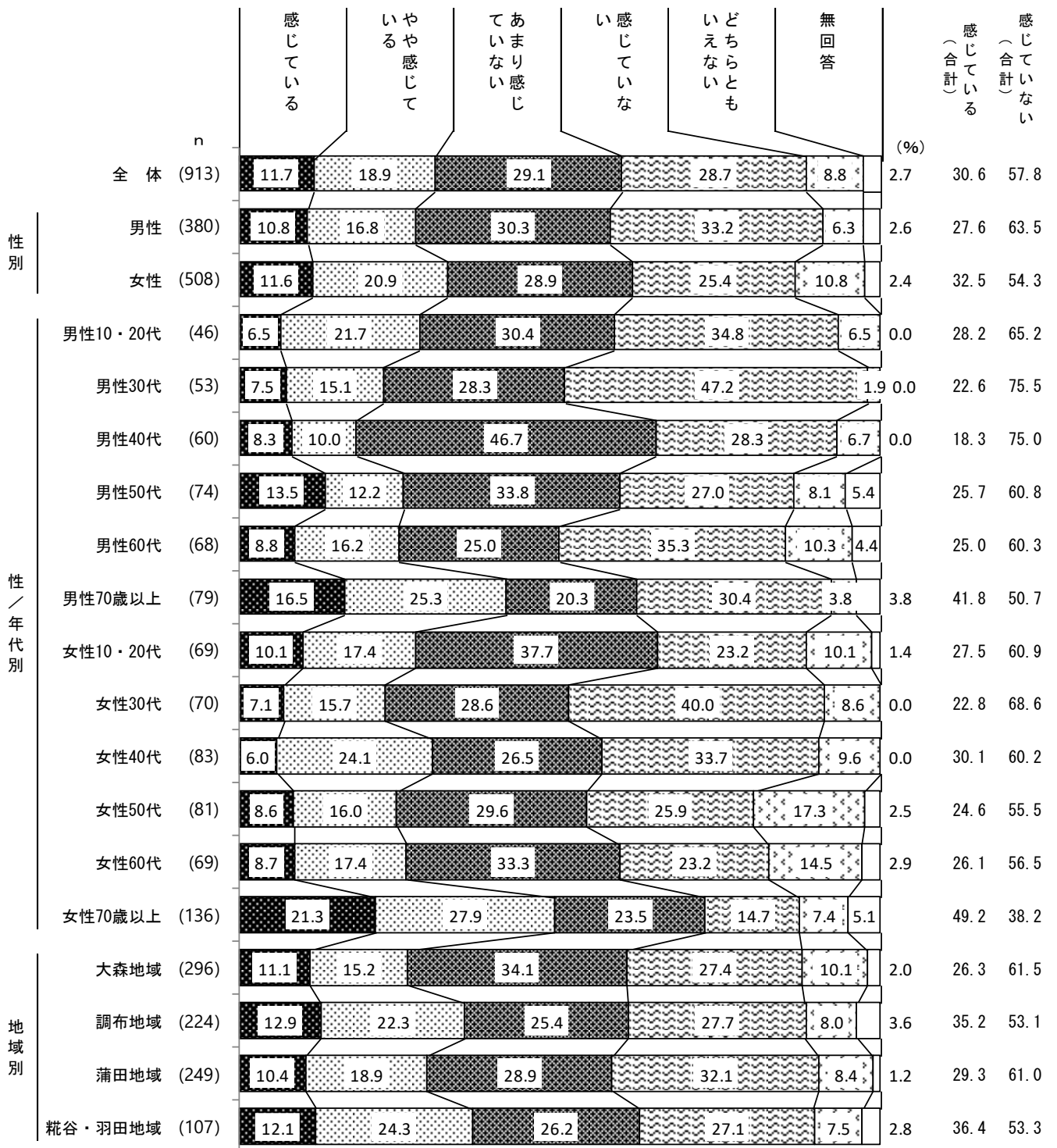
問 14 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が身近になってきたと感じますか。
(○は1つ)

図表 4-5 東京 2020 大会について



東京 2020 大会が身近に感じるか聞いたところ、「あまり感じていない」が 29.1%で最も高く、「感じていない」(28.7%) と合わせた《感じていない(合計)》は 57.8%となっている。「感じている」(11.7%) と「やや感じている」(18.9%) を合わせた《感じている(合計)》は 30.6%となっている。(図表 4-5)

図表4-6 東京2020大会について（性別・性/年代別・地域別）



東京2020大会について性別で見ると、「感じていない(合計)」は男性(63.5%)が女性(54.3%)を9.2ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「感じている(合計)」は女性70歳以上で約5割、男性70歳以上で約4割と、他の年代より高くなっている。男女ともに30代で「感じていない」が4割以上となっている。

地域別で見ると、すべての地域で「感じていない(合計)」が5割以上となっている。

(図表4-6)

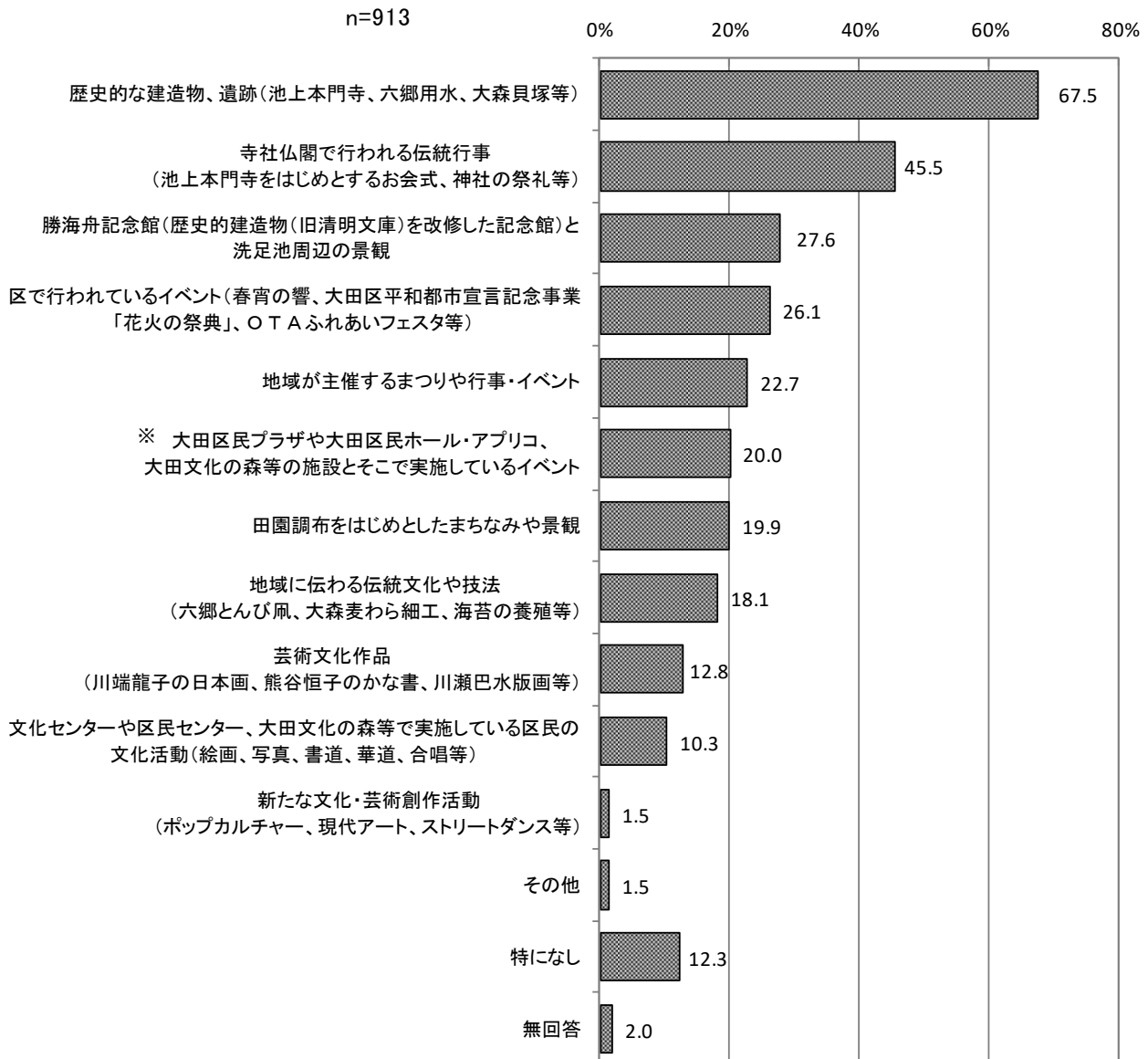
5 文化活動について

(1) 大田区の文化・芸術について

◎「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」が6割後半で最も高い

問 15 大田区の文化・芸術として思い浮かぶものはどのようなものですか。（〇はいくつでも）

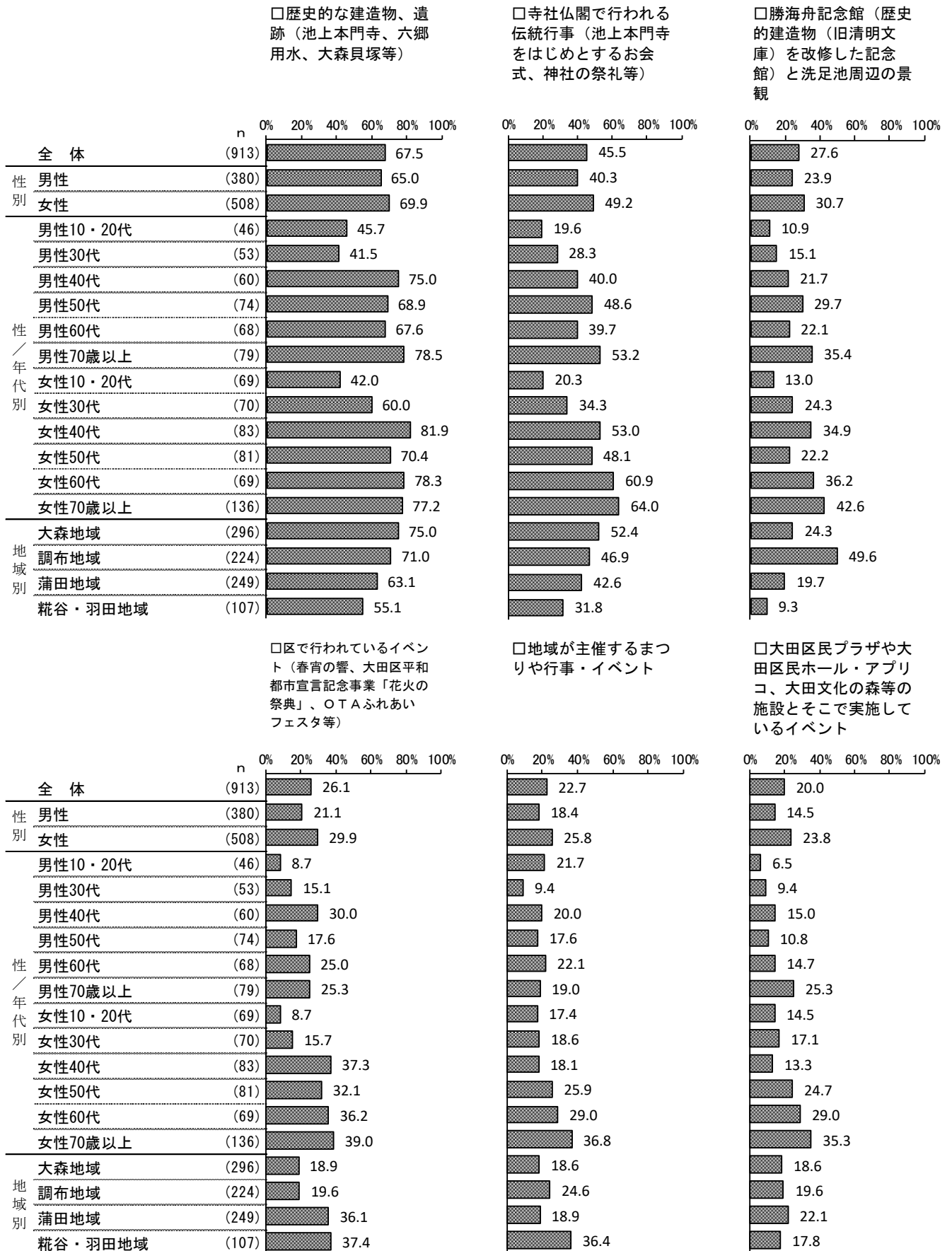
図表 5 - 1 大田区の文化・芸術について



※ 大田区民プラザや大田区民ホール・アプリコ、大田文化の森等の施設とそこで実施しているイベント（下丸子 J A Z 倶楽部、下丸子らくご倶楽部、アプリコみんなの音楽祭、大田区在住作家美術展等）

大田区の文化・芸術として思い浮かぶものについて聞いたところ、「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」が 67.5% で最も高く、次いで、「寺社仏閣で行われる伝統行事（池上本門寺をはじめとするお会式、神社の祭礼等）」（45.5%）、「勝海舟記念館（歴史的建造物（旧清明文庫）を改修した記念館）と洗足池周辺の景観」（27.6%）となっている。（図表 5 - 1）

図表5-2 大田区の文化・芸術について（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



大田区の文化・芸術として思い浮かぶものについて、上位6項目を性別で見ると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」が最も高く、女性40代では約8割となっている。「寺社仏閣で行われる伝統行事（池上本門寺をはじめとするお会式、神社の祭礼等）」は女性60代、70歳以上で6割台、男性70歳以上で5割前半となっている。

地域別で見ると、すべての地域で「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」が最も高くなっている。「勝海舟記念館（歴史的建造物（旧清明文庫）を改修した記念館）と洗足池周辺の景観」は調布地域で約5割とその他の地域より高くなっている。（図表5-2）

6 バリアフリーについて

(1) 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度

◎ 《理解している（合計）》はバリアフリーが8割前半、ユニバーサルデザインは約5割

問16 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」という言葉をご存知ですか。

(○はそれぞれ1つ)

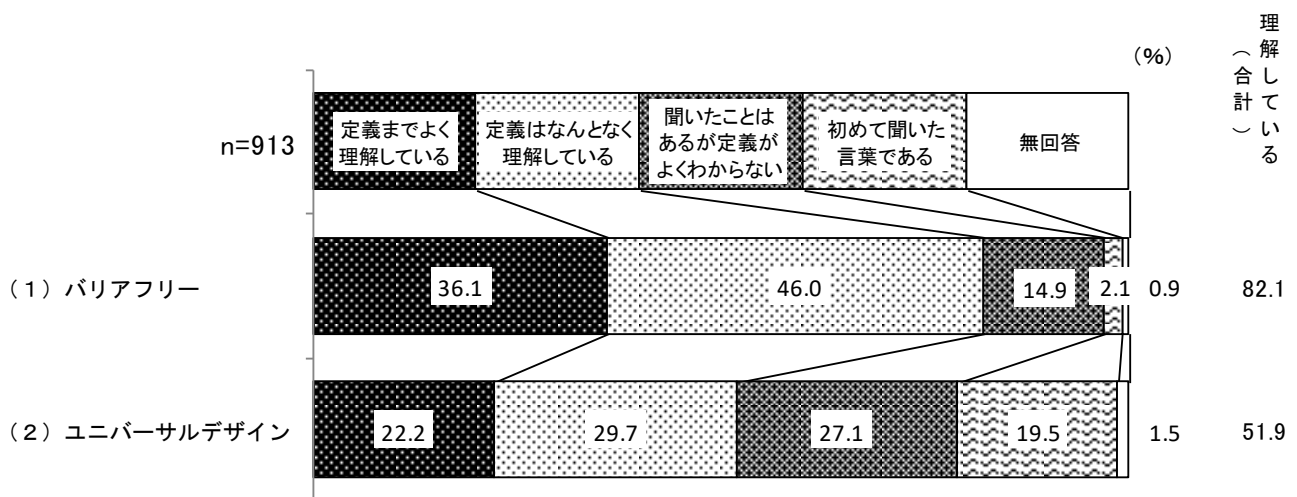
(1) バリアフリー

※高齢者や障がいのある方が生活を営む上での障壁（バリア）を取り除く考え方

(2) ユニバーサルデザイン

※バリアフリーの考え方を一歩進め、年齢、性別、国籍（言語）、個人の能力に関わらず、あらかじめできるだけ多くの人々が利用しやすいように生活環境を構築する考え方

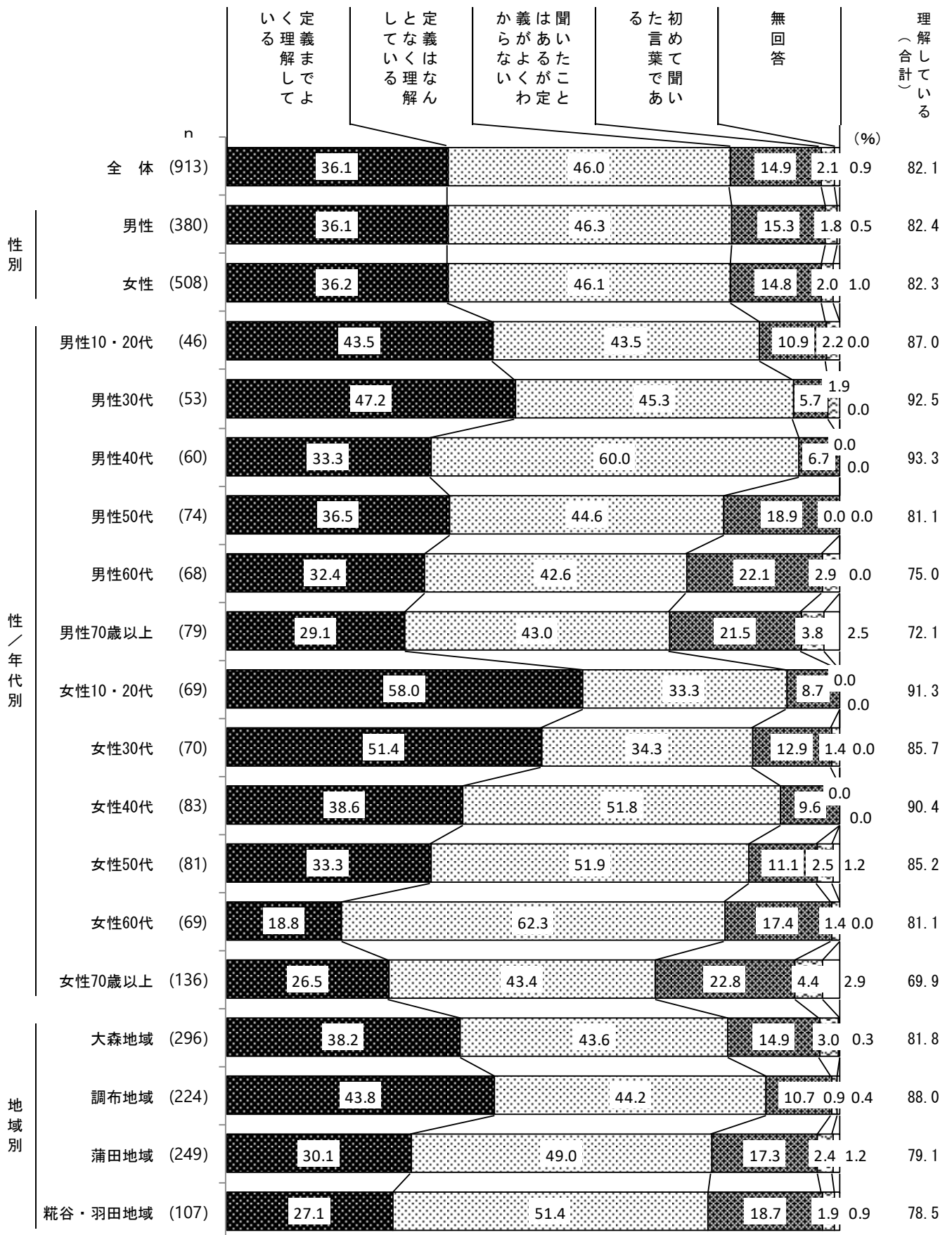
図表6-1 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度



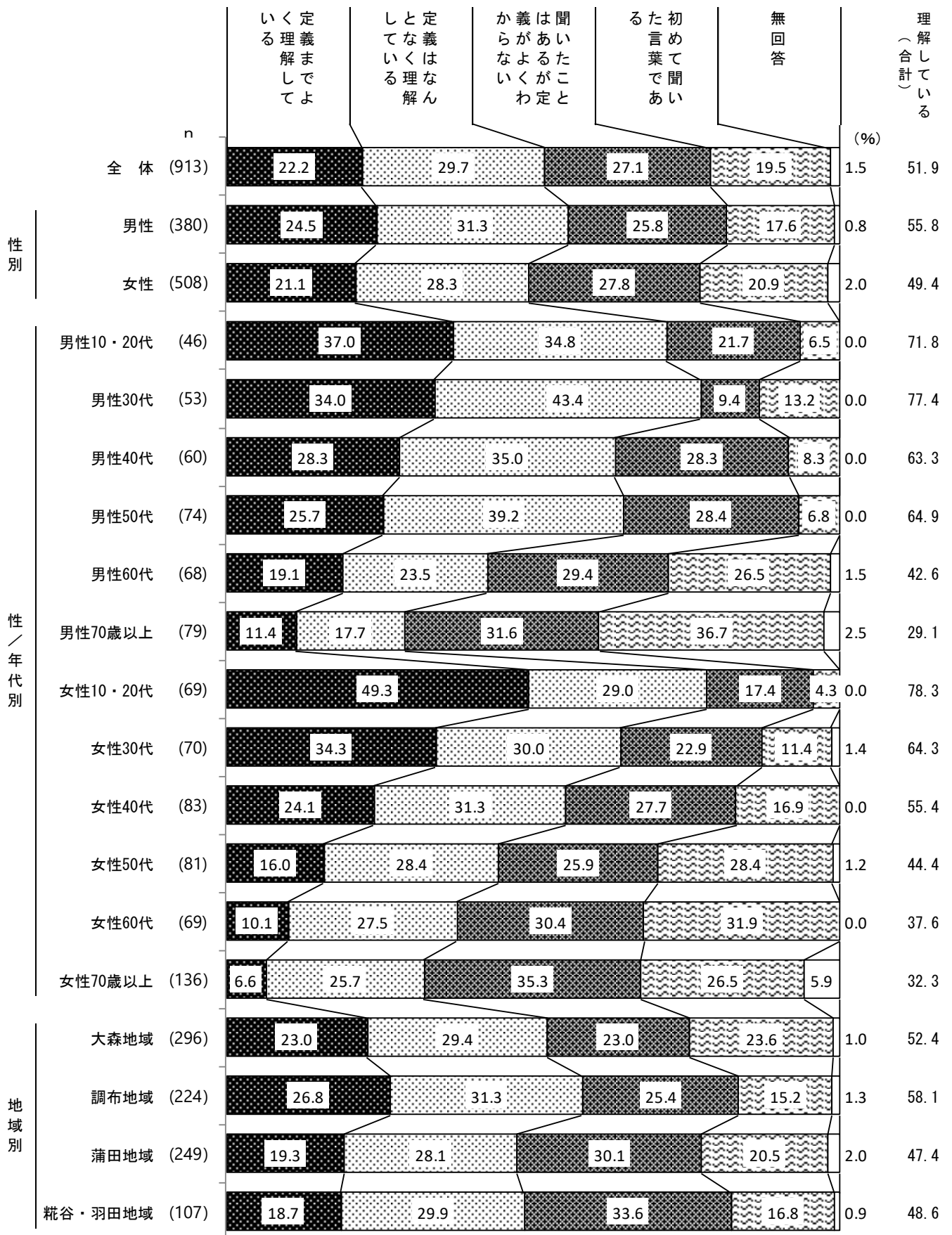
【バリアフリー】の認知度について聞いたところ、「定義はなんとなく理解している」が46.0%で最も高く、「定義までよく理解している」(36.1%)と合わせた《理解している（合計）》は82.1%となっている。

【ユニバーサルデザイン】の認知度について聞いたところ、「定義はなんとなく理解している」が29.7%で最も高く、「定義までよく理解している」(22.2%)と合わせた《理解している（合計）》は51.9%となっている。(図表6-1)

図表6-2 「バリアフリー」の認知度（性別・性/年代別・地域別）



図表6-3 「ユニバーサルデザイン」の認知度（性別・性/年代別・地域別）



【バリアフリー】の認知度を性別で見ると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、「定義までよく理解している」は男性10・20代、30代で4割台、女性10・20代、30代で5割台と他の年代より高くなっている。

地域別で見ると、調布地域で「定義までよく理解している」が4割前半と高くなっている。

(図表6-2)

【ユニバーサルデザイン】の認知度を性別で見ると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、女性10・20代で「定義までよく理解している」が約5割と他の年代より高く、男女ともに年代が上がるにつれ割合は低くなっている。

地域別で見ると、《理解している(合計)》は大森地域、調布地域が5割台、蒲田地域、糀谷・羽田地域が4割後半となっている。(図表6-3)

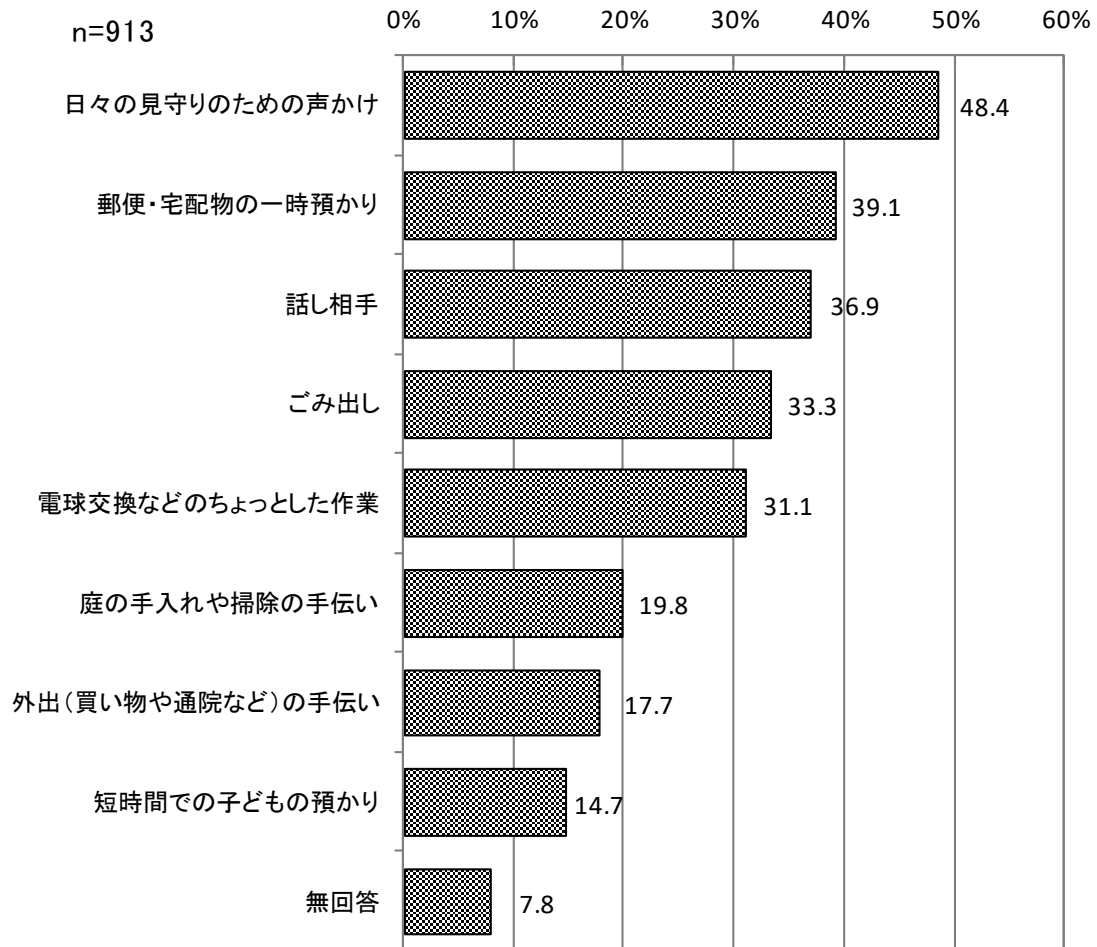
7 施策等の認知度について

(1) 近所への手助けについて

◎「日々の見守りのための声かけ」が4割後半で最も高くなっている

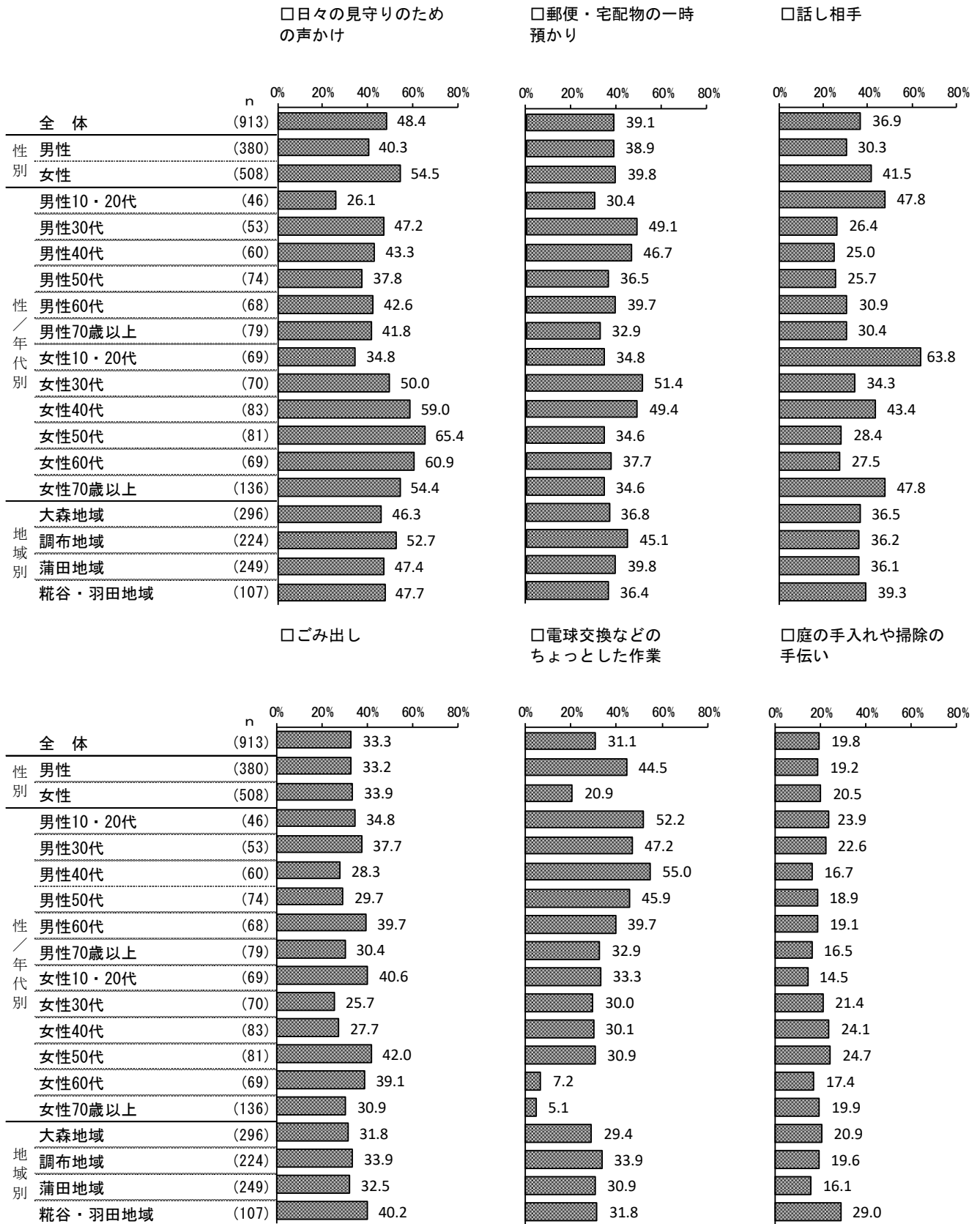
問17 あなたが近所の方から次のことを頼まれた場合、手助けできると思うことを教えてください。(〇はいくつでも)

図表7-1 近所への手助けについて



近所への手助けについて聞いたところ、「日々の見守りのための声かけ」が48.4%で最も高く、次いで、「郵便・宅配物の一時預かり」(39.1%)、「話し相手」(36.9%)となっている。(図表7-1)

図表 7-2 近所への手助けについて (性別・性/年代別・地域別)



近所への手助けについて性別でみると、「日々の見守りのための声かけ」は女性（54.5%）が男性（40.3%）を14.2ポイント、「電球交換などのちょっとした作業」は男性（44.5%）が女性（20.9%）を23.6ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「日々の見守りのための声かけ」は女性50代、60代で6割台、30代、40代、70歳以上で5割台と、すべての年代で男性を上回っている。また、「話し相手」では女性10・20代が63.8%と高くなっている。

地域別でみると、「日々の見守りのための声かけ」は調布地域で5割前半、その他の地域で4割台となっている。（図表7-2）

(2) 大田区の制度、計画の認知度について

◎ヘルプカード(たすけてねカード)を「よく知っている」は1割半ば、

障害者差別解消法、おおた 子どもの生活応援プランを「内容まで知っている」は1割未満

問 18 以下の(1)～(3)の制度、計画などをご存知ですか。(○はそれぞれ1つ)

(1) ヘルプカード(たすけてねカード)

※障がいのある方などが災害時や日常の外出先での緊急時に手助けを求めるためのカード
(大田区が作成)

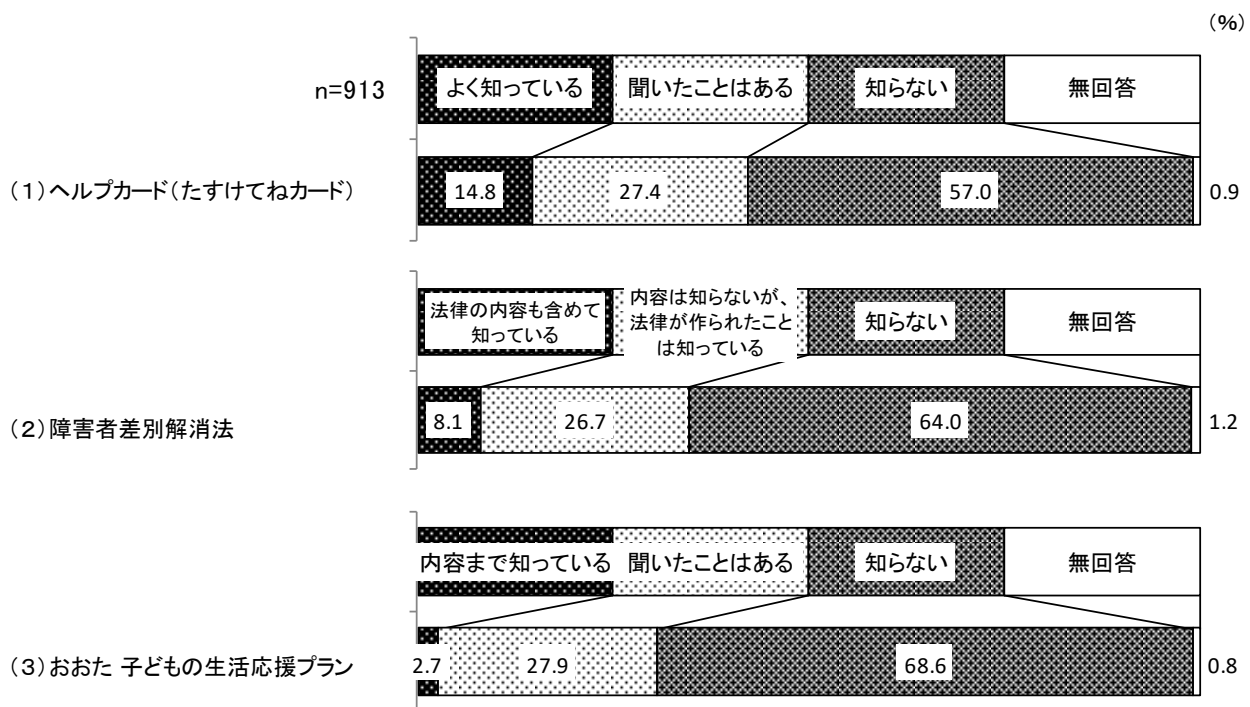
(2) 障害者差別解消法

※障がいのある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながらともに生きる社会
づくりを目指して、平成28年4月に施行された法律

(3) おおた 子どもの生活応援プラン

※大田区の子どもの貧困対策に関する計画

図表 7-3 大田区の制度、計画の認知度について

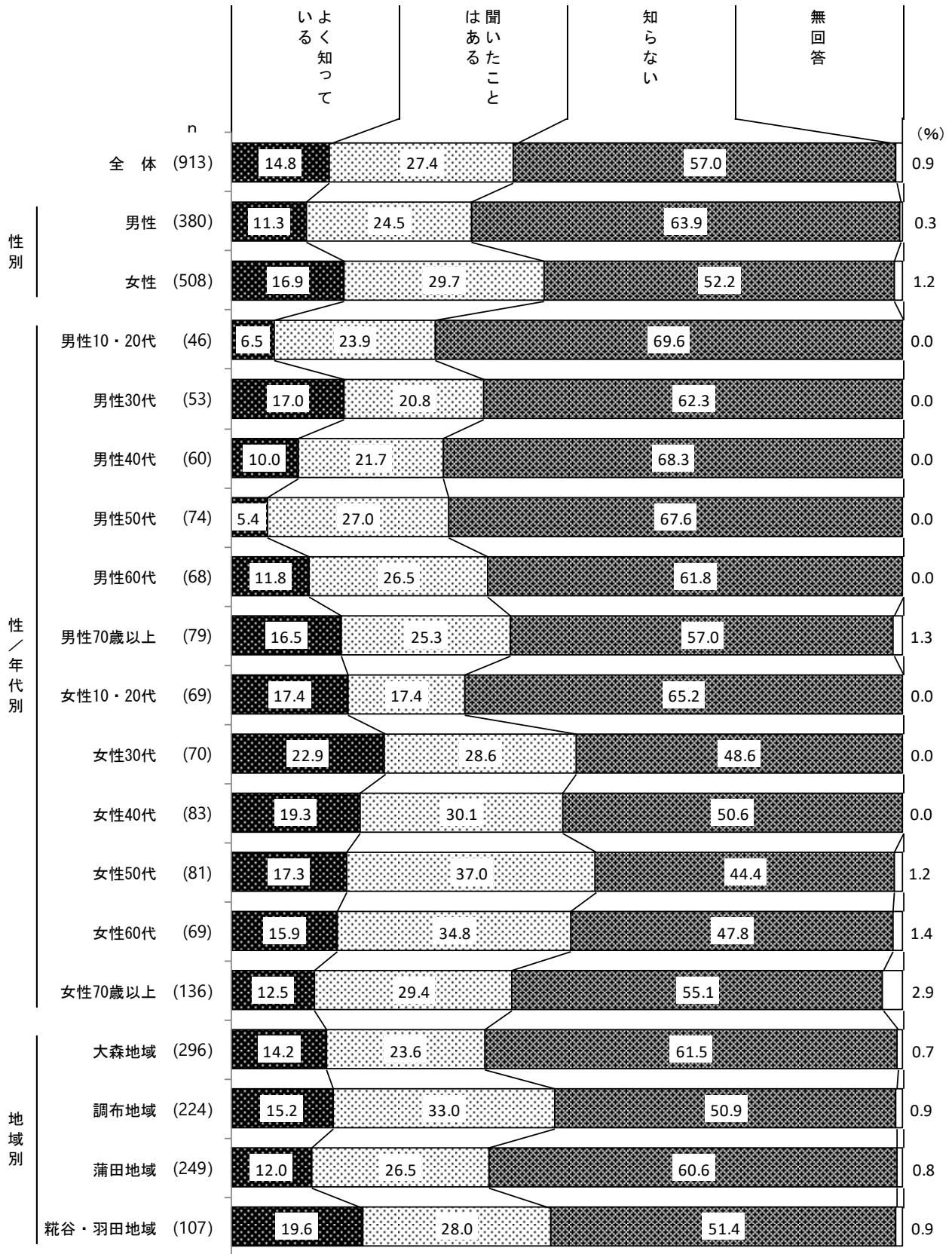


【ヘルプカード(たすけてねカード)】を知っているか聞いたところ、「よく知っている」が14.8%、「聞いたことはある」が27.4%、「知らない」が57.0%となっている。

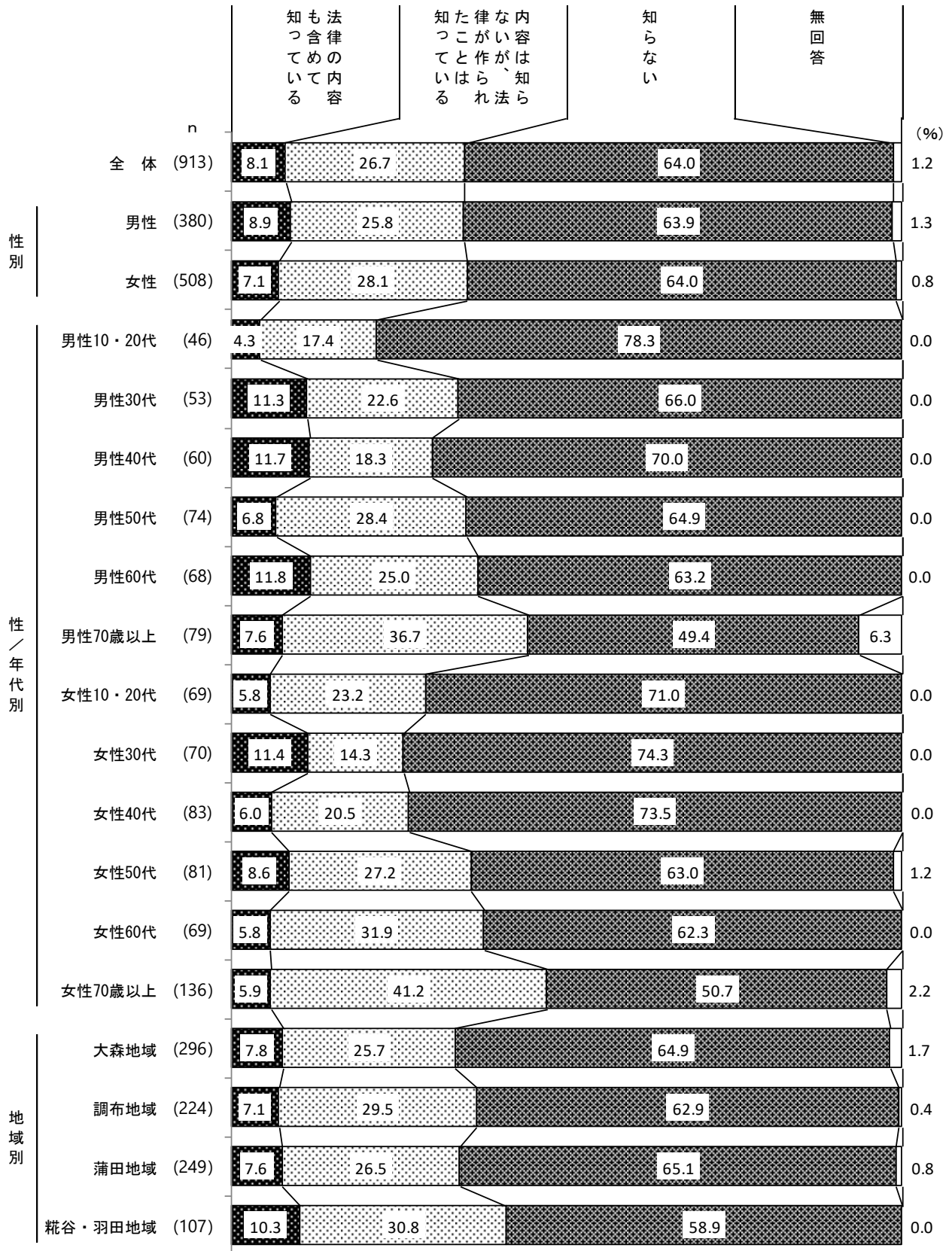
【障害者差別解消法】を知っているか聞いたところ、「法律の内容も含めて知っている」が8.1%、「内容は知らないが、法律が作られたことは知っている」が26.7%、「知らない」が64.0%となっている。

【おおた 子どもの生活応援プラン】の認知度について聞いたところ、「内容まで知っている」が2.7%、「聞いたことはある」が27.9%、「知らない」が68.6%となっている。(図表7-3)

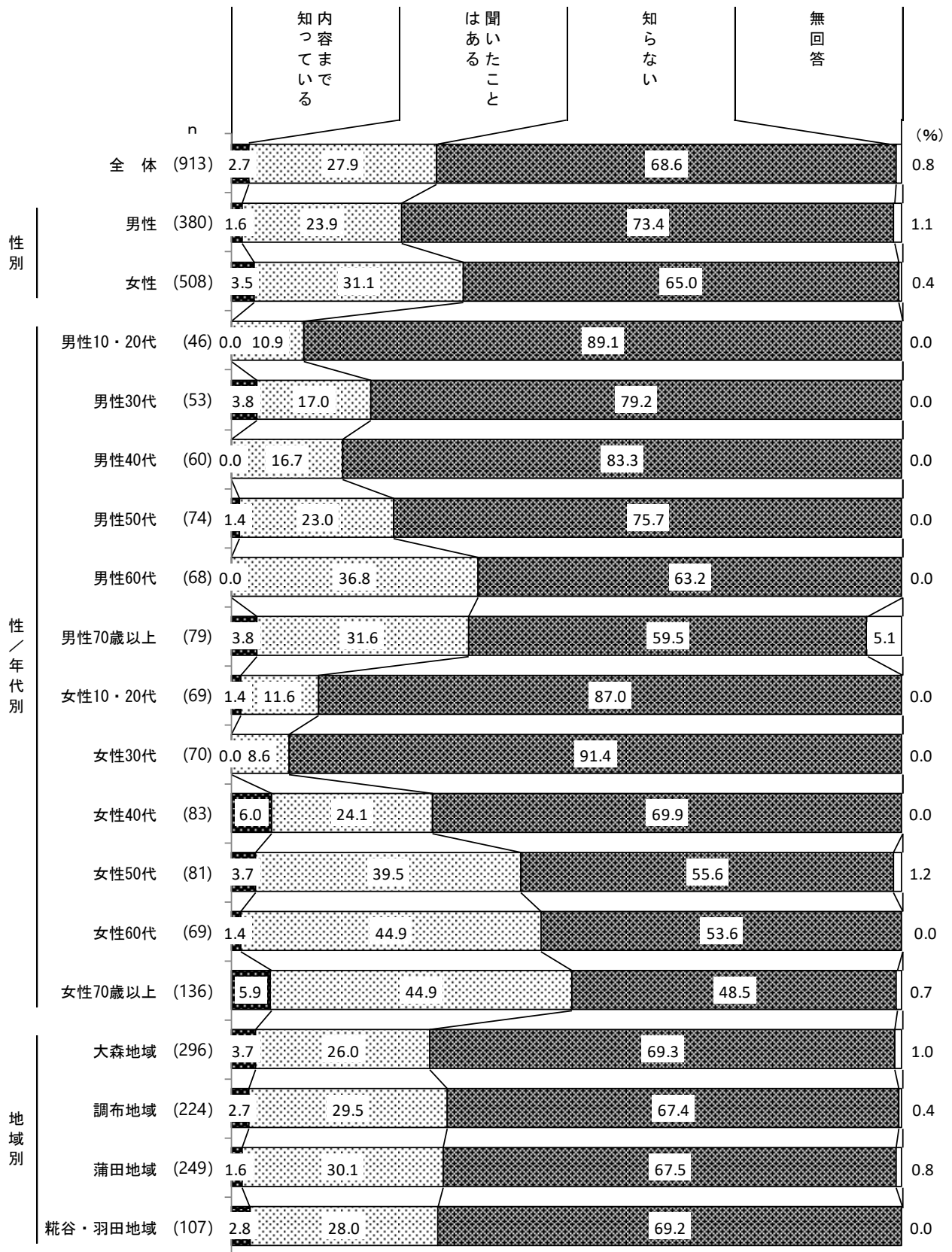
図表 7-4 大田区の制度、計画の認知度について (1) ヘルプカード (たすけてねカード)
(性別・性/年代別・地域別)



図表 7-5 大田区の制度、計画の認知度について (2) 障害者差別解消法
(性別・性/年代別・地域別)



図表7-6 大田区の制度、計画の認知度について(3) おおた 子どもの生活応援プラン
(性別・性/年代別・地域別)



【ヘルプカード(たすけてねカード)】の認知度を性別で見ると、「よく知っている」は女性(16.9%)が男性(11.3%)を5.6ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「よく知っている」は女性30代が2割前半となっている。

地域別で見ると、すべての地域で「知らない」が5割以上となっている。(図表7-4)

【障害者差別解消法】の認知度を性別で見ると、大きな差異は見られなかった。

性/年代別で見ると、「知らない」は男女ともに70歳以上が約5割で、その他の性/年代では6割以上となっている。

地域別で見ると、すべての地域で「知らない」が5割後半以上となっている。(図表7-5)

【おおた 子どもの生活応援プラン】の認知度を性別で見ると、「聞いたことはある」は女性(31.1%)が男性(23.9%)を7.2ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「聞いたことはある」は女性60代、女性70歳以上で4割半ばとその他の性/年代より高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域において「知らない」は6割半ば以上となっている。(図表7-6)

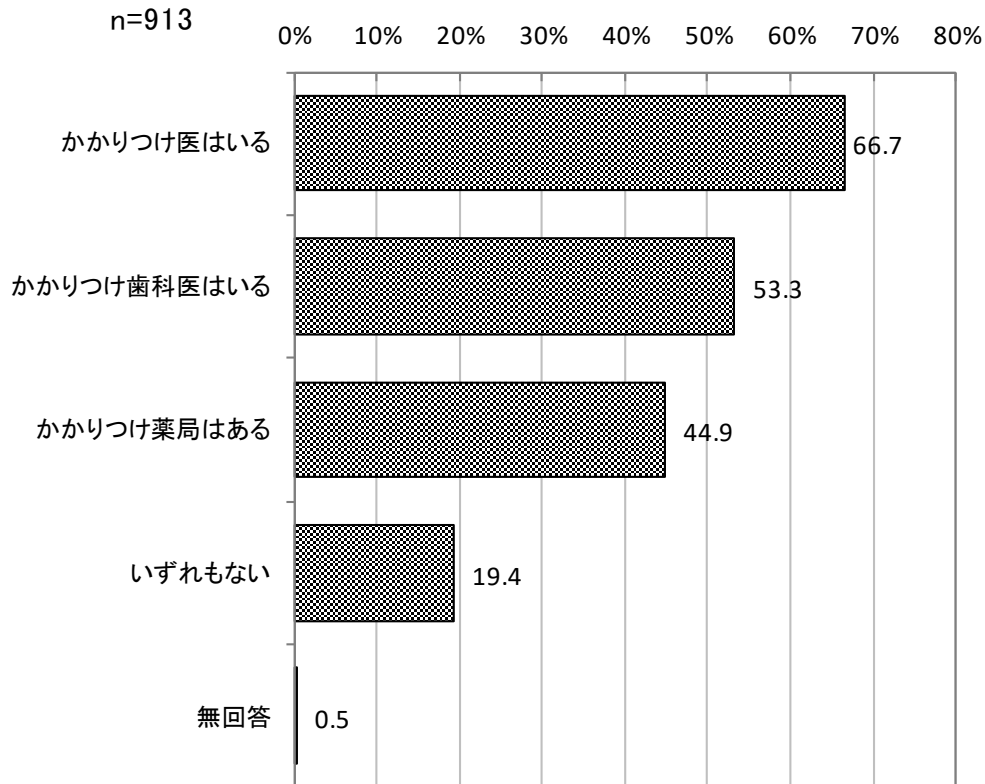
8 通院、在宅医療について

(1) かかりつけの医療機関について

◎「かかりつけ医はいる」が6割半ばで最も高くなっている

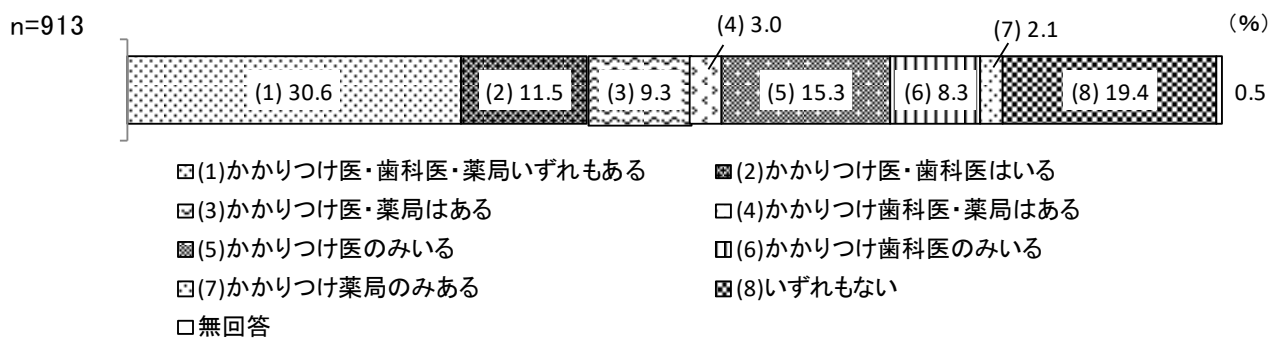
問 19 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局はありますか。(〇はいくつでも)

図表 8-1 かかりつけの医療機関について



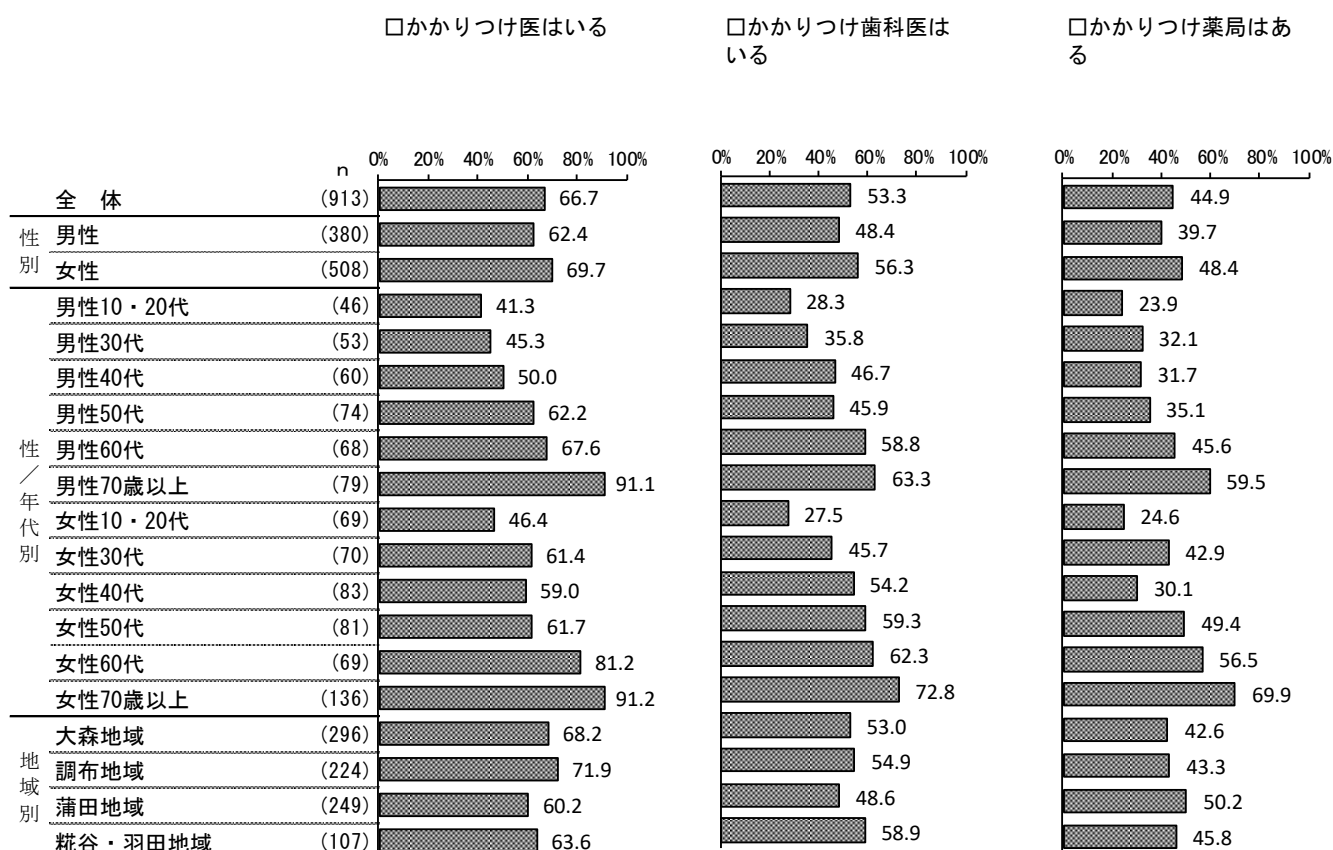
かかりつけの医療機関について聞いたところ、「かかりつけ医はいる」が66.7%で最も高く、次いで、「かかりつけ歯科医はいる」(53.3%)、「かかりつけ薬局はある」(44.9%)などとなっている。(図表8-1)

図表 8-2 かかりつけの医療機関について



また、「かかりつけ医・歯科医・薬局いずれもある」人は30.6%、「かかりつけ医のみいる」人は15.3%などとなっている。(図表8-2)

図表 8-3 かかりつけの医療機関について（性別・性／年代別・地域別 上位 3 項目）



かかりつけの医療機関について性別で見ると、「かかりつけ医はいる」は女性（69.7%）が男性（62.4%）を7.3ポイント、「かかりつけ歯科医はいる」は女性（56.3%）が男性（48.4%）を7.9ポイント、「かかりつけ薬局はある」は女性（48.4%）が男性（39.7%）を8.7ポイント上回っている。

性／年代別にみると、「かかりつけ医はいる」は男女ともに70歳以上が約9割、「かかりつけ歯科医はいる」は女性70歳以上が7割前半、男性70歳以上、女性60代が6割前半、「かかりつけ薬局はある」は女性70歳以上が約7割、男性70歳以上が約6割と、いずれも高齢者層が高くなっている。

地域別で見ると、「かかりつけ医はいる」は調布地域で約7割、大森地域、蒲田地域、糀谷・羽田地域で6割台となっている。（図表8-3）

(2)「在宅医療」の認知度

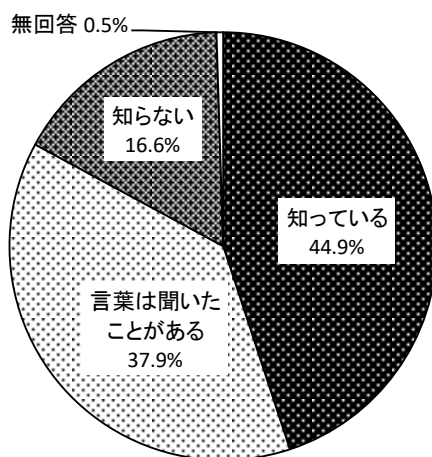
◎「知っている」が4割半ばとなっている

問 20 「在宅医療」の制度や仕組みについて知っていますか。(○は1つ)

※在宅医療とは、自宅等において、医師の往診や治療、訪問看護などの医療サービスを受けながら、療養生活を送ること。

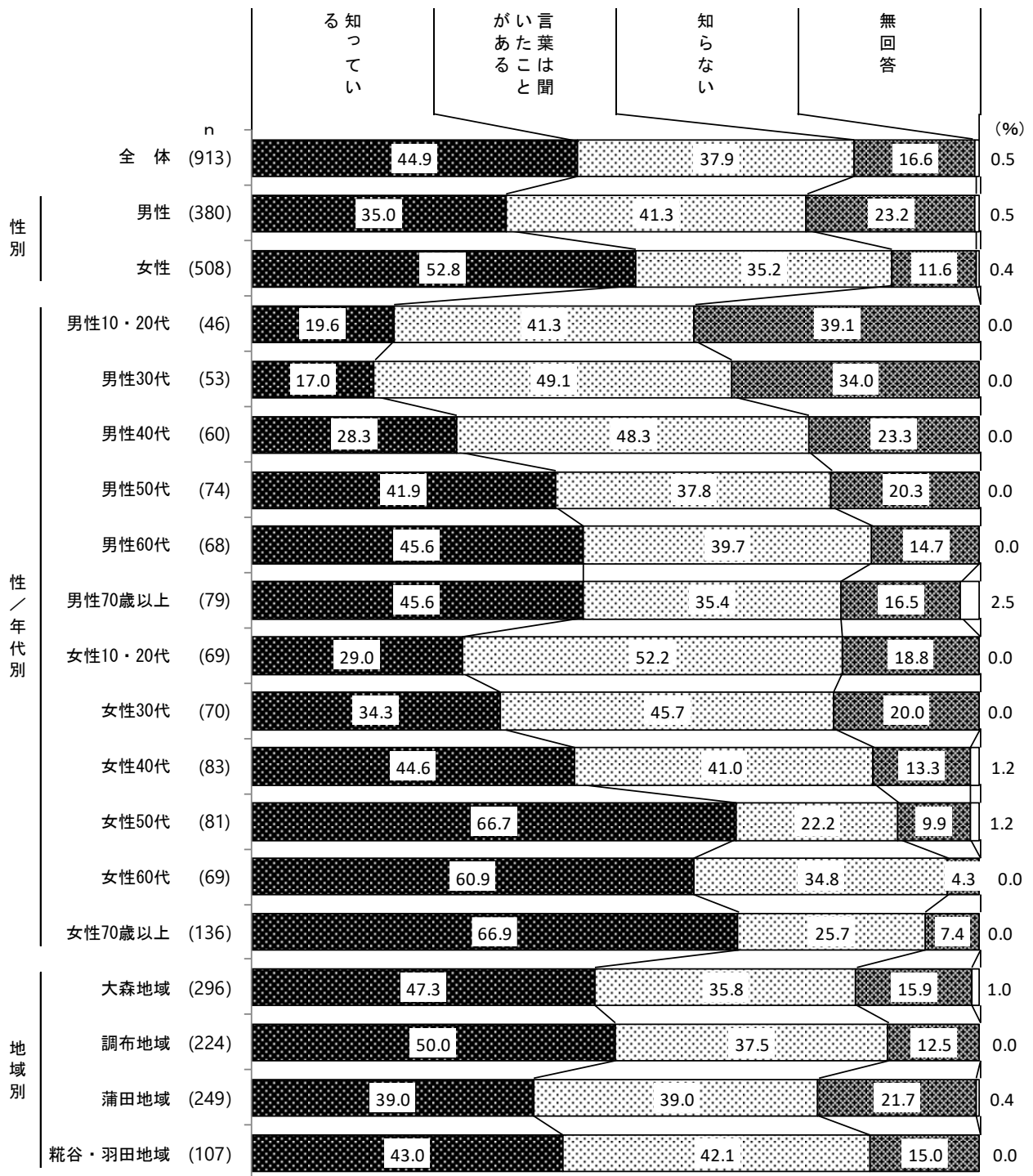
図表 8 - 4 「在宅医療」の認知度

n=913



「在宅医療」の認知度について聞いたところ、「知っている」が44.9%、「言葉は聞いたことがある」が37.9%、「知らない」が16.6%となっている。(図表8-4)

図表 8-5 「在宅医療」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「在宅医療」の認知度を性別で見ると、「知っている」は女性（52.8%）が男性（35.0%）を17.8ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「知っている」は女性50代以上で6割台、男性50代以上、女性40代で4割台と高齢層で高く、すべての年代で女性が男性を上回っている。

地域別で見ると、「知っている」は調布地域で5割となっている。（図表8-5）

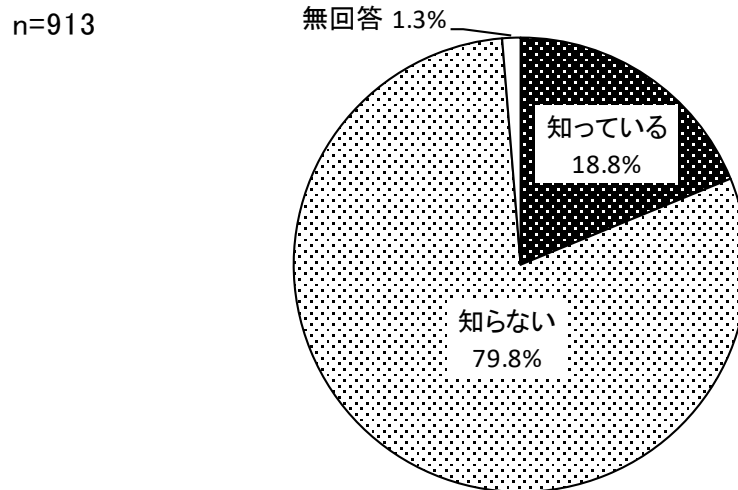
9 災害時の医療について

(1) 災害時の医療制限の認知度

◎「知っている」は1割後半となっている

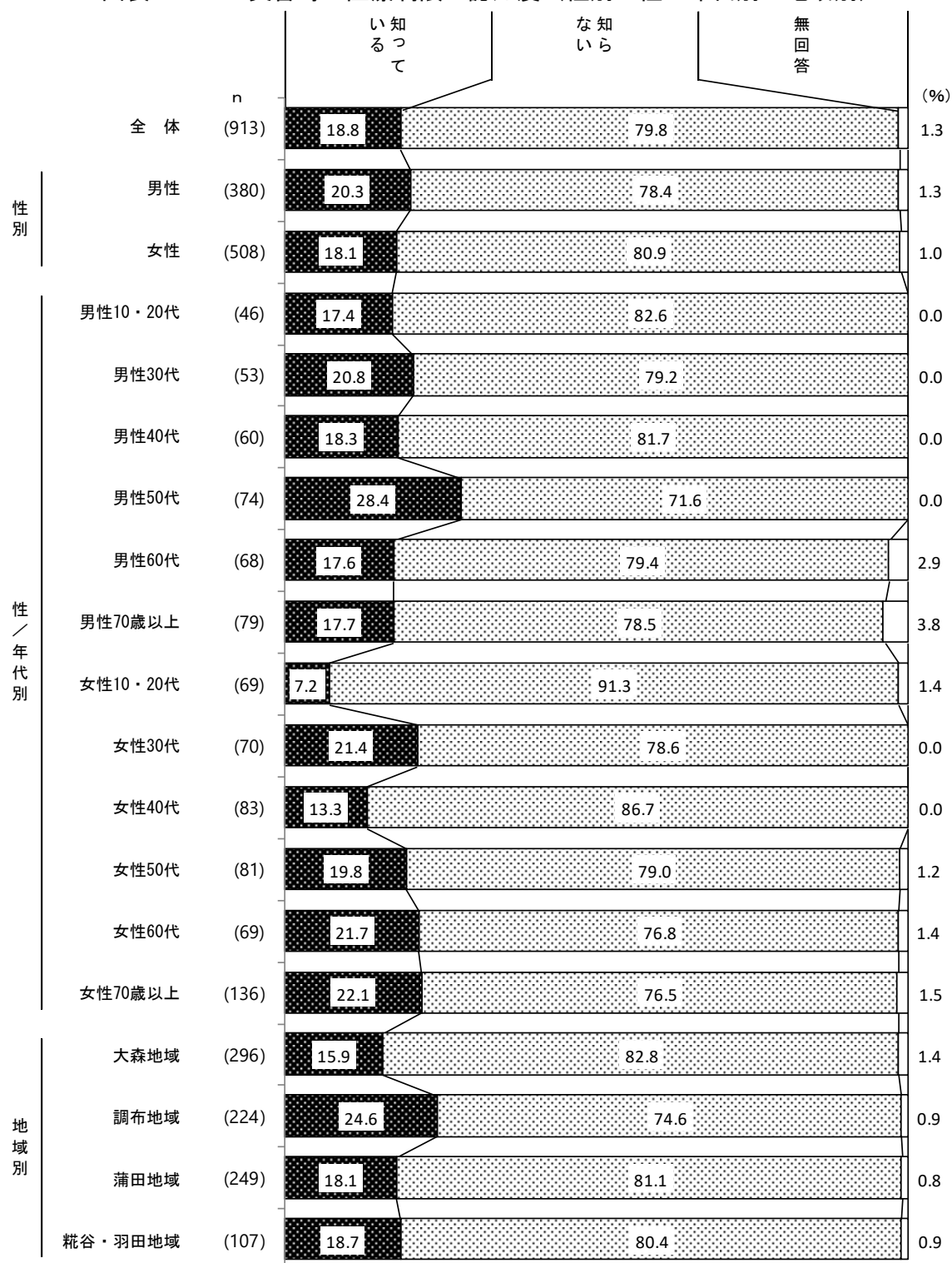
問 21 区内で震度6弱以上の大地震が発生し、ライフラインが停止した場合、医療を提供可能な施設が限定されることを、ご存知ですか。(○は1つ)

図表9-1 災害時の医療制限の認知度



災害時に医療を提供可能な施設が限定されることを知っているか聞いたところ、「知っている」が18.8%、「知らない」が79.8%となっている。(図表9-1)

図表 9 - 2 災害時の医療制限の認知度（性別・性／年代別・地域別）



災害時の医療制限の認知度を性別で見ると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、男性 50 代で「知っている」が 28.4% とその他の年代より高くなっている。

「知らない」は女性 10・20 代で約 9 割となっている。

地域別で見ると、「知っている」は調布地域で 24.6% とその他の地域より高くなっている。

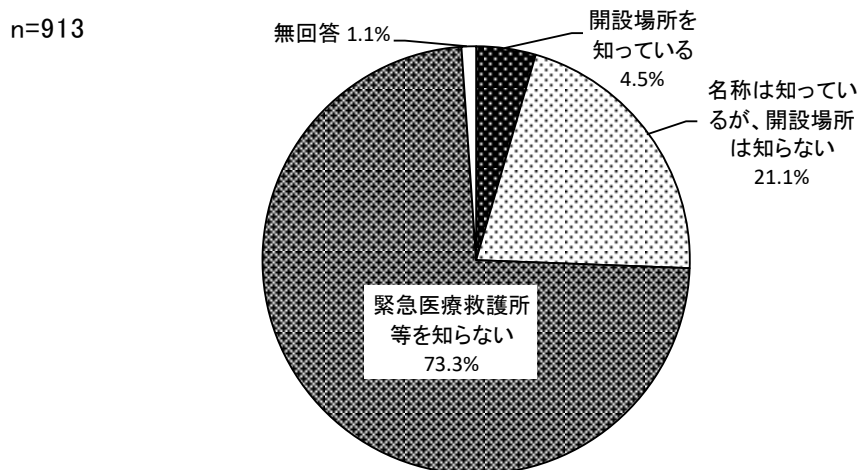
(図表 9 - 2)

(2) 災害時の緊急医療開設場所の認知度

◎「緊急医療救護所等を知らない」が7割前半となっている

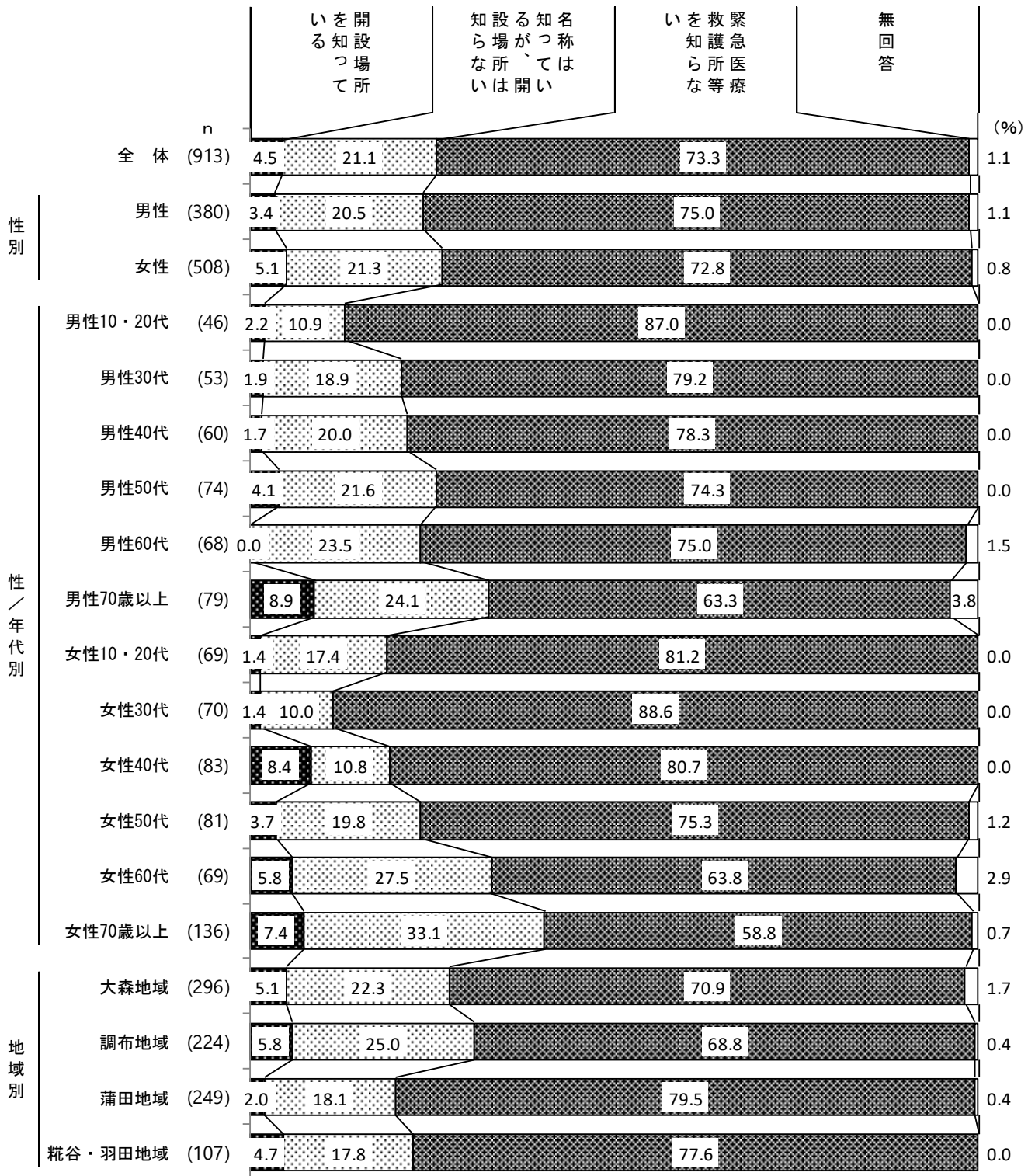
問 22 区内で震度6弱以上の大地震が発生し、ライフラインが停止した場合に開設する緊急医療救護所及び軽症者救護所の開設場所を知っていますか。(○は1つ)

図表9-3 災害時の緊急医療開設場所の認知度



災害時の緊急医療開設場所の認知度について聞いたところ、「緊急医療救護所等を知らない」が73.3%で最も高く、次いで、「名称は知っているが、開設場所は知らない」(21.1%)、「開設場所を知っている」(4.5%)となっている。(図表9-3)

図表 9-4 災害時の緊急医療開設場所の認知度（性別・性／年代別・地域別）



災害時の緊急医療開設場所の認知度を性別で見ると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、「緊急医療救護所等を知らない」は男性10・20代、女性10・20代～40代で8割台と高く、すべての性／年代で5割以上となっている。

地域別で見ると、すべての地域で「緊急医療救護所等を知らない」が6割後半以上となっている。

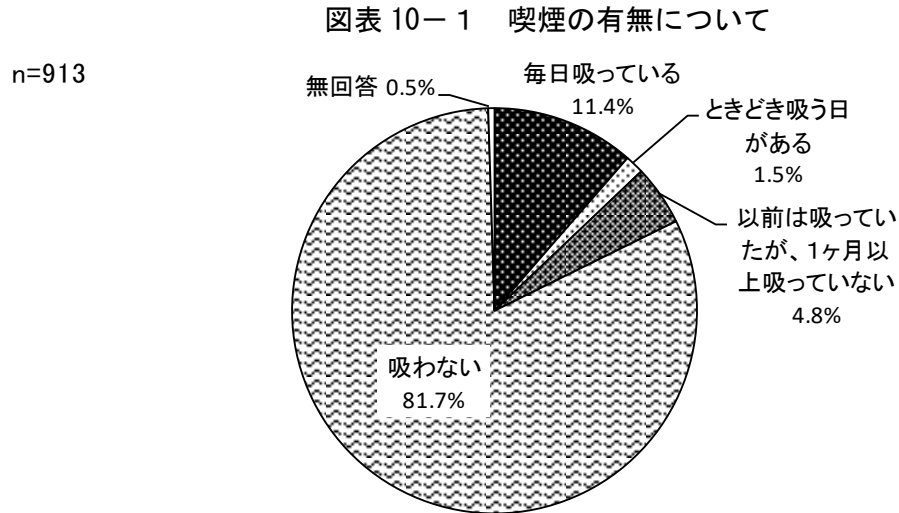
(図表 9-4)

10 喫煙について

(1) 喫煙について

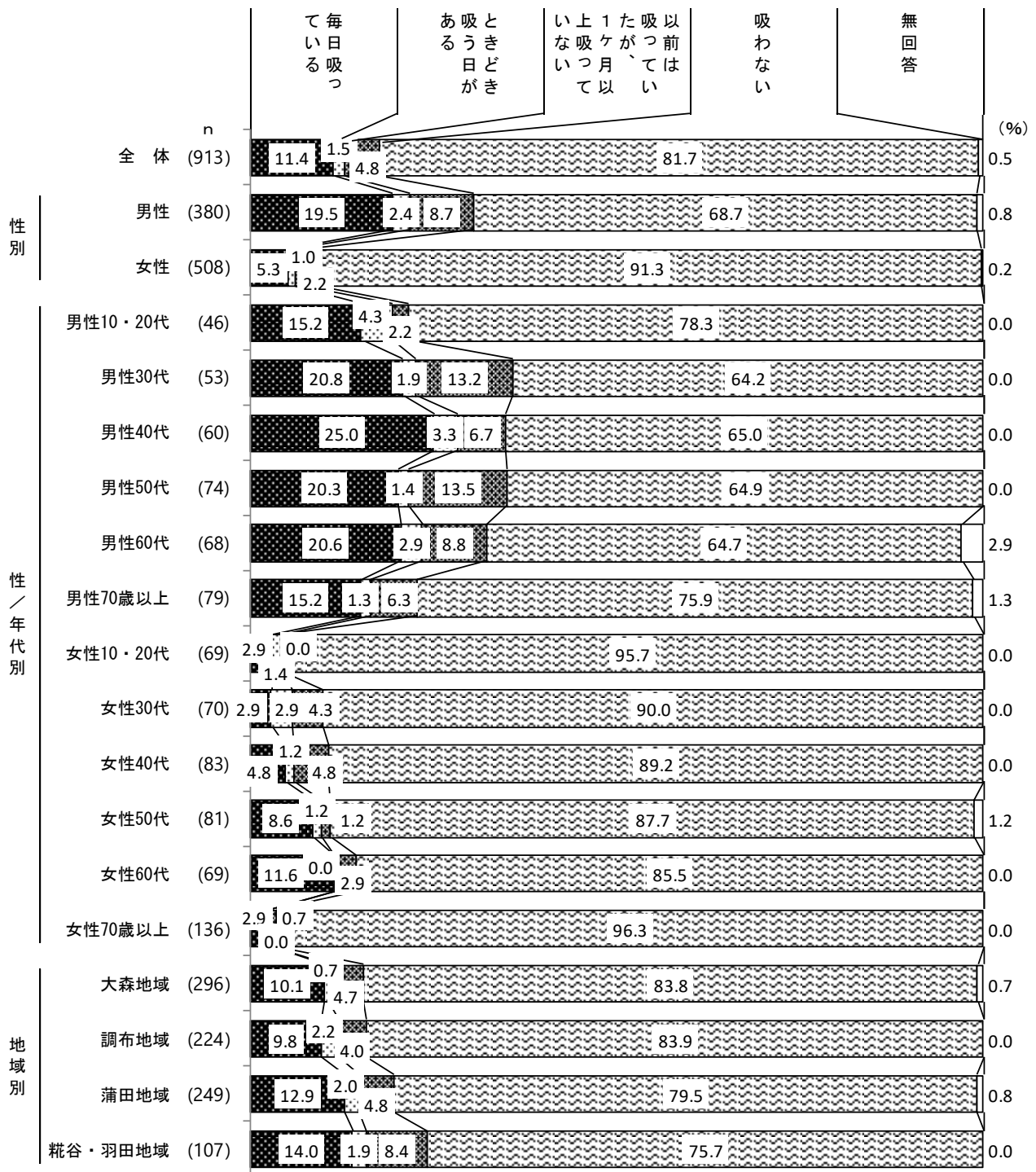
◎「吸わない」が約8割で最も高くなっている

問 23 あなたは、たばこを吸いますか。(○は1つ)



喫煙について聞いたところ、「吸わない」が81.7%で最も高く、次いで、「毎日吸っている」(11.4%)、「以前は吸っていたが、1ヶ月以上吸っていない」(4.8%)となっている。(図表 10-1)

図表 10-2 喫煙の有無について（性別・性／年代別・地域別）



喫煙について性別で見ると、「毎日吸っている」は男性（19.5%）が女性（5.3%）を14.2ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「毎日吸っている」は男性30代～60代で2割台となっている。すべての年代で男性が女性を上回っている。

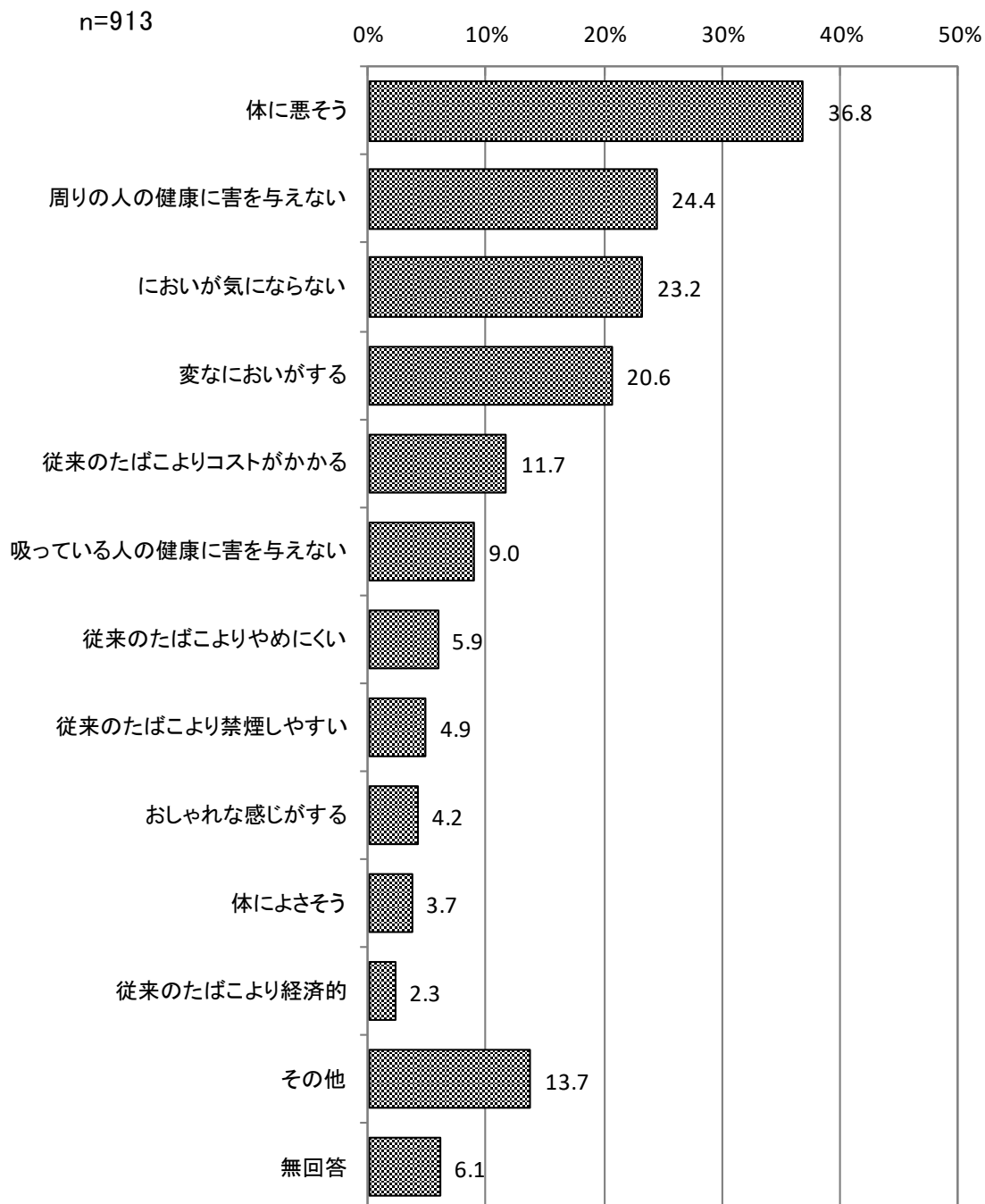
地域別で見ると大きな差異は見られなかった。（図表 10-2）

(2) 新型たばこのイメージ

◎「体に悪そう」が3割半ばで最も高くなっている

問 24 新型たばこ（加熱式たばこ）についてあなたの持っているイメージであてはまるものがありますか。（○はいくつでも）

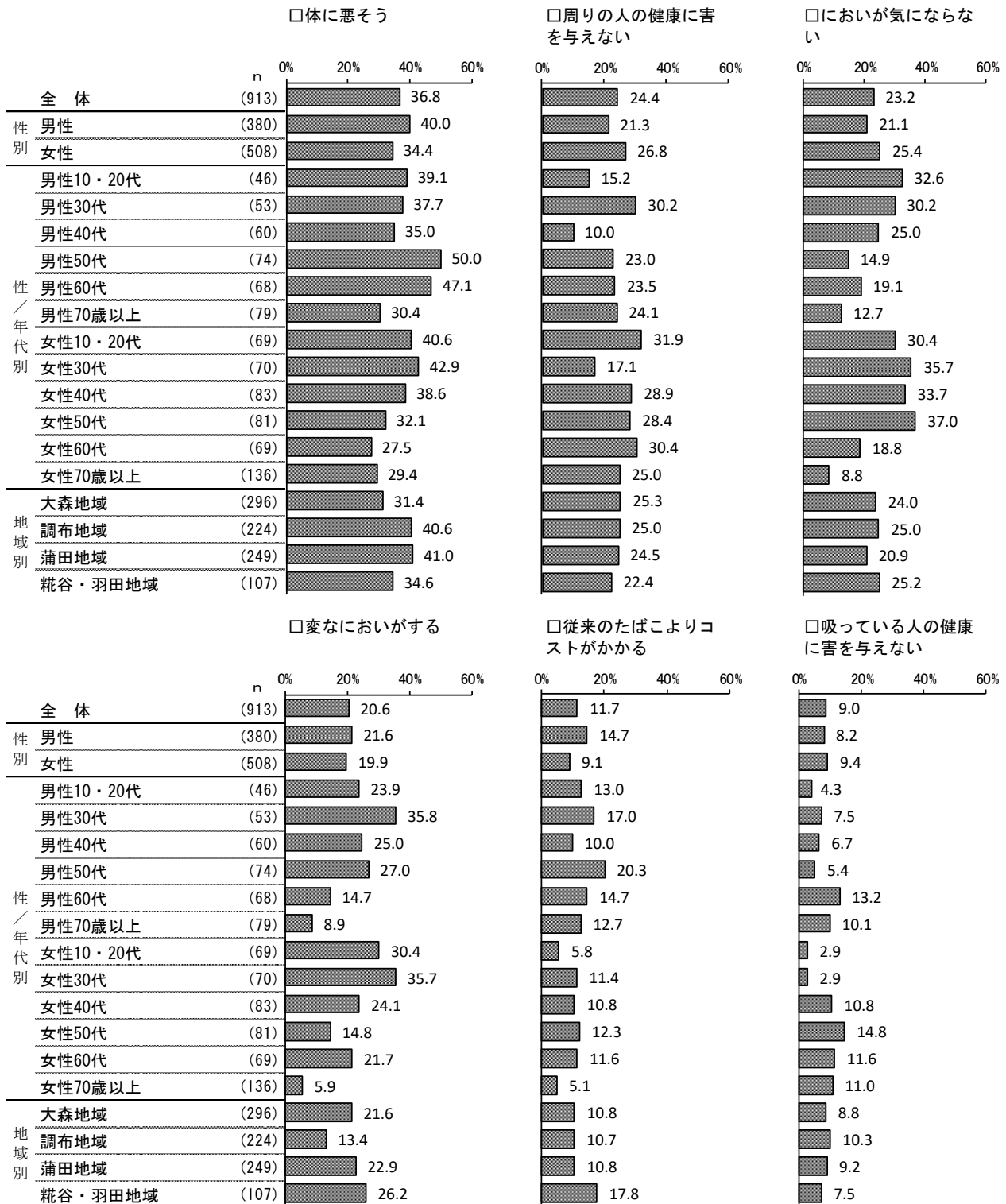
図表 10-3 新型たばこのイメージ



新型たばこのイメージについて聞いたところ、「体に悪そう」が 36.8%で最も高く、次いで、「周りの人の健康に害を与えない」(24.4%)、「においが気にならない」(23.2%)となっている。

(図表 10-3)

図表 10-4 新型たばこのイメージ（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



新型たばこのイメージについて性別で見ると、男女ともに「体に悪そう」が最も高くなっている。性／年代別で見ると、女性50代で「においが気にならない」が、女性60代で「周りの人の健康に害を与えない」が、その他の性／年代では「体に悪そう」が最も高くなっている。地域別で見ると、すべての地域で「体に悪そう」が最も高くなっている。（図表 10-4）

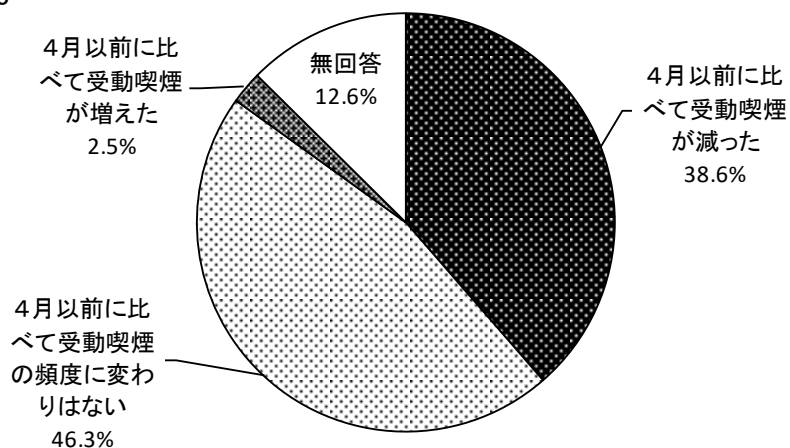
(3) 条例施行後の受動喫煙の頻度の変化について

◎「4月以前に比べて受動喫煙の頻度が変わりはない」が4割半ばで最も高くなっている

問 25 改正健康増進法及び東京都受動喫煙防止条例が令和2年4月に全面施行されましたが、4月以降、受動喫煙を経験する頻度に変化がありましたか。(○は1つ)

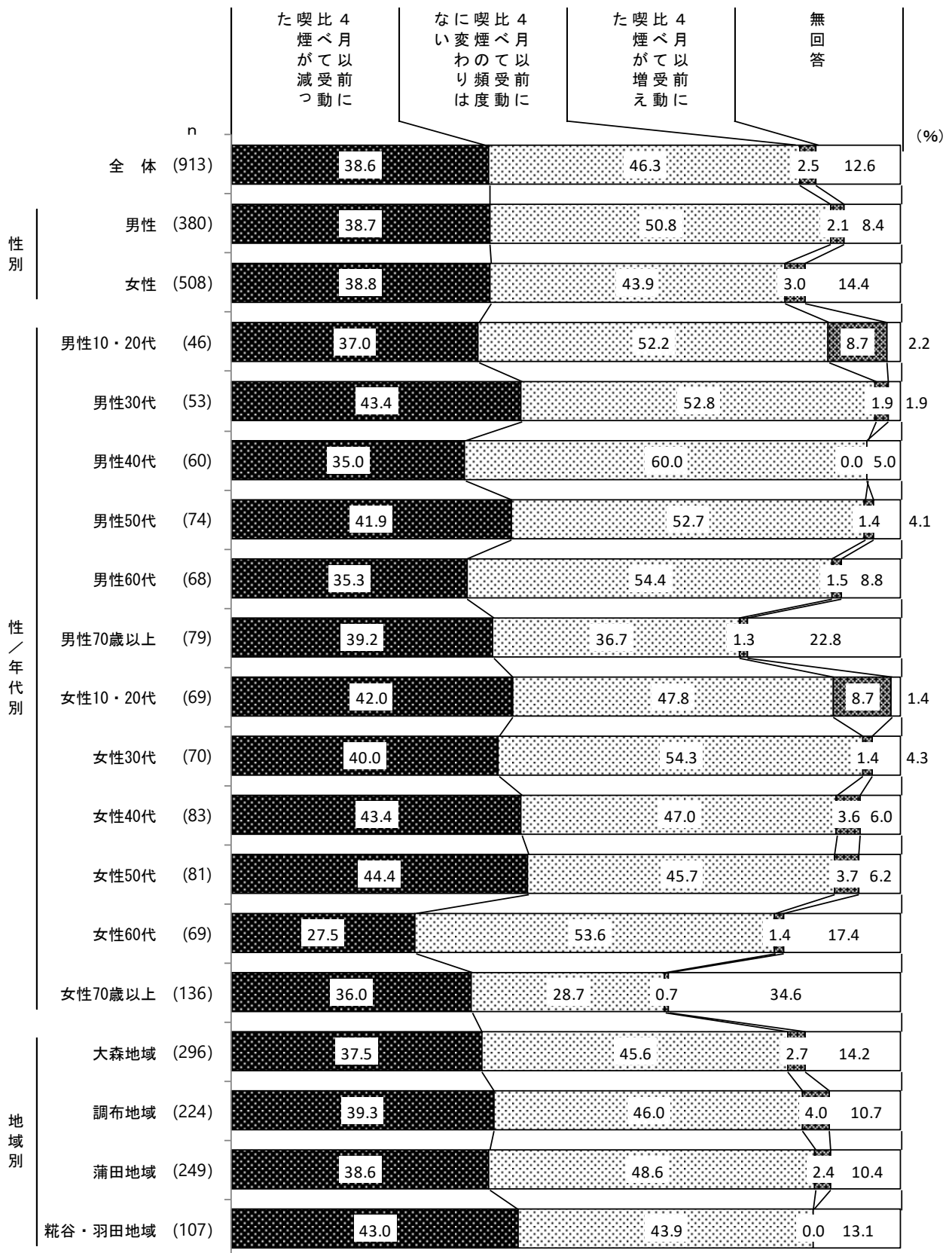
図表 10-5 条例施行後の受動喫煙の頻度の変化について

n=913



条例施行後の受動喫煙の頻度の変化について聞いたところ、「4月以前に比べて受動喫煙の頻度が変わりはない」が46.3%で最も高く、次いで、「4月以前に比べて受動喫煙が減った」(38.6%)、「4月以前に比べて受動喫煙が増えた」(2.5%)となっている。(図表 10-5)

図表 10-6 条例施行後の受動喫煙の頻度の変化について（性別・性／年代別・地域別）



条例施行後の受動喫煙の頻度の変化について、性別で見ると大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、「4月以前に比べて受動喫煙の頻度には変わりはない」は男性40代が6割となっている。

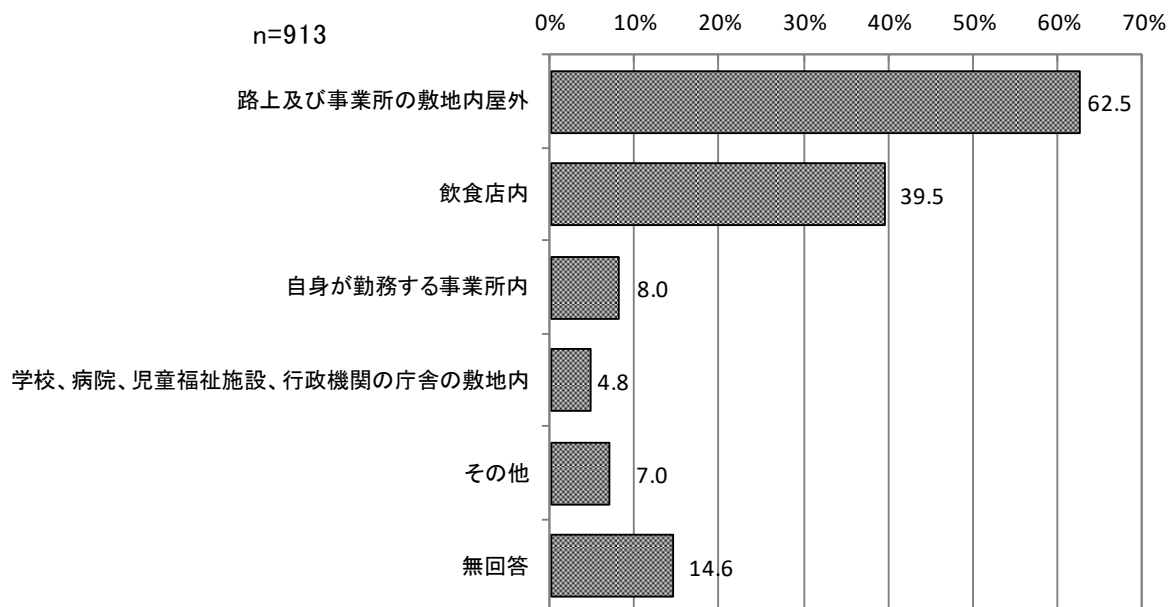
地域別で見ると、すべての地域で「4月以前に比べて受動喫煙の頻度には変わりはない」が4割台と最も高くなっている。(図表10-6)

(4) 受動喫煙を経験した場所

◎「路上及び事業所の敷地内屋外」が6割前半で最も高くなっている

問 26 受動喫煙を経験された場所を教えてください。(〇はいくつでも)

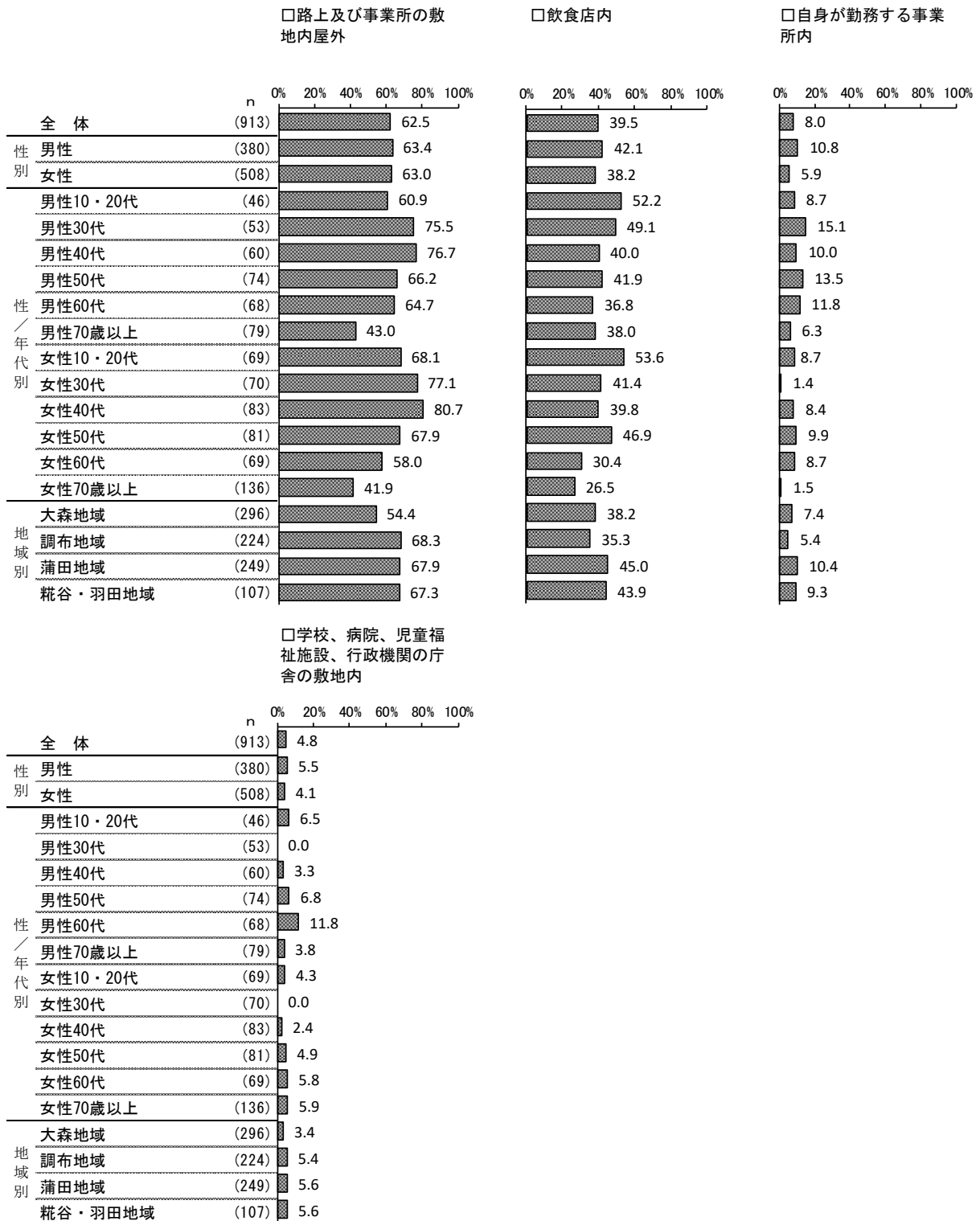
図表 10-7 受動喫煙を経験した場所



受動喫煙を経験した場所について聞いたところ、「路上及び事業所の敷地内屋外」が 62.5%で最も高く、次いで、「飲食店内」(39.5%)、「自身が勤務する事業所内」(8.0%) となっている。

(図表 10-7)

図表 10-8 受動喫煙を経験した場所（性別・性／年代別・地域別 上位4項目）



受動喫煙を経験した場所について性別で見ると、男女ともに「路上及び事業所の敷地内屋外」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、「路上及び事業所の敷地内屋外」は、女性40代で約8割、男性30代、40代、女性30代で7割台となっている。

地域別で見ると、すべての地域で「路上及び事業所の敷地内屋外」が最も高くなっている。

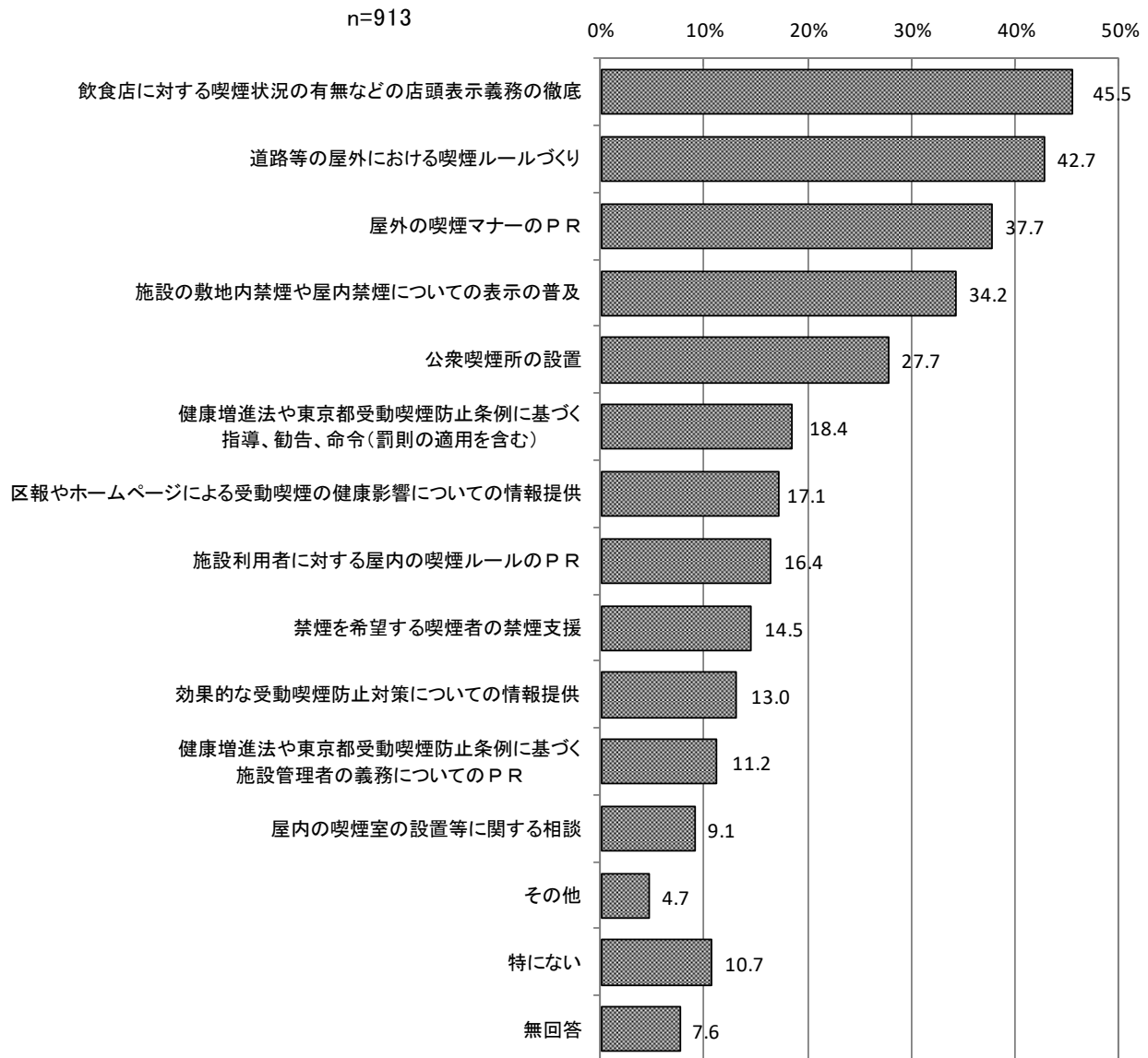
(図表 10-8)

(5) 受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて

◎「飲食店に対する喫煙状況の有無などの店頭表示義務の徹底」が4割半ばで最も高くなっている

問 27 受動喫煙防止のために大田区に望むことは何ですか。(〇はいくつでも)

図表 10-9 受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて



受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて聞いたところ、「飲食店に対する喫煙状況の有無などの店頭表示義務の徹底」が45.5%で最も高く、次いで、「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」(42.7%)、「屋外の喫煙マナーのPR」(37.7%)となっている。(図表 10-9)

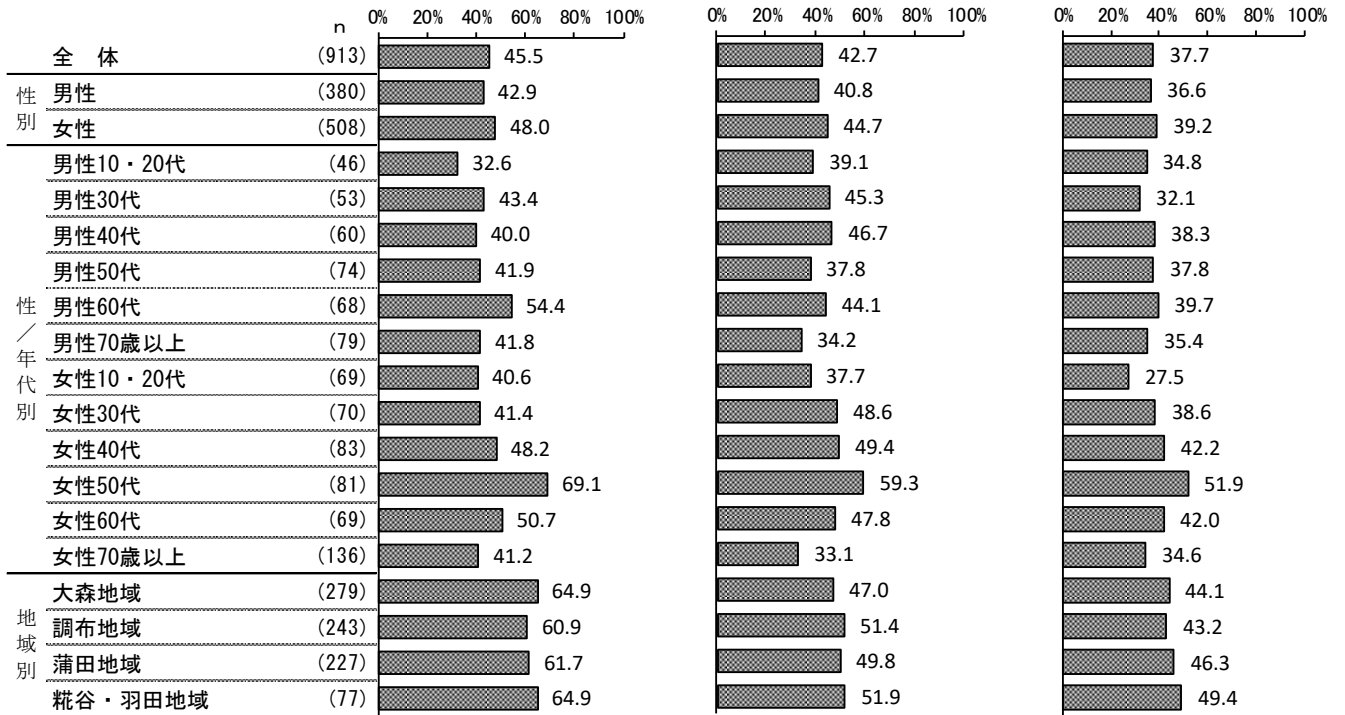
図表 10-10 受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて

(性別・性／年代別・地域別 上位6項目)

□飲食店に対する喫煙状況の有無などの店頭表示義務の徹底

□道路等の屋外における喫煙ルールづくり

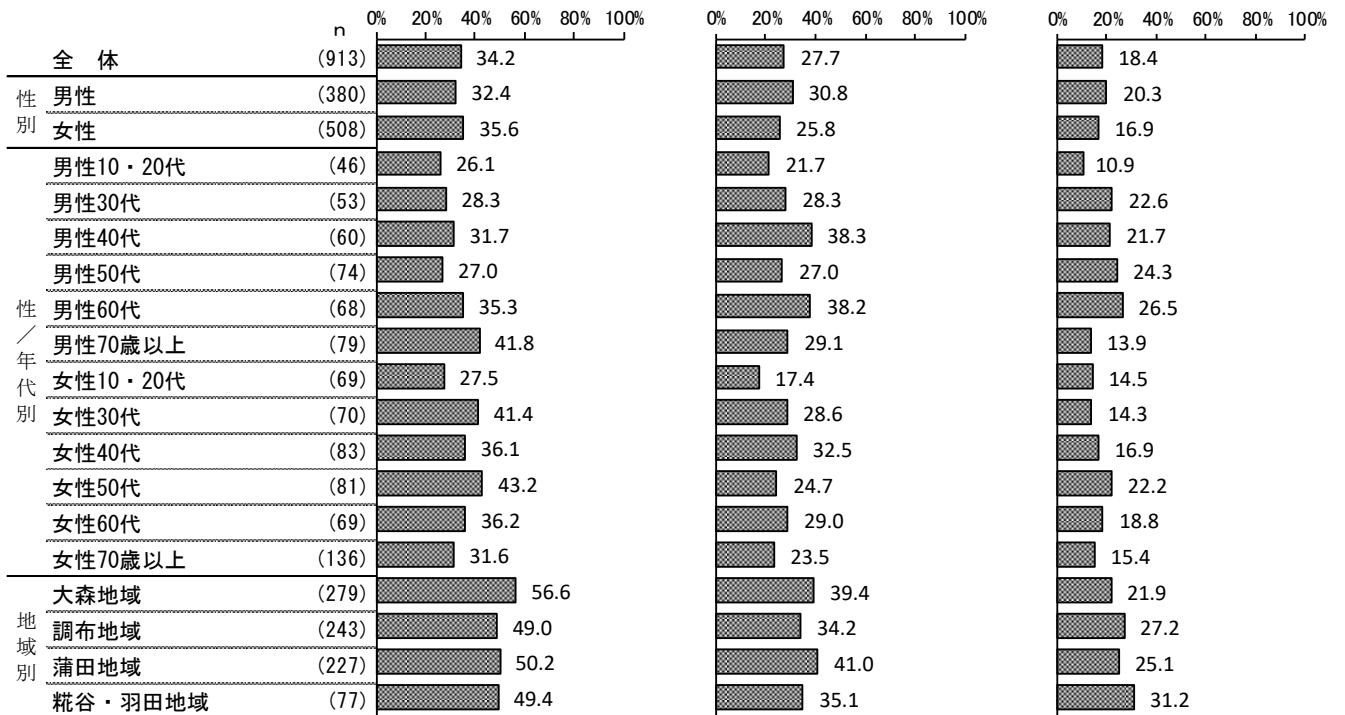
□屋外の喫煙マナーのPR



□施設の敷地内禁煙や屋内禁煙についての表示の普及

□公衆喫煙所の設置

□健康増進法や東京都受動喫煙防止条例に基づく指導、勧告、命令(罰則の適用を含む)



受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて、上位6項目を性別で見ると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、男性10・20代～40代、女性30代、40代で「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」が最も高くなっている。その他の性／年代では「飲食店に対する喫煙状況の有無などの店頭表示義務の徹底」が最も高く、女性50代で約7割と高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「飲食店に対する喫煙状況の有無などの店頭表示義務の徹底」が最も高くなっている。(図表10-10)

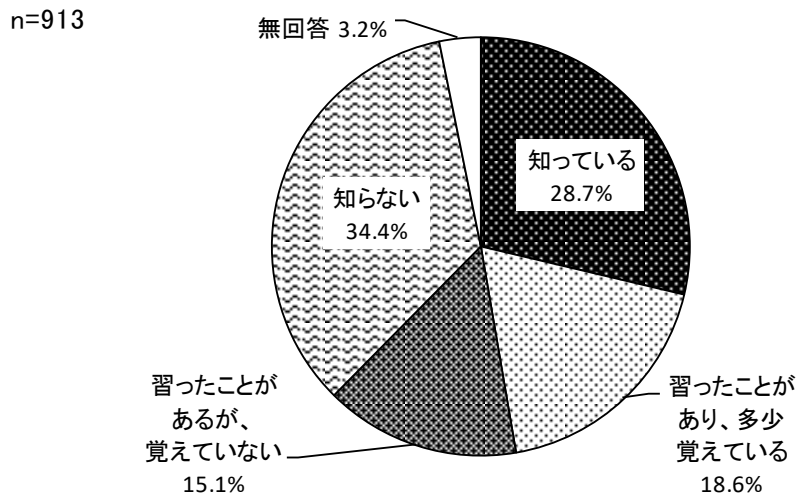
11 AEDについて

(1) AEDの使い方の認知度

◎「知っている」は2割後半となっている

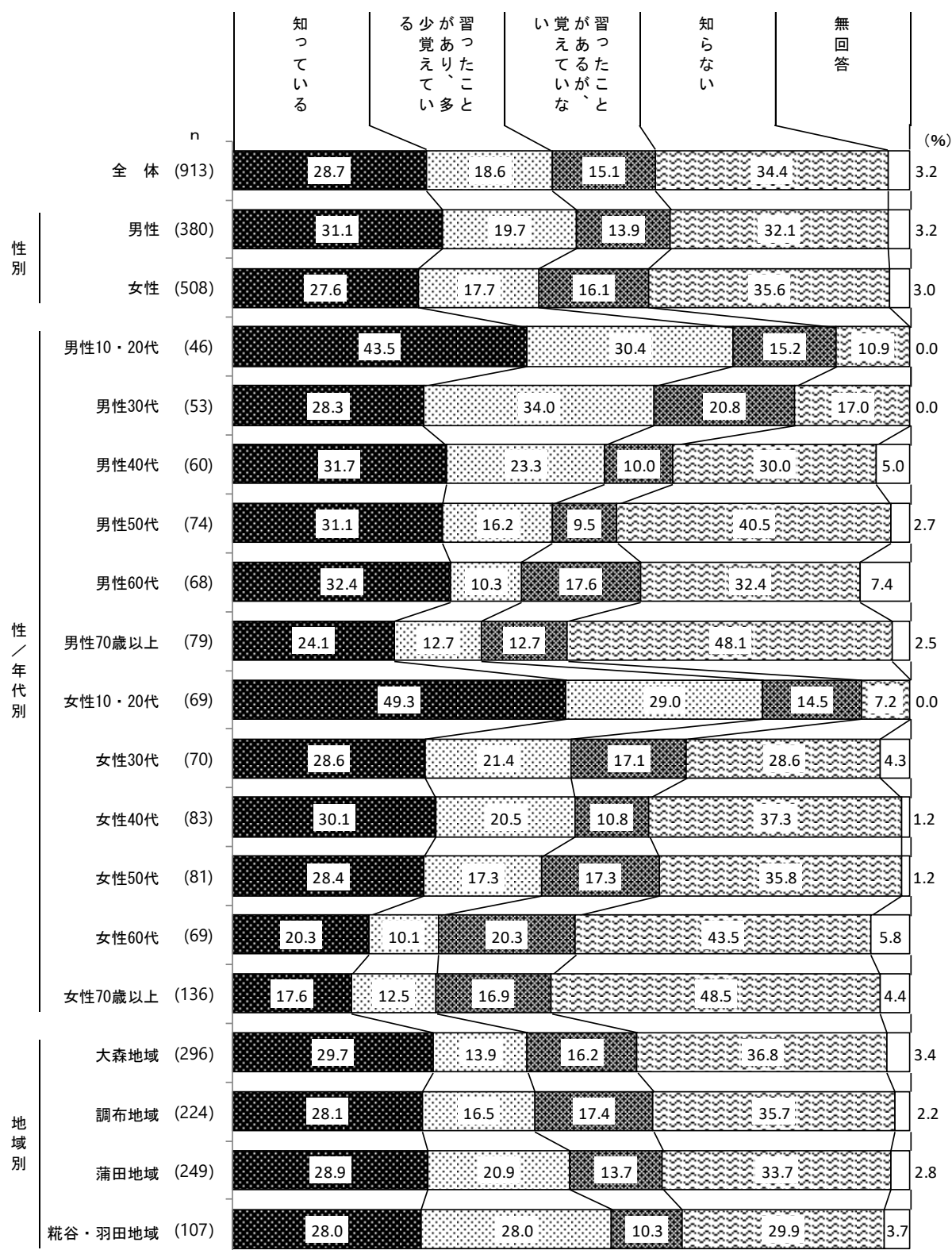
問 28 あなたはAED（自動体外式除細動器）の使い方を知っていますか。（○は1つ）

図表 11-1 AEDの使い方の認知度



AEDの使い方の認知度について聞いたところ、「知っている」が28.7%、「習ったことがあり、多少覚えている」が18.6%、「習ったことがあるが、覚えていない」が15.1%、「知らない」が34.4%となっている。（図表 11-1）

図表 11-2 AEDの使い方の認知度（性別・性／年代別・地域別）



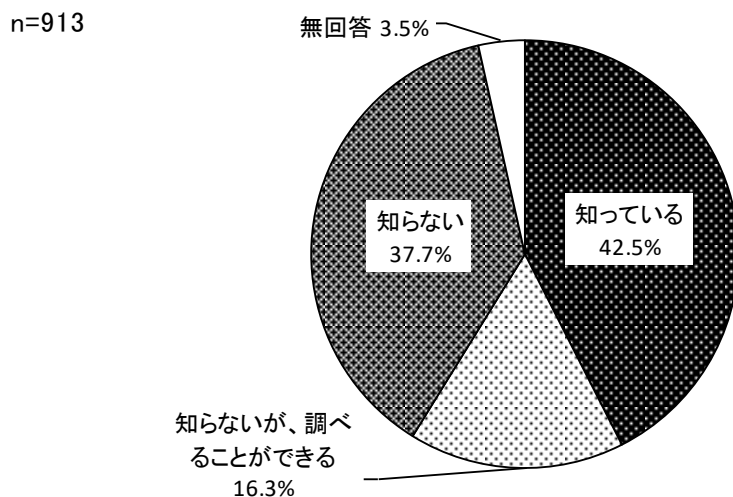
AEDの使い方の認知度を性別で見ると、大きな差異は見られなかった。
 性／年代別で見ると、「知っている」は男女ともに10・20代が4割台と高くなっている。
 地域別で見ると、糞谷・羽田地域で「習ったことがあり、多少覚えている」が2割後半と高くなっている。(図表 11-2)

(2) AEDの設置場所の認知度

◎「知っている」は4割前半となっている

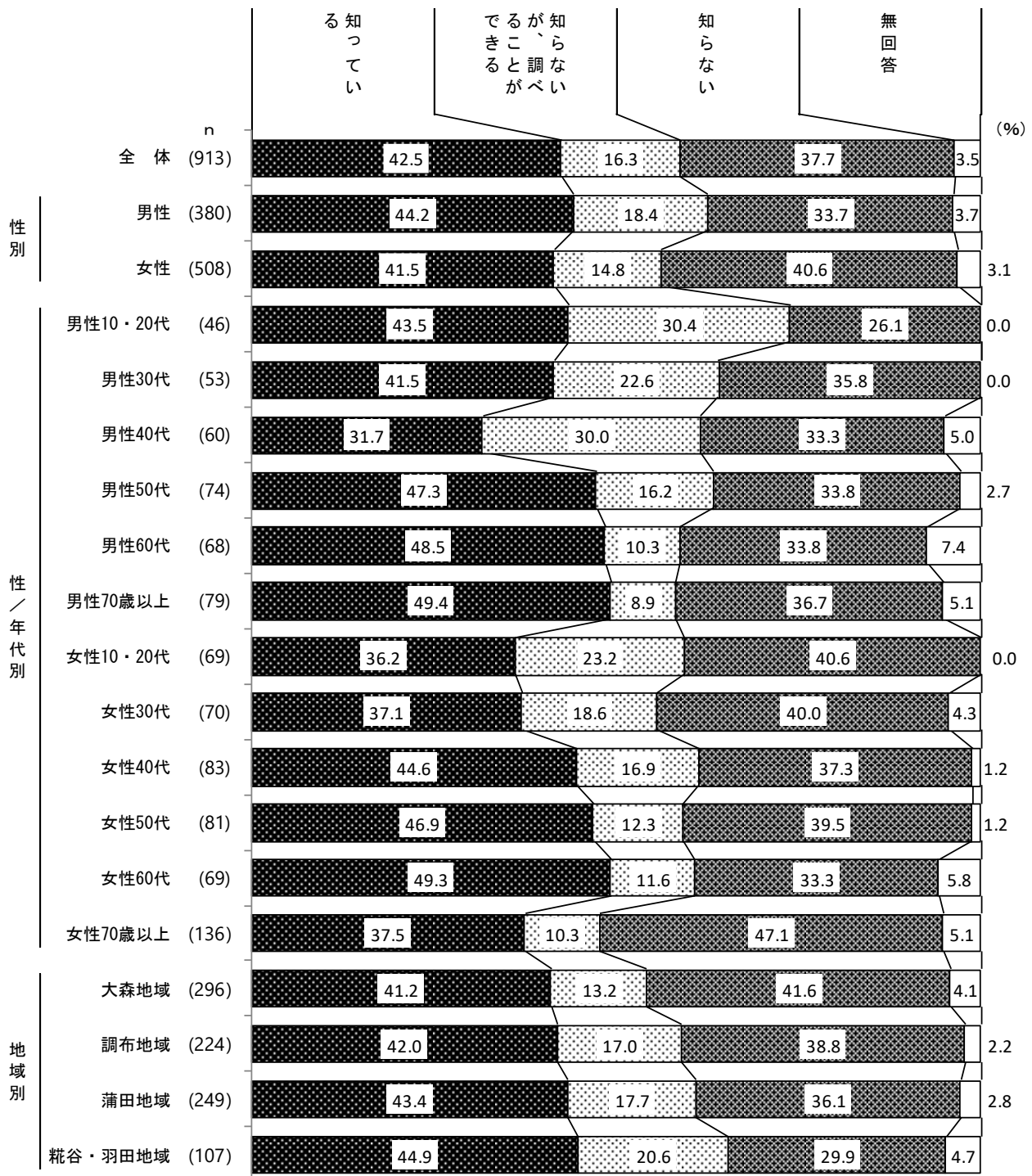
問 29 あなたはご自宅・勤務先等の近くで、AEDが設置されている場所を知っていますか。
(○は1つ)

図表 11-3 AEDの設置場所の認知度



AEDの設置場所の認知度について聞いたところ、「知っている」が42.5%、「知らないが、調べることができる」が16.3%、「知らない」(37.7%)となっている。(図表 11-3)

図表 11-4 AEDの設置場所の認知度（性別・性／年代別・地域別）



AEDの設置場所の認知度を性別で見ると、「知らない」は女性（40.6%）が男性（33.7%）を6.9ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「知っている」は男性40代、女性10・20代、30代、70歳以上で3割台、その他の性／年代では4割台となっている。「知らないが、調べることができる」は男性10・20代、40代で3割台となっている。

地域別で見ると、すべての地域で「知っている」は4割台となっている。（図表 11-4）

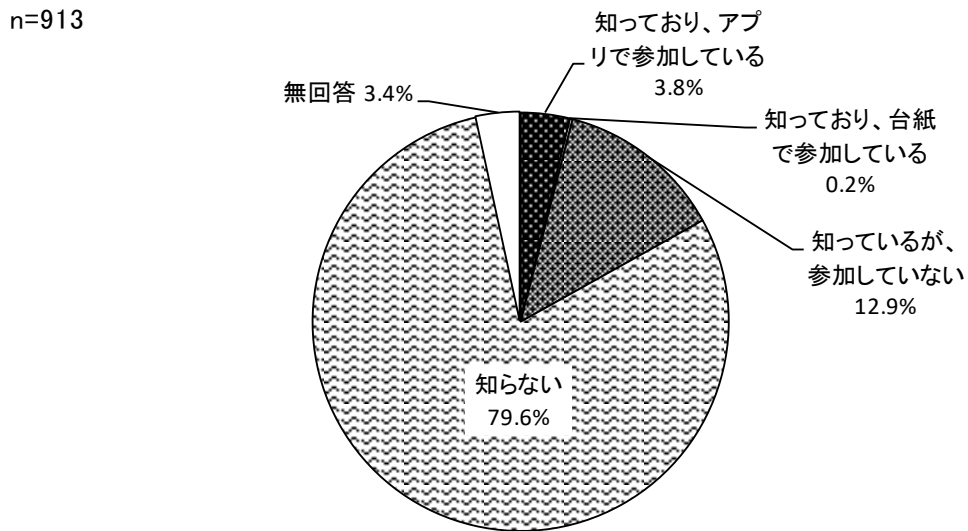
12 はねびょん健康ポイントについて

(1) 「はねびょん健康ポイント」の認知度

◎ 「知らない」が約8割となっている

問 30 大田区健康づくりポイント事業「はねびょん健康ポイント」を知っていますか。
(○は1つ)

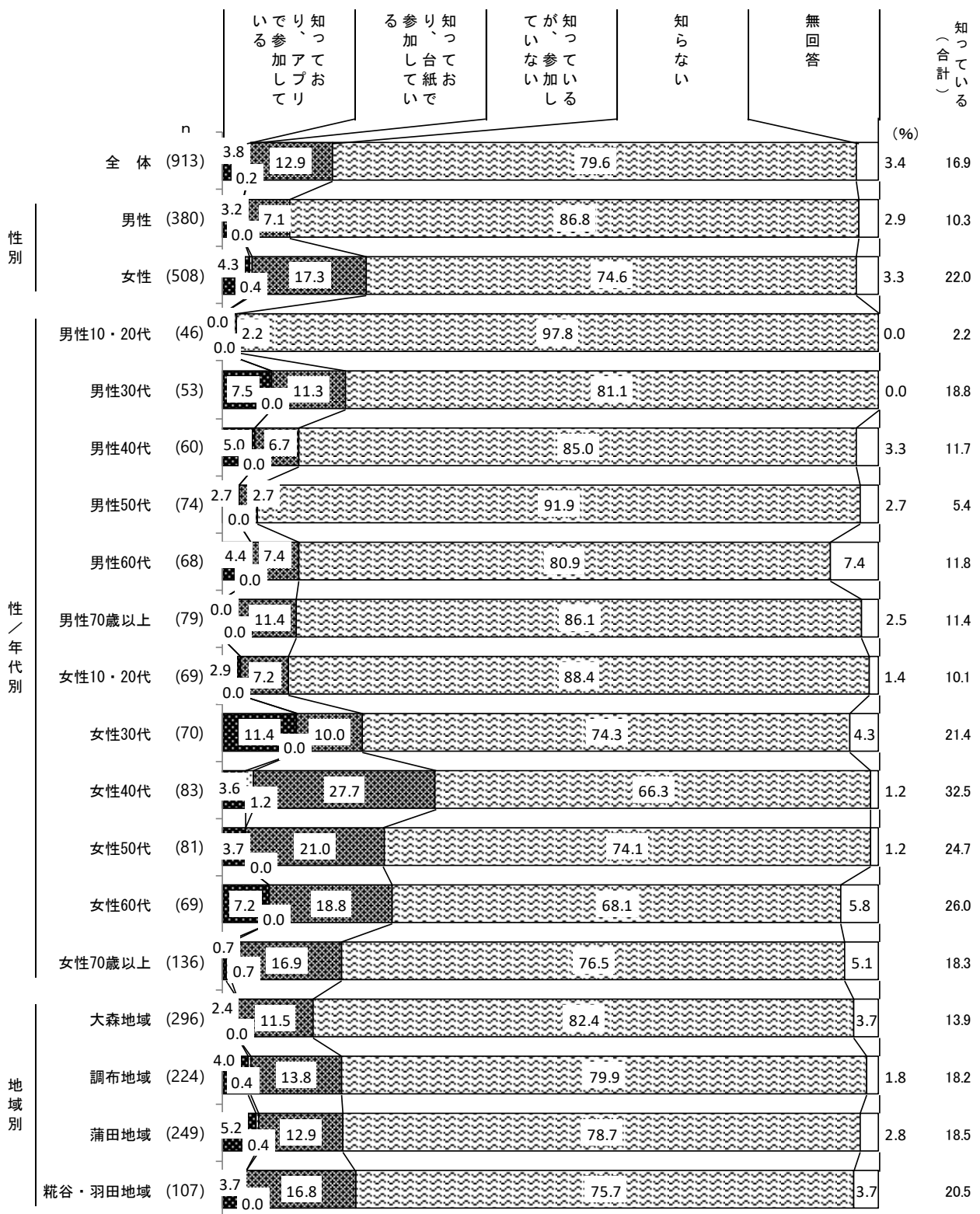
図表 12-1 「はねびょん健康ポイント」の認知度



「はねびょん健康ポイント」の認知度について聞いたところ、「知っており、アプリで参加している」(3.8%)、「知っており、台紙で参加している」(0.2%)、「知っているが、参加していない」(12.9%)を合わせた《知っている(合計)》は16.9%となっている。

一方、「知らない」が79.6%となっている。(図表 12-1)

図表 12-2 「はねびょん健康ポイント」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「はねびょん健康ポイント」の認知度を性別で見ると、「知っているが、参加していない」は女性（17.3%）が男性（7.1%）を10.2ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「知っている（合計）」は女性40代で3割前半と高くなっている。

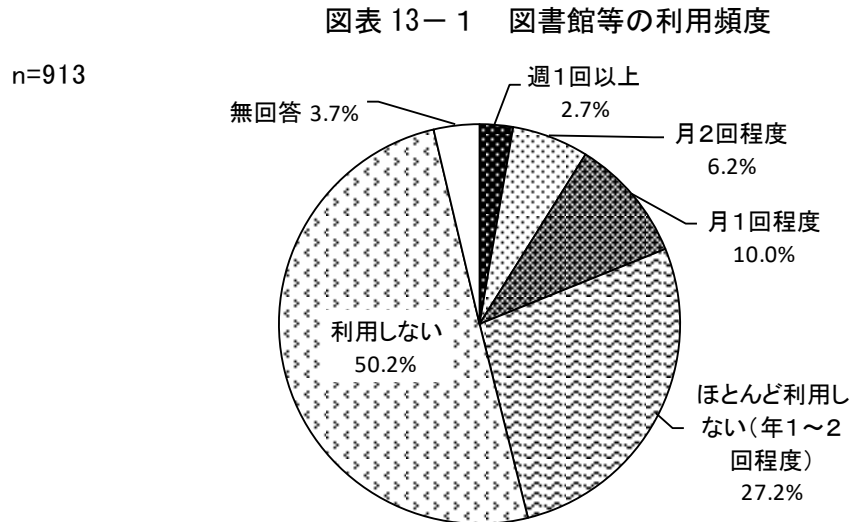
地域別で見ると、「知っている（合計）」は糞谷・羽田地域で約2割、その他の地域より1割台となっている。（図表12-2）

13 図書館について

(1) 図書館等の利用頻度

◎「利用しない」が約5割となっている

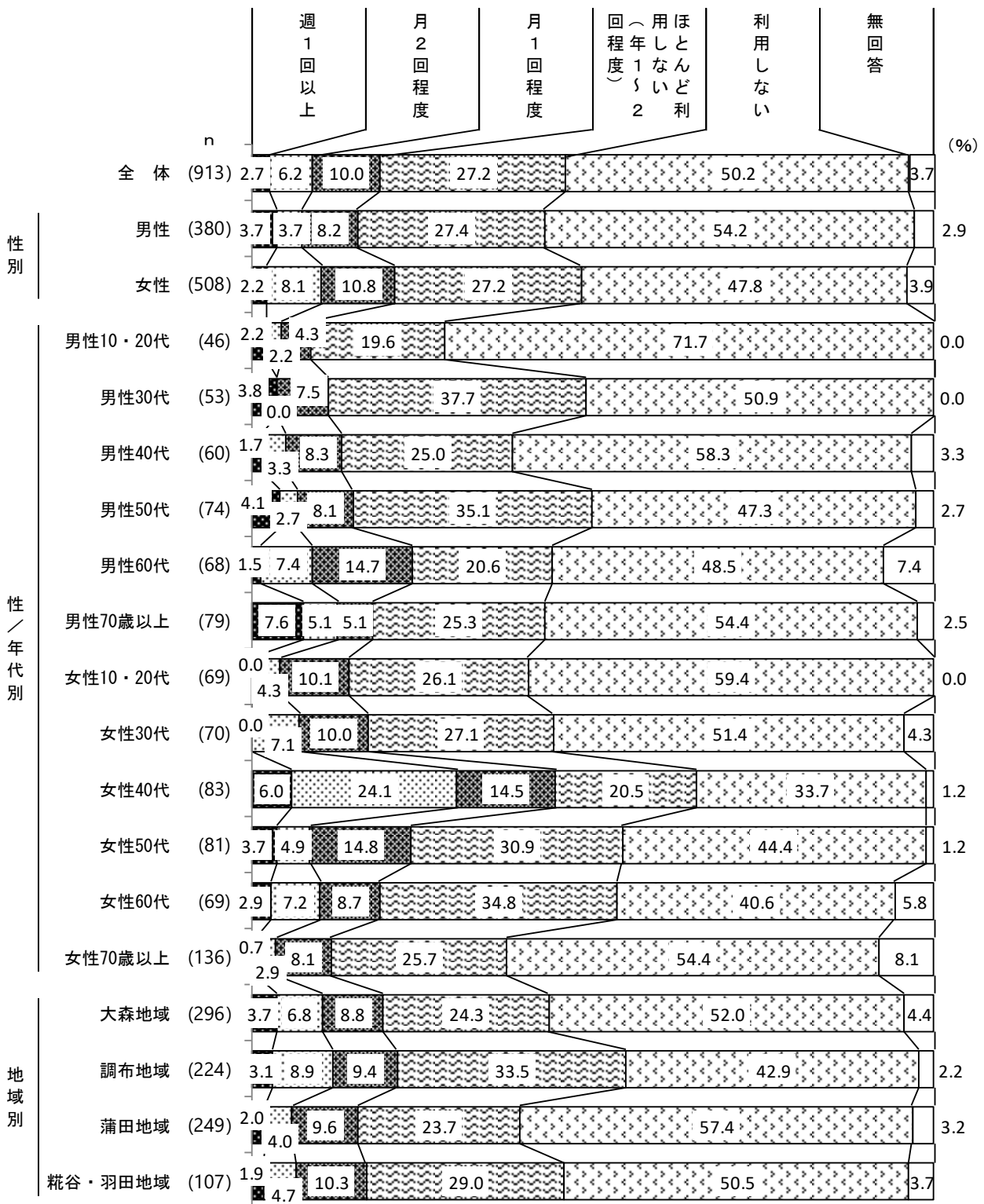
問31 大田区立図書館または大田文化の森情報館の利用頻度について該当するものを選択してください。(○は1つ)



図書館等の利用頻度について聞いたところ、「利用しない」が50.2%で最も高く、次いで、「ほとんど利用しない(年1~2回程度)」(27.2%)、「月1回程度」(10.0%)となっている。

(図表 13-1)

図表 13-2 図書館等の利用頻度（性別・性／年代別・地域別）



図書館等の利用頻度を性別で見ると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、男性10・20代で「利用しない」は約7割と高くなっている。「月2回程度」は女性40代で24.1%とその他の性／年代より高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「利用しない」は4割以上となっている。「ほとんど利用しない(年1〜2回程度)」は調布地域で33.5%とその他の地域より高くなっている。(図表13-2)

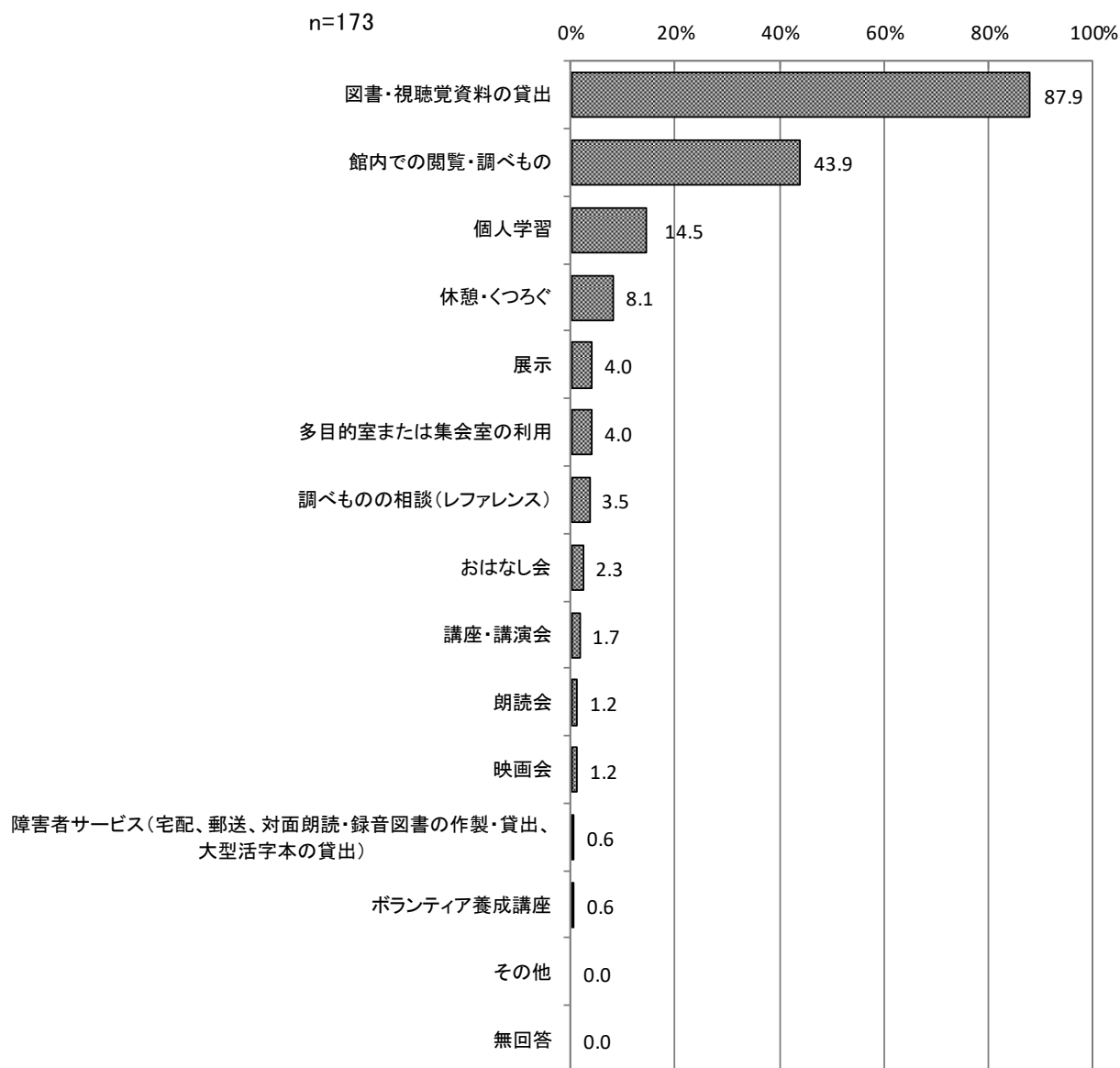
(2) 図書館で主に利用する機能・サービス

◎「図書・視聴覚資料の貸出」が8割後半で最も高くなっている

【問 31 で「1」～「3」と回答された方】

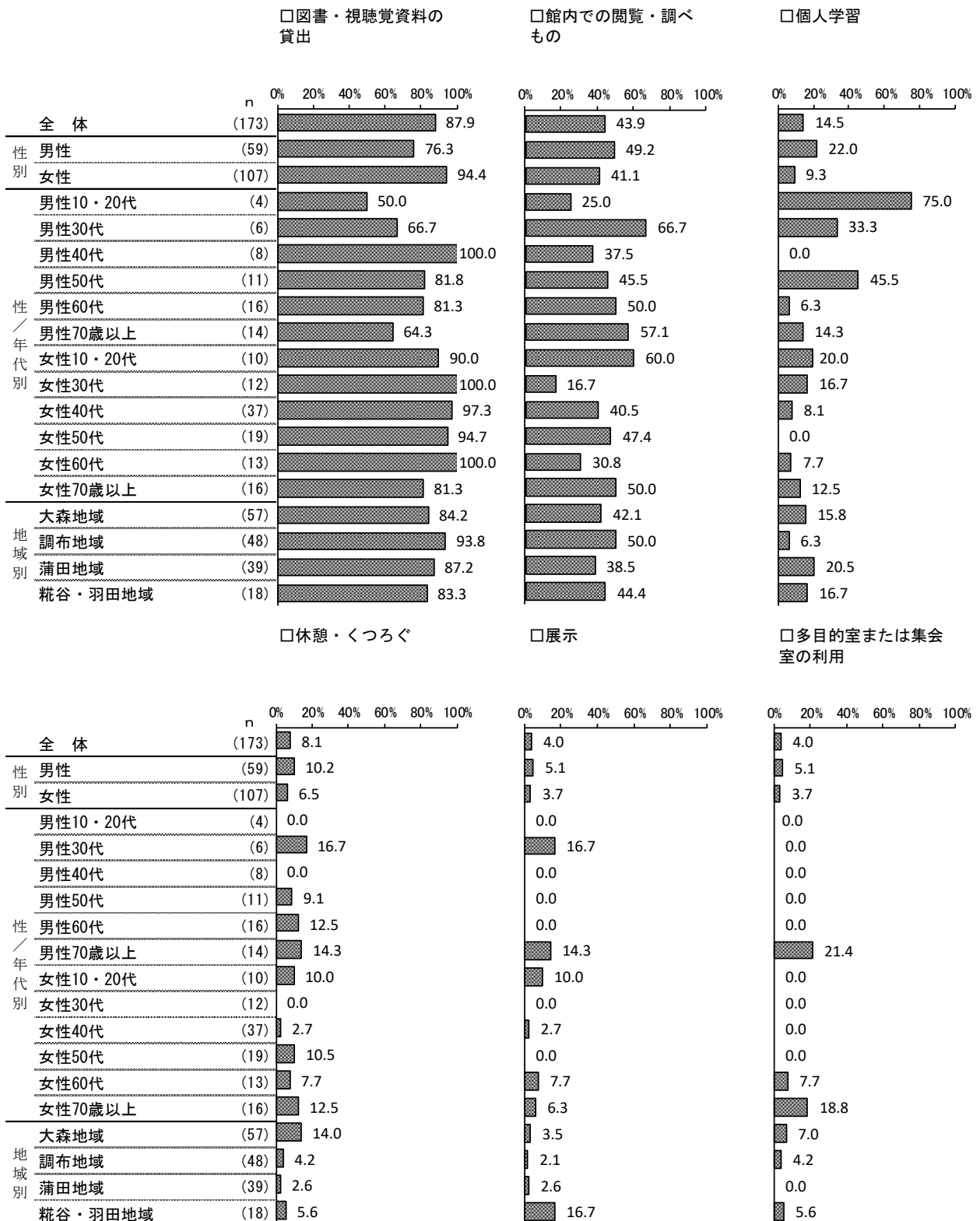
問 31-1 図書館で主に利用している機能・サービスについて該当するものを選択してください。
(○はいくつでも)

図表 13-3 図書館で主に利用する機能・サービス



図書館で主に利用する機能・サービスについて聞いたところ、「図書・視聴覚資料の貸出」が87.9%で最も高く、次いで、「館内での閲覧・調べもの」(43.9%)、「個人学習」(14.5%)となっている。(図表 13-3)

図表 13-4 図書館で主に利用する機能・サービス（性・性／年齢別・地域別 上位6項目）



図書館で主に利用する機能・サービスについて、上位6項目を性別で見ると、「図書・視聴覚資料の貸出」では女性（94.4%）が男性（76.3%）を18.1ポイント、「個人学習」では男性（22.0%）が女性（9.3%）を12.7ポイント上回っている。

地域別で見ると、すべての地域で「図書・視聴覚資料の貸出」が8割以上と最も高くなっている。（図表 13-4）

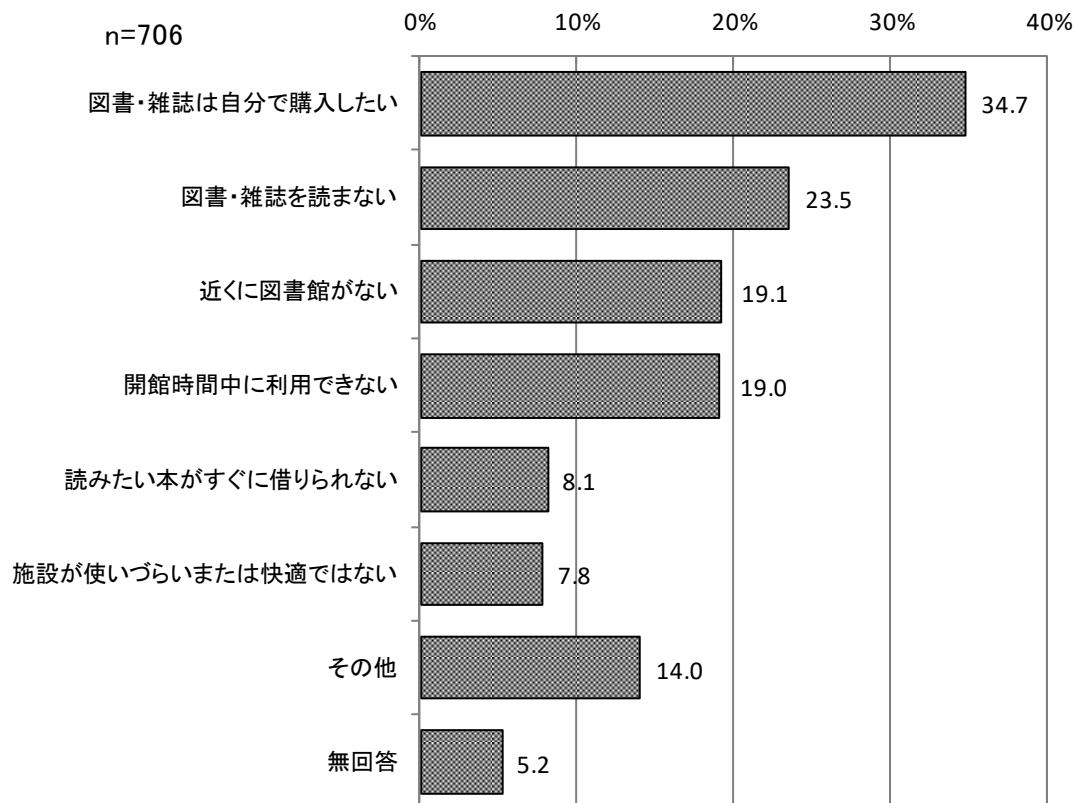
(3) 図書館を利用しない理由

◎「図書・雑誌は自分で購入したい」が3割半ばで最も高くなっている

【問 31 で「4」～「5」と回答された方】

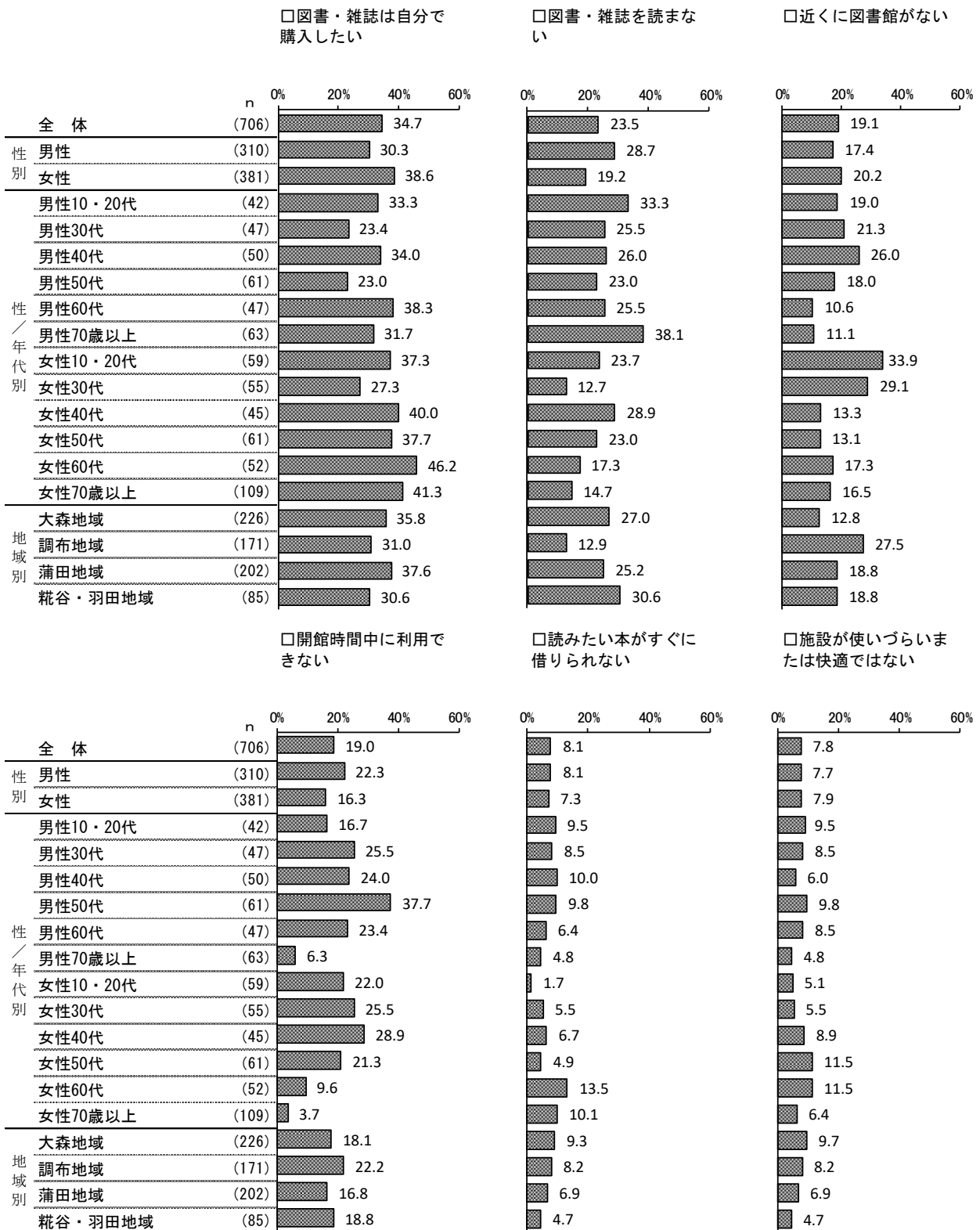
問 31-2 図書館を利用しない理由について該当するものを選択してください。(〇はいくつでも)

図表 13-5 図書館を利用しない理由



図書館を利用しない理由について聞いたところ、「図書・雑誌は自分で購入したい」が 34.7%で最も高く、次いで、「図書・雑誌を読まない」(23.5%)、「近くに図書館がない」(19.1%)となっている。(図表 13-5)

図表 13-6 図書館を利用しない理由（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



図書館を利用しない理由について、上位6項目を性別で見ると、「図書・雑誌は自分で購入したい」では女性(38.6%)が男性(30.3%)を8.3ポイント、「図書・雑誌を読まない」では男性(28.7%)が女性(19.2%)を9.5ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「図書・雑誌は自分で購入したい」はすべての年代で女性が男性を上回っている。「近くに図書館がない」では女性10・20代が3割前半、女性30代で約3割とその他の性・年代より高くなっている。「開館時間中に利用できない」は男性50代で3割後半と他の性/年代より高くなっている。

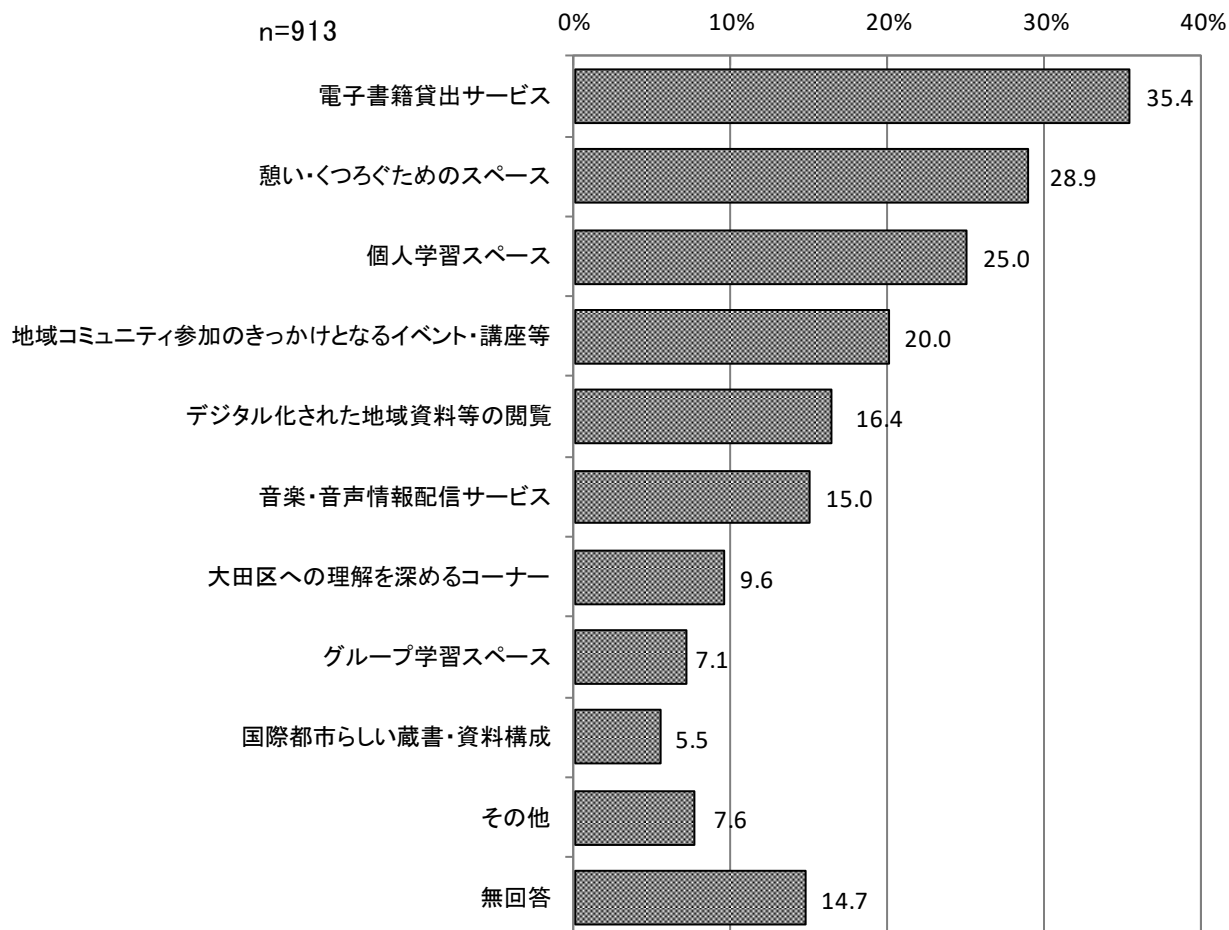
地域別で見ると、「近くに図書館がない」は調布地域で2割後半とその他の地域より高くなっている。(図表13-6)

(4) 図書館に期待する機能・サービス

◎「電子書籍貸出サービス」が3割半ばで最も高くなっている

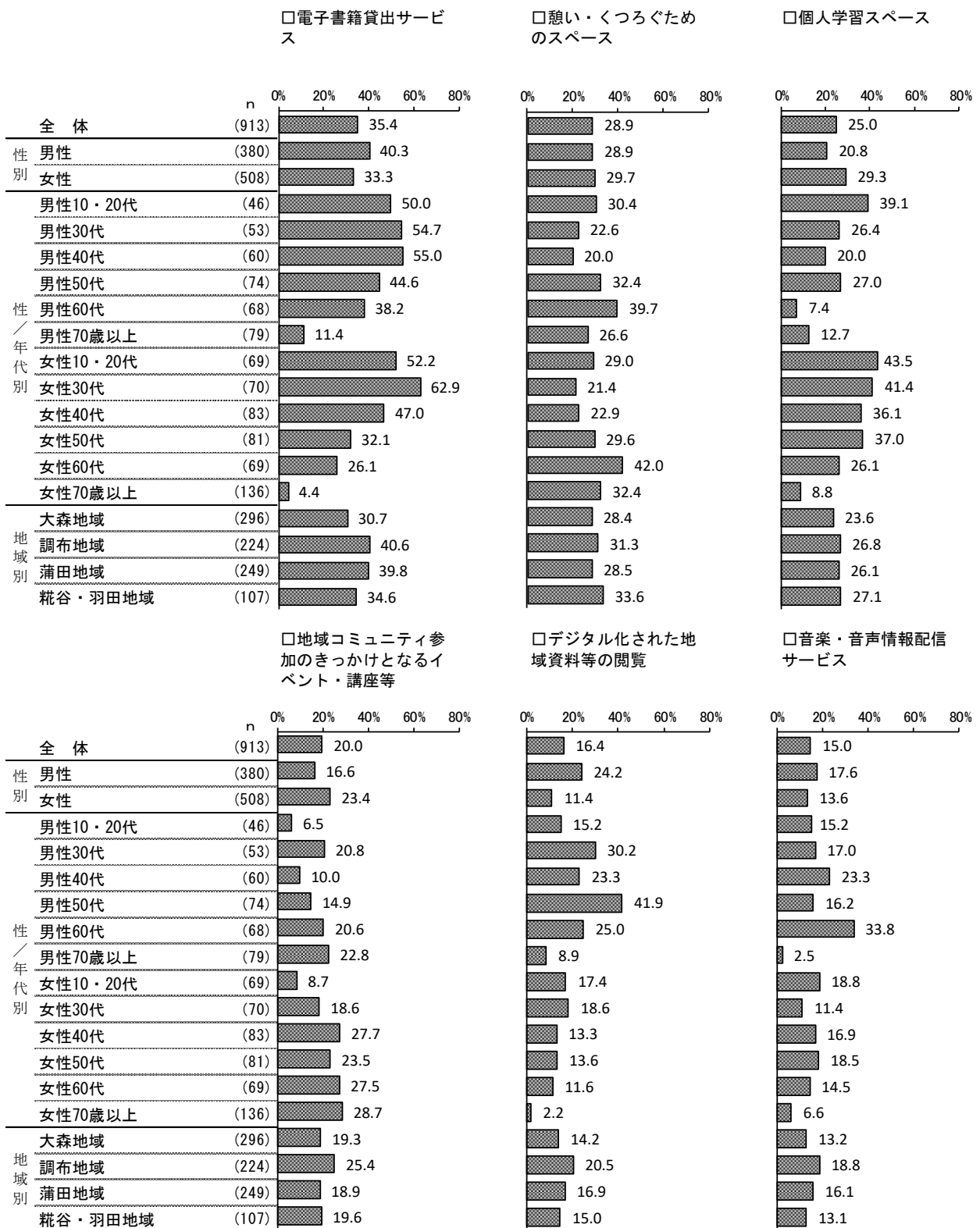
問 32 これからの図書館に期待する機能・サービスについて該当するものを選択してください。
(○はいくつでも)

図表 13-7 図書館に期待する機能・サービス



図書館に期待する機能・サービスについて聞いたところ、「電子書籍貸出サービス」が 35.4%で最も高く、次いで、「憩い・くつろぐためのスペース」(28.9%)、「個人学習スペース」(25.0%)となっている。(図表 13-7)

図表 13-8 図書館に期待する機能・サービス（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



図書館に期待する機能・サービスについて、上位6項目を性別で見ると、「個人学習スペース」では女性（29.3%）が男性（20.8%）を8.5ポイント、「デジタル化された地域資料等の閲覧」では男性（24.2%）が女性（11.4%）を12.8ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、男女ともに10・20代～40代、男性50代で「電子書籍貸出サービス」が最も高く、高齢層に比べ若年層で高くなっている。男女ともに60代、70歳以上では「憩い・くつろぐためのスペース」が、女性50代では「個人学習スペース」が最も高くなっている。

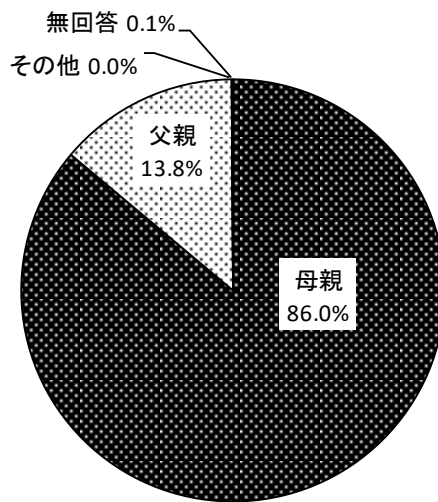
地域別で見ると、すべての地域で「電子書籍貸出サービス」が最も高くなっている。（図表13-8）

IV 小学生以下のお子様の保護者の方が対象の調査

1 回答者の属性

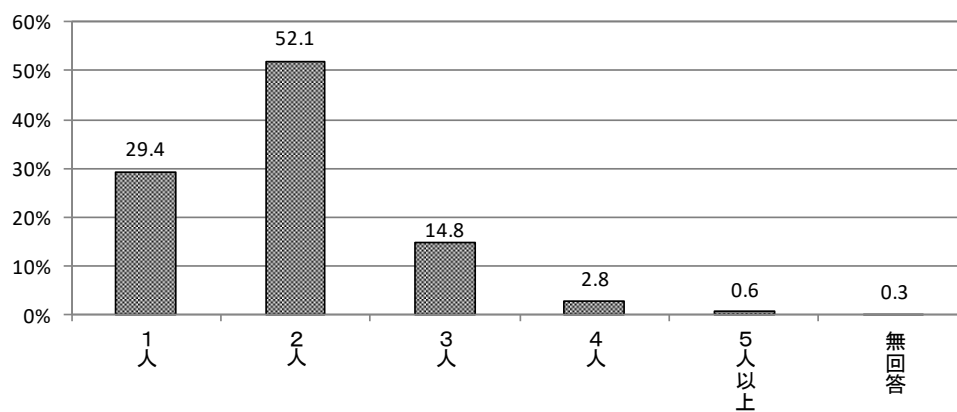
【続柄】

n=1,352



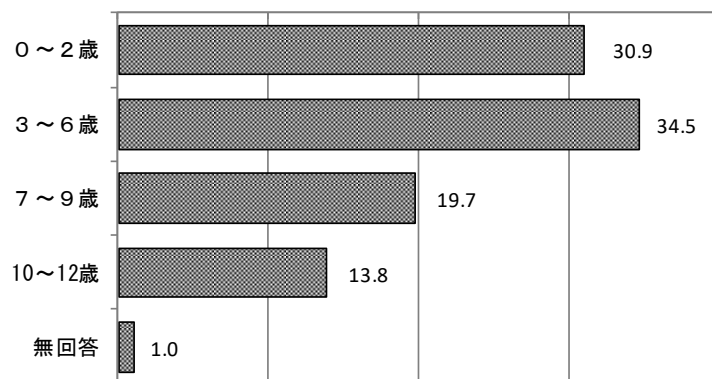
【子どもの人数】

n=1,352

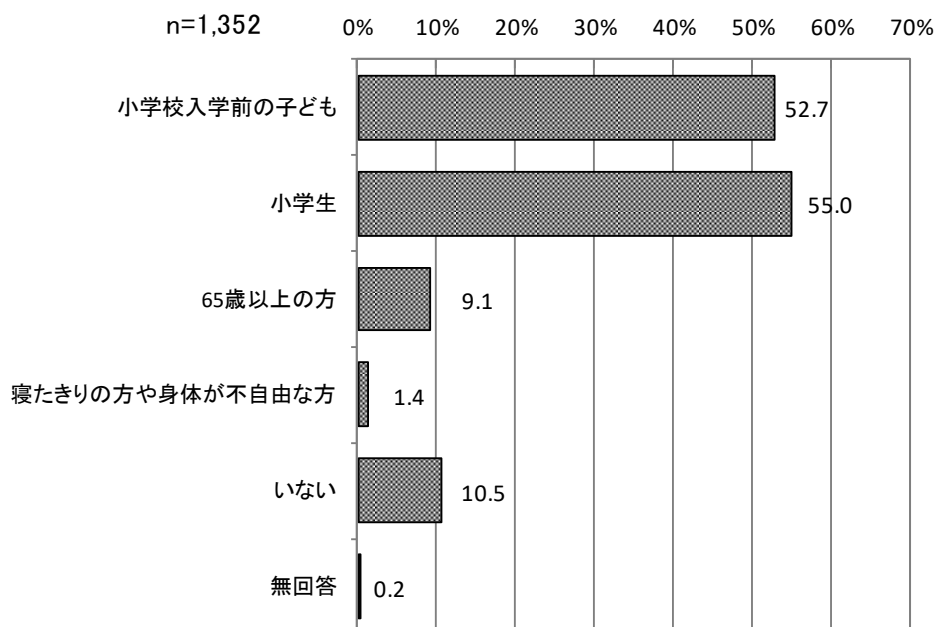


【末子の年齢】

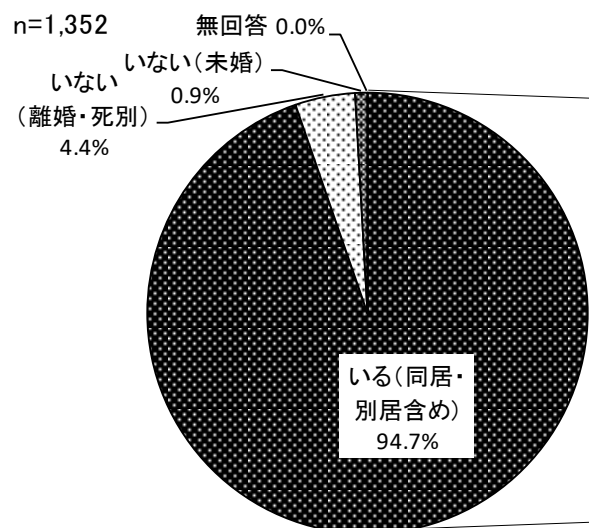
n=1,352



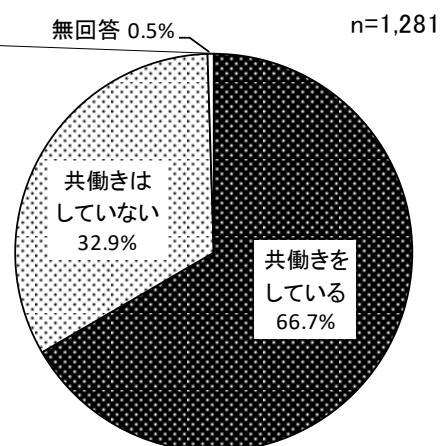
【同居家族】



【配偶者の有無】

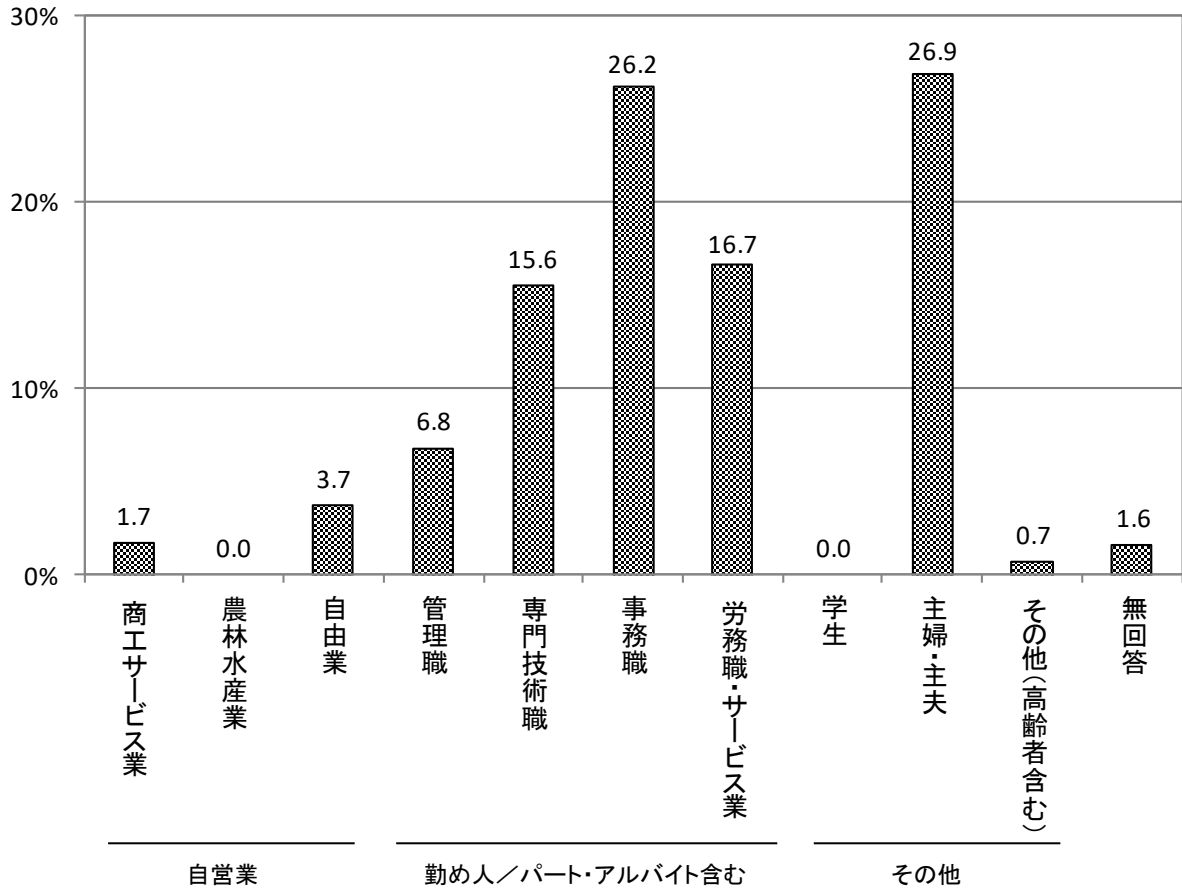


【(配偶者のいる方) 共働きについて】



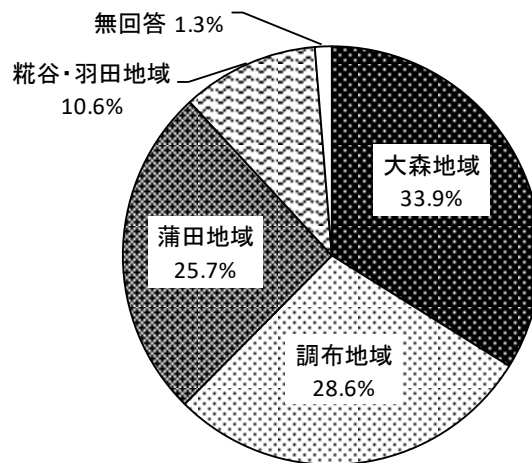
【職業】

n=1,352



【住まいの地域】

n=1,352



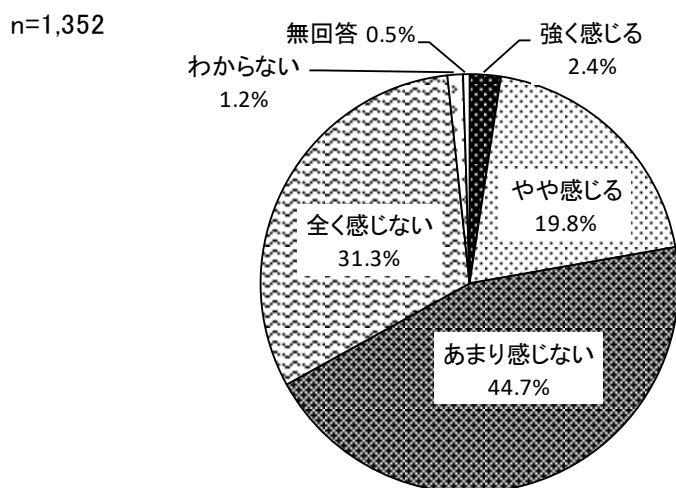
2 子育ての相談相手などについて

(1) 子育てにおける孤立感について

◎ 《感じる（合計）》は2割前半となっている

問1 子育てに関して孤立感を感じていますか。(○は1つ)

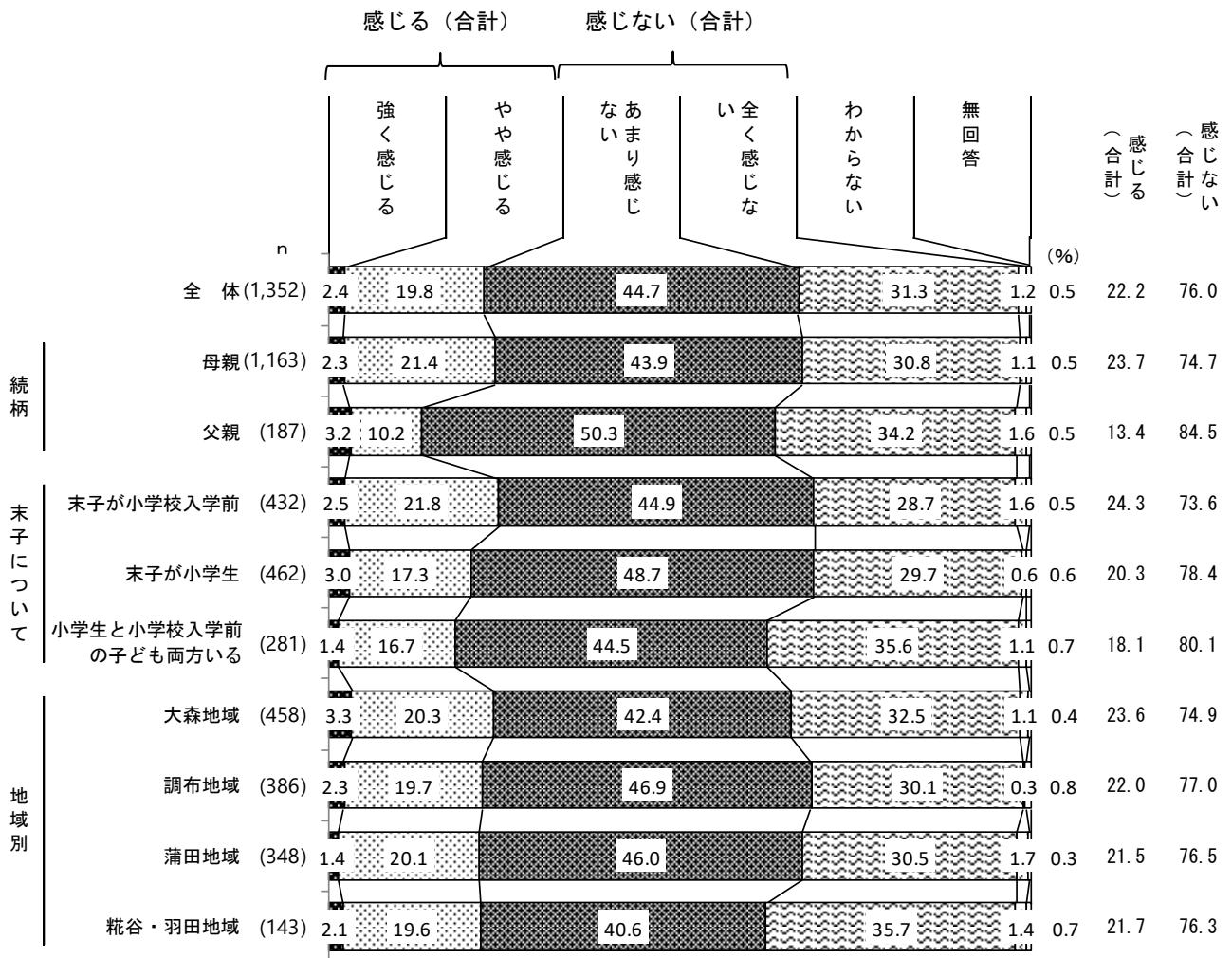
図表2-1 子育てにおける孤立感について



子育てにおける孤立感について聞いたところ、「強く感じる」(2.4%)と「やや感じる」(19.8%)を合わせた《感じる(合計)》は22.2%となっている。

一方「あまり感じない」が44.7%で最も高く、「全く感じない」(31.3%)と合わせた《感じない(合計)》は76.0%となっている。(図表2-1)

図表 2-2 子育てにおける孤立感について（続柄・末子について・地域別）



子育てにおける孤立感について、続柄でみると、《感じる (合計)》では『母親』(23.7%)が『父親』(13.4%)を10.3ポイント上回っている。

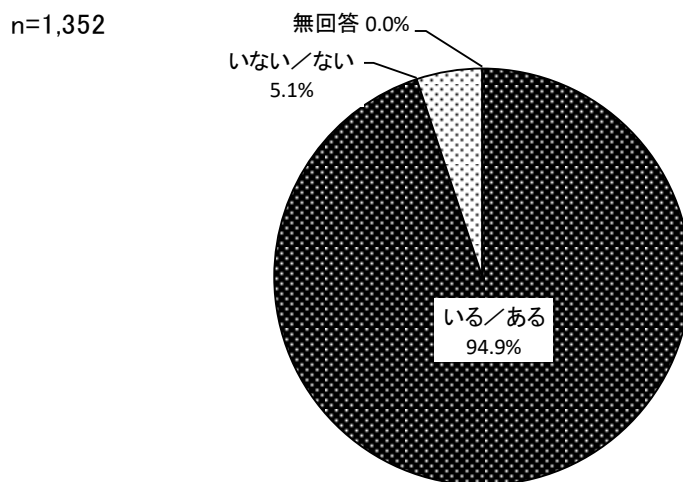
末子についてみると、《感じる (合計)》では『末子が小学校入学前』(24.3%)が、『小学生と小学校入学前の子ども両方いる』(18.1%)を6.2ポイント上回っている。(図表 2-2)

(2) 子育ての相談ができる相手・場所の有無

◎「いる／ある」が9割半ばとなっている

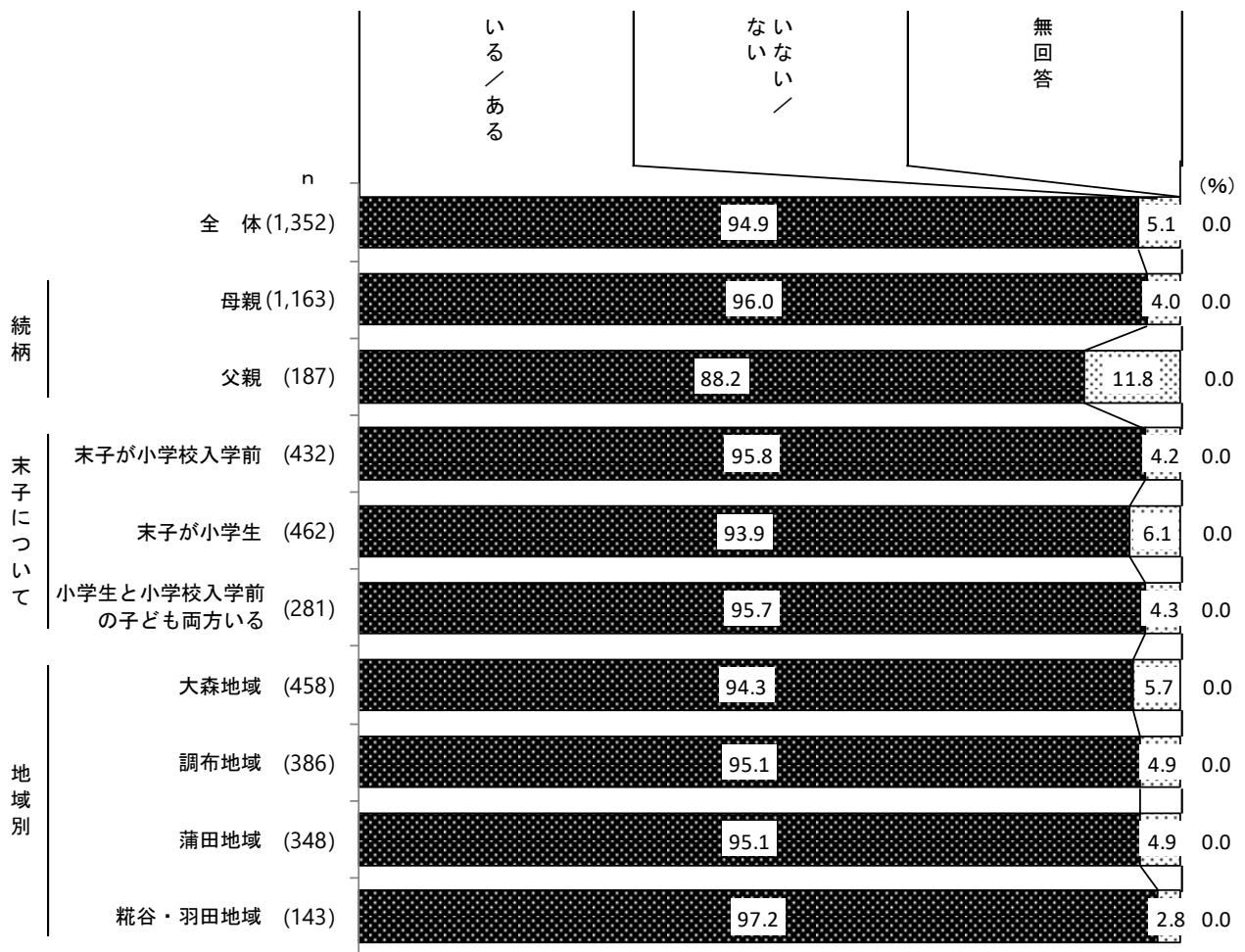
問2 子育てをする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。
(○は1つ)

図表2-3 子育ての相談ができる相手・場所の有無



子育ての相談ができる相手・場所の有無について聞いたところ、「いる／ある」が94.9%、「いない／ない」が5.1%となっている。(図表2-3)

図表 2-4 子育ての相談ができる相手・場所の有無（続柄・末子について・地域別）



子育ての相談ができる相手・場所の有無について、続柄で見ると「いる／ある」では、『母親』（96.0%）が『父親』（88.2%）を7.8ポイント上回っている。（図表2-4）

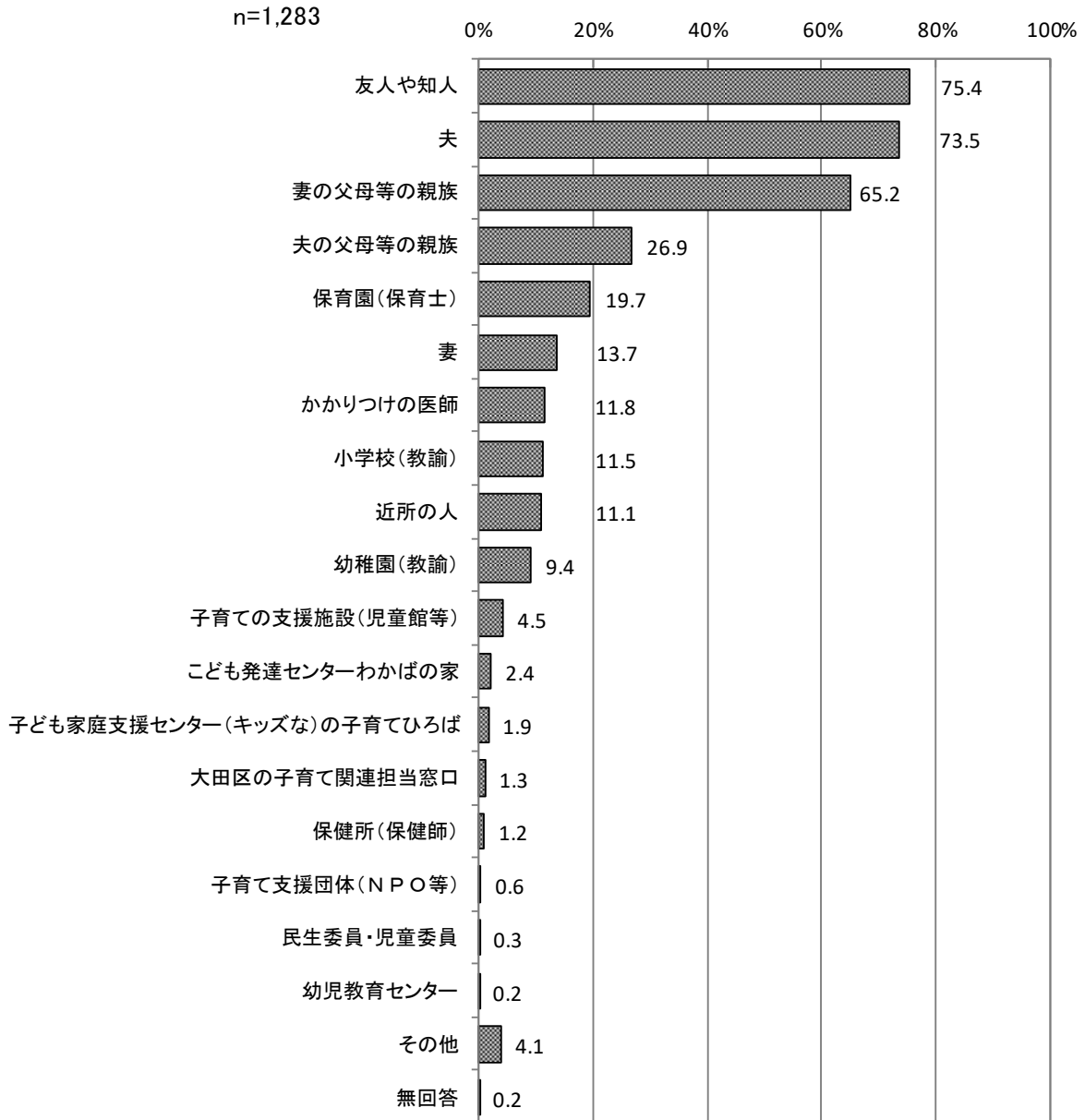
(3) 子育ての相談ができる相手・場所について

◎「友人や知人」、「夫」が7割台となっている

【問2で「1. いる／ある」と回答された方】

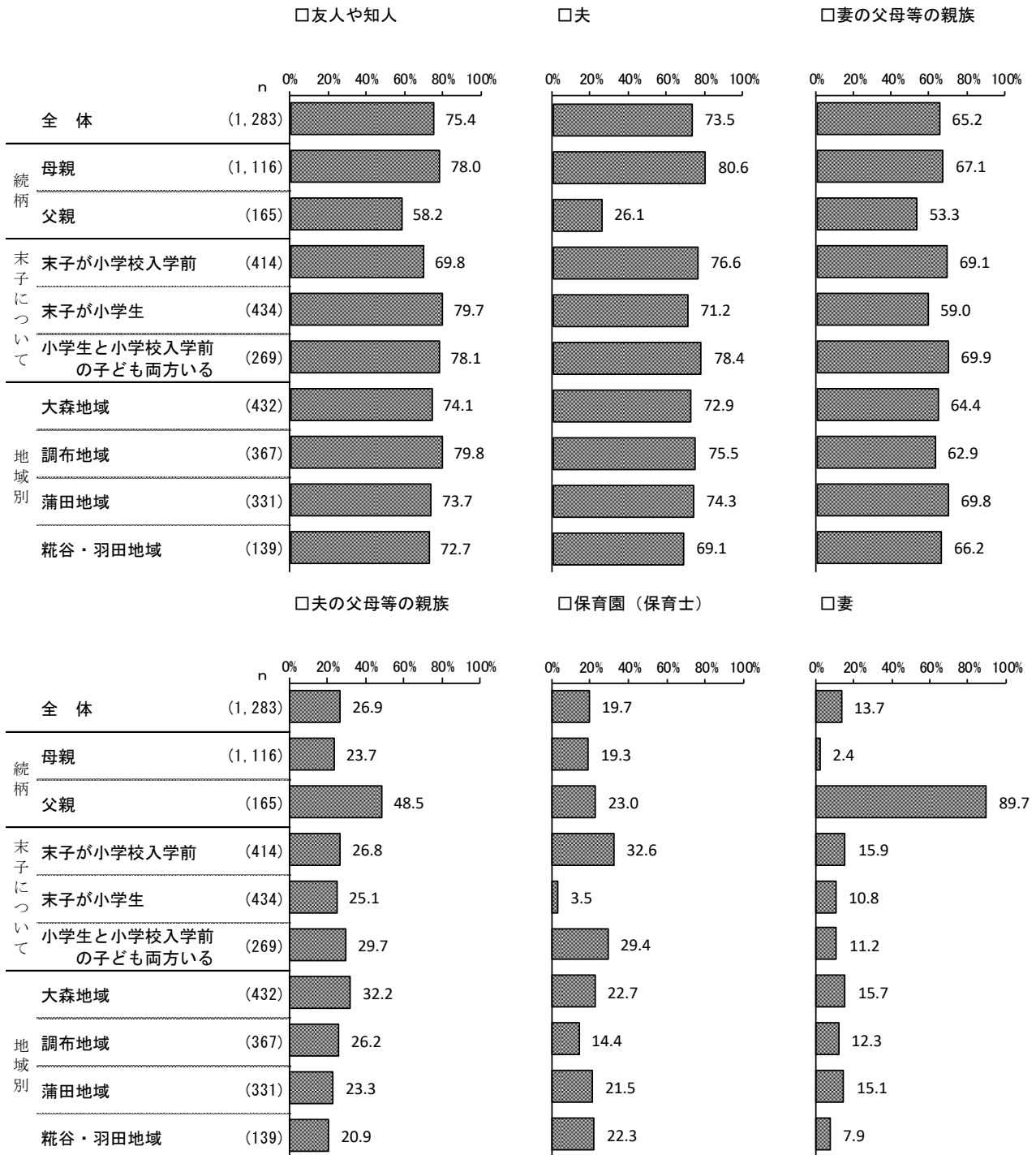
問3 気軽に相談できる先は誰（どこ）ですか。（〇はいくつでも）

図表2-5 子育ての相談ができる相手・場所について



子育ての相談ができる相手・場所について聞いたところ、「友人や知人」が75.4%で最も高く、次いで、「夫」(73.5%)、「妻の父母等の親族」(65.2%)となっている。(図表2-5)

図表 2-6 子育ての相談ができる相手・場所について
(続柄・末子について・地域別 上位6項目)



子育ての相談ができる相手・場所について、上位6項目について続柄でみると「友人や知人」では、『母親』(78.0%)が『父親』(58.2%)を19.8ポイント上回っている。

末子についてみると、「友人や知人」では、『末子が小学生』(79.7%)が『末子が小学校入学前』(69.8%)を9.9ポイント上回っている。(図表2-6)

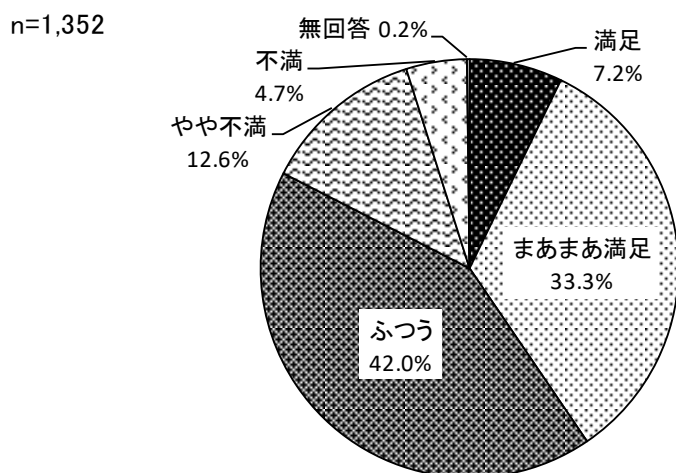
3 子育ての環境や支援などについて

(1) 区の子育て環境や支援の満足度

◎《満足（合計）》は約4割となっている

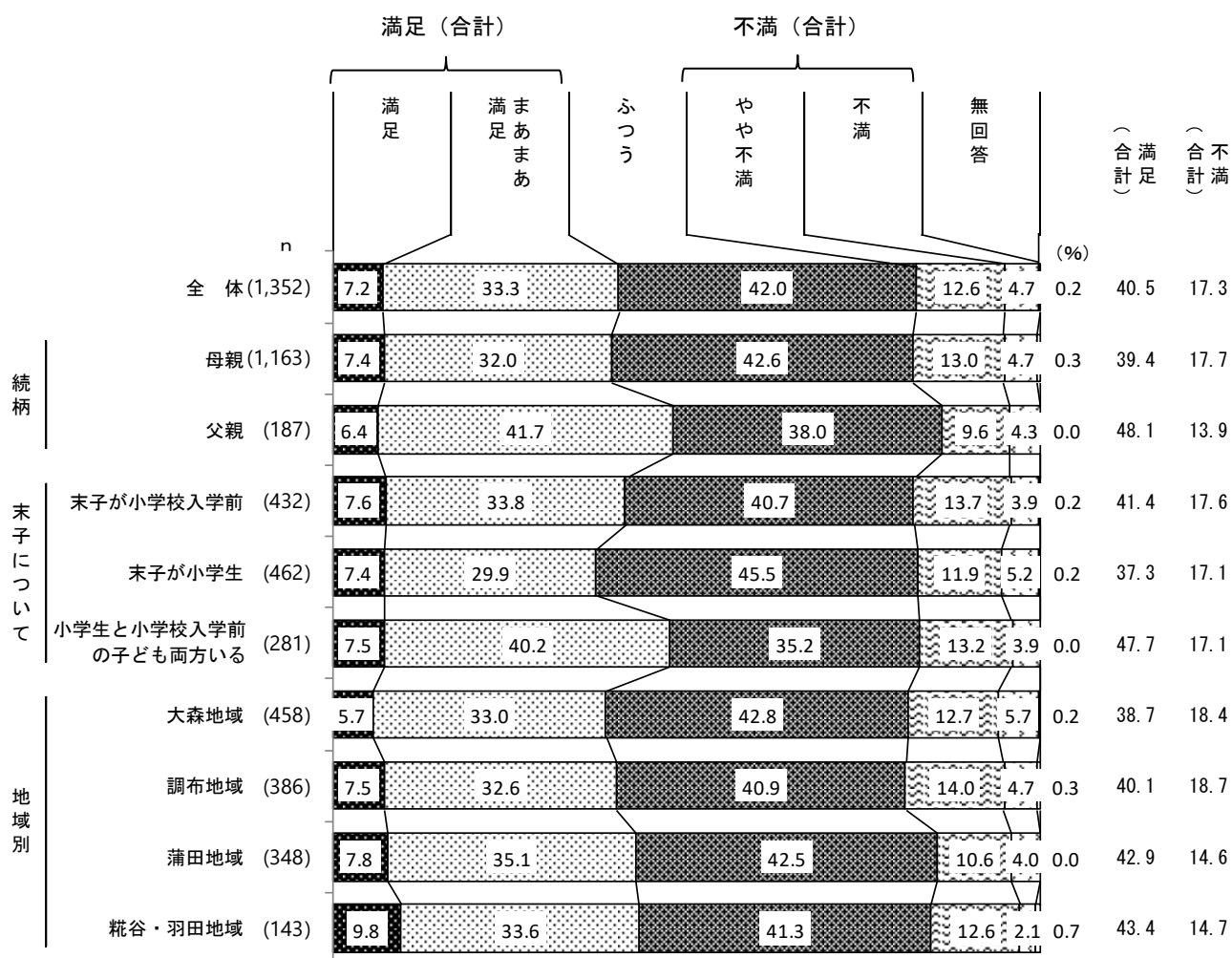
問4 区の子育て環境や支援の満足度はいかがですか。(○は1つ)

図表3-1 区の子育て環境や支援の満足度



区の子育て環境や支援の満足度について聞いたところ、「ふつう」が42.0%で最も高くなっている。「満足」(7.2%)と「まあまあ満足」(33.3%)を合わせた《満足(合計)》は40.5%、「やや不満」(12.6%)と「不満」(4.7%)を合わせた《不満(合計)》は17.3%となっている。(図表3-1)

図表 3-2 区の子育て環境や支援の満足度（続柄・末子について・地域別）



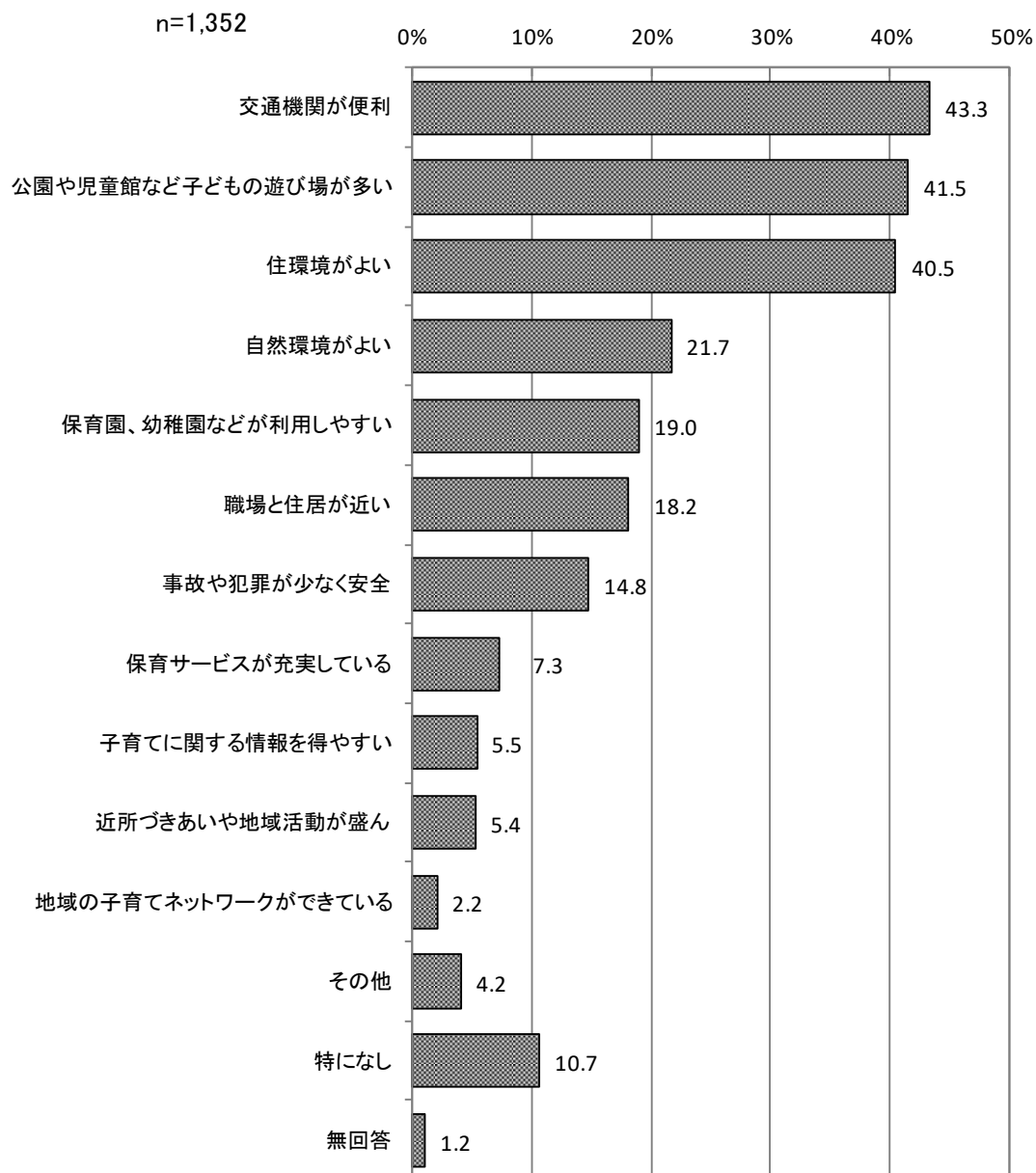
区の子育て環境や支援の満足度について、続柄でみると《満足 (合計)》では、『父親』(48.1%)が『母親』(39.4%)を8.7ポイント上回っている。

末子についてみると《満足 (合計)》では、『小学生と小学校入学前の子ども両方いる』(47.7%)が『末子が小学生』(37.3%)を10.4ポイント上回っている。(図表 3-2)

(2) 大田区の子育て環境・支援で満足している点について

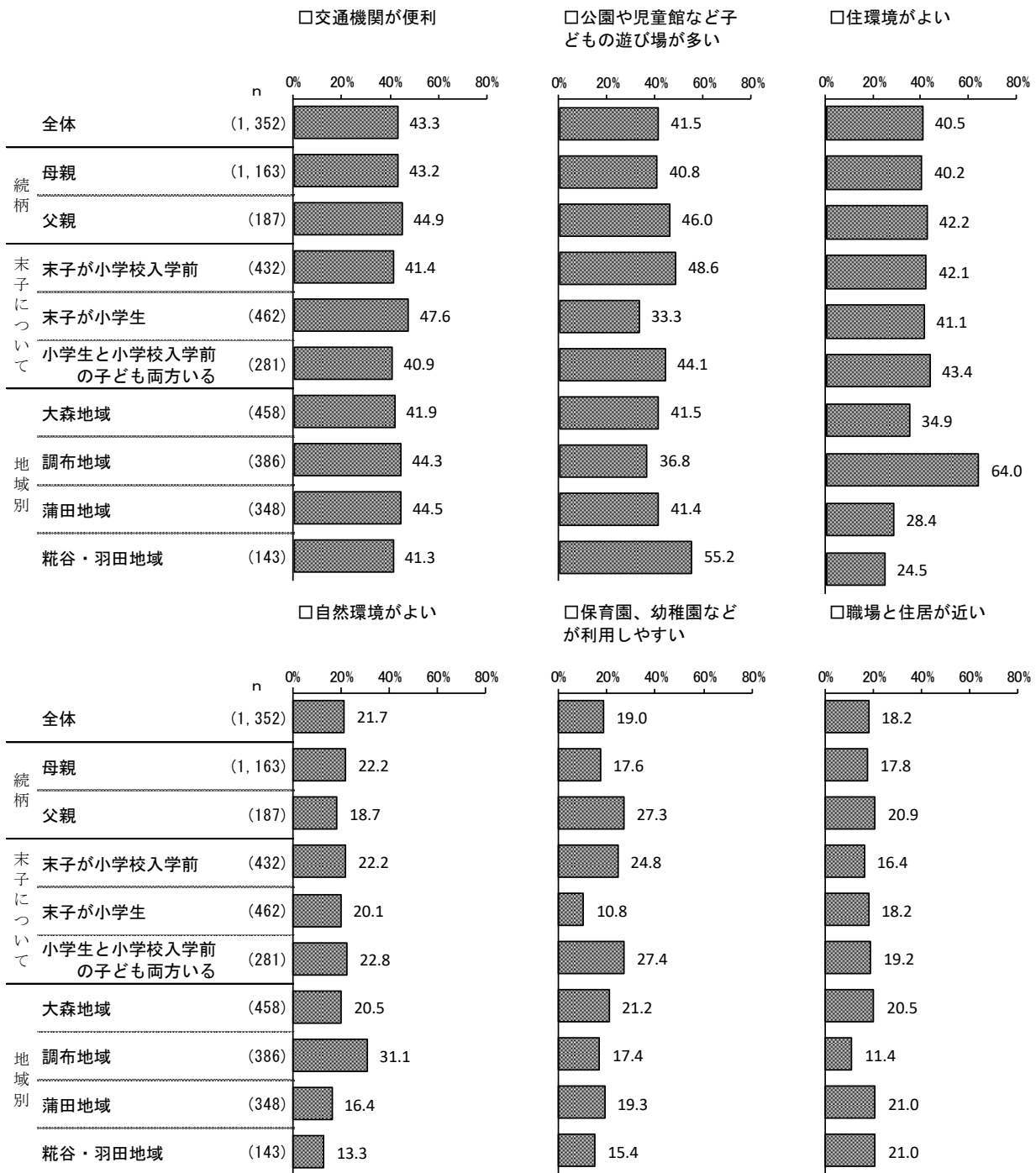
◎ 「交通機関が便利」、「公園や児童館など子どもの遊び場が多い」、「住環境がよい」が4割台
 問5 区の子育て環境や支援で満足している点はなんですか。(〇はいくつでも)

図表3-3 大田区の子育て環境・支援で満足している点について



大田区の子育て環境・支援で満足している点について聞いたところ、「交通機関が便利」が43.3%で最も高く、次いで、「公園や児童館など子どもの遊び場が多い」(41.5%)、「住環境がよい」(40.5%)となっている。(図表3-3)

図表3-4 大田区の子育て環境・支援で満足している点について
(続柄・末子について・地域別 上位6項目)



大田区の子育て環境・支援で満足している点について、続柄でみると、「保育園、幼稚園などが利用しやすい」では『父親』(27.3%)が『母親』(17.6%)を9.7ポイント上回っている。

地域別でみると、『糀谷・羽田地域』で「公園や児童館など子どもの遊び場が多い」が55.2%、『調布地域』で「住環境がよい」が64.0%と5割以上となっている。(図表3-4)

V 資料編

～ 大田区からのお願い ～

**区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査
(18歳以上の区民の方対象)
(地域力・まちづくり・環境分野などの調査)**

大田区では、区の将来像である「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」の実現を目指し、各種計画を推進しています。

本調査は、各種計画に掲げる施策の検証や、より効果的な施策立案に向けた区民意識の把握を目的とし、大田区にお住いの18歳以上の方から無作為に2,000名を選ばせていただき、ご協力をお願いするものです。

調査結果はすべて統計的な数値としてとりまとめますので、個人情報公表されることは一切ございません。つきましては率直なご意見をお聞かせいただけますでしょうか。

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。


令和2年11月

大田区役所 企画経営部 企画課

ご記入にあたってのお願い

- ① 回答は、郵送又は大田区ホームページからの電子申請、いずれかの方法でお願いします。電子申請については、別紙「電子申請での回答方法」をご覧ください。
※電子申請は、日本語のみの対応となります。

【申請者ID】 _____ 【パスワード】 _____

- ② ご記入は、あて名のご本人にお願いいたします。
- ③ お答えは、1つだけ回答していただくものと、複数(〇はいくつでも)回答していただくものがありますので、説明に従って回答してください。
また、〇印は、番号を囲むようにつけてください。 例) 
- ④ お答えが「その他」にあてはまる場合は、
() 内にその内容を具体的に記入してください。
- ⑤ 設問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、注意書きをよくお読みください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、

令和2年11月24日(火)までにポストに投函してください。

◆この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。



大田区役所 企画経営部 企画課

〒144-8621 東京都大田区蒲田五丁目13番14号

電話：03-5744-1444

受付時間：平日8:30～17:15(土・日・祝日を除く)

地域活動について

問1 あなたが参加してみたい地域活動を全て選択してください。(〇はいくつでも)

1. 子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）
2. 高齢者に関するボランティア（見守りや安否確認、通院や買い物の送迎、家事の手伝いなど）
3. 障がい者に関するボランティア（外出・移動のサポート、家事の手伝いなど）
4. 外国人に関するボランティア（通訳・翻訳、日本の文化体験、散策ガイド、生活上の困りごと相談・支援など）
5. スポーツイベントの運営ボランティア
6. 文化イベントの運営ボランティア
7. 住んでいるまちの目指す姿を語り合う区民ワークショップ
8. 区政運営や政策を検討する区民ワークショップ
9. 自治会・町会の活動（お祭り、防災訓練、美化活動など）
10. その他（具体的に： _____）
11. 地域の活動には参加したくない
12. 地域の活動には参加できない

問2 あなたは、情報があれば地域活動への興味・関心や、参加につながると思いませんか。

(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|----------|
| 1. そう思う | 3. あまり思わない | 5. わからない |
| 2. ややそう思う | 4. 思わない | |

問3 あなたは、どのような地域活動に関する情報が必要だと思いませんか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 地域で行われている活動内容 | 5. 講座・研修 |
| 2. イベントの情報 | 6. 講師などをお願いできる人材の情報 |
| 3. ボランティア募集 | 7. 活動を支援する情報 |
| 4. 活動できる場所 | 8. その他 |
| （具体的に： _____） | |

問4 あなたが普段、地域活動に関する情報を収集する方法はなんですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. インターネット（HPの閲覧など） | 6. 区や自治会・町会または施設などが設置した |
| 2. SNS（ツイッター、フェイスブックなど） | 掲示板 |
| 3. 新聞（折り込みチラシも含む） | 7. 公共施設や学校で入手するチラシ |
| 4. 区報など区の発行物 | 8. ロコミ |
| 5. 地域の情報紙 | 9. その他 |
| （具体的に： _____） | |

協働について

問5 豊かで魅力に満ちたまちづくりを進めるための連携や協働をするにあたり、どのようなことが重要だとお考えですか。(〇はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. お互いの立場を尊重し、理解し合うこと |
| 2. 地域の課題や取組の目的を話し合い、共有すること |
| 3. お互いの役割分担をよく話し合い、それぞれの長が活かされる活動をする |
| 4. 活動の場においては、対等な協力関係を築くこと |
| 5. 連携・協働する相手に依存することなく、自分の役割を果たすこと |
| 6. 連携・協働して取組んでいる活動の内容が、地域住民にわかるようにすること |
| 7. その他(具体的に: _____) |
| 8. わからない |

生涯学習について

問6 あなたはこの1年間に、学校、区が行う講座や文化、スポーツ、趣味等のサークル活動、地域活動、仕事・就職活動や日常生活でどのような調べ事や学び(生涯学習)を行いましたか。また、新たに始めてみたいことはありますか。(「①最近1年間で行ったこと」「②新たに始めたいこと」、それぞれ〇はいくつでも)

活動内容	①最近1年間で行ったこと	②新たに始めたいこと
1. 自分の趣味に関するもの	1	1
2. 自分の教養を高めるもの	2	2
3. 自分の職業上必要な知識・技術に関するもの	3	3
4. 健康づくりに関するもの (食事、運動、フレイル予防のウォーキングなど)	4	4
5. 地域社会に関するもの(歴史、防災など)	5	5
6. 日常生活に関するもの(エコロジー、キャッシュレス決済など)	6	6
7. 社会問題に関するもの(時事、国際、環境、子育て、高齢化、災害など)	7	7
8. 町会、自治会、ボランティア等活動に関するもの	8	8
9. パソコン、携帯電話(スマートフォンを含む。)、インターネット等の使用に関するもの	9	9
10. その他①(具体的に: _____)) ②(具体的に: _____))	10	10
11. 特になし	11	11

【問6の①及び②で「1」～「10」と回答された方】

問6-1 どこで行いましたか。また、新たに始める場合はどこで行いたいですか。(「①最近1年間でいった場所」「②新たに始める場合の場所」、それぞれ〇はいくつでも)

活動場所	①最近1年間でいった場所	②新たに始める場合の場所
1. カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座	1	1
2. 各種学校、大学等で行われる社会人向け講座	2	2
3. 通信、放送、オンラインで実施する講座	3	3
4. 区等公共の機関が実施する講座・講演会	4	4
5. 地域で行われる講座・講演会	5	5
6. 地域で行われるサークル、団体活動	6	6
7. 図書館	7	7
8. その他①(具体的に:) ②(具体的に:)	8	8

【問6①最近1年間でいったもので「1」～「10」と回答された方】

問6-2 あなたは生涯学習を通じて身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいですか。(〇はいくつでも)

1. 自分の人生をより豊かにしたい	5. 地域や社会での活動に活かしたい
2. 家庭・日常の生活に活かしたい	6. その他
3. 自分の健康を維持・増進したい	(具体的に)
4. 仕事や就職に活かしたい	

問7 この1年間に、生涯学習を行うにあたり、パソコン、タブレットや携帯電話(スマートフォンを含む。)で以下の利用をしましたか。また、新たに利用したいことはありますか。

(「①最近1年間で利用したもの」「②新たに利用したいもの」、それぞれ〇はいくつでも)

サービス	①最近1年間で利用したもの	②新たに利用したいもの
1. ビデオ通話(オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など)	1	1
2. 動画配信(通信講座・各種学校の講義配信、YouTubeなど)	2	2
3. eラーニング	3	3
4. インターネットでの検索	4	4
5. その他①(具体的に:) ②(具体的に:)	5	5
6. 特になし	6	6

問11 あなたが商店街に必要なと思うサービスや施設等は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 商店街内の複数の店舗と連携した移動販売・デリバリー等の導入
2. キャッシュレスなど、商店街単位による非接触型会計の導入
3. 専門性を持った診療所や介護サービス施設
4. 託児所や児童館などの子育て支援サービス施設
5. 空き店舗等を活用した公益的機能(休憩所、情報拠点)を備えた施設
6. 自治会・町会やNPO等の活動拠点施設
7. 創業や起業家の活動拠点(希望者に格安で貸すチャレンジショップやオフィスなど)
8. その他(具体的に:)
9. 特にない

蒲田駅周辺地区グランドデザインについて

問12 蒲田のまちづくりを進めるに当たり、整備が必要と考えるものを選んでください。

(〇はいくつでも)

※蒲田のまちは、戦災復興の土地区画整理事業により形成されました。事業完成から約50年が経過し、現在建物などが更新時期を迎えていることから、新空港線と合わせてまちづくりを行う必要があります。

1. JR・東急駅東西の分断(不便)を解消するため、東西自由通路の整備
2. 都市機能・環境の向上を図るため、老朽化した建築物等の建替えや共同化等の促進
3. 歩行者にやさしいまちを形成するため、ゆとりある駅前広場や歩行者環境の整備
4. 5Gなど先端通信システムや自動運転など次世代都市交通システム等の最先端技術の導入
5. わからない

蒲蒲線について

問13 JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅を結ぶ新空港線(蒲蒲線)の構想について、あなたの考えに最も近いものを選択してください。(〇は1つ)

※新空港線(蒲蒲線)の構想は、JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅をつなぐ第1期整備と、その後の京急蒲田駅から京急空港線に乗り入れる第2期整備との2段階に分かれています。新空港線(蒲蒲線)は、現在、第1期整備の実現に取り組んでいます。第1期整備のみの場合、羽田空港へ行く時は京急蒲田駅で京急空港線に乗り換える必要があります。第2期整備まで行う場合、東急線と京急線のレール幅の違いなどの課題があり、実現までに更なる整備費用と時間が掛かりますが、京急蒲田駅で乗り換える必要がありません。

1. 第1期整備(JR・東急蒲田駅～京急蒲田駅)で十分
2. 第2期整備(京急空港線に乗り入れて羽田空港までつなぐ整備)まで行う必要がある
3. わからない

公共交通機関について

問 14 自宅の近くにバス停や駅があるなど、公共交通機関が利用しやすい環境ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. とても利用しやすい | 3. あまり利用しやすすくない |
| 2. まあまあ利用しやすい | 4. 不便である |

問 15 大田区内の公共交通網に満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. とても満足している | 3. あまり満足していない |
| 2. まあまあ満足している | 4. 満足していない |

耐震改修について

問 16 あなたは、現在のお住まいや所有している建物の耐震改修を行いましたか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------------------|---------|-----------|-----------|
| 1. 行った | ⇒問 17 へ | 3. 行っていない | ⇒問 16-1 へ |
| 2. 現在、耐震改修を予定している | | | |

【問 16 で「3. 行っていない」と回答された方】

問 16-1 耐震改修を行っていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 改修工事を行う費用がない |
| 2. 方法、手段がわからない |
| 3. 工法や費用が適切かわからない |
| 4. 工事を行うと生活に支障が生じる |
| 5. 所有者が複数いるため、合意を得るのが難しい |
| 6. 助成金申請の手続きが煩雑である |
| 7. 建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している |
| 8. その他 (具体的に: _____) |

空港臨海部について

問 17 バス、車、自転車等で空港臨海部の埋立島部(平和島、昭和島、京浜島、東海、城南島、令和島)へ訪れやすくなったと感じますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|------------|--------------|
| 1. 感じる | 3. あまり感じない | 5. どちらともいえない |
| 2. やや感じる | 4. 感じない | |

問 18 遊ぶ場所、働く場所として空港臨海部に魅力を感じますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|------------|--------------|
| 1. 感じる | 3. あまり感じない | 5. どちらともいえない |
| 2. やや感じる | 4. 感じない | |

グリーンプラン関連について

問 19 住んでいるまちの生活環境について、どの程度満足していますか。

((1) ~ (5)、それぞれ○は1つ)

	満足している	ほぼ満足している	やや不満である	不満である	わからない
(1) 緑の多さ	1	2	3	4	5
(2) 公園や子どもの遊び場	1	2	3	4	5
(3) 災害時の安全性	1	2	3	4	5
(4) スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ	1	2	3	4	5
(5) バリアフリー	1	2	3	4	5

問 20 身近な場所で水や緑に親しめると感じていますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|--------------|--------------|
| 1. 感じている | 3. あまり感じていない | 5. どちらともいえない |
| 2. やや感じている | 4. 感じていない | |

羽田空港跡地について

問 21 空港の沖合移転に伴い発生した天空橋駅周辺の羽田空港跡地のまちづくり「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」が現在進められています。本事業についてはどのような方法で知りましたか。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 大田区報 2. 羽田空港跡地第1ゾーンまちづくりニュース誌「はねだみらい」 3. 大田区ホームページ 4. 「HANEDA INNOVATION CITY」公式ホームページ 5. 大田区のイベント（空の日フェスタなど） 6. インターネットのニュースやブログ等 7. TVのニュース 8. 新聞、雑誌の記事 9. 家族や友人、知人など 10. その他（具体的に： _____) 11. 本事業を知らない |
|---|

問 22 「羽田空港跡地第 1 ゾーン整備事業」の第一期事業（羽田イノベーションシティ）についてご存じですか。（○は 1 つ）

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 23 第一期事業（羽田イノベーションシティ）のうち、興味があるものはありますか。（○はいくつでも）

1. 足湯スカイデッキ
2. 体験型商業施設（DE J I M A b y 1→10）
3. ライブホール（Z E P P H A N E D A）
4. 食文化発信施設（羽田昔ばなし横丁）
5. 飲食店・物販店
6. フライトシュミレーター（l u x u r y f l i g h t）
7. 大田区観光案内コーナー
8. 大田区歴史資料コーナー
9. 区施策活用スペース
10. 会議研修・滞在施設（コングレ・京急 E X）
11. その他（具体的に： _____）
12. 興味はない

問 24 羽田空港跡地第 1 ゾーンに公園（300m×70m程度）が整備される予定があることをご存知ですか。（○は 1 つ）

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 25 その公園が完成した時に、したいことはありますか。（○はいくつでも）

1. 運動	4. 休憩・リラックス
2. 遊び	5. 地域活動
3. 飲食	6. その他
（具体的に： _____）	

問 26 羽田空港跡地の多摩川沿い（第 2 ゾーン）に整備された「ソラムナード羽田緑地」（1,100m×15m程度）に行ったことはありますか。（○は 1 つ）

1. 行ったことがある	2. 行ったことはない	3. 知らない
-------------	-------------	---------

問 27 「ソラムナード羽田緑地」でしたいことはありますか。（○はいくつでも）

1. 運動	4. 休憩・リラックス
2. 遊び	5. 地域活動
3. 飲食	6. その他
（具体的に： _____）	

自転車の利用について

問 28 あなたは、大田区内で「コミュニティサイクル」が運営されていることを知っていますか。
(○は1つ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 29 あなたは、普段から自転車を使いますか。(○は1つ)

- | | | | | |
|---------|----------|--------------|-----------|---------|
| 1. よく使う | 2. たまに使う | ⇒問 30～問 33 へ | 3. 全く使わない | ⇒問 34 へ |
|---------|----------|--------------|-----------|---------|

問 30 あなたは、過去に自転車を盗まれたことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 盗まれたことがある | 2. 盗まれたことはない |
|--------------|--------------|

問 31 あなたは、普段自転車から降りた後、鍵をかけますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 必ず鍵をかける | 3. いつも鍵をかけない |
| 2. 鍵をかけないときもある | |

【問 31 で「2. 鍵をかけないときもある」と回答された方】

問 31-1 あなたが自転車で鍵をかけないのは、どのような場所ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 自宅に駐輪するとき | 3. 特に場所は気にしない |
| 2. 自転車駐輪場に駐輪するとき | |

問 32 あなたは、自転車事故に係る損害賠償保険に加入していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 自転車事故専用の保険 | 5. その他の保険 |
| 2. TSマーク付帯保険 | 6. 加入していない |
| 3. 傷害保険等とセット | 7. 加入しているかわからない |
| 4. 他の保険(火災保険、自動車保険等)の特約 | |

【問 32 で「6. 加入していない」と回答された方】

問 32-1 あなたが保険に加入していない理由は、何ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1. 加入手続きの方法などが分からない | 4. 保険料が高いから |
| 2. 加入義務化を知らない | 5. その他 |
| 3. 必要性を感じない | (具体的に:) |

問 33 前年に比べ、自転車を使う機会が増えましたか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 新型コロナウイルスの影響で増えた | 4. 新型コロナウイルス以外の理由で減った |
| 2. 新型コロナウイルス以外の理由で増えた | 5. 変わらない |
| 3. 新型コロナウイルスの影響で減った | |

【問 33 で「1」～「2」（使う機会が増えた）と回答された方】

問 33-1 自転車を使う機会が増えた主な理由は、何ですか。（○は1つ）

- | | | |
|-----------|------------|----------|
| 1. 仕事 | 5. 通院 | 9. その他 |
| 2. 通勤 | 6. 送迎 | (具体的に：) |
| 3. 通学 | 7. 塾、習い事 | |
| 4. 買い物・飲食 | 8. 観光、レジャー | |

食品ロス・フードドライブについて

問 34 あなたは、「食品ロス」という言葉をご存知ですか。（○は1つ）

※食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品

- | |
|---------------------------|
| 1. 言葉の意味まで良く理解していた |
| 2. 聞いたことはあるが、言葉の意味は知らなかった |
| 3. 知らなかった |

問 35 あなたは、生活の中で「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。

(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする |
| 2. 賞味期限だけで判断せず、見た目や臭い等で食べられるか判断する |
| 3. 日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する |
| 4. 出された料理を残さず食べきる |
| 5. 食べきれなかったものを他の料理に作り替える |
| 6. 料理を作り過ぎない |
| 7. 野菜の皮や芯を料理に使うなど、食材を無駄なく使う |
| 8. 飲食店等で注文し過ぎない |
| 9. その他 (具体的に：) |
| 10. 特にない |

問 36 外食をするとき、食べ残しをしないためにお店にして欲しいことは何ですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 小盛りメニューの導入 | 4. 量の表示 |
| 2. 食べきれなかった料理の持ち帰り | 5. その他 (具体的に：) |
| 3. 白飯などの量の調整 | 6. 特にない |

問 37 食品ロス削減に取り組む飲食店や食料品小売店等の情報があれば、そのお店を利用したいと思いますか。（○は1つ）

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 利用したいと思います | 2. 利用したいと思わない |
|---------------|---------------|

問 38 ご家庭の未利用食品を集めて、必要としている団体等に提供する活動を「フードドライブ」といいます。あなたの家で未利用食品が出た際、フードドライブに提供したいと思いますか。

(○は1つ)

※フードドライブに提供できる食品・・・主に米などの穀類、調味料、缶詰、インスタント食品など

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 提供したいと思う | 2. 提供したいと思わない |
|-------------|---------------|

プラスチック容器の回収について

問 39 今まで可燃ごみとして出していたプラスチック製の容器や包装材を、今後資源として回収することになった場合、どの程度品目を増やすことが適当だと考えますか。

(最も近いもの1つに○)

※資源化が拡充されますが、その分区の経費負担は増加します。

- | |
|------------------------------------|
| 1. 1～2品目程度であまり増やさない方がよい |
| 2. 可能な限り資源化を拡充すべきなので、品目数はいくら増えてもよい |
| 3. 区の経費負担が増えるなら、資源化の拡充はしなくてよい |

問 40 今まで可燃ごみとして出していたプラスチック製の容器や包装材を、今後資源として回収することになった場合、どこまでなら手間をかけることができますか。(○はいくつでも)

※資源化拡充のため経費は増えますが、かける手間が多くなると、区の経費負担は抑制されます。

- | |
|-------------------------------|
| 1. 該当となる容器や包装材を、資源として分別して出せる |
| 2. 容器の中身を使い切るなど、空にして出せる |
| 3. 汚れている容器は中身をすすいでから出せる |
| 4. 付着物(シール・ラベル等)を取り除いてから出せる |
| 5. 区の経費負担が増えるなら、資源化の拡充はしなくてよい |

あなたご自身について

F 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F 2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 18～19 歳 | 4. 40～49 歳 | 7. 65～69 歳 |
| 2. 20～29 歳 | 5. 50～59 歳 | 8. 70～74 歳 |
| 3. 30～39 歳 | 6. 60～64 歳 | 9. 75 歳以上 |

【F 2で「7」～「9」と回答された方(65歳以上の方)】

F 2-1 あなたは、介護保険制度の要介護認定を受けていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1. 受けていない | 2. 受けている(要支援含む) |
|-----------|-----------------|

F 3 あなたの国籍を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|---------|----------------|
| 1. 日本国籍 | 2. それ以外(国籍名:) |
|---------|----------------|

F 4 あなたのお住まいを教えてください。各地域の()内は、管轄する特別出張所です。

(○は1つ)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 大森地域(大森東、大森西、入新井、馬込、池上、新井宿) |
| 2. 調布地域(嶺町、田園調布、鶯の木、久が原、雪谷、千束) |
| 3. 蒲田地域(六郷、矢口、蒲田西、蒲田東) |
| 4. 糎谷・羽田地域(糎谷、羽田) |

F 5 あなたの家族構成は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. ひとり暮らし | 4. 三世帯世帯(親と子と孫) |
| 2. 夫婦のみ | 5. その他 |
| 3. 二世帯世帯(親と子) | (具体的に:) |

F 6 あなたのお住いの種類は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 持ち家(一戸建て) | 4. 賃貸住宅(集合住宅) |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 5. 寮・社宅・宿舎 |
| 3. 賃貸住宅(一戸建て) | 6. その他(具体的に:) |

F7 あなたのご職業を教えてください。(○は1つ)

自営業	1. 商工サービス業 2. 農林水産業 3. 自由業
勤め人／パート・アルバイト含む	4. 管理職 5. 専門技術職 6. 事務職 7. 労務職・サービス業
その他	8. 学生 9. 主婦・主夫 10. その他(高齢者含む)

【F7で「1」～「8」と回答された方】

F7-1 あなたの主な通勤・通学先を教えてください。(○は1つ)

1. 大田区内(自宅)	5. それ以外の東京都内
2. 大田区内(自宅以外)	6. 神奈川県内
3. 品川・目黒・新宿・渋谷区内	7. それ以外
4. 千代田・中央・港区内	(具体的に:)

F8 同居家族/現在一緒に暮らしているご家族の中に、このような方がいらっしゃいますか。あなた自身も含めて、あてはまる方をすべてあげてください。(○はいくつでも)

1. 小学校入学前の子ども	4. 寝たきりの方や身体の不自由な方
2. 小学生	5. いない
3. 65歳以上の方	

F9 配偶者の方はいらっしゃいますか。(○は1つ)

1. いる(同居・別居含め)	2. いない(離婚・死別)	3. いない(未婚)
----------------	---------------	------------

【F9で「1. いる(同居・別居含め)」と回答された方】

F9-1 共働きをしていますか。(○は1つ)

1. 共働きをしている	2. 共働きはしていない
-------------	--------------

F10 子どもはいらっしゃいますか。(別居も含む)(○は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 一番上の子どもが小学校入学前 | 4. 一番上の子どもが学校卒業 |
| 2. 一番上の子どもが小・中学生 | 5. 子どもはいない |
| 3. 一番上の子どもが高校・大学生 | |

F11 あなたは、大田区に住んで何年になりますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 1年未満 | 5. 10年以上20年未満 |
| 2. 1年以上3年未満 | 6. 20年以上30年未満 |
| 3. 3年以上5年未満 | 7. 30年以上 |
| 4. 5年以上10年未満 | |

これで調査は終了です。

最後までご協力いただきまして、ありがとうございました。

～ 大田区からのお願い ～

**区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査
(18歳以上の区民の方対象)
(スポーツ・福祉・保健分野などの調査)**

大田区では、区の将来像である「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」の実現を目指し、各種計画を推進しています。

本調査は、各種計画に掲げる施策の検証や、より効果的な施策立案に向けた区民意識の把握を目的とし、大田区にお住いの18歳以上の方から無作為に2,000名を選ばせていただき、ご協力をお願いするものです。

調査結果はすべて統計的な数値としてとりまとめますので、個人情報公表されることは一切ございません。つきましては率直なご意見をお聞かせいただけますでしょうか。

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。


令和2年11月

大田区役所 企画経営部 企画課

ご記入にあたってのお願い

- ① 回答は、郵送又は大田区ホームページからの電子申請、いずれかの方法でお願いいたします。電子申請については、別紙「電子申請での回答方法」をご覧ください。
※電子申請は、日本語のみの対応となります。

【申請者ID】 _____ 【パスワード】 _____

- ② ご記入は、あて名のご本人にお願いいたします。
- ③ お答えは、1つだけ回答していただくものと、複数(〇はいくつでも)回答していただくものがありますので、説明に従って回答してください。
また、〇印は、番号を囲むようにつけてください。 例) 
- ④ お答えが「その他」にあてはまる場合は、
() 内にその内容を具体的に記入してください。
- ⑤ 設問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、注意書きをよくお読みください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、

令和2年11月24日(火)までにポストに投函してください。

◆この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。



大田区役所 企画経営部 企画課

〒144-8621 東京都大田区蒲田五丁目13番14号

電話：03-5744-1444

受付時間：平日8:30～17:15(土・日・祝日を除く)

各種認知度について

問1 「ワーク・ライフ・バランス」とは、「仕事と生活の調和」を意味する言葉ですが、あなたは
この言葉を知っていましたか。(〇は1つ)

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. 内容まで知っている | 3. 知らない |
| 2. 内容は知らないが言葉は聞いたことがある | |

問2 区では、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みとして様々な講座や展示などの事業を実施
しています。これらを主に実施している施設である、男女平等推進センター「エセナおおた」
を知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------------|---------|
| 1. 利用したことがある | 3. 知らない |
| 2. 知っているが、利用したことはない | |

問3 男女平等推進センター「エセナおおた」では、「女性のためのたんぼぼ相談」で女性の様々
な悩みに関する相談を受け付けていることを知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------------|---------|
| 1. 利用したことがある | 3. 知らない |
| 2. 知っているが、利用したことはない | |

問4 区では、「大田区DV相談ダイヤル」を設置し、配偶者やパートナーからの暴力(ドメスティ
ック・バイオレンス=DV)に関する相談を受け付けていることを知っていますか。

(〇は1つ)

- | | |
|---------------------|---------|
| 1. 利用したことがある | 3. 知らない |
| 2. 知っているが、利用したことはない | |

問5 災害時の避難先は決まっていますか。(〇は1つ)

- | | | | |
|-----------|--------|------------|------|
| 1. 決まっている | ⇒問5-1へ | 2. 決まっていない | ⇒問6へ |
|-----------|--------|------------|------|

【問5で「1. 決まっている」と回答された方】

問5-1 避難先はどこですか。(〇は1つ)

- | | |
|------------|----------|
| 1. 家(在宅避難) | 4. 親戚の家 |
| 2. 指定避難所 | 5. その他 |
| 3. 友人・知人宅 | (具体的に:) |

問6 区は大規模水害に備え、家族構成や生活環境に合わせた防災行動を予め時系列にまとめてお
く「マイ・タイムライン(個人の避難計画)」の普及を進めていますが、「マイ・タイムライ
ン講習会」を開催していることを知っていますか。(〇は1つ)

- | | | | |
|----------|--------|---------|------|
| 1. 知っている | ⇒問6-1へ | 2. 知らない | ⇒問7へ |
|----------|--------|---------|------|

【問6で「1. 知っている」と回答された方】

問6-1 マイ・タイムライン講習会に参加したことがありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|--------|--------------|--------|
| 1. 参加した | ⇒問6-2へ | 2. 参加したことはない | ⇒問6-3へ |
|---------|--------|--------------|--------|

【問6-1で「1. 参加した」と回答された方】

問6-2 マイ・タイムライン講習会に参加した理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|----------|
| 1. 災害への備えが必要と思ったから | 3. その他 |
| 2. 家族や友人などから聞いたから | (具体的に:) |

【問6-1で「2. 参加したことはない」と回答された方】

問6-3 マイ・タイムライン講習会に参加したことがない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 必要ではないと思ったから | 3. 近くで講習会が開かれていないから |
| 2. 参加する時間がないから | 4. その他 |
| | (具体的に:) |

問7 自然災害で不安だと思うものは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------|----------|
| 1. 地震 | 4. 津波 |
| 2. 台風・集中豪雨 | 5. 土砂災害 |
| 3. 高潮 | 6. その他 |
| | (具体的に:) |

問8 災害から自身を守るためにどのような取り組みをしていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1. 家具等転倒防止 | 4. 防災訓練への参加 |
| 2. ハザードマップの確認 | 5. 家庭内備蓄 |
| 3. マイ・タイムラインの作成 | 6. その他 |
| | (具体的に:) |

問9 「防災に関する情報」をどのように収集していますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|--------------|
| 1. テレビ | 6. 区施設 |
| 2. 区から配布されるチラシや広報紙 | 7. 友人・知人 |
| 3. インターネット | 8. 自治会・町会の回覧 |
| 4. SNS (ツイッター、フェイスブックなど) | 9. 区設掲示板 |
| 5. 新聞・雑誌 | 10. その他 |
| | (具体的に:) |

問10 「災害時の情報」をどのように収集していますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|-------------|
| 1. テレビ | 5. 防災行政無線 |
| 2. インターネット | 6. 安全・安心メール |
| 3. 友人・知人 | 7. その他 |
| 4. SNS (ツイッター、フェイスブックなど) | (具体的に:) |

観光について

問 11 大田区観光情報センターを利用したことはありますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 1. 利用したことがある ⇒問 11-1 へ | 2. 利用したことはないが、知っている |
| 3. 知らない | ⇒問 12 へ |

【問 11 で「1. 利用したことがある」と回答された方】

問 11-1 どのような目的で利用しましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1. 区内観光スポット・店舗等の情報収集 | 5. 目的地までの道案内 |
| 2. 物販 | 6. その他 |
| 3. 日本文化体験 | (具体的に: _____) |
| 4. 展示・ワークショップ等の月間イベント | 7. 特に目的はなかった |

問 12 大田区観光情報センターに今後期待することは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 観光案内の充実 | 4. 様々なイベントの実施 |
| 2. パンフレットの充実 | 5. 区民サービスの充実 |
| 3. 物販における品揃えの充実 | 6. その他 |
| | (具体的に: _____) |

運動・スポーツについて

問 13 この中にあなたが、この1年間で行ったスポーツや運動があれば、すべてお選びください。
(〇はいくつでも)

- | | |
|---|---|
| 1. ウォーキング、散歩
(散策、ペットの散歩などを含む) | 13. スポーツ吹矢などニュースポーツ |
| 2. ランニング、ジョギング | 14. ゴルフ |
| 3. サイクリング、モータースポーツ | 15. ハイキング、登山 |
| 4. 体操(ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む) | 16. スキー、スノーボード |
| 5. ダンス、民謡踊り | 17. スケートボード、ローラースケート |
| 6. 室内運動器具(ウエイト、ランニングマシン、バランスボールを使った運動) | 18. 釣り |
| 7. 水泳(水中歩行も含む) | 19. キャンプ、オートキャンプ |
| 8. 軽い球技
(キャッチボール、親子での卓球等) | 20. ヨット、ボート、(スキン)ダイビング、サーフィンなど |
| 9. 競技的球技
(野球、サッカー、卓球、テニス等) | 21. 柔道、剣道、空手、弓道等武道 |
| 10. ボッチャ | 22. ボクシング等格闘技 |
| 11. ボウリング | 23. その他競技スポーツ |
| 12. ゲートボール、グランドゴルフ | 24. その他体力や健康の維持向上、介護予防、ストレスの解消を目的としたスポーツ、
身体活動 |
| | 25. スポーツや身体活動は実施しなかった |

⇒問 14 へ

【問 13 で「1」～「24」と回答された方】

問 13-1 この1年間に運動・スポーツ活動を実施した日数を全部合わせると、何日ぐらいになりますか。(週での換算日数) (○は1つ)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 週に3日以上 (年 151日以上) | 5. 3ヶ月に1～2回 (年 4～11日) |
| 2. 週に2日 (年 101～150日) | 6. 年に1～3回 |
| 3. 週に1日 (年 51～100日) | 7. わからない |
| 4. 月に1～3回 (年 12～50日) | |

問 14 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が身近になってきたと感じますか。

(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 感じている | 4. 感じていない |
| 2. やや感じている | 5. どちらともいえない |
| 3. あまり感じていない | |

文化活動について

問 15 大田区の文化・芸術として思い浮かぶものはどのようなものですか。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1. 歴史的な建造物、遺跡 (池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等) |
| 2. 勝海舟記念館 (歴史的建造物 (旧清明文庫) を改修した記念館) と洗足池周辺の景観 |
| 3. 田園調布をはじめとしたまちなみや景観 |
| 4. 地域に伝わる伝統文化や技法 (六郷とんび凧、大森麦わら細工、海苔の養殖等) |
| 5. 寺社仏閣で行われる伝統行事 (池上本門寺をはじめとするお会式、神社の祭礼等) |
| 6. 地域が主催するまつりや行事・イベント |
| 7. 芸術文化作品 (川端龍子の日本画、熊谷恒子のかな書、川瀬巴水版画等) |
| 8. 区で行われているイベント (春宵の響、大田区平和都市宣言記念事業「花火の祭典」、OTAふれあいフェスタ等) |
| 9. 大田区民プラザや大田区民ホール・アプリコ、大田文化の森等の施設とそこで実施しているイベント (下丸子JAZZ倶楽部、下丸子らくご倶楽部、アプリコみんなの音楽祭、大田区在住作家美術展等) |
| 10. 文化センターや区民センター、大田文化の森等で実施している区民の文化活動 (絵画、写真、書道、華道、合唱等) |
| 11. 新たな文化・芸術創作活動 (ポップカルチャー、現代アート、ストリートダンス等) |
| 12. その他 (具体的に: _____) |
| 13. 特になし |

バリアフリーについて

問 16 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」という言葉をご存知ですか。(○はそれぞれ1つ)

(1) バリアフリー

※高齢者や障がいのある方が生活を営む上での障壁（バリア）を取り除く考え方

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 定義までよく理解している | 3. 聞いたことはあるが定義がよくわからない |
| 2. 定義はなんとなく理解している | 4. 初めて聞いた言葉である |

(2) ユニバーサルデザイン

※バリアフリーの考え方を一歩進め、年齢、性別、国籍（言語）、個人の能力に関わらず、あらかじめできるだけ多くの方が利用しやすいように生活環境を構築する考え方

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 定義までよく理解している | 3. 聞いたことはあるが定義がよくわからない |
| 2. 定義はなんとなく理解している | 4. 初めて聞いた言葉である |

施策等の認知度について

問 17 あなたが近所の方から次のことを頼まれた場合、手助けできると思うことを教えてください。

(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 日々の見守りのための声かけ | 5. 庭の手入れや掃除の手伝い |
| 2. 話し相手 | 6. ごみ出し |
| 3. 短時間での子どもの預かり | 7. 電球交換などのちょっとした作業 |
| 4. 外出（買い物や通院など）の手伝い | 8. 郵便・宅配物の一時預かり |

問 18 以下の(1)～(3)の制度、計画などをご存知ですか。(○はそれぞれ1つ)

(1) ヘルプカード（たすけてねカード）

※障がいのある方などが災害時や日常の外出先での緊急時に手助けを求めるためのカード（大田区が作成）

- | | | |
|------------|-------------|---------|
| 1. よく知っている | 2. 聞いたことはある | 3. 知らない |
|------------|-------------|---------|

(2) 障害者差別解消法

※障がいのある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながらともに生きる社会づくりを目指して、平成 28 年 4 月に施行された法律

- | |
|-----------------------------|
| 1. 法律の内容も含めて知っている |
| 2. 内容は知らないが、法律が作られたことは知っている |
| 3. 知らない |

(3) おおた 子どもの生活応援プラン

※大田区の子どもの貧困対策に関する計画

- | | | |
|--------------|-------------|---------|
| 1. 内容まで知っている | 2. 聞いたことはある | 3. 知らない |
|--------------|-------------|---------|

通院、在宅医療について

問 19 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局はありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. かかりつけ医はいる | 3. かかりつけ薬局はある |
| 2. かかりつけ歯科医はいる | 4. いずれもない |

問 20 「在宅医療」の制度や仕組みについて知っていますか。(○は1つ)

※在宅医療とは、自宅等において、医師の往診や治療、訪問看護などの医療サービスを受けながら、療養生活を送ること。

- | | | |
|----------|----------------|---------|
| 1. 知っている | 2. 言葉は聞いたことがある | 3. 知らない |
|----------|----------------|---------|

災害時の医療について

問 21 区内で震度6弱以上の大地震が発生し、ライフラインが停止した場合、医療を提供可能な施設が限定されることを、ご存知ですか。(○は1つ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 22 区内で震度6弱以上の大地震が発生し、ライフラインが停止した場合に開設する緊急医療救護所及び軽症者救護所の開設場所を知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 開設場所を知っている | 3. 緊急医療救護所等を知らない |
| 2. 名称は知っているが、開設場所は知らない | |

喫煙について

問 23 あなたは、たばこを吸いますか。(○は1つ)

- | |
|--------------------------|
| 1. 毎日吸っている |
| 2. ときどき吸う日がある |
| 3. 以前は吸っていたが、1ヶ月以上吸っていない |
| 4. 吸わない |

問 24 新型たばこ(加熱式たばこ)についてあなたの持っているイメージであてはまるものはありませんか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 体によさそう | 8. 従来なたばこより経済的 |
| 2. 体に悪そう | 9. 従来なたばこよりコストがかかる |
| 3. においが気にならない | 10. 従来なたばこより禁煙しやすい |
| 4. 変なにおいがする | 11. 従来なたばこよりやめにくい |
| 5. おしゃれな感じがする | 12. その他 |
| 6. 吸っている人の健康に害を与えない | (具体的に:) |
| 7. 周りの人の健康に害を与えない | |

問 25 改正健康増進法及び東京都受動喫煙防止条例が令和 2 年 4 月に全面施行されましたが、4 月以降、受動喫煙を経験する頻度に変化がありましたか。(○は 1 つ)

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1. 4 月以前に比べて受動喫煙が減った | 3. 4 月以前に比べて受動喫煙が増えた |
| 2. 4 月以前に比べて受動喫煙の頻度が変わりはない | |

問 26 受動喫煙を経験された場所を教えてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| 1. 路上及び事業所の敷地内屋外 | 4. 学校、病院、児童福祉施設、行政機関の庁舎の敷地内 |
| 2. 飲食店内 | |
| 3. 自身が勤務する事業所内 | 5. その他(具体的に:) |

問 27 受動喫煙防止のために大田区に望むことは何ですか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 飲食店に対する喫煙状況の有無などの店頭表示義務の徹底 |
| 2. 施設の敷地内禁煙や屋内禁煙についての表示の普及 |
| 3. 区報やホームページによる受動喫煙の健康影響についての情報提供 |
| 4. 効果的な受動喫煙防止対策についての情報提供 |
| 5. 健康増進法や東京都受動喫煙防止条例に基づく施設管理者の義務についての P R |
| 6. 健康増進法や東京都受動喫煙防止条例に基づく指導、勧告、命令(罰則の適用を含む) |
| 7. 屋内の喫煙室の設置等に関する相談 |
| 8. 施設利用者に対する屋内の喫煙ルールの P R |
| 9. 公衆喫煙所の設置 |
| 10. 屋外の喫煙マナーの P R |
| 11. 禁煙を希望する喫煙者の禁煙支援 |
| 12. 道路等の屋外における喫煙ルールづくり |
| 13. その他(具体的に:) |
| 14. 特にない |

A E D について

問 28 あなたは A E D (自動体外式除細動器) の使い方を知っていますか。(○は 1 つ)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 知っている | 3. 習ったことがあるが、覚えていない |
| 2. 習ったことがあり、多少覚えている | 4. 知らない |

問 29 あなたはご自宅・勤務先等の近くで、A E D が設置されている場所を知っていますか。

(○は 1 つ)

- | | |
|--------------------|---------|
| 1. 知っている | 3. 知らない |
| 2. 知らないが、調べることができる | |

はねびょん健康ポイントについて

問 30 大田区の健康づくりポイント事業「はねびょん健康ポイント」を知っていますか。

(○は1つ)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 知っており、アプリで参加している | 3. 知っているが、参加していない |
| 2. 知っており、台紙で参加している | 4. 知らない |

図書館について

問 31 大田区立図書館または大田文化の森情報館の利用頻度について該当するものを選択してください。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-----------|-----------------------|
| 1. 週1回以上 | ⇒問 31-1 へ | 4. ほとんど利用しない(年1~2回程度) |
| 2. 月2回程度 | | 5. 利用しない |
| 3. 月1回程度 | | ⇒問 31-2 へ |

【問 31 で「1」～「3」と回答された方】

問 31-1 図書館で主に利用している機能・サービスについて該当するものを選択してください。

(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 図書・視聴覚資料の貸出 | 9. 展示 |
| 2. 館内での閲覧・調べもの | 10. 障害者サービス(宅配、郵送、対面朗読・録音図書の作製・貸出、大型活字本の貸出) |
| 3. 個人学習 | 11. ボランティア養成講座 |
| 4. 調べものの相談(レファレンス) | 12. 休憩・くつろぐ |
| 5. おはなし会 | 13. 多目的室または集会室の利用 |
| 6. 朗読会 | 14. その他 |
| 7. 講座・講演会 | (具体的に:) |
| 8. 映画会 | |

【問 31 で「4」～「5」と回答された方】

問 31-2 図書館を利用しない理由について該当するものを選択してください。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 図書・雑誌を読まない | 5. 開館時間中に利用できない |
| 2. 図書・雑誌は自分で購入したい | 6. 施設が使いづらいまたは快適ではない |
| 3. 読みたい本がすぐに借りられない | 7. その他 |
| 4. 近くに図書館がない | (具体的に:) |

問 32 これからの図書館に期待する機能・サービスについて該当するものを選択してください。

(○はいくつでも)

1. 電子書籍貸出サービス	7. 地域コミュニティ参加のきっかけとなる イベント・講座等
2. デジタル化された地域資料等の閲覧	8. 大田区への理解を深めるコーナー
3. 音楽・音声情報配信サービス	9. 国際都市らしい蔵書・資料構成
4. 憩い・くつろぐためのスペース	10. その他
5. グループ学習スペース	(具体的に：)
6. 個人学習スペース	

あなたご自身について

F 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

F 2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

1. 18～19 歳	4. 40～49 歳	7. 65～69 歳
2. 20～29 歳	5. 50～59 歳	8. 70～74 歳
3. 30～39 歳	6. 60～64 歳	9. 75 歳以上

【F 2で「7」～「9」と回答された方(65歳以上の方)】

F 2-1 あなたは、介護保険制度の要介護認定を受けていますか。(○は1つ)

1. 受けていない	2. 受けている(要支援含む)
-----------	-----------------

F 3 あなたの国籍を教えてください。(○は1つ)

1. 日本国籍	2. それ以外(国籍名：)
---------	----------------

F 4 あなたのお住まいを教えてください。各地域の()内は、管轄する特別出張所です。

(○は1つ)

1. 大森地域(大森東、大森西、入新井、馬込、池上、新井宿)
2. 調布地域(嶺町、田園調布、鶉の木、久が原、雪谷、千束)
3. 蒲田地域(六郷、矢口、蒲田西、蒲田東)
4. 糎谷・羽田地域(糎谷、羽田)

F 5 あなたの家族構成は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1. ひとり暮らし	4. 三世代世帯(親と子と孫)
2. 夫婦のみ	5. その他
3. 二世代世帯(親と子)	(具体的に：)

F 6 あなたのお住いの種類は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 持ち家 (一戸建て)	4. 賃貸住宅 (集合住宅)
2. 持ち家 (集合住宅)	5. 寮・社宅・宿舎
3. 賃貸住宅 (一戸建て)	6. その他 (具体的に:)

F 7 あなたのご職業を教えてください。(○は1つ)

自営業	1. 商工サービス業 2. 農林水産業 3. 自由業
勤め人/パート・アルバイト含む	4. 管理職 5. 専門技術職 6. 事務職 7. 労務職・サービス業
その他	8. 学生 9. 主婦・主夫 10. その他 (高齢者含む)

【F 7で「1」～「8」と回答された方】

F 7-1 あなたの主な通勤・通学先を教えてください。(○は1つ)

1. 大田区内 (自宅)	5. それ以外の東京都内
2. 大田区内 (自宅以外)	6. 神奈川県内
3. 品川・目黒・新宿・渋谷区内	7. それ以外
4. 千代田・中央・港区内	(具体的に:)

F 8 同居家族/現在一緒に暮らしているご家族の中に、このような方がいらっしゃいますか。あなた自身も含めて、あてはまる方をすべてあげてください。(○はいくつでも)

1. 小学校入学前の子ども	4. 寝たきりの方や身体の不自由な方
2. 小学生	5. いない
3. 65歳以上の方	

F 9 配偶者の方はいらっしゃいますか。(○は1つ)

1. いる (同居・別居含め)	2. いない (離婚・死別)	3. いない (未婚)
-----------------	----------------	-------------

【F 9で「1. いる (同居・別居含め)」と回答された方】

F 9-1 共働きをしていますか。(○は1つ)

1. 共働きをしている	2. 共働きはしていない
-------------	--------------

F10 子どもはいらっしゃいますか。(別居も含む)(○は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 一番上の子どもが小学校入学前 | 4. 一番上の子どもが学校卒業 |
| 2. 一番上の子どもが小・中学生 | 5. 子どもはいない |
| 3. 一番上の子どもが高校・大学生 | |

F11 あなたは、大田区に住んで何年になりますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 1年未満 | 5. 10年以上20年未満 |
| 2. 1年以上3年未満 | 6. 20年以上30年未満 |
| 3. 3年以上5年未満 | 7. 30年以上 |
| 4. 5年以上10年未満 | |

これで調査は終了です。

最後までご協力いただきまして、ありがとうございました。

～ 大田区からのお願い ～

**区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査
(小学生以下のお子様の保護者の方対象)**

大田区では、区の将来像である「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」の実現を目指し、各種計画を推進しています。

本調査は、各種計画に掲げる施策の検証や、より効果的な施策立案に資することを目的とし、大田区にお住いの小学生以下のお子様を無作為に2,000名選ばせていただき、保護者の方にご協力をお願いするものです。

調査結果はすべて統計的な数値としてとりまとめますので、個人情報公表されることは一切ございません。つきましては率直なご意見をお聞かせいただけますでしょうか。

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和2年11月

大田区役所 企画経営部 企画課

ご記入にあたってのお願い

- ① 回答は、郵送又は大田区ホームページからの電子申請、いずれかの方法でお願いします。電子申請については、別紙「電子申請での回答方法」をご覧ください。
※電子申請は、日本語のみの対応となります。

【申請者ID】 _____ 【パスワード】 _____

- ② ご記入は、あて名のお子様の保護者の方をお願いいたします。
- ③ お答えは、1つだけ回答していただくものと、複数(〇はいくつでも)回答していただくものがありますので、説明に従って回答してください。
また、〇印は、番号を囲むようにつけてください。 例) 1
- ④ お答えが「その他」にあてはまる場合は、
() 内にその内容を具体的に記入してください。
- ⑤ 設問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、注意書きをよくお読みください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、

令和2年11月24日(火)までにポストに投函してください。

◆この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。



大田区役所 企画経営部 企画課

〒144-8621 東京都大田区蒲田五丁目 13 番 14 号

電話：03-5744-1444

受付時間：平日 8：30～17：15 (土・日・祝日を除く)

子育ての相談相手などについて

問1 子育てに関して孤立感を感じていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 強く感じる | 4. 全く感じない |
| 2. やや感じる | 5. わからない |
| 3. あまり感じない | |

問2 子育てをする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。

(○は1つ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. いる／ある | 2. いない／ない |
|----------|-----------|

【問2で「1. いる／ある」と回答された方】

問3 気軽に相談できる先は誰(どこ)ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1. 夫 | 12. 保育園(保育士) |
| 2. 妻 | 13. 幼稚園(教諭) |
| 3. 夫の父母等の親族 | 14. 小学校(教諭) |
| 4. 妻の父母等の親族 | 15. 民生委員・児童委員 |
| 5. 友人や知人 | 16. かかりつけの医師 |
| 6. 近所の人 | 17. 大田区の子育て関連担当窓口 |
| 7. 子育ての支援施設(児童館等) | 18. 子ども家庭支援センター(キッズな)の子育てひろば |
| 8. 子育て支援団体(NPO等) | 19. その他 |
| 9. 保健所(保健師) | (具体的に: _____) |
| 10. こども発達センターわかばの家 | |
| 11. 幼児教育センター | |

子育ての環境や支援などについて

問4 区の子育て環境や支援の満足度はいかがですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|---------|
| 1. 満足 | 4. やや不満 |
| 2. まあまあ満足 | 5. 不満 |
| 3. ふつう | |

問5 区の子育て環境や支援で満足している点はなんですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 住環境がよい | 8. 近所づきあいや地域活動が盛ん |
| 2. 自然環境がよい | 9. 地域の子育てネットワークができています |
| 3. 交通機関が便利 | 10. 子育てに関する情報を得やすい |
| 4. 保育サービスが充実している | 11. 事故や犯罪が少なく安全 |
| 5. 保育園、幼稚園などが利用しやすい | 12. その他 |
| 6. 職場と住居が近い | (具体的に: _____) |
| 7. 公園や児童館など子どもの遊び場が多い | 13. 特になし |

保護者であるあなたご自身について

F 1 あなたとあて名のお子様の続柄を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|---------------------|
| 1. 母親 | 2. 父親 | 3. その他(具体的に: _____) |
|-------|-------|---------------------|

F 2 お子様は何人いらっしゃいますか。あて名のお子様を含めた人数でお答えください。また、末子の年齢はおいくつですか。満年齢でお答えください。

_____人 満 _____歳

F 3 同居家族/現在一緒に暮らしているご家族の中に、このような方がいらっしゃいますか。あなたご自身も含めて、あてはまる方をすべてあげてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. 小学校入学前の子ども | 4. 寝たきりの方や身体が不自由な方 |
| 2. 小学生 | 5. いない |
| 3. 65歳以上の方 | |

F 4 配偶者の方はいらっしゃいますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|---------------|------------|
| 1. いる(同居・別居含め) | 2. いない(離婚・死別) | 3. いない(未婚) |
|----------------|---------------|------------|

【F 4で「1. いる(同居・別居含め)」と回答された方】

F 4-1 共働きをしていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 共働きをしている | 2. 共働きはしていない |
|-------------|--------------|

F 5 あなたのご職業を教えてください。(○は1つ)

自営業	<ul style="list-style-type: none"> 1. 商工サービス業 2. 農林水産業 3. 自由業
勤め人/パート・アルバイト含む	<ul style="list-style-type: none"> 4. 管理職 5. 専門技術職 6. 事務職 7. 労務職・サービス業
その他	<ul style="list-style-type: none"> 8. 学生 9. 主婦・主夫 10. その他(高齢者含む)

F 6 あなたのお住まいを教えてください。各地域の（ ）内は、管轄する特別出張所です。

(○は1つ)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 大森地域 (大森東、大森西、入新井、馬込、池上、新井宿)2. 調布地域 (嶺町、田園調布、鶉の木、久が原、雪谷、千束)3. 蒲田地域 (六郷、矢口、蒲田西、蒲田東)4. 糀谷・羽田地域 (糀谷、羽田) |
|--|

これで調査は終了です。

最後までご協力いただきまして、ありがとうございました。

令和2年度

区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査

報告書

令和3年2月発行

【発行】大田区企画経営部企画課

〒144-8621 大田区蒲田五丁目13番14号

電話 (03) 5744-1444 (直通)

FAX (03) 5744-1502
